

関西外国語大学大学院外国語学研究科
博士学位申請論文 平成 30 年度

テモラウの意味・用法について
——BCCWJ に基づく実態分析を中心に——

関西外国語大学大学院
外国語学研究科 言語文化専攻

朱 冬冬

目 次

第一部 背景

第一章 テモラウ文の位置づけ	1
1. はじめに	1
2. 叙述の視点	2
3. 動作の指向性	3
4. 働きかけ性	4
5. ヴォイスとの関連性	5
5.1 ヴォイスとは	5
5.2 使役文との関連性	7
5.3 受身文との関連性	9
5.4 他動詞文との関連性	10
6. テモラウ文の構造的な分類	11
7. まとめ	12
第二章 先行研究及びコーパスの実態	15
1. はじめに	15
2. テモラウ文の意味・用法に関する先行研究	15
2.1 仁田(1991)	15
2.2 山田(2004)	16
2.3 金(2011)	18
2.4 本節のまとめ	20
3. 考察	20
3.1 考察の目的と資料	20
3.2 コーパスの実態	21
3.2.1 テモラウ文の機能別分布状況	21
3.2.2 先行研究では十分説明していないテモラウ文	22
4. 本研究の目的・仮説と分析の視点	24
4.1 研究目的と仮説	24

4.2 分析の視点.....	25
5. 各論の展開	26

第二部 直接働きかけの依頼型と直接受動の受影型と直接受動・間接受動の許容型

第三章 依頼型テモラウ文の意味・用法・特性.....	28
1. はじめに	28
2. 先行研究	28
2.1 概観	28
2.2 問題点	30
3. <依頼型>と働きかけ性の定義.....	31
3.1 <依頼型>の定義	31
3.2 <依頼型>の下位類	32
3.3 働きかけ性の定義.....	32
3.4 働きかけ性の下位類.....	33
3.5 本節のまとめ.....	34
4. 考察	35
4.1 考察の対象と目的.....	35
4.2 意味レベルの考察.....	35
4.2.1 依頼の直接構造.....	35
4.2.1.1 動作主の動作と実現可能性に基づく下位類	35
4.2.1.2 力関係に基づく下位類	40
4.2.1.3 専門職以外の組織依頼.....	42
4.2.1.4 サセテモラウの分類——依頼・中間・自得・謙遜・宣言.....	45
4.2.2 依頼の間接構造.....	50
4.2.3 受益格	52
4.2.4 非恩恵的依頼.....	52
4.3 共存する言語形式の考察	53
4.3.1 複文形式	53
4.3.1.1 言語型テ節.....	55
4.3.1.2 原因並びに前提的動作——非言語型テ節	59

4.3.2 共存する文と節	63
4.3.2.1 使役文・願望文との並列	63
4.3.2.2 原因節との共起	64
4.3.2.3 目的節との共起	65
4.3.2.4 条件節との共起	65
4.3.3 単文形式	66
4.3.3.1 二格の顕在化	66
4.3.3.2 二格の非顕在化	67
4.4 語彙レベルの考察	68
4.4.1 取り立て詞との共起——「だけ」の場合	68
4.4.2 共起する副詞	69
5.まとめ	71
 第四章-(1) 受影型テモラウ文の意味・用法	74
1.はじめに	74
2.先行研究の受身的機能を持つテモラウ文との比較	74
3.<受影型>の定義・特徴・下位類	76
3.1 <受影型>の定義	76
3.2 <受影型>の下位類と基本的な特徴	77
3.3 研究の方法と目的	79
 第四章-(2) 恩恵的受影型テモラウ文の受身的な意味用法と共存する言語形式	80
1.はじめに	80
2.先行研究の恩恵的受影型テモラウ文との比較	80
3.<恩恵的受影型>の受身的な要因	83
3.1 意味レベルの考察	83
3.1.1 S2V 先行型	83
3.1.1.1 S2V 先行型の感情表出	83
3.1.1.2 S2V 先行型の新出状況	86
3.1.1.3 本節のまとめ	87

3.1.2 S2V 後行型.....	88
3.1.2.1 テモラウ主体の-状況から+状況への展開	88
3.1.2.2 テモラウ主体の+状況から+状況への発展	91
3.1.3 事態の類型的要因.....	92
3.1.3.1 慣例的事態.....	92
3.1.3.2 規則的事態.....	94
3.1.3.3 慣習的事態.....	95
3.1.3.4 S2V 過程・非達成の自己制御性を持つ事態の場合.....	96
3.1.3.5 本節のまとめ.....	97
3.1.4 所属組織型動作主の場合.....	97
3.2 共存する言語形式からの考察.....	98
3.2.1 V-テモラウ+プラス性の形容詞・感嘆表現.....	99
3.2.2 マデV-テモラウ構造.....	99
3.2.3 受身文との並列.....	101
3.2.4 テクレル文との並列.....	103
3.2.5 テアグル文との並列.....	105
3.2.6 誘い掛け文・能動文の動作主=テモラウ文の動作主の場合.....	105
3.2.7 目的節・原因節の伴い.....	107
3.2.8 格助詞「ニ格」と「カラ格」による働きかけ性の違い.....	107
3.2.8.1 先行研究.....	107
3.2.8.1.1 日本語記述文法研究会(2009)	108
3.2.8.1.2 山田(2004)	108
3.2.8.2 本論の考察.....	109
3.2.8.2.1 「ニ格」動作主——依頼事の落着点を焦点化する「ニ格」	109
3.2.8.2.2 「カラ格」動作主——事態発生の出発点を起点化する「カラ格」 .	110
3.2.8.2.3 両者の比較.....	111
3.2.8.2.3.1 事態の成立過程の違い	111
3.2.8.2.3.2 計画性と偶発性の違い	112
3.2.8.2.3.3 動詞のタイプによるニ格とカラ格の使用	113
3.2.8.2.4 動作主 ϕ 化形式.....	114

3.3 語彙レベルの考察.....	115
3.3.1 意味・文法的な役割を持つ動詞の場合	115
3.3.1.1 ガ格受影的な傾向が強い動詞——可愛がる	115
3.3.1.2 依頼・受影・自得ともなり得る動詞——育てる.....	116
3.3.1.3 文脈に左右されやすい動詞——見せる	118
3.3.2 動詞の回帰型と非回帰型.....	121
3.3.3 驚異的表現との共起.....	121
3.4 <恩恵的受影型>の働きかけ性の曖昧さ.....	122
3.4.1 <恩恵的受影型>の働きかけ性の曖昧さの要因	122
3.4.2 <恩恵的受影型>の典型・非典型的な事態.....	123
4.まとめ	126
4.1 意味レベルの考察のまとめ	126
4.2 共存する言語形式レベルの考察のまとめ	129
4.3 語彙レベルの考察のまとめ	131
 第四章-(3) 非恩恵的受影型テモラウ文の意味・用法.....	133
1.はじめに	133
2.先行研究の非恩恵的受影型テモラウ文との比較	133
3.<非恩恵的受影型>の受身的な要因.....	135
3.1—意味	137
3.2—形式	139
3.2.1 テモラッテハ困る.....	139
3.2.2 テモラッタラ困る.....	140
3.2.3 テモラウことはない.....	141
3.2.4 その他の—形式.....	142
3.3—語彙	144
3.3.1 副詞	144
3.3.2 動詞	146
3.3.3 連体詞	147
3.3.4 特定事態の否定.....	148

3.3.5 特定の対象のV行為への否定	148
3.4まとめ	149
4.中立型	151
5.<受影型>の位置づけと受身文との違い	153
5.1 位置づけ	153
5.2 受身文との比較	153
6.<受影型>のまとめ	153
6.1 <非恩恵的受影型><恩恵的受影型><中立型>の比較	154
6.2 受身性を認証可能な要因と関連する受身性の構文との交替	155
 第五章 許容型テモラウ文の意味・用法	157
1.はじめに	157
2.<許容型>に関する先行研究	157
3.本論で扱う<許容型>	158
3.1 <許容型>の定義と下位類	158
3.1.1 受容型	159
3.1.2 放任型	163
3.1.3 願望的許容型	164
3.1.4 中間型	165
3.2 <許容型>の言語環境及び文形式	165
4.<依頼型>と<受影型>との比較	167
4.1 <依頼型>との比較	167
4.2 <受影型>との比較	168
5.<許容型>の特徴と四タイプの相違と使役・受身との関連性	169
5.1 <許容型><依頼型><受影型>の三者の類似点と相違点と使役・受身との関連性	169
5.2 <許容型>の下位タイプの共通点と相違点と使役・受身の関連性	170
5.3 <許容型>の恩恵	171
6.まとめ	171

第三部 その他の直接・間接的な働きかけと間接受動

第六章 状況設定型テモラウ文の意味と類型	173
1.はじめに	173
2.先行研究	173
3.通常のテモラウ文と区別する特徴.....	174
3.1 <状況設定型>を取り立てる理由.....	174
3.2 <状況設定型>の定義と下位類.....	176
4.非言語型	177
4.1 直接関与・直接達成.....	177
4.1.1 動作主無情物型.....	178
4.1.2 動作主有情物型.....	178
4.1.3 変化性使役文の状況設定型との関連性	179
4.2 直接関与・間接達成.....	181
4.3 間接関与・間接達成.....	184
5.言語型	187
5.1 二者間の直接関与間接達成	188
5.1.1 間接働きかけ.....	188
5.1.2 直接働きかけ.....	190
5.1.3 間接・直接働きかけ	191
5.2 三者間の直接関与間接達成	193
6.まとめ	194
第七章 組織依頼のテモラウ文と他動詞文の交替	199
1.はじめに	199
2.先行研究	199
3.<組織依頼>のテモラウ文.....	200
3.1 <組織依頼>の定義	200
3.2 場所格の現れ	201
3.3 動作主の潜在化	201
3.4 本節のまとめ	202

4. 他動詞文との交替	204
4.1 交替可能な場合——変化性・処置性組織依頼	204
4.1.1 <主格受け手>のテモラウ文.....	205
4.1.2 <主格局部受け手>のテモラウ文.....	206
4.1.3 <主格領域・所有物受け手>のテモラウ文.....	207
4.1.4 <主格受け手性>の共通性.....	209
4.2 交替不可能な場合——取得性組織依頼	211
4.2.1 物の取得.....	211
4.2.2 情報の取得.....	212
4.3. その他, 交替可能・不可能・曖昧な場合	213
4.3.1 その他, 他動詞文と交替可能な場合——継起的テ節.....	213
4.3.2 その他, 交替不可能な場合——ニ格で示す個別の動作主が現れる場合	214
4.3.3 その他, 他動詞文と交替して曖昧な場合	214
5. テモラウ文の構造的な再分類.....	215
5.1 <主格受け手>のテモラウ文の場合.....	215
5.2 <主格局部受け手>のテモラウ文の場合	216
5.3 <主格領域・所有物受け手>のテモラウ文の場合	219
5.4 本節のまとめ	220
6. まとめ	221
 第八章 自得型テモラウ文の意味・用法	226
1. はじめに	226
2. 通常のテモラウ文との比較	227
3. <自得型>の定義と下位類	228
3.1 依存型	229
3.1.1 実在するニ格主体	229
3.1.2 実在しないニ格主体	230
3.1.3 本節のまとめ	231
3.2 契機型	233
3.2.1 有情物・無情物型	233

3.2.2 有情物・有情物型I	235
3.2.3 有情物・有情物型II	237
3.2.4 本節のまとめ.....	238
3.3 自得型と受影型に揺れ動くタイプ	239
3.4 依存型・契機型・自得型と受影型に揺れ動くタイプの相違.....	240
4. まとめ	241

第四部 結論

第九章 テモラウ文の意味・用法総体.....	243
1.はじめに	243
2.テモラウ文の意味・用法総体.....	243
2.1 意味・用法の総体図.....	243
2.2 両義型	245
3.補足	248
3.1 各意味用法の比較.....	248
3.2 テモラウの受動型の三タイプの比較	250
3.3 繰起的テ節の共起と働きかけ性の関連	251
3.4 動詞の考察	253
4.おわりに	254
参考文献	255

第一章 テモラウ文の位置づけ

1. はじめに

本論の目的は、コーパスの言語事実を基にする詳細な分析を通して、テモラウの意味・用法に関する新しい分類案を提示することである。この新しい分類案の意義は、テモラウの新たなヴォイス的な特徴の指摘も含まれることにある。

今まで、テモラウ文を研究対象として捉えられる場合、視点、遠心、求心、ヴォイス、働きかけ性といった個別の観点からの研究の蓄積がある。しかし、用例(1)～(4)のように、テモラウの意味用法が多様であるため、一つの観点からの記述が十分にテモラウの特徴を把握できないと感じられる。

(1) 風邪で寝込んでしまう月子だったけど、それはそれで十郎に心配してもらったり看病されたりで嬉しい誤算だったかも。(0Y15_21036Yahoo!ブログ, 2008)

(2) 顔見知りの従業員の男の子に頼んで、席を作ってもらう。(OB2X_00345 田中康夫(著)『なんとなく、クリスタル』河出書房新社, 1981)

(3) しもきたの美容院に行って、髪を切ってもらった。(PB33_00091 石本伸晃(著)『ピエールの司法修習ロワイヤル』ダイヤモンド社, 2003)

(4) 私の帰りをこんなに歓迎してくれてありがとう、といつて三匹の頭を平等に交互に撫でる。三匹とも、目を細めて気持ちよさそうに頭を撫でてもらう。(LBs6_00014 今井美沙子(著)『やっぱり猫はエライ』樹花舎;星雲社(発売), 2004)

用例(1)は、テモラウ文と受身文が並列的に表現されているタイプである。(2)は、事態の動きの方向性と働きかけ性は、求心的で使役寄りである。用例(3)は、テモラウの前項他動詞(髪を切った)で表現しても、本来のテモラウ文で表されている授受関係の意味が存在する。用例(4)は、実際、ガ格である猫がニ格の動作主である人間に直接働きかけたのではなく、<叙述の視点>を猫に置いたテモラウの用法である。

したがって、テモラウ文の意味用法を十分把握するのに、コーパス的な実態考察は勿論のこと、まず、こういった分析の観点を総合した実例を基にした体系的な記述が必要であると思う。よって、テモラウ文の意味・用法を多角的に把握できるのである。

本章の目的は、上記で示した観点の考察を踏まえた上で、やりもらい表現(授受表現)におけるテモラウ文を研究対象として捉える目的を明記することである。

なお、本章では、(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』通常版、BCCWJ-NT、以下、BCCWJ)¹の実例を通して、テモラウ文²の特徴を<叙述の視点>、<動作の指向性>、ヴォイス、働きかけ性の観点から多角的に把握していく。

本章の構成では、第2節と第3節でまず、やりもらい表現とは何か、それに関する先行研究の視点・遠心・求心の分析を概観し、やりもらい表現におけるテモラウ文の特性を把握する。第4節でテモラウの働きかけ性、第5節でヴォイスとの関連性、第6節でテモラウ文の構造的な分類、といった側面を概観した上で、第7節で叙述の視点、働きかけ性、受身文、使役文、他動詞文といった総合関係をまとめる。

2. 叙述の視点

本論が問題とするテモラウ文は、やりもらい表現の一つである。やりもらい表現とは、主に動作の受与を表す補助動詞テヤル・テクレル・テモラウを指す。本来は、能動と受動が存在し、それに恩恵の受与が付加された表現形式のことである。したがって、この表現形式で表されている動作の受与には恩恵が含意されるのが常態であり、文内外に動作の仕手と受け手が存在する。

やりもらい表現に関して、大江(1975)・久野(1978)の「視点」の研究がまず挙げられる。テヤル・テクレル・テモラウの三つの補助動詞について、本論では、久野(1978:142)の図式を参考にして、筆者がテモラウを加えて図1にまとめた。

(5) 太郎が花子に本を買ってやった・てくれた・てもらった……<動作の受与>

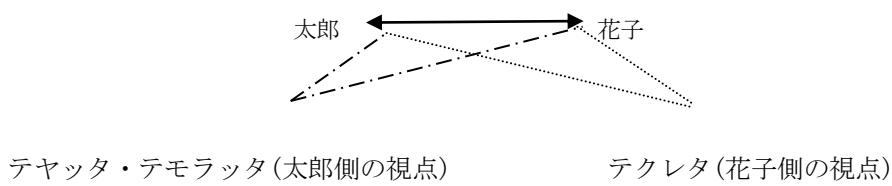


図1 <動作の受与>の方向

図1の矢印の方向は、動作の受与の方向を示し、ガ格・ニ格は、文末のやりもらい表現によって動作の受け手にも動作主にも成り得る。視点をガ格に置く場合、太郎は自分寄りとして捉え、動作の受与は自分から他者へと示すのであれば、テヤルで表現される。視点をニ格に置き、「花子」は自分寄りとして捉え、動作の受与は他者から自分へと示すのであ

¹ コーパスは、第二章で詳細に紹介している。

² 事態の発生は必ずしも主語であるガ格主体に利益があるとは限らないため、本論では、「テモラウ受益文」と表現せずにテモラウ文と表現する。

れば、テクレルで表現される。ガ格を自分寄りの視点で捉え、動作の受与は他者から自分へと示すのであれば、テモラウで表現される。三者は、事態の発生を異なる視点から述べたものであるため、<叙述の視点>と仮称する。

3. 動作の指向性

恩恵を含めた事態の発生から見たテヤル・テクレル・テモラウ三者の特徴は、「遠心」と「求心」という用語が多用される(日本語記述文法研究会 2009:126-7)。

(6) 彼女がビルから出る前に、わたしは追いついて、彼女のためにドアをあけてやった。

彼女は、そうされても驚かなかったようだ。(LBf9_00118 ウィリアム・G・タブリー(著)/島田三蔵(訳)『探偵レス・カーツの遺言』扶桑社, 1991)

(7) 顔なじみのあの古参の薬剤師にでも当たってみるか。あの人は僕にいつも丁重に挨拶してくれる。一お役に立てて嬉しゅうございます、男爵様。(LBt9_00158 レオ・ペルツ(著)/垂野創一郎(訳)『最後の審判の巨匠』晶文社, 2005)

(8) 安木さんは大抵一人だった。困ったことがあると前にいる林のばあさんに手伝ってもらった。(LBg4_00029 徳永進(著)『カルテの向こうに』新潮社, 1992)

上記、(6)～(8)の例は、いずれもテヤル・テクレル・テモラウの典型例である。「遠心」と「求心」とは、恩恵や恩恵的事態がガ格から遠ざかってニ格に及んでいく方向が「遠心」で、ニ格からガ格に及んでくる方向が「求心」である。このような恩恵・恩恵的事態の指向性を、本論では、<動作の指向性>と仮称する。

つまり、非ガ格に事態が動いて行く場合は、ガ格が動作の送り手であり、能動的に事態を引き起こすことになる。ガ格に事態が動いてくる場合は、ガ格が行為の受け手であり、受動的に事態を受けることになる。したがって、テヤルとテクレルともに、ガ格が動作主でニ格が受け手である。事態は、ガ格の動作主からニ格の受け手に及ぶ遠心的な<能動的事態>である。

ただし、テクレルの場合は、テヤルと違って、恩恵を含めた事態は受け手のニ格の話者にとって求心的、受動的である。それに対し、テモラウは、ガ格が受け手でニ格が動作主である。事態は、ニ格の動作主からガ格の受け手に及ぶ求心的な<受動的事態>である。したがって、<動作の指向性>から見た三者の事態の特徴を、以下のようにまとめられる。

テヤル : ガ格遠心的<能動的事態>
 <動作の指向性> テクレル : ニ格求心的<受動的事態>
 テモラウ : ガ格求心的<受動的事態>

このうち、やりもらい表現において、テモラウは働きかけを行う一方、受動的に恩恵や事態を取得しているため、能動と受動の両方の性質を持つことになり、本論は、さらにテモラウに絞って考察していきたい。

4. 働きかけ性

テモラウは、本動詞モラウの補助動詞であり、「V-テモラウ」形式で文中に現れ、中心かつ基本的な意味機能は、働きかけ手であるガ格主体が、ニ格の動作主にある事態を引き起こすように依頼し、動作主の動作によってもたらした恩恵を受ける文である。したがって、働きかけ性を持つことは、テモラウ文の典型的な特徴である。そして、文内外に働きかけ手、動作の仕手、恩恵の受け手が存在することになる。用例(9)～(11)は、その典型であると言える。

(9) まちがえたところをひとつひとつチェックしておこう。そして、正しい答えを教えてもらおう。(PB2n_00080 エリザベス・バーディック(著)/トレボー・ロメイン(著)/上田勢子(訳)『テストなんかこわくない』大月書店, 2002)

(10) これから今日一日中、二係の諸君には、東京中を走り回ってもらう。(OB3X_00105 胡桃沢耕史(著)『新・翔んでる警視』広済堂出版, 1987)

(11) A子さんのマンションはオートロックだが、管理人に頼んでおいて、配送員のために開けてもらう。(PN2c_00020 読売新聞東京本社(著)『読売新聞』読売新聞社, 2002)

用例(9)～(11)は、いずれも動作主の引き起こす事態の前にガ格の事態実現を生じさせる意図が存在し、実際、その意図を持って、ある動作を行わせるように相手に働きかけていると、文脈から読み取れる³。上記の例のように働きかけの意図があるタイプに対し、働きかけの意図がない用例(12)の用法も存在する。

(12) この清水監督には、私は、たいへんかわいがってもらった。(PB17_00075 貴田庄(著)『小津安二郎と映画術』平凡社, 2001)

用例(9)～(11)の働きかけ性の明確なタイプは、テモラウの基本的な用法と見なされる。動作主に対し、事態を起こさせる機能を持つ点では、使役と類似する特徴から使役型テモ

³ テモラウの働きかけ性に関するより詳細な定義は、第三章で規定している。

ラウ文と言える。一方、テモラウの文構造となっているが、ガ格主体の働きかけ性を有しない用例(12)は、事態が勝手に生じる受身的な特徴から受身型テモラウ文と、大別されている。つまり、テモラウの働きかけ性は、動作主に能動的に事態を引き起こすように働きかける用法と、他者から一方的に行われた事態を受動的に受け入れる非働きかけの用法が存在する。

また、恩恵の有無は別として、動作そのものは、二格の動作主で終了するタイプとガ格主体に返ってくるタイプが存在する。用例(9)は、働きかけを受けた動作主の動作が、ガ格に影響を及ぼし、恩恵と共にガ格主体に返ってくる＜回帰型＞であると本論では仮称し、それに対する用例(10)は、働きかけを受けた動作主の動作は、ガ格主体に返らず、恩恵だけガ格主体に返ってくる動作の＜非回帰型＞であると仮称する。こういった動詞のタイプも、テモラウ文の意味・用法を左右すると考えられる。

以上を通して、テモラウ文の特徴を次のようにまとめる。

テモラウの働きかけ性の有/無
〔使役型：働きかけ有の＜受動的事態＞・{動作の回帰型・非回帰型}
受身型：非働きかけの＜受動的事態＞〕

5. ヴォイスとの関連性

前節では、テモラウ文には、非働きかけの受身型と働きかけの使役型が存在すると、分かった。本節では、ヴォイスの諸構文、使役文と受身文と他動詞文との関連性を論じる。両者の類似点と相違点を分析し、テモラウ文の特性をより明確に掴むことが目的である。

5.1 ヴォイスとは

仁田(1981:110-4)によれば、「『態(ヴォイス)』は、英語の voice の訳語。訳語により、「相」「たちは」ともいう。『態』とは、動詞の形態的な範疇であるとともに、動詞の表す動作や作用の成立に関与する関与者のどれを中心にして、その動作や作用の実現を把握・表現するか、といったことにかかわるものである。動作や作用には、その実現に必要な関与者が決まっている。それが『格』である。態とは、そういった動作や作用の語彙的意味によって決まってくる関与者間の相関関係の図式を、何を中心として把握・表現するか、それがいかなるありかたを取る実現であるかといった、動作図式、作用図式の把握の仕方に関わるものである。したがって、態は、格と、格を表示する格助詞にかかわる現象である。一般に、日本語の態としては、能動、受動、使役、可能、自発などの態があげられる。

能動や受動や使役の態と可能や自発の態とは、基本的な性質を異にしている。敬謙や希望は態ではない。敬謙は待遇性の問題であり、希望は表現意図の問題である。狭義では、態は能動・受動・使役に限定する方がよいであろう。更に、態の体系の基本は、能動態と受動態の対立である。」と記述し、能動態・受動態・使役態がヴォイスの基本であるのに対し、可能態・自発態がヴォイスの周辺であるとまとめてある。また、仁田(1991:47)では、ヴォイスとの関連性の中でテモラウ文に対する構造的な分類を行っている。

加藤・佐治・森田(1989:141-2)では、「ヴォイス(voice, 態)とは、核になる動詞によってまとめられるコトを、そのコトに関与する者のうち、いずれを主語(主格に立つべき語)として事柄を描くかという、いわば、話者の視点に関わるものである⁴」と述べている。また、「核になる動詞の行為者をそのまま事柄を表す場合の主語にしたもののが能動態である。核になる動詞の行為者以外の非積極的な関与者を主語にしたもののが受動態である。核になる動詞の主語以外に、そのコトを実現させるために積極的に関与するものが存在して、その説積極的関与者を主語にしたもののが、使役態である。」と記述している。このように、ヴォイスは能動態、受動態、使役態が含まれる。

佐田・藤井・山口(1988:130-2)によれば、「受身はあるものが他から何らかの作用や影響をうけることを表す形式を言い、動詞にレルまたはラレルをつけて表す。可能は『飲める』(可能動詞)、『飲まれる』のレル派生形、『ことができる』、古代語『べし』の一用法などで表す。自発=自然可能、『売れる』「とれる」「泣ける」などの内容を指す。使役は主体が何かに何らかの影響を与えて動作をさせるもので、動詞にス・(サ)セルをつけて表す」と述べ、ヴォイス(態)には受身・可能・自発・使役の各態が含まれると指摘している。

日本語記述文法研究会(2009:207-8)では、ヴォイスの中心的な表現としては、無標の能動文(13)と有標の受身文(14)と使役文(15)があり、可能構文・自発構文などが関連構文とする、と仁田と同様の指摘である。したがって、本論は、仁田(1981)と日本語記述文法研究会(2009)のヴォイスの分類に基づく。

(13) 田中が佐藤をたたいた。 (日本語記述文法研究会 2009:207-8)

(14) 鈴木は田中に佐藤をたたかせた。 (日本語記述文法研究会 2009:207-8)

(15) 佐藤が田中にたたかれた。 (日本語記述文法研究会 2009:207-8)

佐藤(2005:192-3)では、ヴォイスの概念について、「主語を中心とした事態の関与者と述語の表す動きとの意味的な関係を示すカテゴリー」であると規定し、ヴォイスの機能を

⁴ 加藤彰彦・佐治圭三・森田良行(1989)『日本語概説』桜楓社, p. 141.

形態、意味、統語の3つの側面に分割して捉え、ヴォイスのプロトタイプは、次の(a)～(c)のすべての特徴を有するものであると指摘している。

- (a) 形態：2つの文に格の交替を伴う述語の形態的対立が認められる。
- (b) 統語：2つの文の主格の名詞句が義務的に異なる。
- (c) 意味：2つの文がともに動きを表す

また、佐藤(2005:197)では「テモラウ構文も原型的ヴォイスとしての資格を有しているかのようにみられるかも知れない」と用例(16)(17)を示し、形態と統語の条件を満たしているが、「テモラウ構文の本質は無標のスル構文との対立よりも、ヤル、クレルといった

(16) 太郎が次郎にカードを渡した。(佐藤 2005:197)

(17) 三郎が次郎に／からカードを渡してもらった。(佐藤 2005:197)

動詞とともに構成する授受動詞の体系の中で理解されるべきものである。また、本論の言うヴォイスとは関与者と動詞の表す動きとの意味的関係に関するものであるが、テモラウ構文は関与者間の恩恵関係に主たる関心があるものである。したがってテモラウ構文は原型的ヴォイスの類型としては考えない。敢えて言えば、テモラウ構文は(c)の『2つの文がともに動きを表す』という条件に厳密には当てはまらないと考える。」と指摘している。しかし、佐藤の「介在性他動詞文」は第七章で分析するテモラウ文の「主格受け手性」の三タイプに類似している。したがって、以下、ヴォイス諸構文との関連性は、使役文・受身文・他動詞文から触れていきたい。

5.2 使役文との関連性

日本語記述文法研究会(2009:257)では、一般的な使役文は対応する能動文には含まれていない人や物を主語として、能動文の表す事態の成立に影響を与える主体(使役者)として表現するものであると規定し、使役者(使役主体)の働きかけと被使役者(動作の主体・能動主体)の動きからなる複合的な事態を表現する文であると指摘している。テモラウ文と使役文の共通性は、用例(18)(19)のようにある事態を起こさせる働きかけ性が共に存在することである。

(18) 子供にお皿を洗わせる。(作例)

(19) 子供にお皿を洗ってもらう。(作例)

ただし、両者の働きかけのあり方は、次の図2、図3⁵のように異なっている。

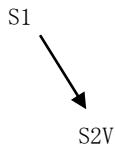


図2 使役文: Vセル・サセル(指令的)

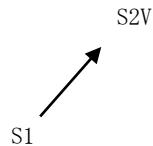


図3 テモラウ文: Vテモラウ(依頼的)

図2、図3のように、使役文の働きかけは、ガ格主体が上位の立場から動作主である下位の者へと、指令的にある種の行為を行わせるように働きかけるものである。一方、テモラウの働きかけは、ガ格主体が下位の立場で、動作主が自分より上位の立場にあるという心理的意識で動作主に依頼的な形で働きかけることが基本である。このような心理的な意識は、下から上への依頼による感謝の気持ちや下位の者への申し訳ない気持ちが込められるテモラウの用法などと考えられる。また、依頼に伴って、ガ格主体が動作主の引き起こした事態によってある種の恩恵も同時に獲得する。使役文も相手への働きかけによって恩恵が生じるが、働きかけの仕方からしてテモラウ文と大きく異なる。以下、幾つかの実例を通して、両者の違いを弁別する。

(20) a. 鳴海は樋口に頼んで、八木のFC契約書を見せてもらった。 (PB49_00435 南英男(著)『異道』桃園書房, 2004)

b. 鳴海は樋口に八木のFC契約書を見させた。

(21) a. マスコミには大学名を伏せるようにお願いして一般の人がキャンパスに来ないよううにしてもらつた。 (PM51_01278 成田陽子(著)『GINZA』マガジンハウス, 2005)

b. マスコミには大学名を伏せさせ、一般の人がキャンパスに来ないようにさせた。

(22) a. 辛辣な感想に受けとれたが、得心もいった。彼に再三せがんで、やはり小説の一節を謡つてもらつた。 (LBm9_00104 笠原淳(著)『十五歳夏』新潮社, 1998)

b. (略)彼にやはり小説の一節を謡わせた。

上記の例のごとく、テモラウ文には「頼んで・お願いして・再三せがんで」といった継起的テ節が多用され、動作主に依頼的な形で働きかけているのが分かる。これは、テモラウ文の典型的な用法である。同様に、働きかけ性を有する使役文に言い換えると、動作主に命じて行わせることになり、文の丁寧さが落ちる。したがって使役文とテモラウ文との文の担う意味機能が異なるため、同様に言語的な働きかけを行う際、使役文はより指令的である

⁵ S1は、図2・図3の使役文とテモラウ文のガ格・ガ格主体を示し、S2は、テモラウ文と使役文の動作主であるニ格・ニ格主体を示す。S2Vは、動作主ニ格によって引き起こされた事態を示す。以下同。

のに対し、テモラウ文はより依頼的であり、動作主である相手の遣る気に頼みをかけて依頼を行うのが特徴である。他方、使役文はただ動作主に動作を一方的に命ずるのみである。

テモラウ文と使役文とは、指令的であるか否かで異なるが、そこにはまた、両者の共通性が見えてくる。それは、両者ともに事態を生じさせる主体の意図性が存在することである。これこそ、両者の基本なおかつ中心的な共通点であると言える。

5.3 受身文との関連性

受身とは、日本語記述文法研究会(2009:213-4)では、能動文の主語であった名詞を主語とするのではなく、動作による働きかけや作用を受ける人や物を主語として文を構成することであり、受身文の意味は、事態から何らかの影響を受けることをその影響を受け手の立場から述べるものであると規定している。

受身文を、「直接受身文」「間接受身文」「持ち主の受身文」に分類し、次のように特徴付けしている。

直接受身文とは、対応する能動文の補語の表す人や物を主語として表現する受身文である。

間接受身文とは、対応する能動文に含まれていなかった人物を主語として表現する受身文である。

持ち主の受身文とは、対応する能動文の補語として表わされる物の持ち主を主語として表現する受身文である。

(p. 215)

このうち、間接受身文は、主語名詞の表す人がその事態によって迷惑を被っていることを表す場合が多く、迷惑の受身とも呼ばれるのである(p. 217)。

テモラウ文は、使役文と並行的な意味機能を有するだけではなく、受身文とも並行的な意味機能を有する。しかし、用例(12)(23)の二重下線部の事態は、非働きかけの<受動的事態>であるため、「かわいがられた」「開かれた」と、受身的に表現することが可能であるが、直接構造か間接構造かで、恩恵の含意が異なってくるのに対し、テモラウ文の表現は常に恩恵性を帯びることになる。

(再掲 12) この清水監督には、私は、たいへんかわいがってもらつた。(PB17_00075 貴田庄(著)

『小津安二郎と映画術』平凡社, 2001)

(23) 私は、友人に誕生日パーティーを開いてもらった。(作例)

5.4 他動詞文との関連性

佐藤(2005:126-8)では、介在性の他動詞文をメトニミーとして捉えている。「介在性他動詞文」とは、主語が動詞の示す行為の直接の主体ではなく、他の存在を介して当該の行為を実現しているものである。その成立条件を詳細に論じ、このタイプの文では、部分(動詞の意味)で全体(実際の状況)を言い表す転義がなされている、と示している。そして、次のようにまとめている。

(24) (工務店に発注して家を建ててもらった場合) 山田さんは家を建てた。 (佐藤 2005:197)

- a. 動詞の意味 : [AGENT : ACT] + [THEME : ACHIEVEMENT]
- b. 実際の状況 : [AGENT(CAUSER) : ACT] + [AGENT(CAUSEE) : ACT] + [THEME : ACHIEVEMENT]

佐藤によれば、用例(24)は「普通の他動詞文ではなく、実際、「山田さん」は工務店に対する発注という行為は行っているものの、自分自身の手で鉋や鋸を握って『家を建てる』という行為を行っていない。実際にその行為を行っているのは工務店の人間である。(24 b)における[AGENT(CAUSER) : ACT]は、依頼を受けて実際に当該の行為を行った工務店の人間(非使役者)による行為のプロセスを表している。このタイプの文において、実際の状況とはくいちがって非使役者の存在とそれによる行為の過程([AGENT(CAUSEE) : ACT])があたかもなかったかのように述べている」と指摘する。また、介在性の文の基本的性格を、「話者が実際には存在する非使役者を無視して、あたかも主語自身がすべての過程を自分で行ったかのようにとらえている表現」と特徴付け、その成立に「事態のコントロール」と「動詞の意味的焦点」の要因が関与していることを述べた。

(25) a. (写真屋に依頼して、顔写真をとってもらった場合) 浩が顔写真をとった。

b. (画家に依頼して、似顔絵をかいしてもらった場合) *浩が似顔絵をかいだ。

(26) a. (母にお願いしてセーターをつくってもらった場合) 花子がセーターをつくった。

b. (母にお願いしてセーターを編んでもらった場合) *花子がセーターを編んだ。

(25a)は介在性の他動詞文として自然であるのに対し、(25b)は成り立たないと指摘する。それは、「顔写真はどの写真屋に依頼してもそれほど得られる結果が大きく異なってくるとは予想されないが、似顔絵は結果が大きく異なることが予想される。つまり、(25b)は非使役者(画家)次第で大きく結果が異なってくるので、その存在と行為の過程をあたかもなかつたかのようにみなすのは難しい。また、(26a)の「作る」という述語動詞は生産物を産出する結果にしか意味的な焦点がないので、その行為を実際に行っている非使役者の存在がなかつたかのようにとらえるのはやはり難しい。つまり、介在性の他動詞文の成立条件

とは、(24b)における[AGENT(CAUSEE) : ACT]があたかもなかったかのようにとらえるための条件であったということになる。または、部分(動詞の意味)で全体(実際の状況)を言い表すための条件であったと言える。」と記しているからである。これは佐藤のメトニミーの観点からの介在性の他動詞文の捉え方である。佐藤(2005:107)では、[AGENT : ACT]は主体による対象への働きかけの過程、[THEME : ACHIEVEMENT]は対象における結果の達成を示すものである。

6. テモラウ文の構造的な分類

仁田(1991:32-55)では、受身文を「まともの受身(直接受身)」⁶、「持ち主の受身」⁷、「第三者の受身(間接受身)」⁸の三つに分類している。三つの受身文は、いずれも能動文から始まる。用例(27)の「まともの受身」は、可愛がられる対象である「私」を主語にし、主語に焦点を当たてたものである。それに対し、用例(29)のもとの文(=先生が息子を叱った)を「第三者の受身」にすると、もとの文にない第三者が現れ、「僕は先生に息子を叱られた」という形式になり、文成分はもとの文より増えることになる。つまり、{息子が先生に叱られる}事態が、ガ格の僕にとってショックであることが示されている。

(27) もとの文：清水監督が私を可愛がった。

まともの受身：私は清水監督に可愛がられた。

(28) もとの文：広志が武志の頭を殴った。

持ち主の受身：武志が頭を広志に殴られた。

(29) もとの文：先生が息子を叱った。

第三者の受身：僕は先生に息子を叱られた。

用例(28)の「持ち主の受身」は、ガ格の身体の一部が受身の対象(ヲ格)になる。そして仁田(1991:47)では、受身文と同様に、テモラウ文の構造的な分類も行っている。用例(30)(32)のもとの文の文構造からテモラウ文を、用例(30)の「まとものテモラウ態(直接テモラウ態)」と用例(33)の「第三者のテモラウ態(間接テモラウ態)」の二構造に分類している。「まと

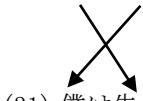
⁶「まともの受身」とは、能動文中に存在している非ガ格の共演成分をガ格に転換し、それに従って、ガ格の共演成分をガ格から外した受身である(仁田 1991:32)。

⁷「持ち主の受身」とは、直接的な働きかけを受けるもとの文のヲ格やニ格(ヲ格以外は稀)などの共演成分の持ち主を表す名詞をガ格に取り出したものでありながら、意味的には、直接的に働きかけを被っている部分や側面を消去した受身が表す意味を含意しているものである(仁田 1991:32)。

⁸「第三者の受身」とは、もとの動詞の表す動きや状態の成立に参画する共演成分としては含みようのない第三者をガ格に据えた受身である(仁田 1991:33)。

ものテモラウ態」とは、もとの文に存在する非ガ格の共演成分⁹をガ格に転換し、それに従って、ガ格の共演成分をガ格から外したテモラウ態であり、必須的に要求される構成要素の数に増減が存しない(仁田 1991:47)。

(30) 先生が僕を叱った。 (仁田 1991:47)



(31) 僕は先生に叱ってもらった。 (仁田 1991:47)

もとの文とテモラウ文は、格の転換により表現が可能である。「第三者のテモラウ態」とは、もとの文の共演成分として存在していない第三者をガ格に据えたテモラウ態である。

(32) あなたが布を見る。 (仁田 1991:48)

(33) 私があなたに布を見てもらう。 (仁田 1991:48)

テモラウ文は、もとの文が存在するが、もとの文と異なり、常に恩恵が伴い、動作主と受益格が文の内外に必要である。用例(30)～(33)では、事態がそれともとの文とテモラウ文で表現されているが、文の果たす意味機能が異なる。テモラウ文は、主にガ格主体の受益が強調されている。たとえば、用例(31)の場合、僕の方からすれば、先生に叱られる事態の発生は有益であるという意味合いが込められている。それに対し、用例(30)のもとの文は、主に先生が僕を叱ったという出来事が強調され、ガ格主体の僕は利益を得たか、僕の心理的な感受はどうであったかなどについてあまり強調されず、ただ行為の事実、出来事の事実の客觀性だけが強調されていると見られる。これは、テモラウ文ともとの文との違いである。また、「まとものテモラウ態」と「第三者のテモラウ態」との違いは、「まとものテモラウ態」は、ガ格主体の方に働きかけも恩恵も直接及ぶのに対し、「第三者のテモラウ態」は、動作主に行きを行わせることが主である。したがって、恩恵だけはガ格主体に及ぶが、働きかけを受けるのは、文中に現れる様々な要素であり、それに動作や働きかけが及んでいくのである。

7. まとめ

以上、本章では、先行研究と実例に基づいて、<叙述の視点>、<動作の指向性>、働きかけ性、ヴォイスの観点から、テモラウ文の特徴を体系的に記述した。そして以下のようないくつかの結果が得られた。

⁹「共演成分」とは、動詞の表す動き・状態・関係の実現・完成に必須的に参画する関与者を表した成分である(仁田 1993:3-4)。

テモラウ文は、<叙述の視点>において、テヤルやテクレルと異なり、ガ格に視点を置く文構成である。<動作の指向性>において、ガ格求心的受動的事態である。そして動作主の行為によって、動作がガ格に移動する<回帰型>と恩恵だけがガ格に返る<非回帰型>といったように動詞の分類を行ったが、これは後述するテモラウ文の意味用法に関連するのではないかと考えられる。さらにヴォイス諸構文との関連性において、使役文、受身文、他動詞文との類似点と相違点を指摘した。このうち、佐藤(2005)では、他動詞文の介在性しか触れていないが、テモラウ文はガ格が受け手の立場にあるため、様々な受け手性の状況が存在する。その一部は、佐藤(2005)の介在性に関連する他動性を持つテモラウも存在し、このタイプのテモラウの特徴を明らかにする必要がある。

テモラウ文の構造的な分類では、仁田(1991)のテモラウ態の二構造「まとものテモラウ態」と「第三者のテモラウ態」に分類しているが、ガ格の受け手の状況に踏まえて、テモラウ文も受身文と同様に三構造に対応できるのではないかと考えられる。

以上の考察を踏まえて、テモラウ文の特徴を、<叙述の視点>、<動作の指向性>、働きかけ性、ヴォイスからその特徴を、表1にまとめる。

表1¹⁰ 叙述の視点・動作の指向性・働きかけ性・ヴォイスとの関連性

<叙述の視点>		
テヤル	S1 →	S2……動作主であるガ格視点
テクレル	S1 →	S2……受け手であるニ格視点
テモラウ	S1 ←	S2……受け手であるガ格視点
<動作の指向性>と遠心・求心・能動・能動との対応		
テヤル	S1 →	S2……ガ格・遠心的<能動的事態>
テクレル	S1 →	S2……ニ格・求心的<受動的事態>
テモラウ	S1 ←	S2……ガ格・求心的<受動的事態>
<働きかけ性・ヴォイスとの関連性>の特徴・V-テモラウのV動詞のタイプ		
テモラウ S1 → S2 ……使役・他動<受動的事態>・{回帰・非回帰型}		
S1 ← S2 ……受身 <受動的事態>		

このように、テモラウ文を中心に、受身文・使役文・他動詞文との総合関係をまとめた。テモラウ文は、やりもらい表現においてテヤル文やテクレル文に比べて、能動的から受動的に変化する変動が大きいため、テヤルとテクレルの構文と異なる複雑な構造変化を持つ

¹⁰矢印の方向「→」と「←」は、事態が動く方向を示すものである。

働きかけ性が存在する。したがって、本論は、テモラウ文を取り上げ、以上の理論観点を踏まえた上で、ガ格主体のある構文関係における働きかけの状態の詳細、ヴォイスに関する諸構文(使役文・受身文・他動詞文)との関係、テモラウ文の意味・用法について、BCCWJ の実例の考察を通して詳しく分析していく、テモラウ文の意味・用法に対する新しい分類を提案していきたい。

第二章 先行研究及びBCCWJの実態

1. はじめに

本章の目的は、先行研究の考察、コーパスの実態の把握と仮説の設立である。従来の研究において、ガ格の働きかけの意図に基づく依頼・受影といった分類が多いが、コーパスではどのような実態になっているかを量的に示す研究は少ない。そこで、テモラウ文の意味用法を広く考察するために、本論では、コーパスの実例を用いる。本章ではまず、テモラウの意味・用法に関する先行研究を概観する。それから先行研究の指摘を検証する目的としてコーパスの実態を示し、問題を提起する。以下は、本章の構成である。

第2節で先行研究の考察を行う。第3節でコーパスの実態を提示する。第4節で本論の研究目的、仮説と分析観点を具体的に示す。第5節で各論の展開を略記する。

2. テモラウ文の意味・用法に関する先行研究

本論はテモラウ文の意味用法の分析が中心である。以下、その材料となる先行研究を取り上げる。これまでのテモラウ文の意味用法に基づいた主な研究では、依頼・非依頼の二分類(奥津・徐：1982；仁田：1991 李：2001)などが大半を占める。それに対し、山田(2004)では、依頼・許容・受影に三分類している。上記二つの分類は、テモラウ文の意味用法に関する代表的な分類であると言える。その他、金(2011)の多分類も存在する。以下、本論のテモラウ文の意味用法・構造分析に直接関係する仁田(1991)の二分類、山田(2004)の三分類、金(2011)の多分類の研究を取り上げる。

2.1 仁田(1991)

仁田(1991:48-53)では、ガ格の働きかけの意図の有無という意味の観点から、テモラウ文を「依頼受益型」(以下、依頼型)、「非依頼非受益型」(以下、受影型)の二タイプに下位類している。以下は、分類の定義とそれに当たる具体例を示す。

- a. 「依頼受益型」とは、ガ格(主体)が実際に動きを行う主体に、依頼などといった働きかけを行うことによって、実際の動き主体が動きを行い、そのことによって、テモラウ主体が益を得た(得る)、といったものである(もっとも、これが典型で、実際にはこの要件を欠いているものもあり、心理的にこれらに凝らす、といったものも存する)。

- (1) 「～、自分は独身だし、下宿すまいた。それで縞村先生におねがいして君をあづかつてもらうことにした」(仁田 1991:49)
- (2) 「駐在さん、早いとこ撮影して貰いない。もうすぐ波をかぶるから……。」(仁田 1991:49)
- (3) 十二時はとっくに過ぎていても相談は続くようすで、なんどりはここへ泊まるらしく、
梨花はさきへ休ませてもらつた。(仁田 1991:49)
- b. 「非依頼非受益型」とは、ガ格が実際に動作主に依頼などといった働きかけを行っていないのに、動作主の方が一方的に動きを行う、といったものである。
- (4) 勝手に部屋に入ってきたは困る。(仁田 1991:49)
- (5) 気にいらなかつたら、降りて下さい。こっちは忙しいんだ。いやいや乗つて貰うこた
あねえ。(仁田 1991:50)
- 仁田によれば、「依頼受益型」は、命令・意志が可能である。「非依頼非受益型」は、命令や意志の表現はいずれも逸脱性を有している。そして、「依頼受益型」は、「第三者のテモラウ態」が圧倒的に多数を占め、「非依頼非受益型」は、「まとものテモラウ態」が稀であろうと指摘している(仁田 1991:50)。仁田は、動詞の意志性を次の三段階に分け、テモラウの意味用法の分析に関連付けた。
- a. 「達成の自己制御性」を持った動詞は、動きの主体が動きの発生・過程だけでなく、動きの成立そのもの・動きの達成をも自分の意志でもって制御できる行為に関わる動詞、行ク、食ベル、殴ル、読ム、書クの類である。
- b. 「過程の自己制御性」を持つ動詞は、動きの成立そのもの・動きの達成は自分の意志でもって制御できないが、動きの成立・達成に至る過程、動きの達成への企ては自分の意志でもって制御できる動詞、落チ着ク、勝ツ、合格スル、シッカリスルの類である。
- c. 「非達成の自己制御性」を持つ動詞は、動きの主体が、動きの発生・過程・達成を全く自分の意志でもって制御できない動詞、呆レル、飽キル、慌テルの類である。

(仁田 1991:243)

テモラウの意味の分析と「動詞の自己制御性」¹¹の三分類が、相互に関連し合って、働きかけ性に基づくテモラウの意味分析の研究(山田 2004; 金 2011 など)に影響を与えている。

2. 2 山田(2004)

山田(2004)は、本論の出発となる先行研究である。以下、山田のテモラウ文の三分類と

¹¹ 「動詞の自己制御性」の三タイプは、それぞれ、V達成、V過程、V非達成で示すことがある。

それぞれの意味用法を判定する要因を概観する。山田(2004:119-120)では、テモラウ文は「テモラウ受益文」と表現され、構造的に持つ受影者(本論では、ガ格主体)から動作主に対する何らかの働きかけのあり方を働きかけ性と定義している。そして、ガ格主体の出来事に対する作用を及ぼす意図、仁田の「動詞の自己制御性」といった要因を基に、テモラウ文の働きかけ性の有無によって、依頼型・許容型・受影型の三分類をしている。

- a. 「依頼的テモラウ受益文」(以下、依頼型)とは、ガ格主体から動作主に意図を持って作用を及ぼす用法である。

(6) お医者に頼んで、いちばんいい注射をしてもらったら? (山田 2004:119)

- b. 「許容的テモラウ受益文」(以下、許容型)とは、事態出来する方向に動いていることを許容する表現や出来している事態を敢えて終結させるという働きかけを行わず持続させることを意図した表現である。

(7) 疲れているようだったから、そのまま寝てもらつた。 (山田 2004:121)

- c. 「受影型的テモラウ受益文」(以下、受影型)とは、構造的な受影型者から動作主に意図も作用も持たない用法である。

(8) 5時ごろになってやっと子どもにも遊ぶことに飽きてもらつて、帰ることができた (山田 2004:122)

「依頼型」「許容型」「受影型」3タイプの働きかけ性を山田は表2のように示す。

表2 山田(2004)テモラウの働きかけ機能

タイプ	意図	作用	図式	用例
依頼的テモラウ受益文	有	有	受益者 → 出来事 ↓ → 受益者	洋平に部屋に入つてもらつた。
許容的テモラウ受益文	有	無	受益者 → 出来事 ↓ → 受益者	疲れているようだったから、そのまま寝てもらつた。
受影型的テモラウ文	無	無	受益者 ← 出来事	辞めてほしいと思っていた人に、思いがけなく辞めてもらったことで、直子は少しあはれだ。

(出典:山田 2004:121)

また、奥津・徐(1982)の「要求の持たない用法」の説明に用いられた次の用例に関し、山田

(2004:128)は、社会通念上では依頼型とも受影型とも取れると指摘している。

(9) 中学校ではぼくたちは伊藤先生に英語を教えてもらった。(山田 2004:120)

山田(2004:129)では、「テモラウ受益文」の機能を判定する要因を図4に挙げている。

	依頼的	許容的	単純受影型的
1. 文法的要因			
継起的同主語テ節の後件			
○	—	—	
命令などモダリティの後続			
○	○	—	
タメ(に)節内			
○	○	—	
動作主が不問・非人間			
—	○	○	
感情の原因となるテ節内			
—	—	○	
2. 語用論的要因			
○	○	○	
(「○」は観察される「—」は観察されない)			

図4 テモラウの働きかけ性を決定する文法的・語用論的要因

山田(2004:129)

山田は、依頼型の働きかけの要因について、従属節のタイプ、継起的テ節の意志性、目的を示すタメ節の前接、文末のモダリティ形式の影響などを言及している。この他、副詞による判断につき、依頼型は「わざと・わざわざ」と、許容型は「そ・このまま」と、受影型は「偶然・期せずして・思いがけず」との共起が働きかけ性を判断できる重要な標識であると示している。

2.3 金(2011)

金(2011)では、益岡(2001)の「使役型テモラウ」(用例10)・「受動型テモラウ」(用例11)と山田(2004)の許容型に対して、用例(12)を提示し、ガ格で表示される恩恵行為を受けた側が、ニ格で表示される恩恵行為者に対して行った様々な行為のうちの一部であると捉え、このタイプは、使役型でも受動型でも許容型でもないテモラウ文だと、これまでの分類の不十分さを指摘する。

(10) 花子に(頼んで)代わりに行ってもらった。(益岡 2001) 使役型テモラウ

(11) 先生に作文をほめてもらった¹²。(益岡 2001) 受動型テモラウ

¹²下線を引く際のポイントは、先行研究の下線と違って、筆者が働きかけ性を左右する要因に基づいて引いている。

(12) 電子機械科は七つの中小学校で「ものづくり出前授業」を実施して事態の実現を実施。

電子機械化の専門性をいかし、ロボットキットの組み立てを通してものづくりの楽しさを知つてもらった。(金 2011:14)

したがつて、金は、ガ格主体の様々な振舞い方を基準に、テモラウの意味用法を、以下の依頼・命令・許可・放任・義務・勧め・仕向け・単純受影の八つに分類している。

(13) 偶然友達に会つて、買い物に付き合つてもらった。 依頼

(14) 西岡専務は、「最近、18歳の社員に一人で静岡まで出張してもらったよ。」と嬉しそうにお話しされていました。 命令

(15) 近所の子供たちがうちの犬を触つてみたいというから触つてもらった。 許可

(16) 子供がもっと遊びたそつだったのでそのまま遊んでもらつた。 放任

(17) 小野球団代表は、『前半戦の投手陣のふがいなさ含めて松沼博久コーチに一切の責任を取つてもらった。現場ではなく、フロントが決断した』と話した。 義務

(18) 花子が疲れているようなので私の部屋でくつろいでもらつた。 勧め

(19) 事情を説明して分かつてもらつた。 仕向け

(20) 私の名前は生まれたときに祖父につけてもらった。 単純受影

(金 2011:17-20)

「依頼」と「命令」の区分は、前者においてガ格主体が力関係の下位に位置し、後者は上位に位置している。「許可」「放任」「勧め」は、二格の要求や行為に、ガ格が対応する仕方の違いによる分類である。三タイプは、類似する用法で、山田の許容に当たる用法と思われる。特に、放任と勧めの区別は、本論の主張であれば、相手の行為を妨げようすれば妨げるが、それを妨げずに、容認する観点からの分類では、いずれも放任に分類すべきと考える。少なくとも、金が挙げた放任の例と勧めの例を見ると、それほど顕著な違いは見られない。「義務」は、テモラウ事態が当然為すべきという意味で分類されているが、「命令」にも分類できる。そして、「依頼」と同様に相手に言語的に直接働きかけられるタイプで、依頼の下位類に分類可能であると考えられる。「仕向け」は、ガ格主体から動作主に直接要求するのではなく、動作主の行為を実現させるために間接的に仕向ける場合であると指摘する。この他、「単純受影」を分類する根拠は、山田の「受影型的テモラウ受益文」の規定に従っている。さらに、山田の「動詞の自己制御性」に基づくテモラウの意味用法の判断に対し、反例を挙げ、V過程でも依頼に解釈されることがあり、V非達成でも単純受影に解釈されないことがあると指摘している。

(21) 友達に頼んで, 思い出してもらった. V過程・依頼 (金 2011:16)

(22) たくさん飲ませて酔っ払ってもらった. V非達成・×単純受影→○仕向け(同上)

一方, 動詞の性質に基づく分類も, テモラウ文の用法を決める要因として検討できる。

金は, 動詞を, 許す・診る・償う・くつろぐ・喜ぶ・行なう・勝つの七タイプに分類し, 八つのテモラウ文の用法と対応させている。が, 動詞の分類基準は不明確であり, 働きかけ性を示す八つの意味用法の分類も依頼と命令のように分けてあり, 同じく言語的な働きかけの一類を並行する二タイプに分類され, 分類基準も各タイプの区別も曖昧に感じられるのである。

2.4 本節のまとめ

意味の分類に基づく先行研究を考察して, 以下のようにまとめる。

テモラウの意味用法に関する先行研究の分類案のまとめ(分類の視点)

仁田(1991) : 依頼受益型・非依頼非受益型(恩恵・非恩恵・依頼・非依頼・構造的な分類)

山田(2004) : {依頼・許容・単純受影} 的テモラウ受益文(働きかけ性・動詞の自己制御性)

金(2011) : 依頼, 命令, 義務, 仕向け, 許可, 放任, 劧め, 単純受影(力関係・恩恵・主体の振る舞い・動詞の性質)

以上, 本論は, 山田のテモラウの意味用法の三分類を基に, テモラウの意味用法を, 依頼型, 受影型, 許容型, 両義型と分類し, コーパスで検証する。

3. 考察

本節では, コーパスを概観し, 先行研究に対する問題提起を行う。

3.1 考察の目的と資料

本論では, テモラウ文の意味用法をよりよく把握するために, 国立国語研究所の『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を考察資料とする。四タイプである依頼型・許容型・受影型・両義型のそれぞれの用例数を示すとともに, これまでの研究では論じられてこなかった新たな論点を示し, テモラウの意味用法を考察する。

国立国語研究所によれば, 「『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)は, 現代日本語の書き言葉の全体像を把握するために構築したコーパスであり, 現在, 日本語について入手可能な唯一の均衡コーパスです。書籍全般, 雑誌全般, 新聞, 白書, ブログ, ネット掲示板, 教科書, 法律などのジャンルにまたがって 1 億 430 万語のデータを格納しており, 各ジャンルにつ

いて無作為にサンプルを抽出しています。」という概要となっている。本論では、その中の中納言『現代日本語書き言葉均衡コーパス』通常版, BCCWJ-NT (BCCWJと略す)を利用する。中には、出版した書籍・雑誌、新聞・図書館の書籍・特定目的の白書・教科書・広報紙・ベストセラー・Yahoo!知恵袋・Yahoo!ブログ・韻文・法律・国会会議録と均衡的に様々なジャンルの文が入っている。考察対象となる資料は、書き言葉を中心とするコーパスであるため、本論で扱う用例も書き言葉を反映したテモラウの意味用法に基づく分析になる。

3.2 コーパスの実態

考察の範囲は、「テモラウ・テモラッタ・テモライタイ・テモラオウ」の四つの文末形式である。四つの文末形式の検索結果は、テモラッタが 825 例、テモラウが 512 例、テモライタイが 467 例、テモラオウが 145 例、合計 1949 例である。これらに絞って考察しているが、各論におけるテモラウの意味用法の分析は、その裏づけとなる BCCWJ の実例を幅広く利用する予定である。場合によってインターネットの用例も利用する。

3.2.1 テモラウ文の機能別分布状況

本論では、働きかけのある依頼型はテモラウ文の中心的な意味機能、非働きかけである許容型と受影型は周辺的な意味機能として設定し、中心的、周辺的なものを把握するには、具体的なデータとして示したい。そして本論は、客観性を求めるために、文末形式である「テモラッタ」を対象に統計を行った。表 3 の機能分布状況のデータは、BCCWJ 通して検証した文末形式テモラッタのそれぞれの意味用法の分布状況を示したものである。

表 3 テモラッタにおけるテモラウ文の意味・機能別分布状

タイプ データ	依頼型	許容型	受影型	両義型	サセテモラッタ
データ	580 例	9 例	91 例	12 例	133 例

コーパスによると、典型的で明確的な実例はこれだけある。データから分かるように、一番多いタイプは依頼型である。実例数から典型的で中心的な意味用法であると言える。典型以外に多いのは受影型である。最も少ないのが許容型である。したがって、許容型は最も周辺的な用法だと分かる。コーパスでは、ある一定文字数の文脈しかないと、はつ

きりとどのタイプに位置するかの解釈に曖昧さが表われる用例は、両方の可能性があるため、両義型を仮称して分類している。このような用例は12例ほどある。

3.2.2 先行研究では十分説明していないテモラウ文

コーパスから、先行研究の枠組みでは十分説明できないテモラウ文の用法を発見した。用例(23)では、「いい雰囲気を教えて！」と、働きかけても教えられないし、文中には、ガ格主体の「僕」は「教える」ように、動作主に何らかの働きかけをしたとも考えられない。つまり、動作主の具体的な動作がV-テモラウに現れていないのである。このような用例はいくつもあって、先行研究の考察は見られない。

(23) (略) ムヤンクン。こんな感じかな？？？僕、なんにもしていなかつたけど、いい雰囲気を教えてもらった。でも、発展的解散をした組織もよかつた。

(略) (0Y14_01136Yahoo!ブログ, 2008)

これまで、テモラウ文の働きかけ性を論ずる場合、人間以外の無生物などを対象とした研究は少ないようである。スチワロードム(2009:104)では、「テモラウ文のニ格の動作主は受益者であるために、無情物は現れにくい」と指摘している。それに対して、BCCWJには、ニ格は人間以外の動物や無生物の実例もいくつか存在すると今回の調査で分かった。次の例は、無生物に該当する実例である。

(24) 茄子もキノコも油を吸う食材なので、割と多いはずのオリーブオイルはすっかり吸われ、フライパンがカラリとする（笑）そこに小麦粉を投入し、煎りながら、吸いすぎ
の油を吐き出してもらう。(0Y03_02368Yahoo!ブログ, 2008)

(25) 係の本には考える事の重要さを教えられ、地理関係の本には世界各地の珍しい風物を教えてもらった。(OB4X_00145 立花隆(著)『ぼくはこんな本を読んできた』文芸春秋, 1995)

用例(24)は、働きかけ性があるが、物の性質を通して間接的に働きかけている。それと違って、用例(25)は、非働きかけのタイプであり、スチワロードム(2009:104)の「受身文では、無情物が主語の文を作ることができるが、テモラウ文では、無情物の主語は許容度が低く、不自然に感じられるため、無情物が主語の場合には、両構文の交換性が落ちる」という指摘に対し、用例(25)は、受身文と交替できる。

また、山田(2004:125)「継起的なテ節と共に複文のテモラウ文の働きかけ性について、継起的テ節を含む複文では、前件と後件が同一主語である場合、前件が意志動詞であれば、後件のテモラウ受益文は、働きかけ性があると解釈できる(用例26)」の指摘から外

れる用例(27)も存在するとコーパスの観察で分かった。用例(26)と(27)は、事態の動きの方向性と働きかけ性において、求心的で使役寄りであるが、言語的と非言語的でタイプが

(26) わたしは寺のじさまに頼んで買ってもらった炭俵を置いていた。(山田 2004:125)

(27) この地には世界の中心であることを示すオムパロス（へその意味）という石が置かれてあったが、オレステスはその上に座った。それから予言の神アポロンによって血の穢れを清めてもらった。しかし彼の重い罪までが消滅したわけではなかった。

(PB11_00037 楠見千鶴子(著)『ギリシア神話物語』講談社, 2001)

異なる。これを区別する分析はあまり見られない。用例(26)の「頼んで、V-テモラウ」のタイプに比べて、用例(27)の「座って、V-テモラウ」は働きかけ性がない。

用例(28)は、働きかけ性が存在するが、テモラウ事態に対して直接的な働きかけが見られない。そして事態の成立には、前件のテ節の条件が必要になる。

(28) 眠ろうとしたとたん男に変身してしまったのだ。隣にいた慎之介が目を丸くしたのは当然である。ケイはあわてて鳩尾を突き、かわいそうだが失神してもらった。
ど、どうしよう (LBi9_00077 六道慧(著)『キスは殺しの始まり』中央公論社, 1994)

金(2011)では、用例(28)に類似する「仕向け」の例を提示しているが、用例(28)ほど直接的ではないと言える。金では、事態の成立に当たって、V-テモラウのVという行為の成立に一定の条件が必要な動詞に関して分析が行われたが、使役的な側面が強いタイプとそうでないタイプがあり、具体的な違いを示すような分析に至っていない。

用例(29)(30)は、許容型の用法である。許容型の用例数は少ないが、動作主の行為を許容するのに、どのようなタイプが存在するかの分析は、先行研究では不十分に思われた。

(29) 私の帰りをこんなに歓迎してくれてありがとう、といって三匹の頭を平等に交互に撫でる。三匹とも、目を細めて気持ちよさそうに頭を撫でてもらう。 (LBs6_00014 今井美沙子(著)『やっぱり猫はエライ』樹花舎;星雲社(発売), 2004)

(30) わたしは煙草も油っこい食事も控えていたので、旧式のM17 レジンに代わり、サンパウロのシェーンバウム医師の勧めどおり、新型の高価な陶材を詰めてもらった。 (LB19_00268 ジョルジョ・プレスブルグ(著)/鈴木昭裕(訳)『歯とスパイ』河出書房新社, 1997)

用例(31)は、他動詞文と交替可能である。

(31) 病院で手術して摘出された臓器などは、どのように処分されるのでしょうか？この間手術してもらったので、ちょっと気になっています。特別管理産業廃棄物のうちの感

染性産業廃棄物に該当します。(OC09_03343 Yahoo!知恵袋, 2005) ⇔(前略)この間手術してもらったので(後略)。

用例(32)は、一つの文にテモラウ文と受身文が並列的に表現されている。

(32) “初めてのお泊り！” 風邪で寝込んでしまう月子だったけど、それはそれで十郎に心配してもらったり看病されたりで嬉しい誤算だったかも。(0Y15_21036Yahoo!ブログ, 2008)

二重下線部の「十郎に心配してもらったり、看病されたり」は、「十郎に心配されたり、看病されたり」、あるいは「心配してもらったり、看病してもらったり」と言い換えられる。テモラウと受身のどちらを使用しても、本来の文義はほとんど変わらない。また、テモラウは使役的な機能も有するため、「心配させたり、看病させたり」とも言い換えられる。つまり、テモラウ文・使役文・受身文が一つの文に存在することは、三者の用法が類似していることを証明している。そしてテモラウの意味用法を論ずるのに、使役と受身を取り上げて論じる必要性があると実例が証明している。ただ、この例のテモラウと使役は、言語的な働きかけではなく、ガ格主体の引き起こした事態が動作主に心配させるきっかけや原因となっている。使役の非言語的な働きかけのタイプになる。これは、第六章で触れる<状況設定型>テモラウ文のタイプになり、ガ格主体の働きかけの一種と言える。

受影型について、かなりの実例数が挙げられたが、先行研究は文脈・動詞の自己制御性・副詞との共起以外に、意味・言語形式・語彙的側面において依頼型とどう異なるかの指摘が不十分に思われる。

以上示したように、これまでデータが不足であったのか、先行研究の指摘はテモラウ文の典型的な用法に止まり、周辺的な用法の分析が不十分に思われる。そこで、本論はテモラウ文の意味用法に関して、コーパスを用いて再分析を行う。

4. 本研究の目的・仮説と分析視点

本節では、本論が主に解決する問題を提起し、テモラウ文の大枠の意味用法に関する仮説を立てることである。

4.1 研究目的と仮説

本論の研究目的は、以下の六つの問題を解決し、テモラウ文の意味用法を明らかにすることである。

問題 I : 山田(2004)では、テモラウ文の意味用法には依頼型・許容型・受影型が存在す

ると指摘しているが、本論は、動作主の動作の指向性から見てさらに自得的な用法が存在すると指摘する。

問題II：佐藤(2005)は、介在性他動詞文の存在を指摘しているが、本論は、テモラウ文にも介在性に類似する特徴を持つタイプが存在すると指摘し、それはどのような性質を持つテモラウ文であるかを指摘することである。

問題III：テモラウ文の特徴をより明確的に示すのに、仁田(1991)のヴォイスの理論観点に基づいた受身文の構造分析に従い、テモラウ文の構造も受身文と並行的に三構造に分類し、<持ち主のテモラウ文>を取り出すことが可能であると指摘する。

問題IV：金(2011)では、「仕向け」の特徴を示すテモラウ文の用法の存在までは指摘しているが、事態の成立には状況の提示方が様々であり、これらのテモラウ文を<状況設定型>テモラウ文と仮称し、中には典型と周辺的なタイプが存在し、典型は使役文と同様な性質を持つと指摘する。

問題V：山田(2004)では、テモラウ文の大枠の意味用法に基づく分類が詳細に行われたが、コーパスの実態から、大分類を基にするさらなる詳細な下位分類が必要な個所が存在すると思われる。

問題VI：コーパスを通して、テモラウの意味用法を判定する要因を明らかにすることである。

以上を踏まえて、本論はテモラウ文の意味用法に関する新しい分類案を提示する。その構想として、次のように仮説を立てる。

仮説：筆者は、働きかけ性・ヴォイス・動作の指向性に基づき、テモラウ文を、<依頼型><許容型><受影型><状況設定型><組織依頼><自得型>の六つに分類できると考える。この他、<両義型>のタイプも存在する。

以上、コーパスの実態から、これまでのテモラウ文の意味用法に関するいくつかの問題点が残されたため、本論は、新しい分類案を仮説し、各論で具体的に検証していく。

4.2 分析の視点

山田(2004)では、「飽きる」のような非達成的な自己制御性の動詞は働きかけられず、「単純受影」に分類されている。しかし、「非達成の自己制御性」を持つ動詞でも、文脈によって働きかけの有無が異なり、場合によっては、ガ格主体の事態達成のための意図的な状況作りが可能であると考えられる。「飽きてもらう」を例として、コーパスには実例がないが、

インターネットで検索したところ、2例の実例が確認できた。

山田(2004:122)の「単純受影的テモラウ受益文」

(33) 5時ごろになってやっと子どもにも遊ぶことに飽きてもらって、帰ることができた。

インターネットの実例

(34) わざわざ報道するということは飽きてもらう事で得をする人が居るということ。

<https://togetter.com/li/1005441> (2016年7月29日)

(35) 「炎上厳禁」な女性に上手に飽きてもらうフィニッシュブロー(熱男のお悩み相談室)

<https://form.allabout.co.jp/series/11/145/> (2015年8月24日)

山田の用例(33)は、動作主が自主的に「遊び」に対して飽きてきたとしか理解できないが、「5時ごろになる」という時間の経過を待つことによって、子どもの遊びに対する飽きが生じたのである。インターネットの2例も含めて三つの「飽きてもらう」の使用例は、いずれも「時間の経過」が必要である。用例(33)は、ガ格主体の働きかけが見られず、時間の経過に伴う事態の結果が強調される<受影型>であり、用例(34)は、事態の結果による利益の享受が強調され、既に起きた事態をガ格主体が積極的に受け入れる<許容型>だと思われる。用例(35)は、「上手に」という副詞的な成分と「飽きてもらう」との共起がポイントであり、ガ格主体の意図や手段が強調され、直接働きかけられないが、そうなりやすい状況作りをガ格主体が作ると考えられる。したがって、用例(35)は、希望するガ格主体の間接的な働きかけが存在し得る使役的な用法であり、非言語的働きかけの状況設定的な用法と考えられる。それに対し、用例(33)は、何の働きかけもなく、ただ時間の経過による動作主自身の変化によるものである。

したがって、本論は、山田(2004)と違って、動詞の自己制御性に捉われず、ガ格主体に事態を引き起こす意図があれば、許容型や受影型ではなく、働きかけ性のある下位タイプに区分する方法を取る。つまり、「飽きてもらう」のように、文脈にガ格主体の言語的な働きかけが存在しなくとも、ガ格主体に事態を引き起こそうとする意向が見られる場合、働きかけと非働きかけでタイプが分かれる。より詳細な分類の根拠を各論で具体的に示す。

5. 各論の展開

本論は、BCCWJのテモラウの実例を、テモラウ文に現れた働きかけの特徴によって、大きく<依頼型><受影型><許容型><状況設定型><組織依頼><自得型>に分類する。

第3章では、言語的に動作主に行行為を遂行するように働きかける<依頼型>テモラウ文に関する分析である。第4章では、非働きかけの<受影型>テモラウ文、第5章では、非働きかけで依頼と受影の中間に位置する<許容型>テモラウ文の分析を行う。第6章では、働きかけ性があり、個別的な依頼には動作主の意志でコントロールしにくく<状況設定型>テモラウ文を考察する。第7章では、働きかけのタイプの中で、組織が動作主である<組織依頼>のテモラウ文を取り上げる。第8章では、ガ格の理解の基である<自得型>テモラウ文を考察する。第9章の結論では、テモラウ文の働きかけ性の特徴とテモラウ文の意味・用法を示す全体像を取り出す。

本論は、四部によって構成されている。第一部は、序論と第二章のテモラウ文の特徴を示す背景的知識とコーパスの実態である。第二部は、第三章から第五章のこれまでの先行研究が指摘していた意味用法ではあるが、本論は、コーパスの実態に基づいてさらに詳細に分析したものを提示する。第三部は、第六章から第八章では、本論のテモラウ文の意味用法に関する新しい提案を提示することである。第四部は、テモラウ文の意味・用法の総体図を結論の章である第九章で提示する。

第三章 依頼型テモラウ文の意味・用法・特性

1. はじめに

本章の目的は、言語的な直接働きかけを行う典型的なテモラウ文である依頼型を考察対象に、<依頼型>テモラウ文の定義・意味用法・特徴を明らかにすることである。

これまでテモラウ文の働きかけ性について概観的に論じる先行研究が多く、コーパスの実態を通して、言語的な依頼的テモラウ文はどのような表現形式を取るか、どういった用法が存在するかを詳細に記述する研究は少ないようである。

本章は、BCCWJ の実例を中心に、言語的な働きかけの実態を、意味・共存する言語形式・語彙といったレベルから考察し、<依頼型>テモラウ文を示す意味・文法的な要素の枠組みを提示することである。以下は、本章の構成になる。

第2節で働きかけ性を持つ<依頼型>テモラウ文の意味・言語形式などに触れる先行研究を概観する。第3節で<依頼型>テモラウ文と働きかけ性を定義し、区別する。第4節ではBCCWJ の実例を観察し、意味・共存する言語形式・語彙レベルから働きかけ性を観察できる要因を抽出する。第5節では働きかけ性を有する文法的・語用論的な要因をまとめ、全体に対する結論を導く。

2. 先行研究

本節では、本論の基礎研究となる先行研究が指摘するテモラウ文の働きかけ性の要因を概観する。

2.1 概観

仁田(1991:49)では、働きかけ性も恩恵性も存在するテモラウ文は、テモラウ文の典型であり、命令・意志は可能なテモラウ文であると指摘している。

山田(2004:119)では、「テモラウ受益文には、主語位置に置かれた受影者から動作主に対して働きかけを行って、その行為の影響を受ける使役的用法と、働きかけがなく行為の影響を受ける受身的用法の2用法の存在が、従来の研究に指摘されている」と述べ、先行研究を踏まえて働きかけ性は「テモラウ受益文が構造的に持つ受影者(本論では、ガ格主体)から動作主に対する何らかの働きかけのあり方である(山田 2004:119)」と定義している。また、働きかける意図を実際の作用との観点、副詞及び動詞の自己制御性を手がかりに働きかけのあり方を規定し、テモラウ文を「依頼的テモラウ受益文」

「許容的テモラウ受益文」「受影的テモラウ受益文」の3種に分類している。山田は「依頼的テモラウ受益文」について、「テモラウ受益文は働きかけが感じられる場合は、意図を持って作用を及ぼす用法である。」と述べ、文法形式・構文・動作主の性質・文脈といった側面から依頼型テモラウ文の働きかけ性を判定し、次の5つの要因を提示している。

- (a) 繙起的同主語テ節の後件
ex, 呼んで来て～V-テモラウ
頼んで～V-テモラウ
- (b) 命令や意志等のモダリティの後続 ex, 捨ててもらえ(命令)
乗ってもらうことにした(意志)
作ってもらいたい(願望)
切ってもらったらどう(勧め)
待っていてもらわねばならぬ(当為)
- (c) タメ(に)節内
- (d) 語用論的要因 ex, 「あの石森さんは」「やめたよ。やめてもらった」
- (e) 副詞「わざと・わざわざ」との共起
- (f) V-テモラウのVは達成の自己制御性を持つ動詞が必須 ex, 行く；食べる

山田(2009:121-129)

山田(2004:124)では、繙起的テ節を伴う複文の働きかけ性について、「後件のテモラウが依頼的な解釈を受けるのは、繙起的テ節を含む複文が同主語の場合でありかつ前件の動詞が意志動詞の場合のみである。」と、前後件が同主語の場合は働きかけ性が存在するが、異主語の場合¹³は、後件のテモラウの働きかけ性が曖昧であると指摘している。

山田(2004:126)では、用例(1)「立って」のような複文のテ節でも、付帯状況の場合は働きかけ性において多義であるとされる。

- (1) 数日前の日勤の日に新聞社で夕刊の締切が終わったあと、最近結婚したばかりの若い同僚が部長の机の横に立って、一枚の書類に判を押してもらっているところに、偶然通りかかったときのことを思い出した。(山田 2004:126)

タメ(ニ)節とモダリティ形式について、必ずしも働きかけ性があるとは限らず、許容型

¹³ 前件と後件が異主語の場合には、後件のテモラウ受益文は必ずしも働きかけがあるとは感じられず、働きかけに関しては曖昧となる。次の例は、「聞かせてもらいました」は、依頼的とも単純受影的とも解釈できる。(山田 2004:125-6)

・お盆の晩には、いつも親戚中が集まって、いろんな話を聞かせてもらいました。

と解釈できる場合もあり、これは動詞の自己制御性が低いという要因が考えられると指摘している。用例(2)は、許容的な意味として解釈されている。

(2) 親や祖父母に美しく老いてもらうため、そして自分自身の老後を美しくするため暮ら
しの根本にある憲法に立ち返って考えたい。(山田 2004:124)

2.2 問題点

山田が指摘する働きかけ性の要因を、コーパスの実例を用いて検証した結果、「依頼的テモラウ受益文」は、「必ず『達成の自己制御性』を持った動詞が前に接続しなければならない(山田 2009:122)」情況とは限らず、用例(3)「考える」のような意志性の強い「過程の自己制御性」を持つ動詞でも、言語的に直接働きかけることが可能であると分かった。

(3) この辺についても、きょうは指摘だけにとどめておきますけれども、ぜひとも考えて
もらいたい。(OM26_00001 堀江正夫君『国会会議録』第094回国会, 1981)

また、用例(1)の前件のように「立って」といったテ節が現れるテモラウ文の働きかけ性は多義であるという山田の指摘に対し、筆者も賛同するが、動作主の性質によって異なるとコーパスの観察で分かった。つまり、二格が実在しない動作主の場合、働きかけ性があるとは判断できない¹⁴。それに対し、用例(1)のテ節は、V-テモラウで表される事態を生じさせるために行われたガ格主体の準備段階の行為であり、それによって有情物の動作主がV-テモラウで表される事態を引き起こしたのである。このようなテモラウ文を、{S1V 原因型テ節+S2 有情物型V-テモラウ文}と示し、無情物動作主のタイプと区別して見ていく。このように事態を生じさせる原因となるテ節を、本論では<原因並びに前提的動作>¹⁵と仮称する。この場合、{S1V 原因型テ節+S2 有情物型V-テモラウ文}は多義ではなく、働きかけ性があるのがほとんどであると分かった。

実際、用例(1)では、文脈に表現されていないが、語用論的に見れば、ガ格主体の意図的な行為が有情物であるニ格主体の領域で生じている。つまり、それはニ格主体に対するあ

¹⁴ 極少数ではあるが、BCCWJでは、テモラウ文に実在しない動作主も存在する。この場合、ガ格主体が事態を生じさせる準備段階の行為が前件に現れても、後件のテモラウ文は働きかけ性を持たない場合が多い。たとえば、「この地には世界の中心であることを示すオムパロス（へその意味）という石が置かれてあったが、オレステスはその上に座った。それから予言の神アポロンによって血の穢れを清めてもらった。(PB11_00037 楠見千鶴子(著)『ギリシア神話物語』講談社, 2001)」といった文は、そうである。この文に関する分析は、第8章の自得型を参照のこと。そして、第9章の結論でも、前件が継起の意味を持つ複文的テモラウ文の働きかけ性をまとめて示している。

¹⁵ V-テモラウで表される事態を引き起こすための前段階に、テモラウ主体がある動作を行う。それが、動作主のテモラウ事態を引き起こす原因となっている。このようなテ節は、<原因並びに前提的動作>とまとめて仮称する。

る種の働きかけを行っているというガ格主体の願望的な行為を示すものであると、本論は見ている。用例(1)は、動作主にV-テモラウで表される事態を引き起こさせるために、ガ格主体が意図的に行われた行為であり、働きかけ性が存在し、言語的働きかけによって実現された事態だと考えられる。以下、依頼型の働きかけ性を示す新たな特徴を見出したい。

3. <依頼型>テモラウ文と働きかけ性の定義

本節では、<依頼型>テモラウ文と働きかけ性の定義を明確する。

3.1 <依頼型>テモラウ文の定義

仁田(1991)・山田(2004)では、依頼的テモラウ文を「依頼受益型」「依頼的テモラウの受益文」と称しているが、本論の<依頼型>テモラウ文は非受益型も存在するとコーパスから検証された。したがって言語的な働きかけ性を持つテモラウ文をまとめて<依頼型>テモラウ文と仮称する。また、山田の依頼の定義では、働きかけ性を持つテモラウ文を「依頼的テモラウ受益文」であると広い意味で使っているが、BCCWJの観察から、働きかけ性=依頼ではなく、働きかけ性は依頼型を区別すべきと考える。本論では、非言語的な働きかけ性を持つテモラウ文、或いは言語的であっても間接的な働きかけをするテモラウ文を<依頼型>テモラウ文と区別する。以下、BCCWJの実例の特徴を踏まえて<依頼型>テモラウ文を定義する。

<依頼型>テモラウ文（以下、<依頼型>）は、依頼者であるガ格主体に事態実現の意図が存在し、それを言語的な働きかけを以って被依頼者であるニ格の動作主に対し、事態実現の行為を行わせるように依頼や指示を行うテモラウ文であると定義する。動作主に直接言語的な働きかけを行うのが依頼型の事態を成立する重要なファクターになる。実例が示すように、<依頼型>には動作主が文中に現れたり省略されたりするが、いずれもこれから行う行為に対し、ガ格主体の何らかの依頼や指示を動作主に述べているのである。

(4) 彼に頼んで、見たままを再現してもらう。私が射殺された男の役。(LBr6_00029 安藤優子(著)

『以上、現場からでした』マガジンハウス、2003)

(5) (略)それと同じさ。客がいて、商品があって、頭を下げ、説明して買ってもらう。そ

れだけだよ。〈一流〉なんて、名刺に刷り込むわけにもいかないからね」(OB2X_00198 赤

川次郎(著)『早春物語』、1985)

3.2 <依頼型>の下位類

本論は、<依頼型>を、二者間の行為の授受である<依頼の直接構造>と、三者間以上の行為の授受である<依頼の間接構造>と、ガ格主体が不利益な働きかけをする<非恩恵的依頼>の3つに分類する。以下はそれに当たる実例であり、用例(7)は<依頼の直接構造>であるが、恩恵が二重になるものである。

(6) 顔見知りの従業員の男の子に頼んで、席を作ってもらう。(OB2X_00345 田中康夫(著)『なんとなく、クリスタル』河出書房新社, 1981) <依頼の直接構造>

(7) A子さんのマンションはオートロックだが、管理人に頼んでおいて、配達員のために開けてもらう。(PN2c_00020 読売新聞東京本社(著)『読売新聞』読売新聞社, 2002)

<依頼の直接構造・二重恩恵>

(8) あ、そしてもう一つ、進藤から原田に頼んでもらいたいことがある。松本の情婦に会つたら、仲間の江川の愛人のいる所をきいてもらう。分つたら、できるだけ速やかな方法で私に通知してくれ。(OB3X_00254 胡桃沢耕史(著)『翔んでる警視正』天山出版, 1988)

<依頼の間接構造>

(9) 「おお、このわしに遠慮など無用じや。容赦なく十分に打ちすえてもらいたい。どう打たれたとて、おぬしを怨みなど決していたさぬ。悪いのは此方。(LBq9_00056 澤田ふじ子(著)『惜別の海』幻冬舎, 2002) <非恩恵的依頼>

3.3 働きかけ性の定義

働きかけ性とは、テモラウのガ格主体が動作主にある種の動作を引き起こすように、直接・間接的に働きかけることであると定義する。「男の子に頼んで、席を作ってもらう」は、直接的な働きかけであるのに対し、「料理を食べて元気を分けてもらう」は、料理を注文することによって相手への働きかけを行っているが、直接的な働きかけではなく、間接的な働きかけの一つとなる。本論の働きかけ性には、言語的な直接依頼と言語・非言語的な間接依頼が含まれる。

働きかけ性のあるテモラウ文には、「ドアを開けてもらう」のような「達成の自己制御性」を持つ動詞によって構成された「達成の自己制御性」を持つ事態の他、「温泉気分を味わつてもらう」のような「過程の自己制御性」を持つ動詞と、「失神してもらう」のような「非達成の自己制御性」を持つ動詞も存在する。いずれもガ格主体に事態を生じさせる契機が存

在し、ガ格主体が文の中心となり、事態実現の目的を持ってニ格の動作主に働きかけるテモラウ文である。したがって、事態を引き起こす点では、依頼型は許容型と受影型に比べて、テモラウ文における使役寄りの用法であると言える。しかし、BCCWJ の考察から、テモラウ文の働きかけ性・使役性・依頼性は同様ではなく、幾つかの下位タイプを取り上げられると考えられる。

3.4 働きかけ性の下位類

BCCWJ を考察し、働きかけ性の下位タイプには次のようなものが存在すると指摘できる。

[1] ガ格の言語的な直接働きかけ(用例 10・11・12)；

[2] ガ格の言語的な状況作り(用例 13)と表情・外部動作といった非言語的な状況作り
(用例 14・15)による間接働きかけ；

[3] ある環境に依存してガ格の自得による事態の成立(用例 16)；

したがって、本論では動詞の自己制御性を問わず、以下の例を働きかけ性の大枠の定義に当てはまるものとして扱う。

<言語的な直接働きかけ>

(10) 今日は左門先生に写真撮影の疑問を色々教えてもらった。(0Y15_00855 Yahoo! ブログ, 2008)

<組織への働きかけ>

(11) 病院で手術して摘出された臓器などは、どのように処分されるのでしょうか？この間手術してもらったので、ちょっと気になっています。特別管理産業廃棄物のうちの感染性産業廃棄物に該当します。(0C09_03343 Yahoo! 知恵袋, 2005)

(12) ところで美容室で髪カットしてもらう時、雑誌とか漫画とか目の前に置かれますよね
(0Y15_05608 Yahoo! ブログ, 2008)

<言語・非言語的な間接働きかけ>

(13) 安くとまちづくりボランティアとしての取り組みの事情を語り込むと印刷屋さんが感動され喜んで予想以上の値段で引き受けもらった。(LBp3_00097 麓宏吉(著)『まちづくりボランティア』ブックハウスジャパン, 2001)

(14) ミミは無理に笑顔を作り、安西にサングリアを足してもらった。(LBo9_00152 佐々木譲(著)『ワシントン封印工作』新潮社, 2000)

(15) 眠ろうとしたとたん男に変身してしまったのだ。隣にいた慎之介が目を丸くしたのは当然である。ケイはあわてて鳩尾を突き、かわいそうだが失神してもらった。(LBi9_00077)

六道慧(著)『キスは殺しの始まり』中央公論社, 1994)

(16) 巡礼は彼のレストランで羊を食べて, 元気も分けてもらう。(LBs2_00049 中谷光月子(著)『サンティアゴ巡礼へ行こう!』彩流社, 2004)

用例(10) (11) (12)は、二格の行為を直接言語的な働きかけを行う<依頼型>である。このうち、用例(11) (12)は言語的な働きかけの一タイプである<組織依頼>であるが、専門行為に携わるサービスの送り手である組織場所格への働きかけのため、個別の動作主に働きかけるのが一般的である<依頼型>より、働きかけ性が弱い。さらに、他動詞文との関連性の存在があり、言語依頼の中の特殊なタイプと見られる。

言語的な働きかけに対し、用例(13) (14) (15)は、ガ格自身の状況を訴えたり説明したり表情を作ったりといった動きを通して、相手に働きかける<状況設定型>であり、非言語的な働きかけが中心である。そのため、本章の言語的な働きかけである依頼型とはかなり異なる働きかけの仕方を取っている。用例(16)は、間接的な働きかけによる事態の達成であり、自得的な特徴を持つ。

3.5 本節のまとめ

以上、区別することによって、言語的な依頼型の下位類に組織依頼が含まれ、二種類に下位分類できる。

<依頼型>の下位類
 { 依頼型
 組織依頼

<依頼型><状況設定型><組織依頼>と<自得型>の一部は、働きかけの仕方が異なるが、事態を生じさせるガ格の意図性が存在する点において共通するため、働きかけ性の下位類として設置できる。

働きかけ性の下位類
 { 依頼型
 状況設定型
 組織依頼
 自得型の一部

以上の理由を以って、言語的に直接働きかける<依頼型>と区別して、その他の三タイプは、第六章に<状況設定型>、第七章に<組織依頼>、第八章に<自得型>として、それぞれ詳細に記述する形を取る。

4. 考察

ここでは、BCCWJ の実例に基づいて、意味・共存する言語形式・語彙といった側面から依頼型の意味用法と特性を考察する。

4.1 考察の対象と目的

本論では、文末形式であるテモラッタ・テモラウ・テモライタイ・テモラオウの四つを中心に、ガ格主体が直接動作主に事態実現を目指す働きかけである[S1 の依頼+S2 の事態実現]のような構造を取るテモラウ文を考察し、山田が提示する依頼の要因を BCCWJ を用いて検証する。それと同時に、<依頼型>の働きかけ性を判定する種々の意味的な要因や共存する言語形式を抽出することが目的である。

4.2 意味レベルの考察

BCCWJ の考察によって、<依頼型>には、ガ格主体 S1 が依頼に当たって、自分側の依頼のきっかけや自分側のある状況を述べることが多いと分かった。それが依頼のきっかけとなって、V-テモラウで表される事態の前に先行している。したがって、<依頼型>の文は、総じて[S1 のきっかけ・状況+S1 の依頼・指示]が中心となる構成である。

4.2.1 依頼の直接構造

<依頼型>では、ガ格主体から動作主に働きかけを行い、動作主はその働きかけを受け、ある種の行為を行う。その行為によって生じた恩恵は、行為と共に再びガ格主体に移動するタイプや、動作主に行き渡らせるだけであって、その行為はガ格主体に返らず、恩恵だけが返ってくるタイプ、ガ格主体と動作主の両者が力関係にあるタイプ、さらに使役文と非常に類似するタイプなど、様々である。<依頼型>といつても、内実は均質的ではないようである。以下は、依頼型の下位類である。

4.2.1.1 動作主の動作と実現可能性に基づく下位類

次は、動作主の動作の異なりによる依頼型の下位類である。中には、動作主の動作によって、テモラウ主体が行う一部を手伝うように要求する<手助け>といった個別依頼や、

主体の代わりに行うように要求する＜代行＞事態や、情報や知識を共有したりする要求などが含まれる。

I. 手助け・代行

次の例は、二格の動作主に対する働きかけが、ガ格主体の手助けや代行行為といった事態と類似している。たとえば、「開ける・連れて行く・手引きする・つなぐ・隠す・席を作る・はかる・世話をする」といった行為の依頼がある。これらの場合はその場にいる誰かへの働きかけが多く、テ節「頼んで」との共起も目立つ。ガ格主体が恩恵の受け手になる。

(17) 混んだ道で、人の波を縫って歩くことができなければ、子どもに頼んで手引きしてもらう。不安が高まってきたら、手をつないでもらう。(PB29_00700 リアン・ホリデー・ウィリー(著)/ニキ・リンコ(訳)『アスペルガー的人生』東京書籍, 2002)

(18) 夫への不満が募ってくると、こうやって幼なじみの律子を誘い出して、愚痴を聞いてもらう。(PB49_00576 横森理香(著)『ワルツ』祥伝社, 2004)

(19) 歩けた！おばあちゃんにもたれかかって、公園につれて行ってもらう。土いじりがしたかった。(OB6X_00091 木藤亜也(著)『1 リットルの涙』幻冬舎, 2005)

II. 教示

働きかけられる行為に対し、二格の動作主はガ格主体より詳しい、または、実力が上である場合の働きかけをいう。個別依頼Ⅰに比べて、より依頼的になると考えられ、特定人物への働きかけが多く、動作主の前に、用例(20)「海を熟知している」のような修飾成分があり、その人が適任であることが示されている。「案内する・証言する・教授する・教える・解説する・俳句の季語を出す・協力する・見る・再現する」といった行為の依頼を観察できた。ガ格主体が恩恵の受け手になる。

(20) 海を熟知している地元漁師に、比較的透明度の高い磯に案内してもらう。(LBb3_00037 遠藤ケイ(著)『雑想小舎便り』中央公論社, 1987)

(21) 社員のうち特に有能なキーマンは役職、給与を上げて社員をまとめるのに協力してもらう。(LBq3_00106 分林靖博(著)『中小企業のためのM&A徹底活用法』PHP研究所, 2002)

(22) (前略)税をとりたてられる。それをいやがった豪族たちは、都にいる貴族(たとえば藤原氏のような)にたのんで、名まえのうえだけ自分の莊園のもちぬしになってもらう。(LBan_00030 岡田章雄(著)『私たちの日本史』偕成社, 1986)

(23) 自社の主張を客観的に行うために、大学教授などの専門家に特許発明について証言してもらう。この専門家人選は、塩野が行うことになっている。(LBi9_00016 小杉健治(著)『特許裁判』実業之日本社, 1994)

(24) わが俳句会のルールを紹介しておこう。まず「季題」、つまり俳句の季語を宗匠に出してもらう。(中略) 今回はとくに、真砂のオヤッさんこと、砂峯さんにお願いした。(LBg9_00001 砂川しげひさ(著)『鼻ちょうちんのメヌエット』世界文化社, 1992)

(25) 前回は、エビを餌にしてのウキ釣りだったが、今回は、名人からカブラ釣りを教授してもらう。(PN31_00020 中国新聞社(著)『中国新聞』朝刊 2003/12/27 中国新聞社, 2003)
依頼型の I と II を比べると、I は、特定の動作主への依頼や動作主の専門性などが落ちるだけではなく、文中における動作主への修飾成分も II より少ないようである。

III. 共有・許可

動作主や相手が持っている情報・物・場所・行為などを、ガ格主体が共に享受するように働きかけるものである。「分ける・取り分ける・泊める・見せる・乗せる・置かせる」といった行為の依頼を指す。許可を求める意味となり、第一人称が主語になる「V-サセテモラウ」類の例が目立つ。ガ格主体が恩恵を直接受けることになる。

(26) マサイ族にとって大切な食料である羊肉を取り分けてもらう。(LBt2_00075 ダニーすがの(著)『僕と長さんは旅に出た。』主婦と生活社, 2005)

(27) 当時は〈別船〉という小さな舟を借りて、島にあがると有志の方の家に泊めてもらう。(PB43_00392 岩見隆夫(著)『政治とオンナ』リベラルタイム出版社, 2004)

(28) 鳴海は樋口に頼んで、八木のFC契約書を見せてもらった。(PB49_00435 南英男(著)『異道』桃園書房, 2004)

(29) 近所のラーメン店や薬局にも頼み込んでコムスンのポスターを張り、パンフレットも置かせてもらった。(LBo3_00036 生井久美子(著)『介護の現場で何が起きているのか』朝日新聞, 2000)

IV. 表出

「表出」¹⁶とは、話し手の意志や希望や願望といった自らの心的な情意を取り立てて、他者への伝達を意図することなく発する、といった発話・伝達的な態度を表したものであると規定している。次の例も表出の一つと考えられる。

¹⁶ 仁田(1991:31)と参照すること。

<願望・呼びかけ>

願望、或いは呼びかけとは、言語的に直接働きかけを行ったとしても、働きかける対象は遠い存在にある、実現しようとする事態が困難である、大勢の動作主の関与が必要となる場合のテモラウの用法である。このタイプは、テモラウで表現している事態の実現は希薄であり、ガ格主体の思いに留まってしまうことが多い、願望・意志表現の「タイ」と「ヨウ」との共起が多いと考えられるが、「テモラウ」で表現することも可能である。

(30) 松井のことは、できるだけ早く戻ってきてもらう。って、言っているけど、いつ? 来週かな。(0Y14_16856Yahoo!ブログ, 2008)

(31) 匠プロジェクトの呼びかけの言葉は情熱的である。「中国へ行ってもらう。中国に住み、中国の工場を世界一にしてもらいたい」(PM11_00044 伊藤隆太郎(著)『A E R A (アエラ)』朝日新聞社, 2001年)

(32) ぜひマツには十月十六日のジャマイカ戦で奮起してもらいましょう。(PM21_00043 実著者不明『週刊サッカーダイジェスト』日本スポーツ企画出版社, 2002)

スチワロードム(2009:64)では、「全ての人間に幸せに生きてもらいたい」ようなタイプを「願望表出的テモラウ文」と名付け、「明日ちょっと手伝ってもらえる?」のような「依頼的テモラウ文」と、「スピード違反は2万円の罰金を支払ってもらうことになっている」のような「指示的テモラウ文」と並列して、意図性の下位類に位置づけているが、依頼・指示・願望は、依頼・受影・許容・自得のような明確な違いが存在するわけではなく、異なりつつ重なる特徴が多い。そして、いずれも事態を引き起こすガ格主体の希望を込めた依頼的な働きかけとなり、何も「願望表出的テモラウ文」に限らず、実際の日常における言語的な依頼でも、簡単に実現できるものではないと考え、本論では、指示も願望も言語的な直接依頼の下位類に位置付ける。

表出的テモラウ文の恩恵は、事態の成立やテモラウの主体と直接関わりを持つことによって極めて間接的になったり直接的になったりする。

依頼 I ~IVは、動作の意味的な異なりであって、依頼という大きな枠組の中で共通している。ガ格主体が依頼しており、ニ格が頼まれる相手となり、ガ格より上の存在にある。

V. 第二人称者への提案

通常のテモラウ文の特徴の一つは、「私は母にケーキを買ってもらった」のように、ガ格が直接恩恵の取得対象になる。それに対し、これから述べるものは、依頼文を使いながら、自分は恩恵の受け手ではないタイプである。

下記の例では、文中の動作主に対し、ガ格主体が直接依頼したのではなく、話し手のガ格主体が、聞き手の「あなた」という第二人称に対する提案を行っている。この場合は、話し手と聞き手が「彼」という動作主への勝手な決め付けや、話し手が聞き手に対するアドバイスをしている。そのため、事態実現に伴う恩恵の取得対象は、第二人称「あなた」になり、ガ格は、恩恵の対象ではなくなるのである。

(33) なに出したくないならばあなたが出しても良いと思う金額を言ってそれ以外は彼持ちにしてもらう。割り勘を主張されたら断ればいい事です。(OC09_06239Yahoo!知恵袋, 2005)

(34) 両親にあなたの目標のことを話し、応援してもらう。(PB21_00156 ショーン・コヴィー(著) / 訳者不明『7つの習慣ティーンズ』キングペア出版, 2002)

(35) 『今年は生まれて来る赤ちゃんが、あなたへの誕生日プレゼントよ』と言って、品物でのプレゼントはあきらめてもらう。(OC10_02258Yahoo!知恵袋, 2005)

提案の働きかけの構造は、後述する＜依頼の間接構造＞と類似する。

VI. 環境作り

テモラウ文において、二格に当たる動作主が疑問詞の場合がある。文の構造は、「だれかひとりに～V-テモラウ」「だれでもよい、～V-テモラウ」となっている。このようなテモラウ文は、直接誰かに依頼するというより、動作主に働きかけやすい環境、或いは、動作主が行動しやすい環境を準備することを優先するタイプである。

(36) 関係者全員に罰を下せないときには、“くじ引き”でだれかひとりに責任をとつてもらう。失敗をそのままにしないことがポイントである。(PB13_00641 内藤誼人(著)『勝つための「心理戦略」』光文社, 2001)

(37) 「ことばの発音」の発音 最初のテクストとして、私は万葉集中の短歌をとり上げることが多い。たとえば、と黒板に書く。よく知られた持統天皇の歌である。まず、だれでもよい、読み上げてもらう。(LBe7_00008 竹内敏晴(著)『「からだ」と「ことば」のレッスン』講談社, 1990)

4.2.1.2 力関係に基づく下位類

依頼のI～IVに対して、次の<意向><指示><命令>は、ガ格主体と動作主との力関係や動作主の立場に基づく分類である。いずれもガ格対ニ格の指図であり、程度の差によって三つに分類する。

VII. 意向

働きかけは、テモラウ主体の意志的なものである。そのため、働きかけ性があるテモラウ文は意向を示すことになる。ここでの<意向>は、指示より強制度が弱く、事態の成立は、動作主が承認する必要があったり、動作主にガ格が設定した方向へ進めたりすることである。<意向1>と<意向2>に分ける。

<意向1>→取締役になる

<意向1>は、ガ格主体が動作主より上位にあり、ある意向を承認するように動作主に働きかける。たとえば、「取締役になつてもらう・入社してもらう」のような擢用の場合のように、動作主にとってプラスの働きかけが多く、事態の成立は、ガ格主体より動作主への恩恵が大きいと言える。ガ格主体は状況によって、恩恵が間接的に受けたり、直接的に受けたりする。

(38) 社長から突然電話が入った。朝一番である。「取締役になつてもらう。了解するか」

という内容だった。「喜んで…」と言いかけて、とっさに「折り返し」と答えた。すぐ、支店の幹部を支店長室に集めて相談した。(LBk1_00045 金平敬之助(著)『それでいいんだよ』

PHP研究所, 1996)

意向のタイプは、後の命令のタイプに比べて、依頼の表現において、相手の行為を強制せずに押し付けがましくないという意味で、相手のネガティブ・フェイスを保っている。

<意向2>→議論する

<意向2>は、ガ格主体が設定した方向に動作主を導くように働きかけることである。たとえば、「沿つて→話す・議論する・備えて→足を休める・配つて→種を育てる」といった事態の成立を要求し、動作主にとっても意味のあることが挙げられる。事態実現の準備段階を示す継起的テ節との共起が多く、場合によっては、ガ格主体が上位にあるイメージか、恩恵が間接的になったりすることもある。

(39) いつもの2次会3次会の雰囲気です司会の山田先生のお題に沿つてみなさんでお話

してもらう。 (OY14_44048 Yahoo!ブログ, 2008)

VIII. 指示

<指示>→一般的な指示

<指示>は、一般的な仕事上の指示、規則に基づく指示を指す。指示ができるということは、テモラウ主体が動作主より上位の立場にあると言える。たとえば、「やる・来る・行く・異動する・走り回る・戦う・黙読する」といった行為の指示である。用例(40)は、「欲望という切り口で」という形で厳選して欲しいと依頼、厳選時の仕方について、具体的な指示を出している。これは「ゆっくり走ってもらった」と類似するものである。用例(41)は、実験のルールを明示している。用例(42)のガ格主体は、試験の監督官であれば、指示とも命令とも取れる。そして、「しなさい」と言い換えられる。用例(43)の「異動してもらう」は、相手の意志に関係なく、強制的に事態を成立させることができる。四つの例を通して、指示と命令は程度の差の問題であると言える。

(40) コンシューマー向けの全機種から、本誌強力執筆陣に「この夏のオススメ」デジカメを、欲望という切り口で厳選してもらった。自分だけのお気に入りの1台を、これを読んで見つけ出してほしい。(PM21_01011 大谷和利(著)『デジタルカメラマガジン』インプレス, 2002)

(41) 被験者の一人が、初対面の二人と、別々に会って話をした。そして、話し相手となる二人のうちの一人には、しばらく話した後、相手のしぐさを適度に真似ながら話を続けるように指示し、もう一人には、相手の真似をしないで話を続けてもらった。

(PB43_00680 実著者不明『どんな人にも好かれる魔法の心理作戦』PHP研究所, 2004)

(42) 被験者には、まず長文で3分。短いもので1分間、黙読してもらう。(PM21_00596 分担不明『ダカーポ』マガジンハウス, 2002)

(43) これから今日一日中、二係の諸君には、東京中を走り回ってもらう。(OB3X_00105 胡桃沢耕史(著)『新・翔んでる警視』広済堂出版, 1987)

(44) 異動は増田だ。来年の一月に異動してもらう。理由は、まあいいだろ。また後で話す。今日はお前が異動ではない。(PB49_00363 青木和尊(著)『僕が退職願を出すまで』新風舎, 2004)

IX. 命令

<命令>とは、上から命ずることが可能な場合である。<指示>に比べて、動作主に対して強硬で威圧的・脅迫的な言語表現「否も応もない」、禁止表現「それ以外やるな！」、命令表現「おとなしくしてろ・従う」、動作主を罵る言語表現「貴様」を伴うことが多い。

また、動作主の意向を考慮しない働きかけのタイプであり、動作主にとって望ましくない依頼が多い。

(45) 「余り食欲がないもので…」それに対し—「居残りは許可できない」小野海士長が、冷たく言い返した。「班員は、常に連帯して、集団行動をとつてもらう。食事をしたくなれば、しなくとも構わないが、食堂まではついてくるように。いいな！」否も応もない。(LBm9_00112 川又千秋(著)『極東愚連艦隊』1998)

(46) コピー取りとファックス流しをやってもらう。それ以外やるな！(LBm9_00093 丹後 達臣(著)『踊る大捜査線スペシャル』フジテレビ出版;扶桑社(発売), 1998)

(47) (略)その状況が変わるまでは、ぼくの目の届くところにいてもらう。だから、おとなしくしてろ。(PB49_00043 カレン・ロバーズ(著)/ 高田恵子(訳)『月明かりのキリング・フィールド』ソニー・マガジンズ, 2004)

(48) 「駄目だなんて言わせない。僕が決めたんだから、僕に従つてもらう。もし、従わないなんて言ったら…」(PB59_00177 宮川ゆうこ(著)『執事は夜に嘘をつく！』リーフ出版;星雲社(発売), 2005)

(49) いや、貴様は我々の部下になつてもらう。(0Y15_11306 Yahoo!ブログ, 2008)

(50) 「ふん、毒か。そうはいかんぞ。貴様には洗いざらい話してもらう。死ぬのは話しあえてからにしてもらおう」(LBq9_00225 舞阪洸(著)『神洲天魔鏡』富士見書房, 2002)

(51) これから、四谷署に行って、今、ここで話したことを余さずしゃべつてもらう。刑事の取調べはきっと、ぼくらほど甘くないから、せいぜい覚悟しておくんだな。(LBj9_00164 法月綸太郎(著)『ふたたび赤い悪夢』講談社, 1995)

上記のように、<意向><指示><命令>はガ格主体が動作主より上の立場にあるように見受けられる。<指示>は<意向>と違って、動作主の思惑どおりにいかない働きかけであっても、拒否することはできないのである。さらに、上記の一般的な指示を<指示1>とし、次の権限を持つ組織による<指示2>は上記の<指示1>よりさらに強制的である。

4.2.1.3 専門職以外の組織依頼

テモラウの働きかけは、様々なタイプが存在する。たとえば、個人対個人、個人対組織、組織対個人といった働きかけがある。個人対組織、組織対個人の働きかけは、病院、裁判

所といった組織へのものや、或いはその逆もある。組織依頼の場合は、組織の行為は仕事の一つである。組織の場合、動作主の異なりによって、テモラウ文の意味も関連する構文も変わってくる。個人対組織・組織対個人の働きかけは、以下のタイプがある。

(a)老人ホームのようなサービス的な組織と個人の間の遣り取り

(a)-1<組織依頼 I (サービス性)→組織対個人>

(a)-2<組織依頼 II (サービス性)→個人対組織>

(b)裁判所などのような権力を握る組織に(が)「免責してもらう」と「指紋を押してもらう」行為への働きかけ／被働きかけ

(b)-1<組織依頼 III (権限)→個人対組織(免責してもらう)>

(b)-2<組織依頼 IV (権限)→組織対個人(指紋を押してもらう)>

(c)病院などの専門行為を担う組織に「手術してもらう」行為への働きかけは<組織依頼 1(専門職→ex, 手術する)>とする。

(c)は、他動詞文と関連するため、第七章で詳細に記述する。ここでは、主に、(a)サービス的な組織と、(b)権限を持つ組織と個人との間で行う働きかけに触れる。

(a)-1<組織依頼 I (サービス性)→組織対個人>の場合、サービスを提供する組織が依頼側であり、サービスを維持するには工夫が施されている。文脈にはタメ節との共起がある。

(52) より専門的なケアが必要になったら親施設が手助けする二段階方式で、高齢者が地域に住みながら介護を受けられる拠点づくりを目指す。予防の福祉 滋賀県守山市の社会福祉法人慈恵会「ゆいの里」も、四年前から出張デイサービスに取り組んでいる。「ゆい=相互扶助」の精神を現代に生かすため、集まりやすい公民館などで食事やレクリエーションをして過ごしてもらう。(LBm3_00041 実著者不明『どうなる老後介護保険を考える』ミネルヴァ書房、1998)

(a)-2<組織依頼 II (サービス性)→個人対組織>(a)の場合は介護施設で、食事を作ってもらうというのは契約の中に含まれているので、入居の最初に働きかけるものである。特に契約の後で働きかける必要はない。

(53) すでに述べたように三人の入居者は三食をスタッフにこしらえてもらう。だからといって三人がおなじメニューではない。(PB13_00262 加藤仁(著)『介護を創る人びと』中央法規出版、2001)

(b)-1<組織依頼III(権限)→個人対組織(免責してもらう)>の場合は、主に、ある種の権限を持つ組織や人間に対する働きかけである。以下は、その実例である。

(54) 裁判所に申し立て, 裁判所の監督下で自分の財産を処分し, 債務を免責してもらう。

(55) 3年前に浮気をして、そのことを妻は知っています。家庭裁判所で判断してもらう。

(OC08_00769Yahoo!知恵袋, 2005)

(56) 校長に頼んで, 『2人組を作れ』という無責任な指導をやめてもらう。(OC10_04048Yahoo!

知恵袋, 2005)

(57) 議員事務所に対してアクションを求めるときには, なるべく大勢で要請書をももつていくという方法もある。できるだけ具体的な要望を項目にまとめ, 秘書に耳を傾けてもらう。また, 三回のうち二回は無駄足になること覚悟して, 足しげく通ってみるという情熱や行動力もときには必要だろう。議員や秘書らに不快感を与えていい keineことは言うまでもない。(LBr3_00071 保坂展人(著)『次世代政治家活用法』リヨン社;二見書房(発売), 2003)

(58) たとえば, 旦那さんに源泉徴収票や給与明細書の提出を求めて, また, 奥さんには一ヶ月の生活費の実績を出してきてもらう。それから, 奥さんに回せる金額のマキシマムを把握するのである。(PB33_00527 山口宏(著)『離婚の作法』PHP研究所, 2003)

ある種の組織へ行って、固定された手続きを行い、申請して許可を求める。組織より個人は下の立場にある存在であり、場合によっては、事情説明に努める必要があり、依頼の仕方が異なる。「申し立てて→免責をする・(目上に頼んで)→やめる・(議員に)耳を傾ける・人に～をV-テモラウ」といった言語形式が現れる。なお、「耳を傾けてもらう」は「聞いてもらう」より、相手を説得して相手に納得させる意味合いが強いと考えられる。

(b)-2<組織依頼IV(権限)→組織対個人(指紋を押してもらう)>の場合は、権限を持つ組織がガ格主体である。したがって、<指示2>に当たると言ってもよい。ガ格がニ格より上に立つ存在である。この働きかけのタイプは、ある規定が全員を対象にして定められており、それに違反することはできない。「規定どおり返還する・指紋を押す・出廷する・保険料を払う・に指定～V-テモラウ」といった言語表現となり、働きかけ方は、ほかのタイプとはかなり異なる。

(59) この規定に反した退職者（1人）からは、規定どおり返還してもらった。 (PB53_00491)

河原英正(著)『労使トラブル予防策』牧歌舎;星雲社(発売) 2005)

(60) 出入りは必ず職員室に顔を出してもらう。(LBp0_00013 三上雅夫(著)/山上優(著)/河本利廣(著)/

瀬川成躬(著)/田代紗恵子(著)/田辺憲治(著)/鈴木正憲(著)/長谷川清之(著)『ボランティアパワー』図書館

流通センター, 2001)

(61) 移民につきましては必ず指紋を押してもらう。日本で申せば永住者でございますが、

これについては必ず指紋を押してもらう。(OM35_00003『国会会議録』, 1987)

(62) 今機械化が進んでおるのであるのですからね、年金手帳というものを大事にするという習慣を

つけさせればいいのです。そうすると、どこへ勤めようと、その年金手帳を大事にして、経営者に話をして、保険料を経営者にも払ってもらう。(OM21_00002 多賀谷委員『国会

会議録』第102回国会, 1984)

(63) 女の人二人には次の裁判には、検事側の証人として出廷してもらう。(OB3X_00254 胡桃沢

耕史(著)『翔んでる警視正』天山出版, 1988)

(64) 高卒者の就職後三年以内の離職率は五割弱で推移している現状に関しては、「実際の

就職とイメージとのギャップがある」との見方を示す。そのため県教委は、今月中に

も県立高三校を「就職指導推進重点校」に指定。入学から卒業までの一貫した職業教

育プランを作成、実践してもらう。(PN41_00010 中国新聞社(著)『中国新聞』中国新聞社, 2004)

(65) 日本も共済なら共済、厚生年金なら厚生年金。国民年金なら国庫で半分を負担し、上

限なしの定率にしてしまえばいいと思います。何千万円も所得がある人は高額の保険

料を払ってもらう。(PB43_00437 伊藤周平(著)『障害者介護のあり方を問う』本の泉社, 2004)

「何千万円も所得がある人（に）は高額の保険料を払ってもらう」の例は、年金事務所は何千万円も所得がある人に頼むことになる。頼む相手も頼まれる相手も明確である。

4.2.1.4 サセテモラウの分類——依頼・中間・自得・謙遜・宣言

山田(2004:137-152)では、サセテモラウに関する詳細な考察が行われているが、本節の自得と宣言の意味についてあまり言及していない。そして、サセテモラウの意味用法の分類観点は、有情物・無情物という対象の性質の区別に加えて、事態の成立に当たる働きかけ対象の必要性という主語の意図の有無における違いも存在する。以下、考察し、意味用

法の違いを具体的に示す。

サセテモラウの特徴は、「使役+テモラウ」という特殊な言語形式で、通常の<依頼型>テモラウ文と働きかけの構造が違い、動作主は、第一人称も来ないわけではないが、第一人称「私・私たち・我々」である場合や主語として省略される場合が多い。

サセテモラウは、相手に対して自分を遙る意として、<依頼・謙遜>と<受影・謙遜>の用法が多い。本論は、その働きかけ性を、V-サセテモラウ事態の成立に相手の認めが必要となるかどうかによって、<依頼・謙遜><(間接)受影・謙遜><中間・謙遜><謙遜><宣言>に分ける。

次の例の前件のテ節「訪ねて」と「行って」は、同じ意志性を持つ行為であるが、相手へ働きかけるために居場所へ赴くのは、テモラウ事態が成立する必須条件である相手に働きかける目的があるからである。したがって、「訪ね(て)V-サセテモラウ」は、依頼性があると言える。

I. <依頼・謙遜>

<有情物の働きかけ相手の居場所+訪ねて……V-テモラウで表される事態>

(66) 私たちのチームは父親が手伝いをしていたという寺院を訪ね、儀式のもようを撮影させてもらった。火にあぶられたココナツが、少女が説明したとおりの仰々しい作法でうち割られていく。(LBh1_00017 ジェフリー・アイバーソン(著)/片山陽子(訳)『死後の生』日本放送出版協会, 1993)

(67) 神奈川県座間の長姉を訪ね、姉から兄の住所を聞き、兄を訪ねて、しばらく寄食させてもらった。次の年、私は、財団法人日本映画教育協会という法人に就職し、機関誌編集の助手になった。(PB29_00625 古山高麗雄(著)『妻の部屋』文藝春秋, 2002)

II. <中間・謙遜>

<物を置く場所+行って……V-テモラウで表される事態>

(68) 移動する中で、食事時になると、都内各所にある、応援拠点みたいなところに行って、おにぎりなどを食べさせてもらった。(0Y14_42080Yahoo!ブログ, 2008)

それに対し、「行ってVサセテモラウ」は、「食品の応援拠点に行く」のであって、目的は対象物である。その裏に有情物が存在しても、V-サセテモラウで表される事態の成立に当たって、働きかけ対象として必須条件にはならないが、やはり事態の成立は使役主体が整えた環境の下であったため、働きかけ性が弱くなる。そして、そこへ行って自動的に希

望の事態が成立するので、依頼と受影の中間にあり、<中間・謙遜>と示す。ただ、「富士山から学ばせてもらった」のように無情物が対象とするタイプは、間接受影的である。これについて、<自得型>の章で詳しく述べる。

III. <自得(間接受影)・謙遜>

<無情物相手>

(69) 新幹線から見る富士山、富士急ハイランドから見る富士山、富士五湖、の河口湖、山中湖、西湖、精進湖、本栖湖のどの湖からも見え方は違う。富士山から学ばせてもらつた。 (0Y14_41527Yahoo!ブログ, 2008)

次の「注意しながら」といった働きかけ性を持たない付帯状況の場合、V-テモラウで表される事態の成立に前件も後件もガ格自身の意志を示す行為になり、対象となる有情物も無情物も存在しない。事態の成立にガ格の意図が表れているが、働きかけがなく、ただの<謙遜>表現と見られる。

IV. <謙遜>

<注意しながら……V-テモラウで表される事態>

(70) 夕食の準備が始まると、明子さんの迷惑にならないように注意しながら、僕は台所に陣取らせてもらった。 (PB25_00287 菊池仁志(著)『40人の旨い！ダッチ・オーヴン』プレジデント社, 2002)

以上の分析から、次の「頼んで～Vサセテモラッタ」といった形式のように、継起的テ節「頼んで」「申し出て」「進言して」「思って」「訪ねて」との共起も、対象である有情物に対する働きかけであるため、依頼であると判断できる。

<依頼・謙遜>

(71) 「干拓と埋めたてのちがい」を教材にして、研究授業をしたくなった。自ら申し出て授業をさせてもらった。 (PB23_00126 有田和正(著)『学習技能の基礎・基本教え方大事典』明治図書出版, 2002)

(72) そのうち或る都合から由井氏とは同寓する事をやめて、私は藤野翁の宅へ頼んで同居させてもらった。 (LBq9_00217 内藤鳴雪(著)『鳴雪自叙伝』岩波書店, 2002)

(73) 妻も別々になってしまったけど、運良く唯一のテーブルが空いたので、店主に進言してそっちに移させてもらった。 (0Y14_16703Yahoo!ブログ, 2008)

(74) 「正式な発表は週明けだが、いきなりではショックも大きいだろうと思つて、先に報告させてもらった。君はまだ若い。今までの経験を活かせる仕事もきっと見つかるさ。

(PB59_00144 英田サキ(著)『今宵、天使と杯を』成美堂出版, 2005)

(75) 二千三年三月、すてきなイベントが開催されると聞いて、参加させてもらった。

(PB36_00128 塩見直紀(著)『半農半Xという生き方』ソニー・マガジンズ, 2003)

ただし、原因を示すテ節「聞いて」「旅して」との共起は、V-サセテモラウで表される事態の成立のきっかけとなっている。この場合、その事態の成立に当たって、有情物相手の承認が必要となるかどうかで、働きかけ性が異なる。たとえば、例が示すように、用例(75)「聞いて……V-テモラウで表される事態」の成立と、用例(76)「旅して……V-テモラウで表される事態」の成立を比較すると、前者が曖昧であるのに対して、後者の用例(76)「旅して」との共起は、<謙遜>の意味のみ持っていると判断できる。よって、その次の「匂を刺身で味わわせてもらった」「記念にハンドバックを買わせてもらった」も同様に、事態が成立するきっかけは有情物への働きかけが必要でないため、話し手が自身の行為を謙虚に表現していると判断できる。

その他の<謙遜>のタイプ

(76) ポルトガル語化した日本語も数が多いようだ。また共通語は三百語に近いと述べ、パン、てんぷら、カステラ、ピーマン、ボタン、カルタ、ブランコ（バランス）などを例示している。たまたま千九百九十六年末ポルトガルに旅して、言語のことが強く印象に残ったので付記させてもらう。(PB34_00193 奥村正二(著)『平賀源内を歩く』岩波書店, 2003)

(77) 予想どおり今日の水揚げも例年以上のものがあったようだ。早速匂を刺身で味わわせてもらった。ご馳走様でした。(0Y11_08512Yahoo!ブログ, 2008)

(78) 閉店セールの際に私は思わず松田社長を前に“さみしい”と涙してしまった。記念にハンドバックを買わせてもらった。残念でならない」と語る。銀座を代表する創業二百十三年を誇る老舗が姿を消し、(略)(PB56_00067 丸木伊参(著)『銀座マーケティング』ダイヤモンド社, 2005)

(79) その舞台となる地球のなぞが知りたくて、手あたり次第に本を借りていた。天体望遠鏡のぞかせてもらった。私が住んでいる市では、大人も子どもも、一人一回十冊まで本を貸してくれる。(LBi9_00061 森崎和江(著)『いのちの素顔』岩波書店, 1994)

上記以外、相手に働きかけるかどうかということより、相手の許可とは無関係に己の意志を通す印象が強く表れるサセテモラウの働きかけの特徴を示す意味用法があり、本論では<宣言>と仮称する。働きかけ性が有と無の両方とも考えられるが、対象となる有情物が存在する場合は、働きかけ性があると判断し、その逆は働きかけ性が間接的になるか、

或いは無とも判断できるが、状況によって異なってくる。以下はその実例に当たる。

V. <宣言・非謙遜>

これから挙げるサセテモラウの例は、タ形ではなく、ル形で表され、「悪いけど・つべこべ・面倒くさい+V-サセテモラウ」といったように、自分の意志を貫く言語表現や消極的な言語表現と共に起し、V-サセテモラウ事態を貫くことと、主語の態度を宣言することに用いられる。中には、<間接働きかけ><直接働きかけ><非働きかけ>がある。

<間接働きかけ>

(80) 社長が人事の権限を一人で握っているようなワンマン企業では、とくにこの“可能性人事”が多い。そこで私たちサラリーマンは、遠慮なくその逆手を使わせてもらう。

(LB11_00030 山田智彦(著)『30歳までに何をするか』廣済堂出版, 1997)

(81) (略) ガキの頃から夢に見たことを片っ端からやってみろ。俺アただ、高みの見物をさせてもらう。(LBm9_00226 浅田次郎(著)『きんぴか』光文社, 1998)

<直接働きかけ>

(82) 十月二十二日、「姉」の緒方純子が、二人の子を連れて訪れると、そのまま居ついでしまい、あっけにとられていると松永が説明した。「嫁ぎ先の姑が急死して、相続をめぐるトラブルが生じ、そちらの家にいられなくなった。悪いけど、しばらく同居させてもらう」こうして彼女は、四畳半の和室へ追いやられ、次女と寝起きすることになった。(PB53_00299 佐木隆三(著)社会科学『なぜ家族は殺し合ったのか』青春出版社, 2005)

(83) (略) 人生もこれまでどおりうまくいくことを願って、パパはもうすこしだけつべこべいわせてもらう。(LBm7_00069 キャサリン・ヘプバーン(著)/芝山幹郎(訳)『Me キャサリン・ヘプバーン自伝』文藝春秋, 1998)

<非働きかけ>

(84) 面倒くさいから割愛させてもらう。(0Y14_22980 Yahoo!ブログ, 2008)

以上、サセテモラウ(ッタ)の意味機能を次表にまとめた。

表4 サセテモラウの分類

根拠 分類	働きかけ対象の 性質と必要性	働きかけ性	共存する言語表現の特徴 ・ V-サセテモラッタ(ウ)事態の特徴
依頼・謙遜	有情物対象行為	有	対象への働きかけを示すテ節との共起(有)ex, 頼んで・訪ねて *主語の実際の行為
(間接)受 影・謙遜	無情物対象	無	「見る・見て」の前接 ・主語の実際の行為がなく、体験による自得。
中間・謙遜	有情物存在の無情物対象 行為	有・弱い	対象への働きかけを示すテ節との共起(無)ex, 行って *同上
謙遜	非有情物対象行為 非有情物存在の無情物対象行為	無	注意しながらV-サセテモラッタ・旅してV-サセテモラッタ *同上 ex, 早速匂を刺身で味わわせてもらった
宣言	有情物	有(直接・間接)・無	サセテモラウール形 意志を貫く言語表現: ex, 悪いけど・つべこべ 消極的な言語表現: ex, 面倒くさい ・主語の態度の宣言と意志を貫くこと ex, 遠慮なくその逆手を使わせてもらう 高みの見物をさせてもらう

4.2.2 依頼の間接構造

ここでは間接依頼と共に恩恵も考えたい。用例(8)の働きかける方向は、省略された主語ガ格の私(S1)が聞き手(B1)に指示し、聞き手が進藤(B2)を通して原田(S2)に頼むとなっている。原田(S2)がさらに松本の情婦(C)に働きかけをし、聞く事態の依頼行為を達成していくのである。「聞く」の動作主は、S2の「原田」である。私が、S2へ直接指示したのではなく、間にBを介して指示行為を達成させるのである。

(再掲8)あ、そしてもう一つ、進藤から原田に頼んでもらいたいことがある。松本の情婦に会ったら、仲間の江川の愛人のいる所をきいてもらう。分ったら、できるだけ速やかな方法で私に通知してくれ。(OB3X_00254 胡桃沢耕史(著)『翔んでる警視正』天山出版, 1988)

用例に基づく働きかけの方向を図5に図式する。

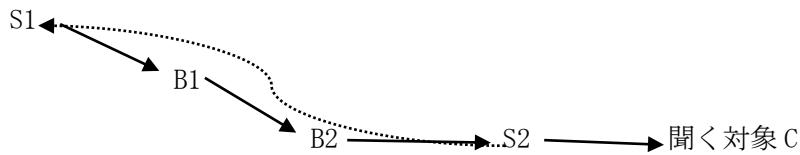


図5 依頼の間接構造の働きかけと恩恵図(→は働きかけの方向; ←…は恩恵の方向)

働きかけに対する恩恵の方向は逆である。Bが中間役に勤め、S1に間接的に恩恵を与える。S1は、この文の最終的な恩恵の受け手であり、BとS2の両方から恩恵を受けている。このような働きかけの構造を<依頼の間接構造>とし、使役主体は常に存在する。

(85) わたしに向かって。聖像画は、農婦に託して街で金銭と交換してもらう前に、教会で淨めてもらう。(PB59_00264 皆川博子(著)『冬の旅人』講談社, 2005)

用例(85)の文末「淨める」を中心に考えると、「私→農婦→教会(淨めるの動作主)」という働きかける順位になり、<依頼の間接構造>になるが、文中の「交換してもらう」も含めて考えると、農婦は「交換する」の動作主であり、「淨めてもらう」の依頼者でもある。「私」は、農婦の「交換する」という行為の直接依頼者でありながら、「教会で淨める」間接依頼にもなる。動作主は「教会で」という場所格で示され、動作主は教会に属する人間と理解できる。次の例も、「調理する」「書く」動作主に直接指示を出したのではなく、生徒を介して間接働きかけを行っている。

(86) トマトやナスは学校ですぐに食べたり、家庭に持ち帰らせて調理してもらう。こうして生徒に自己実現の喜びを体得させる。(LBk3_00104 土屋英男(著)『学校園の栽培便利帳』農山漁村文化協会, 1996)

(87) 夏休みには、生徒を順番に1回だけサツマイモ畑の管理に登校させる。マルチング栽培なので水やりは不要で生徒はおもに草取りをし、観察記録を書いて日直の先生に判をもらって帰る。鉢は家庭に持ち帰り、管理と観察記録をさせる。収穫物は、どのように食べたか記録させ、親に意見を書いてもらう。これは夏休みの宿題である。

(LBk3_00104 土屋英男(著)『学校園の栽培便利帳』農山漁村文化協会, 1996)

(88) 院させてもらえたことになった。B病院に伝えたところ、「C病院にベッドを無理に空けてもらった。一日でも行ってもらわないと困る」と、A病院には勝手に断りを入れられた。(PN1c_00023 読売新聞東京本社(著)『読売新聞』朝刊, 読売新聞社, 2001)

用例(88)は、B病院に伝えたというところまではガ格自身の行為であるが、C病院に入れてくれるよう依頼はしていない。これは働きかけにおいて、最初の使役主体ガ格にとって間接性が高く、言語的な状況設定と間接依頼に揺れ動くタイプである。

4.2.3 受益格

直接依頼には、ガ格主体が働きかけ手であると同時に恩恵の受け手でもあるタイプと、次の例のように「配送員」「おまえ」「少年」という受益格が現れるタイプが存在する。このような場合は、用例(7)の「Aさん」、用例(89)の「俺」と用例(90)の「彼」は恩恵を間接的に受ける。

(再掲7) A子さんのマンションはオートロックだが、管理人に頼んでおいて、配送員のために開けてもらう。 (PN2c_00020 読売新聞東京本社(著)『読売新聞』読売新聞社, 2002)

(89) 俺が頼んでおまえの治療をしてもらった。 俺が止めろといえば止められる。

(LB19_00093 篠田真由美(著)『ドラキュラ公』講談社, 1997)

(90) 社員も、大人で間に合わなくなると、彼は桐生の妹に頼んで少年を送り届けてもらつた。 (LBf7_00002 早瀬利之(著)『タイガー・モリと呼ばれた男』スキージャーナル, 1991)

4.2.4 非恩恵的依頼

<非恩恵的依頼>とは、ガ格主体は二格の動作主に対し、自分には不利な事態ないし恩恵にはならない事態を生じるように働きかけを行うものである。

(91) (前略) 「それはかたじけない。されどわしに手加減は無用じや。存分に叩いてもらいたい。 ただし一つ、お願ひいたしたい仕儀がござる」牢人は背中の旅囊の結び目をとき、小袖(後略) (LBq9_00056 澤田ふじ子(著)『惜別の海』上幻冬舎, 2002)

(92) 「おお、このわしに遠慮など無用じや。容赦なく十分に打ちすえてもらいたい。 どう打たれたとて、おぬしを怨みなど決していたさぬ。悪いのは此方。(後略)」 (LBq9_00056 澤田ふじ子(著)『惜別の海』上幻冬舎, 2002)

(93) (前略) 「ランカを護る」という指令の尊守を以って他の17歳の指令を跳ね除けて、
裏切ってもらいたい。 (0Y15_06882Yahoo!ブログ, 2008)

以上、本論は<依頼型>の意味レベルの考察を通して、依頼の中でさらに動作主が行う動作や様々な状況によって下位分類した。依頼・宣言・非恩恵など、様々なタイプの存在を明らかにし、その違いを指摘した。

4.3 共存する言語形式の考察

本論の統計は、いずれも客觀性の高いテモラッタを対象にしており、テモラッタの<依頼型>において、ガ格が第三者を経由せずに、直接動作主に働きかける<依頼の直接構造>が、558¹⁷例あり、第三者を経由して動作主に働きかける<依頼の間接構造>は、9例が存在する。<依頼の直接構造>でも<依頼の間接構造>でも、ガ格の働きかけを引き起こす要因は様々であり、それを述べる際に、複文と單文形式で表されている。複文形式は、節のタイプによって[1][2]に分けられる。單文形式は、修飾節が特徴的である。

[1]ガ格の意志を示す様々な継起的テ節との共起；

[2]原因節、タメ節、条件節などの共起；

4.3.1 複文形式

本論は、継起的テ節に組み込まれている<同一主語+前件意志動詞>の複文形式におけるテモラウ文を二分類する。A類は、言語型で、B類は、非言語型である。

<同一主語+前件意志動詞> $\left\{ \begin{array}{l} [1] \text{A類—言語型テ節：頼んで・連絡して} \\ [2] \text{B類—非言語型テ節：行って、起きて} \end{array} \right.$

A類とB類の考察結果を表5と表6に示す。

表5 複文形式—ガ格の働きかけの意志を示す継起的テ節の概観

事態数			総数	達成	過程	非達成	
テモラッタ (825/567)	類	A	実数	115	101	14	0
		割合(%)	20.4	17.8	2.6	0	
		B	実数	87	82	5	0
		割合(%)	15.1	14.5	0.7	0	

表5では、テモラッタにおいて、A類には116例が検出され、B類には86例が検出された。言語的なテ節は、依頼型の2割を占め、非言語的なテ節は、依頼型の1割強を占めている。継起的テ節と動詞の自己制御性の対応は、表6に示す。

¹⁷ この節の統計は、凡その把握として統計した数である。

表6 複文形式—ガ格の働きかけの意志を示す継起的テ節と動詞の自己制御性の対応

事態の種類		達成	過程	非達成	合計
従属節	働きかけタイプ				
S1V テ + S2V テモ ラッタ	A 類-(1)頼んで／(2)連絡して／(3)説得して／(4)事情を話して				
	頼んで(38), 頼み込んだ(1), 頼みごとがあつて(1), 依頼し(て)(4), 再三 せがんで, 協力してもらい, 願い出て	53	3	0	56
	連絡し(て)(4), 呼んで(2), 電話して(4), 注文して(1)=頼み(1)	17	1	0	18
	説得して(5), 話して(4), 旨を告げ(1), 呼び止めて, 指示し, 言って(2), 要請, 訴え, とめ, 伝え, 言葉にして	19	0	0	19
	(事情を)を話して(4), 事情を語り込むと(1), (事情を)説明して(3), わ けを話し(て/2), 相談して(4), 報告し(1), 誓約を入れて(1), 約して(1), 詫びを入れて(1), 説き伏せて(2), 交渉して(3)	12	10	0	22
	B 類-(1)行って／(2)買って／(3)用意して／(4)思って				
	行く類(13), 訪ねる類(9), 寄る類(7), 連れて行く類(4), 足を運び, 着 いた N(1), 通院して(1), 持参し(1), 移り(1), 戻り(1)	30	0	0	30
	買って(4), 会い, お会いして, やってきた, 起きて, 時間を見つけて, 設 けず, 直撃取材, 開き, 開いた, 集めて, 起こして(2), 書いて, 願い出て, 選び出し, 接触し, 押しこみ, 借りだして, 改装して, にして, もつてい って, 借りて, をしてから, 掛けている, 見つけて, 手を借りて	30	2	0	32
	用意して(2), 四百円を同封して, わづかのお金で, 小遣をやって, 提供し て, 大枚四百円をはたいて, 条件付きで, あげその代り, 有料で, 我々の 負担で	11	3	0	14
	思った(2), 思っていた(2), 思いついた, 思いたって, 思い, 思って, 考 えて(2), ～こそと(思い)	11	0	0	11
C 類-(1)S2 の行 為+ガ格の依頼	来てもらい, 連れてきて, 来て, 集めてもらい, てもらうことにし, 買い 付けてもらって, 打ち込んでもらい, 同行してもらい	9	0	0	9
C 類-(2)S1・S2 の相互行為	V たあげく, 乗り合わせ	2	0	0	2

「A類-(4)事情を話して」のタイプのような、「過程の自己制御性」を持つ動詞が現れ、働きかけが間接的なタイプの具体的な分析は、第6章で行う。以下、それぞれ具体的に考察していく。その他、C類-(1)S2の行為+ガ格の依頼とC類-(2)S1・S2の相互行為がある。

4.3.1.1 言語型テ節

この節では、言語を用いて依頼する際の様々な言語表現を挙げていく。

I. A類-(1)働きかけの典型……「頼んで・依頼して」の類

「頼んで、依頼して」は、言語的な依頼の中で最も典型的なタイプであり、数も比較的多く見られる。「頼んで(に頼んで・を頼んで・と頼んで)・頼み込んで・頼みごとがあつて・依頼(して)・お願いして・再三おがんば・協力して」といったタイプが56例検出された。これは言語的な働きかけが明確に行われる意を意味する。

このうち、「頼んで+V達成」のタイプは53例、「頼んで+V過程」のタイプは「保証人になってもらった」「姉になってもらった」「OKしてもらった」の3例である。第一人称の働きかけは、18例ある。次は、「頼んで、依頼して」の実例である。

(94) 彼に再三せがんで、やはり小説の一節を謡つてもらった。まるで声がちがっていた。

彼の謡は腹の底の方から嫋々と伝い上ってくるようであった。(LBm9_00104 笠原淳(著)『十五歳夏』新潮社, 1998)

(95) 城へやってきた毛利宰相輝元にたのみ、むりやりに頼みこんで西軍の旗頭たらしめ、そのまま大坂城にすわつていてもらった。(PB29_00553 司馬遼太郎(著)『城塞』新潮社, 2002)

(96) 私は一所懸命たのんで持主と会い、見学を許された。ここでは壁紙の木版原板も見せてもらった。(LBs3_00083 阿伊染徳美(著)『グリーンマン伝説』社会評論社, 2004)

(97) 一大決心をした。そして、先生にたのんで、「みんなの前でとりけしてやろう。」と、OKしてもらった。(LBin_00031 実著者不明『楽しい読書感想文の書き方』学校図書, 1994)

(98) 私は一計を案じて、付き添いの人に頼んでオモチャ屋へ行ってもらい、ミニチュアの自動車を二台買ってもらつた。(LB19_00240 玉村豊男(著)『エッセイスト』中央公論社, 1997)

(99) 入院するには身内の保証人が二人必要だと言われた。私は会社の担任者に頼んで保証人になってもらった。もう一人は姉になってもらった。(PB23_00165 中元輝夫(著)『雑草の記』光陽出版社, 2002)

用例(94)は、継起的テ節「再三せがんで」が前に接続し、働きかけの強度が強くなっている。用例(95)は、「たのみ、むりやりに頼みこんで」が二回現れ、依頼の中においてかな

り使役寄りのタイプと言える。いずれもガ格はニ格の行為を直接目指した言語的な依頼になる。次の「依頼して、お願いして、協力して」は同じく、言語を通して直接ニ格に事態を達成させる働きかけである。いずれも組織やその一員であるニ格への働きかけとなっている。「頼んで」より、正式な場面や対象への働きかけに用いられやすい傾向がある。

(100) 足を運んで補強工事を依頼した。結果として、まず第一段階で写真のような鋼材のサポートをしてもらった。(0Y03_08574 Yahoo! ブログ, 2008)

(101) カール・グルーバはとうとう、千九百五十二年、ブラジル政府に依頼して、国連の場にオーストリアとの条約問題をもち出してもらった。国連で決議が採択され、四大国に対し、合意に到達するよう要請が行なわれた。(LBj2_00068 リチャード・リケット(著)/青山孝徳(著)/青山孝徳(訳)『オーストリアの歴史』成文社, 1995)

(102) 佐々木さんが、友人の印刷業千田恵太郎さん（六十四）＝内藤印刷（一関市）＝に依頼、製作してもらった。佐々木さんは、「行政主導ではなく、地域ぐるみ、家族ぐるみの合併にしていきたい」と狙いを話す。(PN4h_00013 河北新報社(著)『河北新報』河北新報, 2004)

(103) 気づかれなかつたし、マスコミには大学名を伏せるようにお願いして一般の人がキャンパスに来ないようにしてもらった。(PM51_01278 成田陽子(著)『GINZA』マガジンハウス, 2005)

(104) 僕は、女先生に協力してもらい、職員室のパソコンのデータに入っていた卒業生名簿をプリントアウトしてもらった。(LBm9_00093 丹後達臣(著)『踊る大捜査線スペシャル』フジテレビ出版;扶桑社(発売), 1998)

以上、「頼んで、依頼して」は、依頼の典型であると同時に、言語的に直接事態を引き起こすように働きかける特徴を持つテモラウ文の一用法であると分かる。

以下では、働きかけ性のない、テモラウ文の周辺的な用法ではないかとされている＜受影型＞の用例(105)(106)に「頼んで」を付け加えることが可能かどうかを検討する。

＜受影型＞の実例

(105) a. チームメイトでは誰と一番仲がいいですか？「キャンプの最初の日から、モラービトは本当によくしてくれました。チームで唯一のレッジーノ（レッジョ人）で、兄弟みたいに受け入れてもらった。レッジョの方言や悪い言葉もすぐに教えてくれたし。インタビューでもぼくのことをすごく褒めてくれました。(PB37_00025 アルフレード・ペドゥッラ(著)/中村俊輔(著)/片野道郎(訳)『Shunsuke』朝日新聞社, 2003)

b. ??(前略)モラービトに頼んで兄弟みたいに受け入れてもらった。

(106) a. 父ちゃんが、オートバイのシーンをとったとき、けがをしちゃって、平田さんに親

切にしてもらった。 (LBen_00018 辻邦(著)『父ちゃんはナンバーワン!』童心社, 1990)

b. ??父ちゃんが、(中略)平田さんに頼んで、親切にしてもらった。

(107) a. (前略) 毎年恒例の二泊三日の家族旅行にも連れていってもらった。 キャンプに行って、さんざん蚊に刺されたこともあった。海水浴にも行った。 (LBs9_00236 野中柊(著)『ガールミーツボーイ』新潮社, 2004)

b. ??毎年恒例の二泊三日の家族旅行にも、頼んで、連れていってもらった。

用例(107)は、「毎年恒例」の事態に、「頼んで」と共起すると、やや不自然に思われる。

用例(105)(106)の「親切してもらった」「兄弟みたいに受け入れてもらう」は、働きかけられない事態であるため、「頼んで」を付け加えると非文になる。

II. A類-(2)「連絡して」の類

「連絡して」の類は、「連絡して・電話して・呼んで・注文して」といった継起的テ節が18例あり、ガ格の言語的な働きかけによって成立した事態であると分かる。そして、「電力会社に連絡して」「領事館に連絡して」「県警本部の畠中警部に連絡して」「生協に電話し直し」といったように、組織やサービス部門及びその一員への働きかけに集中する傾向がある。このタイプは他動詞文との関連性があるため、<組織依頼>の第七章で触れたい。

用例(110)の「過程の自己制御性」を持つ動詞は1例検出された。

このタイプは、「頼んで」「依頼して」のような典型的な依頼と比較して、相手が組織やサービス部門であるため、働きかけ性が弱いと見られる。また、「同意させた」のように、使役文と交替できる。

(108) 東京の都心から一時間半で帰り着く距離だった。停めてあった電気を、電力会社に連絡して通してもらった。プロパンガスを補充した。 (LBh9_00242 勝目梓(著)『髑髏が往く』光文社, 1993)

(109) 放置しておくと危険なので、修理の人を呼んで何とか直してもらった。 (PB53_00148 小林章夫(著)『東は東、西は西』日本放送出版協会, 2005)

(110) ディック・エバーソルにも電話をかけ、週末のNBAプレーオフの実況放送時に『ビジネスセンター』のコマーシャルを流すことに同意してもらった。 (PB55_00115 ジャック・ウェルチ(著)/ジョン・A・バーン(著)/宮本喜一(訳)『ジャック・ウェルチわが経営』日本経済新聞社, 2005)

(111) 佐川急便の飛脚メール便に怒り心頭。誤配を連続してされました。しかも、配達物には連絡先が遠隔地の電話番号しかなくて、仕方なく電話して取りに来てももらった。 (OC08_00103Yahoo!知恵袋, 2005)

(112) パーティーの話はたちまち病院中に広まった。研修医たちのほぼ全員が参加すると言ってきた。食事は《アーニーズ》レストランに注文して、飲み物は近くのストアから配達してもらった。 (OB5X_00291 シドニイ・シェルダン(著)/天馬龍行(訳)『女医』アカデミー出版, 1998)

(再掲 18) 夫への不満が募ってくると、こうやって幼なじみの律子を誘い出して、愚痴を聞いてもらう。 (PB49_00576 横森理香(著)『ワルツ』祥伝社, 2004)

III. A類-(3) 「説得して」の類

「説得して」の類は、6例が検出され、直接言語を通じた働きかけであるが、「必死に」「なんとか」といった副詞との共起が見られ、事態達成の困難さを強調し、強く動作主に働きかけるタイプだと分かる。そして、「思いをとどまる」という「非達成の自己制御性」を持つ事態が1例存在する。

(113) 教会での式に必要な書類がそろうと、スティーブはフォーブス判事を説得し、自分たちを結婚するカップルのリストに加えてもらった。 (PB19_00540 テレサ・サウスウィック(著)/高田映実(訳)『誓いと指輪と…』ハーレクイン, 2001)

(114) 見かねた教頭が、自分の住んでいる隣町のおじいさんやおばあさんを、説得して来てもらった。しかし実際やってみると、子ども達の反応は良かった。(PB50_00016 北阪英一(著)『東洋鬼』日本文学館, 2005)

(115) ドッグフード5日分／3泊4日の旅程にもかかわらず、母は「万が一、台風か何かで帰れなくなったら大変！」と6日分持参することを主張したのだが、なんとか説得して5日分にもらつた。 (PM31_00483 山喜多佐知子(著)『愛犬の友』誠文堂新光社, 2003)

(116) 和代はできれば産みたいという気持ちを言葉の端々ににじませたが、元木はうろたえ、必死に説得して思いとどまつてもらった。 (PB59_00061 最上鷹夫(著)『過去からの声』新風舎, 2005)

(117) (前略) 昨年一月御承知のように大安寺橋でバス転落という大事故がありました。私当時建設委員会に出ていた関係もあって何としてもこれを速やかに完成を図るべきじゃないか、こういうことを強く訴えたところ、ことしの三月三十一日までという工期めどであったものを、昨年の十一月の早い時期にこれを繰り上げて完成をしてもらった。 (OM34_00001 『国会会議録』, 1986)

IV. A類-(4) 「旨を告げ」の類

この他、「話して(4)・旨を告げ・呼び止めて・指示し・言って・要請・訴え・伝え・言葉にして」といった言語型テ節が検出され、用例(118)「断りの言葉を伝え」と用例(41)「指示し」のように、このタイプは依頼というより、相手に自分の意志を伝えるか、相手

への具体的な指図を行っている。

(118) 「こんな所まで来て、門前払いとは気の毒だなあ」などと思いながら、出直してきた
ワイドショーの人達に、再び断りの言葉を伝え、ひきとつてもらった。(PB36_00150 徳光
正行(著)『せんえつですが…』幻冬舎, 2003)

(再掲 41) 被験者の一人が、初対面の二人と、別々に会って話をした。そして、話し相手となる二人のうちの一人には、しばらく話した後、相手のしぐさを適度に真似ながら話を続けるように指示し、もう一人には、相手の真似をしないで話を続けてもらった。

(PB43_00680 実著者不明『どんな人にも好かれる魔法の心理作戦』PHP 研究所, 2004)

4.3.1.2 原因並びに前提的動作——非言語型テ節

これから挙げていく例は、いずれも前件の節には、主節のV-テモラウで表される事態が生じる原因的動作が存在する。これらをまとめて<原因並びに前提的動作>と表現する。ここでは、<非言語型テ節>と特徴付けているが、前述の<言語型テ節>と区別するためである。<非言語型テ節>といつても、「時間を見つけては骨董品の店に案内してもらった」「署長を起こして、(中略)代わってもらった」のように、「見つけて」「起こして」は非言語的であるが、案内という事態の成立に当たり、ガ格の言語的な働きかけが存在すると想定でき、或いは、起こす際に言語を伴う可能性もある。したがって、言語型テ節と区別すべきであり、前件には、ガ格の言語的な直接働きかけの有無の両方が有り得る。いずれも前件がテモラウ事態を行うための前提的動作になっている。

B類-(1) 「行って」の類

「行って」の類には、「行って・ゆき・寄って・訪れ・立ち寄って・足を運び・に着いた・通院して・移り・持参し・戻り」合せて 30 例検出され、いずれも「達成の自己制御性」を持つ動詞である。このうち、「行って、V-テモラウ」タイプは、病院などの組織依頼に現れやすい。「に行って・へ行って・に立ち寄り+達成」は 8 例である。これについて、<組織依頼>の章で詳しく述べる。この他、サセテモラッタとの共起は 1 例、謙遜の意を表す。ここでは、個別依頼の場合、「訪ねて」といった継起的テ節が使われるのに対し、組織依頼は、場所格への働きかけであるため、「行って」が使われやすい傾向がある。

(119) 健康診断を行った。歯医者へも行き虫歯の治療をし、次の日に詰めてもらった。

(PB59_00185 高島克彦(著)『バングラデシュ勤務を命ずる』文芸社, 2005)

(120) 五月には自由民権の里、五日市にゆき、細田さんに案内してもらう。歴史を感じなが

ら歩いた。(LBr3_00138 小林トミ(著)『「声なき声」をきけ』同時代社, 2003)

- (121) 移動する中で、食事時になると、都内各所にある、応援拠点みたいなところに行って、
おにぎりなどを食べさせてもらった。(0Y14_42080Yahoo!ブログ, 2008)

- (122) 十五年五月、千葉在住の後援者のお宅にうかがった折、クスの木に彫られた白牡丹の
帯どめを見せてもらった。(LBs7_00041 大矢鞠音(著)『田中一村豊饒の奄美』日本放送出版協会, 2004)

B類-(2) 「起こして」の類

「起こして」の類は、合計 41 例があり、「買い・停車した・起きて・見つけて」のように、前文に様々な動作が現れ、ある先行動作がテモラウ事態を行う前段階の動作として示され、テモラウ事態を引き起こさなければならない前提の原因となっている。

用例(123) 「屋台で餅と饅頭を買い」の「買う」行為があるから、水筒に水を入れる必要が出てくる。「ヴィクトリア大学の留学生たちと乗り合わせる」ことも、働きかけやすい環境になったのである。これは言語的な依頼のタイプになる。ただし、多少の違いが現れている。「水筒に水を入れる」働きかけは、「屋台で餅と饅頭を買う」というガ格の行為についての状況設定がまず先行し、加わってガ格の言語的な働きかけが行われたのである。つまり、働きかけやすい必然的な条件が先行しており、用例(124)も同様である。用例(125)は、「時」の時間詞の前に、事態を引きこす原因と理由になる動作が示されている。用例(126)の「起きて」行為が着付ける事態の成立に繋がる。「着付けをしてもらう」の前提である。用例(127)は、見つけることで案内してもらうことができたのである。用例(128)は、相手を起こす行為が、代わってもらう前提となる。

- (123) 夕方、沙河に着き、屋台で餅と饅頭を買い、水筒に水を入れてもらった。(LBo9_00197

帚木蓬生(著)『逃亡』新潮社, 2000)

- (124) 筑橋駅入口でバスを降りて、畠千代子はまずタバコ屋でハイライト十個を買い、進物用化粧箱に詰めてもらった。(OB0X_00026 佐木隆三(著)『復讐するは我にあり』講談社, 1975)

- (125) 赤い橋がなくなった 慌てると、おかしな言葉を口走るらしい私。(中略)この日は陸橋（駐車場、車道、バス専用路の上に架かる相当長い赤い橋）を渡ってバスに乗ったところ、間もなく左折。シティ行きとわかり大慌て。赤信号で停車した時、降ろしてもらった。(LBn8_00001 プレア照子(著)『英語とんちんかん記』テレビ朝日事業局出版部, 1999)

- (126) バンジヤル全体のお祭りということになる。私は五時に起きて、バリの正式な民族衣装の着付けをしてもらった。(LBj9_00158 倭万智(著)『ひまわりの日々』ベネッセコーポレーション, 1995)

(127) 今回の旅では、各地で時間を見つけては骨董品の店に案内してもらった。ハルピンではロシア市場、長春では博物館の売店、瀋陽ではここ。(PB43_00122 清水茂夫(著)『遙かなる北京の風』創友社, 2004)

(128) 朕はいったいだれに聞けばよいのか…」電話の向こうで昭和天皇の嘆息が聞こえた。署長を起こして代わってもらった。署長もまた同じ「御下問」を受けているようだった。コチコチになって声が出ない。(PB18_00065 猪瀬直樹(著)『小論文の書き方』文藝春秋, 2001)以上のように、S1のある動作、或いは、S2のある状態がテモラウ事態を成立する原因的動作になっている。

B類-(3) 「用意して」の類

「用意して」の類は、全部で14例が存在し、特徴として、いずれも前件の「祝儀を出して」と「提供して」が事態を成立させるため、ガ格が整える条件になっている。

(129) 借金の証文を包んでゆき、一般の人たちは入場料のかわりに祝儀を出して芝居を見せてもらう。(稻田雅洋(著)『日本近代社会成立期の民衆運動』国民党研究序説 筑摩書房)

(130) 所有者に許可を受け、全国から集まった三十八人のライター（作家）たちにスプレー缶4千本を提供して描いてもらった。(PN5a_00013 朝日新聞社(著)『朝日新聞』朝日新聞社, 2005)

B類-(4) 「思って・考えて」の類

「思って・考えて」の類は、「思った(2), 思っていた(2), 思いついた, 思いたって, 思い, 思って, 考えて(2), ~こそと(思い)」のように、計11例が検出された。

用例(131)のように、「思った(=思って)」は、ガ格主体が依頼する前に抱えている様々な原因を示している節である。用例(132)の「さまざまな成行から考えて」も同様で、自分で判断した結果がテモラウ事態を引き起こす原因になっている。「了」は「完了」の意味を表し、三回で完了してくださいという依頼である。したがって、「ことにしてもらった」は、典型的な言語的な強い依頼になる。用例(133)の「ことにし」は、単に思っているだけではなく、すでに決定していることを示す。依頼というより、完全な指示的なものである。用例(132)(133)に連続するタイプである。この他、疑問文の前接は、それほど多くないが、8例が存在する。ガ格が持っている疑問を解くために、二格に働きかけるタイプである。

I. 「思って・考えて」

(131) どちらにしても、青山の墓を他に移すことになる。これではいけないと思った。そこで、松本洵氏に「ヒコの墓を建てた銀子夫人のオイとして、銀子の実家 - 松本家の当

主として、ヒコの墓の祭祀をしたいと申し出てもらった。(LBa2_00035 近盛晴嘉『ジョセフ=ヒコ』吉川弘文館, 1986)

(132) 雑誌連載の最終回には、(連作その三、了) というふうになっている。「その三」というのは、「国立」のことである。私はさきのことまで見通していたわけではないので、さまざまな成行から考えて、一応「その三、了」ということにしてもらった。親しい読者からは、どうして止めたのだ、いよいよ眼が見えなくなったのかという声もきこえてきた。(PB29_00485 小島信夫(著)『各務原・名古屋・国立』講談社, 2002)

(133) 会議室を借りて記者さんたちに会うことにして、「午後三時からします」とプレス・リースを流してもらった。(LBq9_00171 曽野綾子(著)『現し世の深い音』海竜社, 2002)

II. 疑問文が前に接続する場合

疑問節が前に接続接するタイプは、ガ格がある種の原因を考えて、思っている事を依頼するきっかけとなっている。継起的テ節「思って・考えて」と共通する点があるが、「思って」の場合は、ガ格はある考えを思っていて相手に働きかけるタイプであるのに対し、疑問文は、完全に確定ではないが、これが原因ではないかと考え、解き明かすために相手に働きかけるタイプである。つまり、その疑問が依頼するきっかけとなったのである。用例(134)は「なれるのかと思って」の「思って」が省略されているが、ある出来事の発生に対し、ガ格が不思議に思い、このような事ではないかと理由を考えている。「果たして、この新商品で、購入者自身も“勝ち組”になれるのか」は、ガ格の疑問であり、動作主に働きかけを引き起こすきっかけでもある。

(134) 「確かに、これまで売上高1位限定で銘柄を選ぶ投信はなく、その意味では画期的な商品」(中堅証券幹部) というが、果たして、この新商品で、購入者自身も“勝ち組”になれるのか。投資家向けに投資信託情報を提供している『アセットケア』の投信アナリスト・橋本幸士氏に分析してもらった。(PM31_00374 大月隆寛(著)/実著者不明/池井優(著)『週刊ポスト』小学館, 2003)

C類-(1)S2 の行為+ガ格の依頼とC類-(2)S1・S2 の相互行為

その他、C類-(1)の動作主 S2 の行為が、後件のテモラウ事態の成立の要因になる場合と、C類-(2)ガ格と動作主が、相互居合わせる中、その成り行きで自然に生じた依頼がある。このような場合は、特に働きかける必要がないと思われる。たとえば、次の用例(135)は、そうである。用例(136)もそれに近い働きかけやすい環境となっている。

(135) つい最近、訪ねてきた若い知人と酒を飲んだあげく、酔余に「鞍馬天狗」を聞いても

らった。知人は大学で邦楽の同好会に所属して小鼓をたしなんだと聞いていた。謡曲もむろんひと通りは心得がある。自分などとも、と彼は謙遜したが、ともかくますいところがあつたら直してくれと、居直った体で一曲謡った。(LBm9_00104 笠原淳(著)『十五歳夏』新潮社, 1998)

(136) 私たち夫婦は公園からラムトン・キーへケーブル・カーで降りた。(中略)車中ではいかにも頭の良さそうな東南アジア方面から来ていると見られるヴィクトリア大学の留学生たちと乗り合わせ、カメラのシャッターを押してもらった。(LBd9_00105 大澤銀作(著)『写真と文によるマンスフィールド雑記録』文化書房博文社, 1989)

用例(135)は、酔余に聞いてもらったという文脈であるため、偶々自分が酔った時に歌つたのであるかもしれないが、後文には、「ともかくますいところがあつたら直してくれ」と懇願する部分があり、ガ格の働きかけが明確になっている。用例(137)では、テモラウ事態が生じやすい環境が存在している。

(137) 私と連れの娘とで二ヵ所のドアをたたいて開けてもらい、ハンドバックを出してもった。(PB13_00506 吉沢久子(著)『私の気ままな老いじたく』主婦の友社:角川書店(発売), 2001)
C類-(1)S2の行為+ガ格の依頼は、前件のテモラウ文の動作主の行為もガ格の働きかけによるものが多い。したがってこのタイプはテモラウが二回重ねて使われている。

4.3.2 共存する文と節

ここでは、共存する様々な文と節の形式からテモラウ文の働きかけ性を探る。

4.3.2.1 使役文・願望文との並列

次の場合は、使役文と願望文が前件に来て、ガ格の働きかけが明確になっているタイプである。そして使役文との並列は、より指示的である。

I. <使役文との並列>

用例(138)は、「地図の上に精細に書き込ませた」と、使役文が前に接続され、依頼を示さず、言語的に動作主に描くように使役的に指図することになる。

(138) 地図の上に精細に書き込ませた。突貫作業だった。横山大観に、紅蓮の炎がビルを呑み込む図を描いてもらつた。『大正大震災大火災』が発売されたのは、わずか一ヶ月後の十月一日であった。(LBq9_00006 猪瀬直樹(著)『マガジン青春譜』小学館, 2002)

II. <願望文との並列>

(139) この研究所でも名古屋種の改良に長年努力してきた。味ではブロイラーに勝るが、飼

料代とか成育の早さとか、経済効果としてはおよばないのだ。そこで、卵で勝負だ、と4型の新種を開発したのだとのことだ。桜色の鶏卵って、ロマンティックではないか。人気が出ることを期待したい。技師の中村明弘さんに鶏舎の内部を案内してもらった。(LBs3_00020 塩田丸男(著)『ニッポンの食遺産』小学館, 2004)

4.3.2.2 原因節との共起

このタイプは、前件のノデといった原因節を伴い、ガ格が依頼する原因説明を前文で表していることになる。前文の従属節では、後文のガ格の依頼行為を引き起こす原因やきっかけが表現される原因節がくる場合も働きかけ性が明確になる。全部で35例が検出され、そのうち、「過程の自己制御性」の持つ動詞は1例であった。また、テモラウの未来形の原因節に比べて、タ形の原因説明の「カラ・ノデ節」が多く現れている。それは、未来の方は原因が分からず、事実が生じて初めて原因が明確になったためと考えられる。

用例(140)は、ガ格がある事情を把握し、それが、無理に相手に従わせるきっかけになっている。かなり使役的な用法で、「無理にもそうさせた」とも言い換えられる。用例(141)も同様である。用例(142)は、従属節には、公園に行って迷ってしまったという原因があるから、近所の人に連れていってもらう事態を引き起こしたのである。言語的な依頼の文脈は表れていないが、道に迷ったということが働きかけのきっかけとなる。用例(143)は、「キャラクターきんたくん」の突然の訪れが一緒に写真を撮るきっかけとなっている。

(140) 「勘定は二つに割ってもらった。」「それではせっかく誘った意味がないから」井口は固辞したが、お互い薄給の身であることは分かっているので、無理にもそうしてもらった。井口のやさしさに柏田は大いに慰められた。(LBr9_00111 礼(著)『夜盗』新潮社, 2003)

(141) これまで私が経験した開業医と病院医師による治療ではまったくなかったことだ。漢方薬は国民保健サービスでは処方してもらえないので、彼らには最低レベルを基準とするスライド料金方式にしてもらった。(PB47_00005 ジョー・スペンス(著)/萩原弘子(訳)『私、階級、家族』新水社, 2004)

(142) ひと夏、はりきりすぎたしつ返しで、その秋に床についた。愈えたとき、視力が失せた。(中略)こないだもスーパーに行くつもりが公園へ行ってしまって、近所の人につれてってもらった。「これまで他人の世話になるまいと肩肘はってきましたが、このごろは自分や他人をそんなに意識しなくなりました」(PB59_00737 池内紀(著)『世間をわたる姿勢』みすず書房, 2005)

(143) 途中の満願寺では川西市のキャラクターできんたくんが来ていと一緒に写真を撮つ

てもらった。ハイキングには最高の天気であった。(0Y14_43302Yahoo!ブログ, 2008)

(144) 二人教員制には、いくつかのねらいがあった。美術理論と工芸技術の両方にすぐれた

人を見つけるのがむずかしいので、とりあえず、別の人に教えてもらう。(LBq7_00036 海野弘(著)『モダン・デザイン全史』美術出版社, 2002)

上記、いずれにして、ガ格に働きかけできるような何らかの事情や原因が存在している。

4.3.2.3 目的節との共起

原因・目的を示す「タメ」節が、「ために・ため(9)・Vために」といった形で現れている。また、目的を示す「ヨウニ/ヨウ・Vニハ」「トシテ」との共起は、具体的な依頼目的・原因がはっきり示されていることになる。

(145) 私はマスターした曲をもっと完全なものにするため, K先生にもみてもらった。

(PB30_00024 伊原千津子(著)『踊る！千津子のペン』新風舎, 2003)

(146) (略)国民には結論しかわからない,だから審議の経過もわかるように十分にオープン

でやってもらう。(OM31_00008 野坂委員『国会会議録』第107回国会, 1986)

(147) 萱を葺き替えるには, 京都や飛騨高山から職人さんに来てもらう。(0Y15_00221Yahoo!

ブログ, 2008)

(148) やがて高校に入学, お祝いとして親に8ミリカメラと映写機を買ってもらう。

(PB17_00149 藤夕起夫(著)『映画監督になる15の方法』洋泉社, 2001)

4.3.2.4 条件節との共起

条件節が前にくる場合、実際は誰かに働きかけるというより、ある条件が備わった行為の依頼になり、条件付けの働きかけである。次は実例であり、いずれもある条件が成立しないと、働きかけ機能を有しない。したがって、行為の即行性が弱い働きかけとなる。

(149) 「それは言うてみても詮ないこっちゃ。いざとなったら, 宗雪にうちに入ってもらう。

それはおまえも承知のことやろ」(LBt9_00040 井ノ部康之(著)『利休遺偈』小学館, 2005)

(150) 希望があれば定期購読をしてもらう。(PB56_00007 中森勇人(著)『関西商魂』ソフトバンクパブ

リッキング, 2005)

(151) 必要なら友だちに助けてもらう。 (PB2n_00080 エリザベス・バーディック(著)/ トレボー・ロマイン(著)/ 上田 勢子(訳)『テストなんかこわくない』大月書店, 2002)

(152) 私は、いくつかの研究プロジェクトに関して、不完全な形ではあるが、この形態による共同作業をすでに行っている。共同作業者の担当分や作業データを途中で見たい場合、電子メールで送ってもらう。 (OB5X_00035 野口悠紀雄(著)『パソコン「超」仕事法』講談社, 1996)

(153) 壁に歌いこなせれば、男子も危機感を持ちますし（多分）それでも無理なら担任から言ってもらう。 (OC10_00494Yahoo!知恵袋)

このようなテモラウ文は、「たら」「ば」「なら」という条件節が前接されることが多く、働きかけ性が一般化されている。

この他、用例(154)のような場合、特に依頼しなくても、事態は成立する。前件に、「大雪になると」があって、以前、働きかけがあったかもしれないが、今、ガ格側はあまり依頼しなくとも、動作主が自然としてくれることが普通になっている。

(154) 父は(中略)明治のはじめ、小一里はなれた御幸村今江の願勝寺の寺子屋へ通い、読み書き算盤を教わった。そのとき面白半分に畳算までおぼえた。大雪になるとお寺に泊めてもらった。 淋しからうと、和尚さんは抱き寝をしてくれたそうである。 (LBp2_00074 石堂清倫(著)『わが異端の昭和史』平凡社, 2001)

以上、使役文、願望文、原因節、目的節と並列することによって、テモラウ文の働きかけ性が明確になる。

4.3.3 単文形式

単文形式のテモラウ文には、働きかけ性を示すのに、どのような特徴があるかを、主にニ格の省略の有無から考察していきたい。これを、ニ格を省略しないタイプ<ニ格の顕在化>と省略するタイプ<ニ格の非顕在化>に分ける。

4.3.3.1 ニ格の顕在化

テモラウ文では、動作主を省略する場合が多いのに対し、ニ格の動作主を特に文中で示し、大いに紹介するテモラウ文もあり、これを<ニ格の顕在化>と仮に示す。テモラッタで考察し、58件もあった。この結果は、前述した複文を含まない結果である。また、テモラウ文の働きかけは様々なタイプが存在し、次の(a)(b)に分けて示す。

(a)計画的な依頼：適任のニ格に依頼する場合

- ・相応しい人間(個別依頼)
- ・相応しい場所(組織依頼)

(b)偶然的な依頼：偶々誰かに依頼する場合

テモラウ文が単文形式で表現される場合は、用例(155)「そんな二千五年のペナントレースを辛口評論家」のように、動作主の前に長い修飾節がくることが多い。これは(a)タイプになる。用例(156)もそうである。

(155) 交流戦の導入、「飛ばないボール」の採用、そして新規球団・楽天の戦い。今年は一時もプロ野球から目が離せそうにない。そんな二千五年のペナントレースを辛口評論家の江本孟紀氏に占ってもらった。今年も江本氏は、各球団のキャンプ地を精力的に訪れた。(PB5n_00166 実著者不明『メッタ斬り！プロ野球侍』平和出版, 2005)

(156) その日は、このMC法の開祖であるミシェル・フランツィの子息で、この研究を継承しているクロード・フランツィさんに、MC法を採用している南コート・デュ・ローヌ地方のワイン醸造場を案内してもらった。(PB15_00210 小阪田嘉昭(著)『ワイン醸造士のパリ駐在記』出窓社, 2001)

波線の部分は、ニ格に対する修飾節である。このように、動作の実行者を特に詳しく紹介することは、相手がある事態を行うのに適任であることを表している。そして、ガ格の働きかけの意図は予め存在することも表す。修飾節が多い(a)に対し、(b)の偶然的な依頼は、相手に対する紹介的な修飾節が現れない。

また、「依頼」といっても、動作主に具体的な指示を出す場合や、事態実現しやすい状況を提供する場合など様々である。よって、用例(157)のように、依頼事態に対して具体的に紹介している文脈も多い。これもガ格の働きかけが予め存在することになる。

(157) そこで離婚の「プロ」や経験者に、体験談をふまえ離婚するときには「覚悟すべき」7か条を挙げてもらった。(PM51_00169 実著者不明『女性セブン』小学館, 2005)

これは、今回の考察では、許容型や受影型には見られない文の構造的特徴である。

4.3.3.2 ニ格の非顕在化

ニ格の非顕在化は、ニ格が省略されるタイプであり、全部で35例がある。観察によって、ニ格の省略現象は、総じて組織やサービス業への働きかけに集中していると分かった。

(158) 智さんはお土産だと言って、私に白い服地をくれた。母や庵主さんの困惑をよそに、

私は狂喜した。早速、中原淳一描く、(当時の少女雑誌に登場し、一世を風靡した画家)衿と胸に、赤いフリルのついた洋服を仕立ててもらった。(PB39_00403 林清子(著)『黄水仙のみた夢』文芸社, 2003)

用例(158)は、相手から白い服地を頂き、それを洋服に仕立てた。実際、仕立てる動作主ニ格は文中に現れていない。次の例も同様である。

(159) 昨日の小児科医の心臓の奇形に関する詳細な検査の様子を話したが、母は奇形の話自体を嫌うようで、「何でもないんでしょ」と念を押して、その結果だけを聞けばいいというふうだった。夕方、点滴をしていた左腕がはれたため、右腕につけかえてもらつた。(PB45_00160 小林千枝子(著)『「天の恵」騒動記』文芸社, 2004)

(160) 病院からは「命を捨てる気か！」と言われ、原さんがなんとか説得し、入院はしたものの、病室でも仕事をしていたという。そして、肝臓ガンがわかったときに、一緒に心臓も調べてもらった。(PM21_00655 実著者不明『pumpkin』潮出版社, 2002)

(161) 「冷汁定」というのを注文した。オプションでセットにできる、「地鶏炭火焼」をつけてもらった。(0Y03_00137Yahoo!ブログ 2008)

四つの例は、いずれも組織やサービス業への働きかけで、サービス業・組織全体が動作主になっている。用例(158)の洋服を仕立てるのは洋服屋である。用例(159)も、点滴の作業を行う動作主は病院の職員で、用例(160)の心臓調べの動作主も病院の専門医である。用例(161)は、サービスを提供する店が動作主である。このタイプは依頼行為を行うことがサービス業と組織の本業であり、特に動作主を具体化する必要もなく読み手が分かるため省略している。これは<組織依頼>の一特徴ともいえる。

4.4 語彙レベルの考察

ここでは、共存する取り立て詞、副詞のタイプを取り上げる。

4.4.1 取り立て詞との共起——「だけ」の場合

「だけ」との共起は、テモラウ文の働きかけ性を強くすることがある。用例(162)では、「ベッドだけはダブルを入れてもらった。」と、とりわけダブルベットの備え付けには油断したくないと、ガ格がホテル側に強く希望しているのを、「だけ+(は)」を用いて表現している。よって、強く働きかけていると分かる。

(162) その日、身の回りの簡単な荷物をまとめ、雅之は芝にあるシティーホテルに長期滞在を決めこんだ。(中略)南向きのツイン部屋、シングルユース。窓際に、小さなガラス

テーブルひとつとクッションチェアが二つ。それに座ることもなさそうなライティングデスクの椅子がひとつ。ベッドだけはダブルを入れてもらった。どうせ寝るだけだ。 そうも思う。(LB19_00042 白川道(著)『流星たちの宴』新潮社, 1997)

4.4.2 共起する副詞

依頼型には、「是非・是非とも」「特別に」「せめて」「とりあいす」「どうにか」「どうしても」「やっと」「なんとか」「なんとしても」「とにかく」「むりやり」といった副詞(→波線)との共起が検出できた。働きかけが明確になり、どのような依頼の仕方をしているかも分かる。言語的な依頼と繋がりがあると考えられる。以下、いくつか例を挙げる。

(163) あってから、約二時間後の午前四時少し前である。この事件のために、特別に回線を一つ取りつけてもらった。これで、今後は意地悪なお手伝いの須美子や、煩しい母親の雪江の手を経ないで、プライベートな電話も受ける(LBd9_00135 内田康夫(著)『白鳥殺人事件』光文社, 1989)

用例(163)の「特別に」は、意志性の副詞であり、ここではガ格側の立場から述べているため、勝手に生じた受影的事態ではないことが分かる。そして用例(164)の副詞「やっと」、用例(165)の「ようやく」が前に付くことによって、かなり以前からガ格が希望していることと、事態達成の困難さが考えられる。

(164) 葉月と話をしていたら一枝が教室に戻ってきて、後ろから葉月と私に話しかけてきた。
「何、二人で話しているの?」「いや、いろいろとね」私は振り返り、野球部の話し合いは何だったのか一枝に聞いた。「たいしたことじゃないのよ」そう言うと一枝の視線は葉月が持っている写真に向かられた。「なんだ、葉月に写真見せてたんだ」「うん。やっと、春から見せてもらった。確かに、二人が言うだけのことあるよ」納得した表情を浮かべ、一枝の顔を見た。(PB59_00148 華房櫻(著)『私-柏木春菜』日本文学館, 2005)

(165) 手形でも書いてもらいたいと頼み込んだ。ようやくのことで、それでは手形でということになり、手形を書いてもらった。私にとっては大金であり、喜び勇んで帰ったことはいうまでもない。(LBc7_00023 神崎紫峰『炎の声土の声』日本教文社, 1988)

用例(164)の「確かに」は、V-テモラウで表される行為を行わせる時のあり方を示している。次の用例(166)の「とりあいす」、用例(167)の「とにかく」、用例(168)の「せめて」は、依頼の際の最低条件を提示している。

(166) 「承知」佐伯は携帯電話を切って言った。「津久井は、野島議員の車できます」植村

は、もうそのことには関心はない、とでも言うような顔で言った。「とりあえずわか
ってもらった。」(PB49_00334 佐々木謙(著)『うたう警官』角川春樹事務所, 2004)

(167) 連中一ぺてん師がひとりふたり、ずうずうしいインタビュアーたち、うねぼれの強い
知ったかぶりなど一も来たが、とにかく、全員にサインをしてもらった。 (LBs9_00255 ジ
ヤン・モリス(著)/北野寿美枝(訳)『わたしのウェールズ、わたしの家』早川書房, 2004)

(168) 活動費もそれ程求めず、無料でもやってくれるようだった。せめて隣町等からの交通
費として、受取ってもらった。 (PB50_00016 北阪英一(著)『東洋鬼』日本文学館, 2005)

また、V-テモラウで表される事態の成立に当たって、副詞「なんとか」「どうにか」「ど
うしても」「なんんとしも」「ぜひとも」との共起(用例 169~172)によって、事態実現に対
するガ格主体の願望の強さが表れたと分かる。

(169) 訪問看護ステーションから真柄さんと井上さんがかけつけてきた。病棟婦長に電話で
事情を話してなんとか一ベッド開けてもらった。 「救急車はこれからよぶんだね? じ
やあ、あとはよろしくお願ひします。まだ往診が残っているんで。」(PB44_00086 川人明(著)
『下町流往診日記』医学書院, 2004)

(170) 東京こそが率先して始める」と述べた。知事たちよ、日本の教育をなんとしても再興
してもらいたい。 (PB23_00412 屋山太郎(著)『抵抗勢力は誰か』PHP 研究所, 2002)

(171) そのことを他の被告、弁護団、そして全労働者には是非ともわかつてもらいたい。ま
さに「あやまてる我が戦術よさりながら精神をくめ、はたらく人よ」である。(LBn3_00093
片島紀男(著)『三鷹事件』日本放送出版協会, 1999)

(172) 二年生になれば子どもも成長する。一年生だけという条件付きで、どうにか理解して
もらった。 当初はハラハラの連続だった。(PN1c_00016 読売新聞東京本社(著)『読売新聞』読売新
聞社, 2001)

用例(173)の「むりやり」は、事態実現をする際の強さを示す。

(173) 城へやってきた毛利宰相輝元にたのみ、むりやりに頼みこんで西軍の旗頭たらしめ、
そのまま大坂城にすわっていてもらった。 この毛利宰相輝元の位置が、昨夜落去した
織田常真入道であるというわけである。(PB29_00553 司馬遼太郎(著)『城塞』新潮社, 2002)

以上の副詞と共にすることによって、動作主がテモラウ事態を引き起こすように、ガ格
主体が一定のお願いをしていると、働きかけ性が明確的であると分かる。また、テモラッ
タ・テモラウ・テモラオウ・テモライタイの四つの文末形式では、特に働きかけ性が明確
なテモライタイは、467 例のうち、「ぜひ」の使用例が全部で 43 例、「ひとつ」の使用例

は24例、「どうか」は5例、「何とか」は4例、「なんとしても」は1例、「そう～V-テモライタイ」は3例あるなど、相手に強く働きかけていると分かる。

5. まとめ

第三章では、まず、依頼型と働きかけ性に区別を施し、働きかけ性の下位類には<依頼型><組織依頼><状況設定型><自得型>の一部が含まれる。四者は働きかけの仕方が異なるが、ガ格の意図性が存在する点において共通する。依頼型には同じく言語的な働きかけの組織依頼が含まれると、二タイプになる。また、働きかけの典型である言語的な直接働きかけが基本の<依頼型>テモラウ文を考察し、働きかけ性の要因を分析した。依頼型の構造について、二者間の授受の<依頼の直接構造>、受益格が現れる二重恩恵のタイプ、三者間以上の授受の<依頼の間接構造>、<非恩恵的依頼>の四タイプに分類した。意味レベルの考察において次のようにまとめる。

I. 手助け、代行、教示、共有、表出は、動作の意味的な異なりで、依頼の枠組では共通している。ニ格が頼まれる相手として上位に存在する。

II. 第二人称者への提案は、「あなたが出しても良いと思う金額を言ってそれ以外は彼持ちにしてもらう」のように依頼文を使いながら恩恵の取得対象は第二人称「あなた」になる。

III. 環境作りは、ニ格に当たる動作主が疑問詞であり、文の構造は「だれかひとりに～V-テモラウ」など、働きかけやすい環境を優先している。

IV. 力関係に基づく下位類では、意向・指示・命令と、程度の差によって三つに分類した。

<意向>は、社長から「取締役になつてもらう。了解するか」ように指示より強制度が弱く、事態の成立には動作主が承認する必要がある。指示は、「異動は増田だ。来年の一月に異動してもらう。」と、一般的な仕事上の指示、規則に基づく指示を指す。命令は、動作主に対して強硬で威圧的・脅迫的な言語表現「否も応もない」、禁止表現「それ以外やるな！」、命令表現「僕に従つてもらう」などを伴うことが多い。動作主にとって望ましくない依頼が多い。

V. サービスを提供する組織が依頼側であり、サービスを維持する工夫が文脈に現れる。その反対は契約の中に含まれているので特に働きかける必要はない。裁判所のような権力を持つ組織へ働きかけでは、「申し立てて、免責してもらう」のように固定された手続きを行い、申請して許可を求める。組織より個人は下の立場にある。それに対し、

「指紋を押してもらう」の場合は権限を持つ組織がガ格主体であり、ある規定が全員を対象にして定められている。「規定どおり返還する」といった言語表現の仕方をする。

VI. サセテモラウの考察では、事態の成立に相手の認めが必要かによって、五つに分類したが、中の<宣言・非謙遜>は、相手の許可とは無関係に己の意志を通す印象が強く表れる。ル形で表され、「そこで私たちサラリーマンは、遠慮なくその逆手を使わせてもらう。」や「俺アただ、高みの見物をさせてもらう。」のように、自分の意志を貫く言語表現や消極的な言語表現と共に起し、主語の態度を宣言している。

上記の内容を以下のように簡単にまとめておく。

<依頼型>テモラウ文の意味レベルの考察のまとめ

依頼の直接構造	個別依頼 I → 手助け(開ける)
	個別依頼 II → 教示(教える・協力する)
	個別依頼 III → 共有(分ける・V-サセテモラウ)
	個別依頼 IV → 表出 (願望→松井のような有名人や大勢の人への依頼)
	個別依頼 V → 第二人称者への提案(「あなた」と共起し、ガ格は非恩恵)
	個別依頼 VI → 環境作り(だれがひとりに・だれでもよい~をV-テモラウ)
	個別依頼 VII → 意向(意向 1→議論する； 意向 2→取締役になる)
	個別依頼 VIII → 指示(指示 1→黙読する・走り回る)
	個別依頼 IX → 命令(僕に従う)
	組織依頼 I → 組織対個人(V-テモラウはサービス的事態、組織ガ格の一仕事である。タメ節が伴う)
依頼の間接構造	組織依頼 II → 個人対組織(V-テモラウは契約的事態)
	組織依頼 III (権限) → 個人対組織(免責する)
	組織依頼 IV (権限) → 組織対個人(指示 2→指紋を押す)
	非恩恵的依頼 → 裏切ってもらいたい
	依頼の間接構造：ガ格が聞き手に指示し、聞き手が具体的な動作主に依頼する

サセテモラウの類	<依頼・謙遜>
	<(間接)受影・謙遜>
	<中間・謙遜>
	<謙遜>
	<宣言・非謙遜>

共存する言語形式の考察において、客觀性の高いテモラッタを対象に、複文形式では、凡その傾向を示すものとして、<同一主語+前件意志動詞>の言語型テ節「頼んで・連絡して」116例、非言語型テ節「行って、起きて」「思って・考えて」86例が検出された。このうち、「頼んで」は依頼型の典型に属する。共存する形式では、使役文・願望文・原因節・目的節・条件節と並列することによって、テモラウ文の働きかけ性が明確になる。單文形式のテモラウ文は、働きかけ性の特徴として、二格の顕在化のテモラウ文では、動作主を文中で大いに紹介し、ある事態を行うのに適任であることを表している。二格の非顕在化は、二格の省略現象であり、組織やサービス業への働きかけに集中している。語彙レベルの考察では、副詞では「是非・是非とも」「特別に」「せめて」「とりあいす」「どうにか」「どうしても」「やっと」「なんとか」「なんとしても」「とにかく」「むりやり」といった副詞との共起が見られ、働きかけが明確になり、依頼の仕方や言語的な依頼であると分かる。そして次のようにまとめた。

<依頼型>テモラウ文の取りやすい言語形式の概観

(a)-1 「頼んで」「連絡して」

(a)-2 「行って」「起きて」

(b)使役文・願望文・原因節・目的節・条件節との並列

(d)副詞 どうしても、どうにか、なんとか、やっと、せめて、むりやり、是非との共起

以上のように、意味レベルの考察において、<依頼型>の様々な働きかけの仕方が存在することを明らかにした。共存する言語形式レベルの考察において、山田が指摘する(a)テ節の共起において、本論では、BCCWJ の実例におけるテ節の共起を言語型の(a)-1「頼んで」「連絡して」と、非言語型の(a)-2「行って」「起きて」に二分し、テ節はいずれも主体の願望的な行為を示し、働きかけ性が存在すると判断できると考える。そして、「頼んで・依頼して・頼み込んで」などは、依頼型の典型に属する。

第四章-(1) 受影型テモラウ文の意味・用法

1. はじめに

<受影型>テモラウ文は、第四章の(1)(2)(3)で考察していく。考察の目的は、BCCWJ の実例を基に、テモラウ主体であるガ格が動作主の行為に直接影響される受身的な意味機能を示す<受影型>テモラウ文を対象に、受身的な意味機能を認定する要因を抽出することである。

これまで、テモラウ文には働きかけ性を有しない受身的な意味機能を持つと先行研究で証明されてきたが、使役的な機能と対象的に論じられることが多く、コーパスという大量な実例を基にした受身的な意味機能を持つテモラウの様々な受身的な要因を詳細に記述することは少ないようである。

そこで、本論は受身的な意味機能を持つテモラウ文を、テモラウ主体であるガ格が動作主の行為に直接影響されるかどうかという特徴に基づき、さらに<自得型>テモラウ文と<受影型>テモラウ文に分類している。前者の<自得型>テモラウ文は間接受影であるのに対し、後者の<受影型>テモラウ文は直接受影である、と大まかに特徴付ける。第四章の(1)(2)(3)では、主にガ格を対象に意図的に生じた動作主の行為である直接受影を研究対象にし、意味・共存する言語形式・語彙といった角度から観察し、ガ格は非働きかけで、受身だと認定できる要因を詳細に記述することである。以下は、本章の構成である。

第2節で先行研究の受身的テモラウ文の概観及びそれとの比較を行う。第3節で本章にて取り扱っている<受影型>テモラウ文の実例に基づく詳細な定義及び基本的な特徴、実例に基づく下位分類を行う。

2. 先行研究の受身的機能を持つテモラウ文との比較

テモラウ文には、受身的な機能でありながら意味的には恩恵と非恩恵的な用法が存在すると、仁田(1991)・山田(2004)などの研究によって明らかにされている。

仁田(1991:48-50)では、働きかけ性のない非恩恵的な意味を持つテモラウ文を、「非依頼非受益型」と名づけ、「テモラウ態の主体が、実際に動きを行う主体に依頼などといった働きかけを行っていないのに、動き主体の方が一方的に動きを行う、といったものである。」と定義し、下記の用例を用いている。

「非依頼非受益型」

- (1) 「(前略)お宅で何によらず立ちいる権利はないんですよ。だからたとえ火事になっても、そっちからむやみに踏みこめないんでね、けじめをまちがつてもらっちゃ困りますよ」(流れ)(仁田 1991:49)
- (2) 勝手に部屋に入つてもらっては困る。(仁田 1991:49)
- (3) 「気にいらなかつたら、降りてください。こっちは忙しいんだ。いやいや乗つて貰うこたあねえ。」(偕老)(仁田 1991:50)

仁田(1991)の「非依頼非受益型」の用例は、どれも「V-テモラッテハ困る」「V-テモラッタラ困る」「V-テモラウことはない」の三形式に集中し、マイナスな意味を持つ副詞「勝手に・いやいや」との共起も見られる。

一方、山田(2004)では、働きかけ性のない恩恵的意味を持つテモラウの用法を「単純受影的テモラウ受益文」と名付け、「構造的な受影者から動作主に意図も作用もない用法」であると定義し、下記の例を用いている。

「単純受影的テモラウ受益文」

- (4) 辞めてほしいと思っていた人に、思いがけなく辞めてもらったことで、直子は少し気も晴れた。(山田 2004:122)
- (5) うわーはずかしい。先生に踊りをほめていただくなんて。(山田 2004:126)
- (6) そう言つていただいてうれしい、と陶さんは体を折ってほほ笑んだ。(山田 2004:126)
- (7) (赤ん坊に)よかつたわね。いい名前をつけてもらって。(山田 2004:126)

山田(2004)では、用例(4)のV-テモラウと共に起する副詞(思いがけなく)のタイプ、用例(5)(6)(7)の複文的な構成特徴から、受身的な要因を検討している。また、複文のテ節の前件が後件で示す感情を持つ原因となった場合、テ節のテモラウ文は必ず単純受影だと解釈できると主張している。

本論では、テモラウの受身的な機能について、副詞と複文的要因以外に、実例から文の意味・形式・構造、文中の副詞やテモラウに前接する動詞レベルからも、観察することができると主張したい。つまり、先行研究が示している以上に、BCCWJの実例は受身的な要因をバラエティー豊かに示している。そして、先行研究が指摘している恩恵と非恩恵の中間に、さらに中立型も存在するとBCCWJから発見できた。つまり、受身的な意味機能を持つテモラウ文は、二タイプに留まらず、三タイプに分類し得ることになる。したがって、実例に基づいて<受影型>の受身的な意味機能について認定可能な要因を、文の意味・形式・構造・品詞といったレベルから突き止めていきたい。

3. <受影型>の定義・特徴・下位類

本節では、受身的な意味・機能を持つ<受影型>テモラウ文の定義、基本的な特徴及び下位分類を明確にする。それから、第四-(2)章と第四-(3)章では、その下位類型である<恩恵的受影型><非恩恵的受影型><中立型>の受身的な要因を順次に具体的に検討していく。まず、先行研究及び今回のコーパス BCCWJ の実例を概観し、受身的テモラウ文の特徴に基づいて<受影型>テモラウ文の定義付けと下位分類を行う。

3.1 <受影型>の定義

本論では、受身的な意味機能を持つテモラウ文を<受影型>テモラウ文(以下、<受影型>)と仮称し、テモラウ主体であるガ格から動作主であるニ格に対し、事態発生への意図的な働きかけは文中に見られず、事態は動作主であるニ格が、ガ格を対象に意図的に生じている。ガ格は、動作主が一方的に引き起こした事態のマイナス(非受益)やプラス(受益)の影響を直接受けて、それを恩恵や非恩恵的な文脈や文形式・文構造を以って示すテモラウ文であると定義する。

本論の<受影型>は、仁田(1991)の「非依頼非受益型」の規定に従い、さらにニ格によって生じた事態はガ格に直接影響を及ぼすものだと限定している。ただし、ここで言う「直接」というのは、「次郎が太郎に叱られた←太郎が次郎を叱った」という直接受動の場合のように、二格の動作の直接の対象として働きかけ・作用を被っている、という意味とは完全にタイプ的に一致するものではない。中には、ガ格がV-テモラウで表される事態の影響を直接的に被っているタイプも間接的に被っているタイプも存在している。言い換えると、構造的には、直接受身と間接受身の両方に対応するものが存在しており、第七章で考察する組織依頼の<直接作用>を及ぼす受身的なタイプと、第八章で考察する自得型のような、V-テモラウで表される事態が非動作主の行為である非S2V型の<間接受影>の受身的なタイプとは、どれとも異なっているからである。したがって、本論の受身のタイプは、V-テモラウが表現している事態が動作主の行為そのものであるS2V型のタイプの受影であり、動作の指向性はガ格を対象に引き起こしているのである。ここでは、敢えて<直接受影>という用語を用いるが、その理由は受身的な意味特徴をより適切に反映できるからである。

本論の<受影型>の定義は、ガ格側が非働きかけである点において、仁田(1991)の「非依頼非受益型」と山田(2004)の「受影型テモラウ受益文」の定義とほぼ同様であるが、「事態は、動作主であるニ格によってガ格を対象に、意図的に生じている」点において、両者

とも異なっている。このような定義は、BCCWJ の実例を観察し、先行研究の定義を基にしてさらに付け加えた意味である。具体的にはテモラウの文形式、文構造、V-テモラウの前後の文脈によって判断している。

3.2 <受影型>の下位類と基本的な特徴

<受影型>の下位分類において、先行研究を考察した限り、二格の行為を受け入れる際に、ガ格にとっての恩恵・非恩恵的な事態の二タイプが存在すると前述した。このうち、ガ格にとっての不利益な迷惑事態(以下、一事態)が生じたことを意味するテモラウ文は、仁田(1991)の「非依頼非受益型」に該当する。このタイプを本論では<非恩恵的受影型>テモラウ文(以下、<非恩恵的受影型>)と仮称する。一事態の出現に伴い、文脈にはガ格受け手の立場による<現象描写を含めた話し手の意外な事態発生への戸惑いの表出>が特徴的である。一方、ガ格にとって利益のある恩恵事態(以下、+事態)が生じたことを意味するテモラウ文は、山田(2004)の「受影的テモラウ受益文」に該当する。このタイプは本論では<恩恵的受影型>テモラウ文(以下、<恩恵的受影型>)と仮称し、+事態の出現に対して、文脈にはガ格受け手の立場による<現象描写を含めた事態発生への話し手の思いがけない喜びの表出>が特徴的である。

なお、<受影型>の恩恵・非恩恵は、それぞれ仁田(1991)と山田(2004)の働きかけ性のないタイプに当たるが、両研究の受影型は、間接受影と直接受影を区別するように分類されていないため、本論ではそれを区別し、本章の受影型は、V-テモラウで表される事態が動作主が実際行われた行為であるS2V型の受影に該当するものである。

そして、非恩恵型は、ガ格受け手にとっての<直接不利益事態>が生じているのに対して、恩恵型は、<直接利益的事態>が生じているのであると概括的にまとめができる。この他、今回のコーパスの調査から、用例(13)のようなガ格受け手にとって恩恵・非恩恵でもないタイプが抽出できた。特徴からして、ガ格への直接的な利益も不利益もなく、このタイプを<中立型>テモラウ文(以下、<中立型>)と仮称する。よって、本論では、先行研究及びBCCWJ の<受影型>の例を、ガ格を対象に直接引き起こした動作主の行為は、受け手のガ格にとって直接の利益・不利益に結び付くかに基づき、非恩恵的・恩恵的・中立的の三タイプに分類することを試みる。三タイプのそれぞれの統括的な特徴とそれに該当する例文を、以下に示す。

I. <非恩恵的受影型>

(8) 美代子はくやし涙を耐えるのに精一杯で、とても上田を見返す余裕などなくなっていた。「これ以上変な噂をたててもらっては困るのよ。うちは客商売なんだからね。さかりのついた猫みたいな人を雇っておくわけにはいかないのよ」たまらずに美代子は部屋を出た。(LBF9_00228 高橋三千綱(著)『オンザティ』講談社, 1991)

(9) 私の青年期に、いやな思い出がある。帝展（現・日展）系のあまり有名でない先生に手ほどきしてもらった。(LBt7_00016 赤羽末吉(著)『私の絵本ろん』平凡社, 2005)

II. <恩恵的受影型>

(10) (前略)「満州から引き上げてきたとき、大郷のナシ畠へ連れて行ってもらった。そのときの『二十世紀』のおいしさは忘れられない」と当時の思い出を披露。(後略)(OP45_00001『南区役所だより「みなみ風」』新潟県新潟市南区, 2008)

(11) 真澄は、それまで食べたことのないような料理の数々を口にして、幸福な気分になっていた。食事の後で、アーケード街に行った。プラダのリュックを買ってもらった。それは真澄が欲しくて仕方がないものだったので、思い切り嬉しい気分になった。

(PB29_00322 牛次郎(著)『魅惑の姿態』徳間書店, 2002)

(12) 店内は長いカウンターとテーブル席が二席。中年のママと手伝いの若い女二人でやっている。(中略)この店には舞に連れてきてもらった。舞は以前、一度椎名に連れてきてもらったそうだ。それからはちよくちよく一人でこの店に来ているようで、店のママともすっかり打ち解けた感じでいる。(PB19_00214 小川竜生(著)『沸点』光文社, 2001)

III. <中立型>

(13) 帰宅すると中野さんはお手伝いの曾根さんに「原泉は買物でおそになります」といわれた。この夜、『むらぎも』の安吉が大切にしていた「土中のもの」を見せてもらった。私には一寸気味の悪い像だったが、中野さんのやさしくこの像を撫でる手つきが印象に残った。(LBn9_00122 松尾尊児(著)『中野重治訪問記』岩波書店, 1999)

また、<受影型>のそれぞれの分類の特徴を次のように簡単にまとめると。

<受影型>の下位類の統括的な特徴

- | | |
|---|--|
| { | 非恩恵的受影<現象描写を含めた話し手の意外な事態発生への戸惑いの表出>…(8) (9) |
| | 恩恵的受影<現象描写を含めた事態発生への話し手の思いがけない喜びの表出>(10) (11) (12) |
| | 中立型…<事態発生への客観的な陳述>…(13) |

3.3 研究の方法と目的

以上のように恩恵型でも非恩恵型でも、ガ格が思いがけず動作主の行為によって引き起こされた事態に直接影響され、それが感情の衝撃を受けて言語表現に現れたものであると先行研究の例文から伺うことができる。そして恩恵・非恩恵といった各類型の受身的な意味・機能の認定も先行研究ではある程度行われていたが、文脈・形式・品詞レベルの分析に不十分に思われる点が存在し、それに対して、コーパスの実態はどうであるかを BCCWJ を用いて再度検証する必要がある。

以下、各タイプをコーパスの実例を基に、それぞれ受身的な意味機能がどのように表されているかを、各類型の受身性を認定する要因を具体的に検討し、詳細に分析・記述した上で、さらに受身文との交替可否にも言及し、<受影型>の受身の典型・非典型を取り出すことなどを目的とする。第四-(1)章以下の構成は次のようになる。

第四-(2)章では、<恩恵的受影型>を、第四-(3)章では、<非恩恵的受影型>と<中立型>を考察する。最後、第四章-(2)と(3)の考察を通じ、各下位類型の受身的な意味・機能を認定する要因を、受身文との交替可否による受身機能を持つ典型・非典型的なタイプを抽出する。

第四章-(2) 恩恵的受影型テモラウ文の受身的な意味・用法 と共に存する言語形式

1. はじめに

本章の目的は、BCCWJ の実例を基に、テモラウ主体であるガ格が、動作主の行為に直接影響される受身的な意味機能を示す＜恩恵的受影型＞テモラウ文を対象に、受身的な意味機能を認定する要因を抽出することである。

これまで、テモラウ文には、受身的な機能で意味的には恩恵的な用法が存在すると、山田(2004)などの研究によって明らかにされているが、使役的な機能と対象的に論じられることが多く、コーパスという大量な実例を基にした受身的な意味機能を持つテモラウの様々な受身的な要因を詳細に記述することが少ないようである。

そこで、ガ格を対象に意図的に生じた動作主の行為は、ガ格主体の立場からすると、直接影響されているタイプであり、本章では、＜直接受影＞と表現する。これは、「直接受身」の「直接」とは区別して使う。＜直接受影＞と表現しても、中には、直接構造と間接構造が含まれる。このような直接受影のタイプを研究対象にし、意味・共存する言語形式・語彙といった角度から考察し、ガ格主体は非働きかけで、＜恩恵的受影型＞だと認定できる要因を抽出して詳細に記述することである。

2. 先行研究の恩恵的受影型テモラウ文との比較

山田(2004)では、働きかけ性のない恩恵的意味を持つテモラウの用法を「単純受影的テモラウ受益文」と位置づけ、「構造的な受影者から動作主に意図も作用もない用法」とあると定義している。次は、その例である。

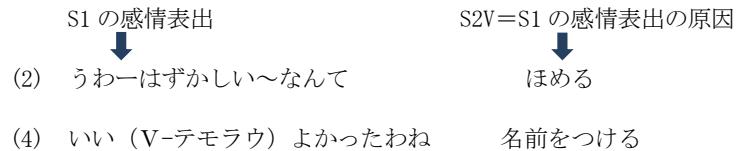
- (1) 辞めてほしいと思っていた人に、思いがけなく辞めてもらったことで、直子は少し
気も晴れた。(山田 2004:122)
- (2) うわーはずかしい。先生に踊りをほめていただくなんて。(山田 2004:126)
- (3) そう言っていただいてうれしい、と陶さんは体を折ってほほ笑んだ。(山田 2004:126)
- (4) (赤ん坊に)よかったですね。いい名前をつけてもらって。(山田 2004:126)

そして、複文のテ節の前件が後件で示す感情を持つ原因となった場合、テ節のテモラウ

¹⁸ 波線は、ガ格の感情表出に、二重下線は、V-テモラウで表される事態に、直線は、動作主やガ格主体の変化に、それぞれに引いている。

文は必ず単純受影だと解釈できると主張し、副詞「思わず」と共起しやすい特徴も指摘している。山田が指摘する複文の構成特徴を、本論でもテモラウ文の受身的な要因として検討していきたい。山田(2004)の単純受影の文と文の連結的な特徴を次のタイプIのように分析できる。

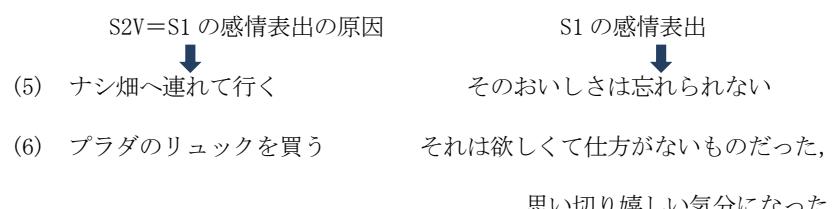
山田(2004)の例 タイプI <前件{S1の感情表出}+後件{V-テモラウ=S2V=S1の感情表出の原因}>



S2Vは、ニ格による行為であり、それがS1(ガ格)の感情表出の原因となっているわけである。このようなテモラウ文は、受身的な機能を有すると山田が指摘している。筆者もこれに賛同し、<恩恵的受影型>テモラウ文の受身的な要因を示す一つの特徴と見ている。

山田が指摘する<恩恵的受影型>テモラウ文の受身的な要因に対して、今回、BCCWJから用例(5)(6)のような、V-テモラウで表される事実が後件のS1(ガ格)の恩恵的な感情表出のきっかけとなるタイプII<前件{V-テモラウ=S2V=S1の感情表出の原因}+後件{S1の感情表出}>と、用例(7)のような、V-テモラウの事実が後件のS1の新出状況のきっかけとなるタイプIII<前件{V-テモラウ=S2V=S1の新出状況のきっかけ}+後件{S1の新出状況}>といったものも抽出することができた。文と文の連結的な特徴をタイプIと同様に分析でき、次のようにテモラウ文の恩恵型の受身的要因としてまとめられる。

タイプII <前件{V-テモラウ=S2V=S1の感情表出の原因}+後件{S1の感情表出}>



(5) 島田さんですが、ふるさとで公演は初めてでした。「満州から引き上げてきたとき、大郷のナシ畑へ連れて行ってもらった。そのときの『二十世紀』のおいしさは忘れられない」と当時の思い出を披露。ユーモアを交えた語り口で会場の笑いを誘いながら、クラシックや童謡、歌謡曲など、幅広いレパートリーで観客を楽しませました。

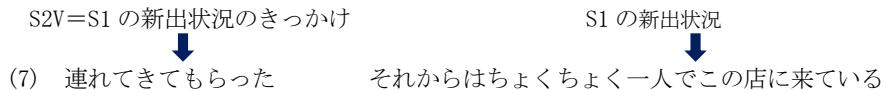
(OP45_00001『南区役所だより「みなみ風」』新潟県新潟市南区, 2008)

(6) 真澄は、それまで食べたことのないような料理の数々を口にして、幸福な気分になっていた。食事の後で、アーケード街に行った。プラダのリュックを買ってもらった。

それは真澄が欲しくて仕方がないものだったので、思い切り嬉しい気分になった。

(PB29_00322 牛次郎(著)『魅惑の姿態』徳間書店, 2002)

タイプIII<前件{V-テモラウ=S2V=S1 の新出状況のきっかけ}+後件{S1 の新出状況}>



(7) 店内は長いカウンターとテーブル席が二席。中年のママと手伝いの若い女二人でやっている。「噂なんだけど」ロックグラスを傾ける舞が口を開いた。「吉永さん、まったく動きが取れないでいるみたいね」「どういうこと?」由加里は訊き返した。この店には舞に連れてきてもらった。舞は以前、一度椎名に連れてきてもらったそうだ。それからはちょくちょく一人でこの店に来ているようで、店のママともすっかり打ち解けた感じでいる。(PB19_00214 小川竜生(著)『沸点』光文社, 2001)

先行研究でもBCCWJの実例でも、V-テモラウのVという行為が動作主であるニ格が行って、それがきっかけとして、ガ格への直接利益的事態(→S2V起因のS1直接利益的事態)が生じたわけである。山田の指摘も含めて、恩恵型の受身的な要因を示す文の特徴であり、改めて次のようにまとめられる。

恩恵型受身的な機能を示す複文形式(S2V起因のS1直接利益的事態)

{ 山田(2004)… I <前件{S1の感情表出}+後件{V-テモラウ=S2V=S1の感情表出の原因}>
本調査…… II <前件{V-テモラウ=S2V=S1の感情表出の原因}+後件{S1の感情表出}>
III <前件{V-テモラウ=S2V=S1の新出状況のきっかけ}+後件{S1の新出状況}>

テモラウ文と受身文の交替について、山田(2004:132)では「単純受影テモラウ受益文とソトの受身文は、恩恵という意味を捨象すれば重なる所が大きい」と指摘した。李(2006:84)では、テモラウ文と受身文は名詞句(ニ格)が有情物であり、動詞は要求応諾性が弱く恩恵的要素が強ければ、交替の可能性が高くなると主張している。本論は先行研究の指摘を、コーパスを通して検証し、受身文と交替できる条件について具体的な分析案を提示したい。

今回のBCCWJの考察では、動作主が組織になっている受影型のタイプも存在すると分かった。このような例について、先行研究はあまり触れてない。また、文末形式テモラタのガ格受け手にとっての+事態が生じる実例数が圧倒的に多い結果も得られ、これもテモラウ文の恩恵性という基本的な特徴に合致する結果になった。そして、<非恩恵的受影型>のように、<恩恵的受影型>もプラス的な言語形式(+形式)が存在し、山田の副詞と複

文的な要因(タイプI)以外に、コーパスの実例から受身的な要因を文の意味・共存する言語形式・副詞・動詞などから観察できる。つまり、先行研究が示している以上に、BCCWJの実例では受身的な要因をバラエティー豊かに示されている。以下、実例に基づき、<恩恵的受影型>の受身的な要因を、意味・共存する言語形式・語といったレベルから考察していきたい。

3. <恩恵的受影型>の受身的な要因

以下では、<恩恵的受影型>テモラウ文は、コーパスの実例を基に、受身的な意味機能をどのように表されているかを考察していきたい。

3.1 意味レベルの考察

<受影型>のニ格は、<依頼型>の動作主のように、指示の受け手と同時に行為の動作主でもある二重役割を担うニ格とは役割が異なるため、働きかけ性のある<依頼型>と文の構成も異なると思われる。以下、<恩恵的受影型>の実態を、まず、様々な意味の関連性から考察していく。その上、受身文との交替、テクレル文との交替も検討する。ただ、以下、「テクレル」に交替可能(→○)としてあるのは、当該の文の構造そのままで交替が可能であるという意味ではない。当該の文が表している事態・意味内容に対して、「テクレル」に交替させることが可能という意味である。

3.1.1 S2V 先行型

この節で取り上げる<恩恵的受影型>のタイプは、動作主であるニ格の行為を示すV-テモラウ事態が先に生じ、それが原因(→S2V 起因)で、新たな発見のきっかけとなった身の回りに変化が生じたと、ガ格主体が恩恵的に捉えているのである。これを、動作主行為先行型と仮称し、<S2V 先行型>と仮に示す。S2V 先行型が起因となるテモラウ主体のであるガ格主体の直接利益的事態が生じたので、<動作主行為先行型が起因となるテモラウ主体の直接利益的事態>であり、<S2V 先行型の S1 直接利益的事態>と示す。いくつかのタイプが存在するので、実例を通して具体的に分析していく。

3.1.1.1 S2V 先行型の感情表出

S2V 先行型の感情表出とは、動作主行為先行型によるテモラウ主体の感情表出の意味である。テモラウ主体の感情表出の原因となる S2V 先行型事態は、実例で示すと、「梨畠に連

れて行ってもらう」「アーケード街に行った」といった事態に該当する。ガ格主体はS2V先行型事態の直接受影者となっている。そして、ニ格の行為によって、結果として、用例(5a)では「おいしい梨が食べられて、そのおいしさは今も忘れられない」、用例(6a)では「欲しくて仕方がないものを手に入れた」と、ガ格主体の予想外の利益が生じたと、意外な恩恵的出来事を得た喜びの心境を語っている文脈が、後続しているのが特徴として指摘できる。<依頼型>のような、ニ格への働きかけを示す文脈も一切存在せず、非働きかけの<恩恵的受影型>と判断できる。他のタイプと区別するため、動作主行為先行型によるテモラウ主体の感情表出を<S2V先行型のS1感情表出>と示し、以下は個々の実例である。

I. 連れて行ってもらった

(再掲 5)a. 島田さんですが、ふるさとで公演は初めてでした。「満州から引き上げてきたとき、大郷のナシ畠へ連れて行ってもらった。そのときの『二十世紀』のおいしさは忘れられない」と当時の思い出を披露。(OP45_00001『南区役所だより「みなみ風』』新潟県新潟市南区、2008)

b. (×)満州から引き上げてきたとき、大郷のナシ畠へ連れて行かれた。{(○) 連れ
て行ってくれた} そのときの『二十世紀』のおいしさは忘れられない。

上記、「連れて行ってもらった」の後文に、「そのときの『二十世紀』のおいしさは忘れられない」と、ガ格の意外な体験を恩恵的に語っている。文脈からして、「連れて行ってもらった」のV-テモラウで表される事態に対して、ガ格は受身的であると理解しやすい。

II. 買ってもらった

(再掲 6)a. 真澄は、それまで食べたことのないような料理の数々を口にして、幸福な気分になっていた。食事の後で、アーケード街に行った。プラダのリュックを買つ
てもらった。それは真澄が欲しくて仕方がないものだったので、思い切り嬉しい気分になった。(PB29_00322 牛次郎(著)『魅惑の姿態』徳間書店、2002)

b. (×)食事の後で、アーケード街に行った。プラダのリュックを買われた。{(○) 買
ってくれた} それは真澄が欲しくて仕方がないものだったので、思い切り嬉しい気分になった。

用例(6a)の「買ってもらった」行為も「連れて行ってもらった」と同様で、働きかけようと思えば働きかけられる事態であるが、それにも拘らずガ格非働きかけの下で行われた。そして、後文に「欲しくて仕方がないものだったので、思い切り嬉しい気分になった」と、動作主が引き起こした事態は、受け手のガ格にとって意外であり、思い切りうれしくなつ

たのである。つまり、本来、ガ格自身の状況からすれば到達不可能な事態を、ニ格によつて実現できたのである。動作主が引き起こした事態は、受け手のガ格主体の思惑心理に合致され、ガ格主体の意外な喜びの心境が語られている。

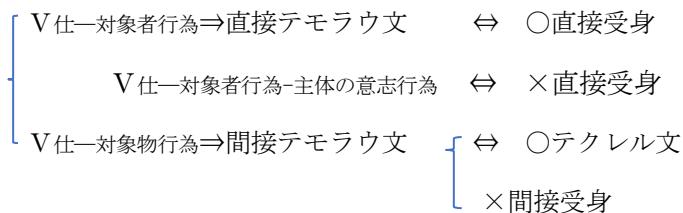
用例(5a) (6a)のV-テモラウで表される事態「連れて行ってもらった」「食事の後で、アーケード街に行った」の発生は、受け手のガ格主体にとってそれほど直接的な恩恵に結び付かない事態であり、悪くも良くもない中立的な事態であるが、動作主とともに行動することによって、直接利益に関わる恩恵的な事態になったのである。<S2V先行型が起因のS1直接利益的事態>であり、ガ格主体にとって、いずれも直接受益する受身的な事態と理解しやすい。後文にはガ格受け手の意外さ嬉しさといった感情表出を示す文脈が続いているのが特徴的である。これは、文の前後の意味の繋がりに基づく受身性の判断である。

受身文との交替について、後文の「その時の二十世紀のおいしさは忘れられない」ように、ガ格主体にとってのプラス的な事態が生じる場合、受身文に交替して、文の繋がりが自然かを検討する。「買う」は、「プラダのリュック」を対象に行われた動作主の行為を示す動詞である。このタイプの動詞を<V仕一対象物行為>と仮に示す。「仕」は仕手である「動作主」の意味であり、V仕一対象物行為は、動作主が対象となる物に対して行われた行為の意味を表す。つまり、動作主の行為は、直接ガ格主体を対象に影響を及ぼすものではなく、物を対象に生じている。したがって、テモラウのガ格主体との関連性を失うことになる。それに対し、「連れて行ってもらう」の場合は、直接、対象者ガ格を対象にした動作主の行為であり、<V仕一対象者行為>と仮に示す。このタイプの動詞は、ガ格主体を対象とする直接的な行為を示す。したがって、後者のタイプであるV仕一対象者行為は、直接テモラウ文が形成されるのに対して、前者のV仕一対象物行為は、間接テモラウ文が形成される。

また、テモラウ文は、恩恵でも非恩恵でも、基本的にガ格を対象に行われた行為であるため、用例(6a)は、受身の意味を示すと同時に、V-テモラウで表される事態を主体と関連性を結び付くには、V仕一対象物行為を、V仕一対象者行為に転換する必要がある。つまり、テモラウ文と同等な授受性・恩恵性・受身性を示すのに、受身文よりテクレル文との交替が、原文であるテモラウの受身性により近い意味を示せるからである。

用例(5a)の「連れて行ってもらった」は、ガ格主体が動作主と共に行動するタイプであり、主体について行く意志にも関わる動詞である。このタイプの動詞は、ニ格の動作主に影響されるガ格主体の意志を伴う主体の位置変化行為を示す動詞である。このタイプの動詞を、<V仕一対象者行為-主体の意志行為>で示し、受身文に転換すると、ガ格主体の意志に損

なう事態になる。したがって、<恩恵的受影型>の用例(5a) (6a)は、文脈から見て働きかけ性があるとは考えられにくく、受身と対応・並行的な意味を持つが、<非恩恵的受影型>のように、そのまま受身文と交替できるか言わると、動詞のタイプによって異なると指摘できる。受身性を失わず、V-テモラウで表される事態がガ格主体と関連性のある事態を示すのに、次のように関連の諸構文と交替できると考えられる。



さらに、テクレル文との交替について、用例(5a) (6a)のテモラウ文では、二格の動作主が省略されている。これが原因で文末のテモラウがテクレルと交替しやすくなつたのである。

3.1.1.2 S2V 先行型の新出状況

S2V 先行型の新出状況は、動作主行為先行型によるテモラウ主体の新出状況の意味である。テモラウ主体の新出状況のきっかけとなる事態は、下記の実例で示すと、「連れていつてもらった」「連れてきてもらった」といった事態である。これらの事態の発生は、結果として、用例(7a)では「その後ちよくちよく一人で来るようになった」、用例(8a)では「“友だちの輪”が広がった」と、後文にはガ格主体にとっての新たな状況が展開されている。そして、ガ格受け手にとって、直接受影的な直接利益的事態であると分かる。用例(9a)も、上司がS1(ガ格)を連れて行くことによって、かつて行った韓国パブにママの姪もそこで働いていたと、動作主の行為を巻き込むことによって、ガ格主体にとっての新たな事態の発見に繋がつたのである。動作主行為先行型によるテモラウ主体の新出状況を<S2V 先行型のS1 新出状況>と仮に示す。

(再掲 7)a. 店内は長いカウンターとテーブル席が二席。中年のママと手伝いの若い女二人でやっている。「噂なんだけど」ロックグラスを傾ける舞が口を開いた。「吉永さん、まったく動きが取れないでいるみたいね」「どういうこと?」由加里は訊き返した。この店には舞に連れてもらつた。舞は以前、一度椎名に連れてきてもらったそうだ。それからはちよくちよく一人でこの店に来ているようで、店のママともすっかり打ち解けた感じでいる。(PB19_00214 小川竜生(著)『沸点』光文

社, 2001)

b. (○) 舞は以前、一度椎名に連れてこられた {(×) 連れてってくれた} そうだ。それからはちょくちょく一人でこの店に来ているようで、店のママともすっかり打ち解けた感じでいる。

(8) a. その後、このことがきっかけのひとつとなって、陽水さんに飲みに連れて行っても
らった。結果的に“友だちの輪”が本当に広がったわけだ。 (LBp0_00003 大槻ケンヂ(著)
『大槻ケンヂの読みだおれ』イースト・プレス, 2001)

b. (×) このことがきっかけのひとつとなって、陽水さんに飲みに連れて行かれた。
{(○) 連れて行ってくれた。} 結果的に“友だちの輪”が本当に広がったわけだ。

(9) a. 数年前、上司に韓国パブに連れて行ってもらった。そこのママに姪も韓国パブで働
いていると言わされた。よく聞くと私が当時行っていた店にその姪は勤めていた。
(OC14_12150Yahoo!知恵袋, 2005)

b. (×) 数年前、上司に韓国パブに連れて行かれた。{(○) 連れて行ってくれた} そ
このママに姪も韓国パブで働いていると言わされた。よく聞くと私が当時行っていた店
にその姪は勤めていた。

用例(7a)～(9a)のいずれの文脈においても、動作主の行為に対する主体の働きかけは存在しない直接テモラウ文になる。また、後文の「それからはちょくちょく一人でこの店に来ている」「結果的に“友だちの輪”が本当に広がったわけだ」は、恩恵的事態であるため、構文的には、そのままガ格主体への非恩恵的事態を示すことがメインである受身文と交替しにくいと思われる。ただし、用例(7a)は受身文「連れてこられた」と対応しやすいが、「連れててくれた」とは交替できないと思われる。その原因是、「連れて来る」と「クレル」の方向性が相反するからである。したがって方向性の相反しない用例(8a)の「連れて行ってもらった」では、「連れていってくれた」と言い換えられる。そして、用例(9a)のように、V-テモラウの後文にはそれほどのマイナス性が生じていない場合、受身文と交替しにくいと見られる。つまり、前述したように「連れて行ってもらった」は、ガ格主体が動作主と共に行動し、主体の意志に関わる行為であるため、後文にマイナス性が生じない場合は、受身文と交替しにくいと見られるのである。

3.1.1.3 本節のまとめ

以上、文と文の間の何らかの意味の関連性から<恩恵的受影型>の受身の要因を分析し

た。S2V 先行型の S1 直接利益的事は、「連れて行ってもらう」「買ってもらう」のように、いずれも働きかけが可能な事態であり、「勝手に～てもらつては困る」ような、確実に非働きかけの意味を示す言語形式が存在しない。ガ格受け手にとっての<+事態>であるため、恩恵性の側面では<依頼型>に類似し、働きかけ性が曖昧に思われる可能性がある。しかし、文脈にはガ格主体の働きかけの意図を示す内容は一切見られないし、S2V 先行型の事態であり、それが後件のガ格主体の意外な気持ちといった感情表出と新たな事態への展開のきっかけとなっている。したがって、ガ格が受動事態の受け手としての存在だと判断できる。これは、<恩恵的受影型>の独特的な特徴ともいえる。考察によって、前件と後件はいずれも因果関係が存在し、複文的事態になっている。S2V 先行型の複文的な受身の要因を、次の二つにまとめられる。



3.1.2 S2V 後行型

S2V 後行型とは、テモラウ主体が起因となる動作主行為後行型であり、ガ格 S1 の状況が起因して、ニ格が行為を引き起こす(→S2V 後行型)ことによって、S1 直接利益的事態に繋がるものであり、<S1 状況起因の S2V 後行型>と仮に示す。中には、<S1-状況から S1+状況への展開>と<S1+状況から S1+状況への展開>の二タイプが存在する。前者は、逆説の文が前件になり、ガ格主体の感謝を述べるのが特徴的であるのに対し、後者は、順接の文で、結果に関するガ格の驚きを述べるのが特徴的である。

3.1.2.1 テモラウ主体の-状況から+状況への展開

<テモラウ主体の-状況から+状況への展開>とは、ガ格主体の一状況が起因となる S2V 後行型であって、それによってガ格主体の+状況へ展開するものである。<S1-状況の S2V 後行型の S1+状況への展開>を略し、次の用例(10a)～(17a)は実例に当たる。

- (10) a. クレオパトラは、ナイル河に通じる運河で不意の高波に襲われ、溺れかかったのを¹⁹、アシラスに助けてもらった。(LBe9_00205 山崎晴哉(著)『ナイルの恋』集英社, 1990)
- b. (○) クレオパトラは、ナイル河に通じる運河で不意の高波に襲われ、溺れかかったのを、アシラスに助けられた。{(○)→が助けてくれた}

¹⁹ 点線は、ガ格の状況に引いている。一状況、+状況などの状況が含まれる。

- (11) a. 飲んで帰る途中に偶然知り合った。ちんぴらに絡まれているところを助けてもらつた上に、家まで送りとどけてもらった。しばらく泊めて欲しいというので、恩返しのつもりで三泊させた」(PB59_00067 伊岡瞬(著)『いつか、虹の向こうへ』角川書店, 2005)
- b. (○)ちんぴらに絡まれているところを助けられた {(○)助けてくれた} 上に、家まで送りとどけてくれた。{(×)送りとどけられた}
- (12) a. 姿勢を正した一ように、俺には見えた。「ミー、子供のころ、巣から落ちた。それ、助けてもらった。恩人? そういう意味?」「ああ、そうだ」(LB19_00233 宮部みゆき(著)『心とろかすような』東京創元社, 1997)
- b. (○)子供のころ、巣から落ちた。それ、助けてくれた恩人 {(×)助けられた恩人} ?
- (13) a. 隣村からの帰り道、カトリはいじめっ子に取り囲まれた。困ったなと思ったが、たまたま通りかかった馬車に助けてもらった。客は愛想のいいお婆さんだった。(PB49_00465 鏡 京介(著)『牧場の少女カトリ』竹書房, 2004)
- b. (○)カトリはいじめっ子に取り囲まれた。困ったなと思ったが、たまたま通りかかった馬車に助けられた。{(×)馬車が助けてくれた}
- (14) a. 意地と気合が体のすみずみまでいきわたっているような男である。「あぶないところを、助けてもらった。有難う。恩に着るよ」甚右衛門は息について、礼を言った。(PB49_00219 南原幹雄(著)『吉原おんな繁昌記』学習研究社, 2004)
- b. (○)あぶないところを、助けてくださって {(×)助けられて}, 有難う。恩に着るよ。
- (15) a. 野球の不思議さを感じた最終学年 練習に明け暮れる大学生活だったが、たまの休日には長嶋さんや杉浦さんにいろいろな場所に連れて行ってもらった。立教の大先輩で、昭和二十年代に「野球小僧」というヒット曲を歌っていた灰田勝彦さんの楽屋におじゃましたり、映画俳優の佐野周二さん(テレビで活躍している関口宏の父)の家を訪ね、腹いっぱいご馳走になったりした。公私ともにお世話になった長嶋さんも巨人入りが決まり、いよいよ卒業が近づいてきたある日のこと。「明日で合宿所を出る。本当に世話になったな。どこか思い出に残る所へ行こう」と、長嶋さんが誘ってくれた。銀座にでも連れて行ってもらえるのかと、荒井邦夫マネージャーと楽しみにしていたら、着いた所は上野動物園だった。(PB27_00053 片岡宏雄(著)『スカウト物語』健康ジャーナル社, 2002)
- b. (×)練習に明け暮れる大学生活だったが、たまの休日には長嶋さんや杉浦さんにい

いろいろな場所に連れて行かれた。{(○) 連れて行ってくれた}

- (16) a. 五年前，在胎期間二十三週，手のひらにのるような大きさで生まれた双子の命を救ってもらった。先端医療の恩恵に，言葉に尽くせぬほど感謝の思いはある。

(PM21_00070 河原ノリエ(著)『中央公論』中央公論新社, 2002)

- b. (○) 手のひらにのるような大きさで生まれた双子の命を救われた。{(○) 命を救つてくれた}

- (17) a. 森重君へこの間はどうもありがとう。勝手に泣くのをつきあつてもらって，しかも遅くまで時間かかって。あんなになるとは思わへんかった。その後は驚くほどケロッとしていました。(PB39_00533 但馬裕子(著)『ひかりのなかへ』アルタ出版, 2003)

- b. (×) 勝手に泣くのをつきあわされて {(○) つきあつてくれて}，しかも遅くまで時間かかって。あんなになるとは思わへんかった。

このタイプの S2V 後行型は，ほとんどがガ格-状況²⁰が有利な状況（ガ格+状況）への展開の前触れとして，V-テモラウに前接し，それが原因で後接の二格の行為を示すV-テモラウ事態によって不利な状況から脱して，予想外の+状況に変わったのである。したがって事態は受け手のガ格にとって，偶然発生した事態が多く，主体の予想通りではない事態の運び方をしている。S2V 先行型と異なるのは逆接の文構造である。また，同じV-テモラウで表される事態である＜依頼型＞とも文構造が異なっている。

<依頼型>

- (18) 陶々子が中に入って，歌を詠むので許してやってくれと頼み，遺秩はふるえながら歌を詠んで助けてもらった。どちらかというと，まじめにきっちりした学究肌というよりも，ちょっとお間抜けタイプなのだ。(PB30_00040 群ようこ(著)『浮世道場』講談社, 2003)

<依頼型>の用例(18)は，前件の「～頼み」と後件のV-テモラウが順接になっている。そして前件には「頼む」という S1(ガ格)の働きかけの行為も存在し，働きかけ性が明確である。それに対し<受影型>の各例は，逆説の意を組み込んだ従属節が含まれるタイプがほとんどであり，思いがけず動作主によって不利な状況から助けられ，働きかけ性がない解釈が妥当だと考えられる。文中には，用例(13a)「愛想のいいお婆さん」，用例(14a)「有難う。恩に着るよ」といった動作主に対するプラス的な評価や，感謝の気持ちを述べる表現も特徴的である。つまり，文全体は受身的な意味で，ガ格受け手にとっての恩恵的な事

²⁰ ガ格-状況とは，「溺れかかった・ちんぴらに絡まれている・巣から落ちた・困っていた・練習に明け暮れる大学生活・泣く」といった主体にとっての不利な状況をいう。

態が生じていると分かる。

受身文との交替は、動詞によって異なる。「助ける・救う」も対象者を中心に行われた動作主の行為を示すV仕一対象者行為のタイプの動詞である。直接ガ格受け手に影響を及ぼす行為であり、受け手がいずれも不利な状況から変化が生じており、直接受身に対応する直接テモラウ文である。また、「助けてもらった・救ってもらった」は、動作主の助け行為に、主体の意志や許可に関わらない行為（V仕一対象者行為－主体の非意志的行為）であるため、そのまま受身文に転換しやすいと見る。それに対し、同じ直接構造の用例(11a)の「送りとどけて(以下、届けて)もらった」は、V仕一対象者行為とV仕一対象物行為の両方のタイプが存在する。同じV仕一対象者行為の役割を担っている他の動詞と比べ、「送り届けてもらった」はS2V型でありながら、主体の意志による位置変化の行為でもある。用例(17a)の「つきあってもらって」もV仕一対象者行為のタイプであるが、位置変化を示すものではなく、主体の意志を示すタイプになる。したがって「連れて行ってもらった」と同様に、「送り届けられた・つきあわされて」と受身文に交替すると、主体の意志に伴う動作主の行為（→V仕一対象者行為－主体の意志行為）である主体の意志性が失われ、恩恵的にマイナス性が生じやすい。寧ろ、テクレル・テクダサルとの交替は、受身的で主体にとっての恩恵的事態であり、主体の感謝の意思も変わりなく示すことができる。

用例(12)「助けてもらった恩人」のように、「V-テモラウ+N」構造が、動作主へのプラス的な評価を示す名詞修飾節になっている。用例(14)「あぶないところを、助けてもらった。有難う。恩に着るよ」のように、V-テモラウ節の後に「有難う。恩に着るよ」といった主体の感謝の意を示す感情表出を表明している。このような場合は、受身文より、テクレルやテクダサルとの交替が待遇的、恩恵的、受身的な面から見てもより適切に思われる。したがって「助けてもらった」は、用例(10)(11)(13)といった客観的な陳述文が受身文と交替しやすい。その場における行為の受け手の感謝の気持ちを伝える場合、ガ格受け手に影響を及ぼすV仕一対象者行為－主体の非意志的行為を示す動詞であっても、受身文に交替しにくい場合がある。この原因是、「助けて！」は「可愛がって！」「命を救って！」よりも、働きかけが可能であると同時に行為の達成度合いも「可愛がる」と「命を救う」より高いからだと思われる。

3.1.2.2 テモラウ主体の+状況から+状況への発展

<テモラウ主体の+状況から+状況への発展>のタイプでは、用例(19)のように、「八冊

の本の販売数」と「彼女の秀逸な作品」はガ格主体にとっての+状況となる。その+状況がきっかけで「会社からは数度にわたり、彼女の秀逸な作品を褒め称える赤い薔薇が送られてきた」や、「報酬まで上げてもらった」と、動作主がガ格主体に対する一連の行為を引き起こしたのである。その行為はさらにガ格主体にとってのプラス的な事態である。<S1+状況の S2V 後行型の S1+状況への発展>と略して示し、S1 が一状況の S2V 後行型と異なるのは、順接の文になっている。そして、意外な恩恵的な結果が生じたと、ガ格主体の驚きを、取り立て詞「まで」を使って述べている²¹。報酬は、ガ格主体と切り離すことが可能であり、持ち主の受身に対応する持ち主のテモラウ文²²である。間接受身に類似する側面があるため、受身文との交替は一意味が生じてしまう。それより、テモラウ文との交替がより適切に思われるが、意味の違いが存在する。

- (19) a. 八冊の本の販売数は驚異的だったらしい。会社からは数度にわたり、彼女の秀逸な作品を褒め称える赤い薔薇が送られてきた。そればかりか報酬まで²³上げてもらつた。そのおかげで彼女は今こうしてニューヨークに移り住み、絵の仕事だけで暮らしているというわけだ。 (PB49_00479 レベッカ・ワインターズ(著)/高山恵(訳)『大富豪と女神』ハーレクイン, 2004)
- b. (×)会社からは数度にわたり、彼女の秀逸な作品を褒め称える赤い薔薇が送られてきた。そればかりか報酬まで上げられた。{(○)報酬まで上げてくれた}

3.1.3 事態の類型的要因

事態の類型的要因は、事態の持つ働きかけ性から見て、働きかけが不可能なタイプと働きかけが必要としないタイプが存在する。したがってガ格受動的であると判断できると考えられ、実例を通して明らかにしたい。

3.1.3.1 慣例的事態

慣例的事態とは、用例(21a)のように、「毎年恒例の二泊三日の家族旅行にも連れていってもらった。」といった事態が、慣例行事のように常に行われている。ガ格主体は、特に個別的に働きかけを行う必要の少ない事態と見ている。文中には「恒例」「毎年」といった表現との共起が見られる。

²¹ ここに関する分析は、共存する言語形式の側面の考察において、詳細に記述する。

²² 持ち主のテモラウ文に関する説明は、第七章の組織依頼を参照すること。

²³ この部分の点線は、意外な事態である驚きの表現を示す。

(20) a. 私は幼いときから毎年春場所と夏場所（当時は年二場所），両国の旧国技館へ連れていってもらった。私がすぐに好きになったのが，不世出の名力士と謳われた，第三十五代横綱の双葉山定次である。（LBg7_00024 牛場=（靖）彦（著）『大相撲牛場所』びいぶる社，1992）

b. (×) 私は幼いときから毎年春場所と夏場所，両国の旧国技館へ連れて行かれた。
{(○) 連れて行ってくれた} 私がすぐに好きになった（後略）。

(21) a.（前略）子供に留守を任せたら火の不始末とか，なにかしら事故を起こさないとも限らない…。あれこれ心配し始めるときりがなく，日に日に眩しくなる陽射しの街路に作る濃い影が私の中にも忍びこんで広がっていくようだった。こういうときには，さすがに自分の親に対する感謝の念が湧き上がる。今思えば，子供の時分，夏休みはパラダイスだった。（中略）それでも，スイカやアイスクリームがデザートに出てくると大喜びで，ときには庭に出て父と母が見守る中で花火に興じた。毎年恒例の二泊三日の家族旅行にも連れて行ってもらつた。キャンプに行って，さんざん蚊に刺されたこともあった。海水浴にも行った。砂浜で焼き玉蜀黍を食べた。夏の終わりには浴衣を着て縁日に出かけるのが楽しみだった。そんな長閑で平和でなんの不安もない夏休みを太朗にも過ごさせてあげたい。（LBS9_00236 野中柊（著）『ガールミーツボーイ』新潮社，2004）

b. (○) 今思えば，子供の時分，夏休みはパラダイスだった。（中略）ときには庭に出て父と母が見守る中で花火に興じた。毎年恒例の二泊三日の家族旅行にも連れて行かれた。キャンプに行って，さんざん蚊に刺されたこともあった。

(×) 今思えば，子供の時分，夏休みはパラダイスだった。（中略）ときには庭に出て父と母が見守る中で花火に興じた。毎年恒例の二泊三日の家族旅行にも連れて行かれた。{(○) 連れて行ってくれた} キャンプに行って，さんざん蚊に刺されたこともあった。夏の終わりには浴衣を着て縁日に出かけるのが楽しみだった。そんな長閑で平和でなんの不安もない夏休みを太朗にも過ごさせてあげたい。

用例(20a)では，相撲が好きになったのは，連れて行ってもらったから好きになったのである。前件の「両国の旧国技館へ連れていくてもらった」事態は，後件の「私がすぐに好きになった」というV-テモラウで表される事態がきっかけとなるガ格の状況変化が生じている。したがって，主体の働きかけによって得られた結果ではないのが分かる。そして，恩恵的受影事態だと，ガ格主体が捉えている。用例(21a)は，V-テモラウで表される事態

である「毎年恒例の二泊三日の家族旅行にも連れていってもらった」前後の文脈には、ガ格の恩恵的な気持ちを示すものである「今思えば、子供の時分、夏休みはパラダイスだった」と「そんな長閑で平和でなんの不安もない夏休みを太朗にも過ごさせてあげたい」が語られている。V-テモラウ事態は、ガ格の感謝の気持ちが芽生えたきっかけとなっている。したがって働きかけ性がなく、ガ格にとっての受動事態であると理解できる。

受身文との交替について、前述したように、「連れて行ってもらった」は動作主と共に行動を行うので、ガ格主体の意志が必要となる。そして、用例(20a) (21a)では、後件には「私がすぐに好きになった」といった、前件のテモラウ事態に対するガ格のプラス的な心境も語っているので、受身文との交替は違和感がある。用例(21a)の後件のように「キャンプに行って、さんざん蚊に刺された」と、そこで文を切るのであれば、主体にとっての一事態を伴うことになり、受身文と交替しやすくなる。しかし、原文の文末では総じてガ格主体が恩恵的に捉えているため、受身文との交替はやはり違和感が残る。

3.1.3.2 規則的事態

規則的事態とは、規定に従って実現された約束事であり、誰に対しても同様に生じている事態のことをいう。用例(22)の「終身刑になつたらお風呂に入れてもらう」はそれに該当する実例である。働きかけによって達成できる事態ではなく、ある決まりに従って実現する事態である。したがって受影的であり、<規則的事態>と仮称できる。

(22) 殺人犯が終身刑になつたらお風呂に入れてもらう。(LBg9_00162 安野光雅(著)『空想書房』平凡社, 1992)

このタイプは前文に「になると」「になつたら」「すると」といった条件節と共に起しやすいと見られる。ここでいう状態は、主体の変化後の状態²⁴を指す。その条件になるにつれてV-テモラウで表される事態が生じやすい。条件節でも様々あって、用例(23)～(26)のように<依頼型><両義型><自得型>にも見られる。したがって、働きかけ性を決定する絶対的な文法要素にはならない。やはり終身刑に対する規則が文の働きかけ性を決めている。

<依頼型>

(23) 二千人を超える招待客は満喫しているように見えた。後半になると、地元の人々に自由に入場してもらい、会場は盛り上がった。(LBr6_00010 佐佐木吉之助(著)『蒲田戦記』文藝春秋, 2003)

²⁴ 日本語記述文法研究会(2009:59)を参照のこと。

(24) きっと筋肉が固まっているのではぐれるのに時間がかかるんだろうな～手がよくなつたら背中も手もみなどをやってもらえる (0Y07_00152Yahoo!ブログ, 2008)

<両義型>

(25) 小さいころから子ども部屋を共有してきた姉妹が、十五歳と十三歳になるとそれぞれ個室を与えてもらった。姉は自分の部屋を「天国」と呼んでいる。そこは自分だけの場所、外界からの隠れ家だ。 (LBr3_00134 リチャード・ハイマン(著)/高橋愛(訳)『こんなとき 10代にどう言えばいいの！？』小学館プロダクション, 2003)

<自得型>

(26) 「親はずっと生きていてやれない。だから十八歳になつたら親元を離れて大学へ行き世間に育ててもらひなさい」ということだった。 (PM43_00039 大見忠弘(著)『財界』財界研究所, 2004)

3.1.3.3 慣習的事態

慣習的事態とは、社会通念に適って行われる事態を指す。実例でいうと「誕生日会を開いてもらった・(誕生日)プレゼントをしてもらった・胴上げしてもらった・食事を誘ってもらった」といった事態に該当する。通常、「送別会を開いてくれ！」「胴上げしてくれ！」と、相手に働きかけをするというより、関係者が自ら行ってくれる事態である。用例(29a)の「食事をさそってもらった」は働きかけが可能であるが、やはり相手からの誘いが通常である。実例でも友人からの食事の誘い掛けであると、誘い手の友人は「カラ格」で示している。このように、動作主を中心に行われるタイプのV-テモラウ事態を、<S2 中心型の事態>と仮に示す。いずれも動作主が意図的にテモラウ主体に対して行った事態である。

(27) a. 横須賀海兵団に召集（丙種）されたときに戦時統制で閉めた店を開けてもらい友人たちに送別会をしてもらった。もう、物のないときだったが、私が工面したので酒と食い物は充分にあった。 (LBf5_00005 金子信雄(著)『金子信雄の楽しい夕食』実業之日本社, 1991)

b. (×) 横須賀海兵団に召集（丙種）されたときに戦時統制で閉めた店を開けられ友人たちに送別会をされた。 { (○) 送別会をしてくれた }

(28) a. 久しぶりの優勝！何年ぶりかな？試合後、みんなに胴上げしてもらった。嬉しくて泣いちゃった。ばれてないかな？みんなありがとう！スラム最高だね。
(0Y15_13984Yahoo!ブログ 2008)

b. (○) 何年ぶりかな？試合後、みんなに胴上げされた。 { (○) → が 胴上げしてくれた }

嬉しくて、泣いちゃった。

(29) a. 親しい友人から, 家族で食事に行くので, 一緒に行かないかとさそってもらった。

(PB13_00506 吉沢久子(著)『私の気ままな老いじたく』主婦の友社;角川書店(発売), 2001)

b. (○) 親しい友人から, 家族で食事に行くので, 一緒に行かないかと誘われた。{(○)
誘ってくれた}

(30) a. 私は私専用の車として中古のホンダ・シティーを持っている。二年前に, 私はそれを女友達からほとんどただ同然で譲ってもらった。バンパーもへこんでいるし, 型も古い。ところどころ錆も浮いている。もうかれこれ十五万キロくらい走っている。

(OB3X_00266 村上春樹(著)『TV ピープル』文芸春秋, 1990)

b. (○) 私は私専用の車として中古のホンダ・シティーを持っている。二年前に, 私はそれを女友達からほとんどただ同然で譲られた。{(○) 調ってくれた} バンパーもへこんでいるし, 型も古い。ところどころ錆も浮いている。もうかれこれ十五万キロくらい走っている。(OB3X_00266 村上春樹(著)『TV ピープル』文芸春秋, 1990)

上記の例では、社会的な常識から考えて働きかけるべきではないだけではなく、実際の文脈でもガ格の働きかけも見られない。したがって、ガ格にとっての受動的事態である。

受身文との交替について、用例(27a)は受身文「友人たちに送別会をされた。」に交替すると、マイナス性が生じる。したがって、恩恵の意味を示すテクレルとの交替は適切に思われる。用例(28b)の受身文「みんなに胴上げされた」は、主体のいやいやする気持ちが現れてしまう。用例(29a)の「さそってもらった」も「助けてもらった」と同じく、主体の意志を予め問う必要のないV仕一対象者行為一主体の非意志的行為のタイプであり、受身文との交替は自然である。用例(30a)は、テモラウ文の後では「バンパーもへこんでいるし、型も古い。ところどころ錆も浮いている」と、意味的にはガ格主体の一評価を付けている。したがって、受身文との交替は自然に感じられる。一方、ただではないが、「ただ同然と譲ってもらった」と、主体の恩恵的な気持ちもテモラウを用いて表現されている。

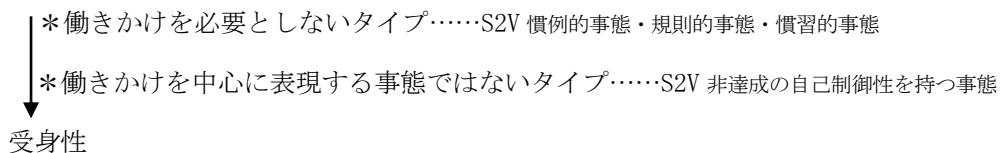
3.1.3.4 S2V過程・非達成の自己制御性を持つ事態の場合

次の用例(31a)のように、「親切にしてもらった」のV-テモラウで表される事態は、「過程の自己制御性」を持つ事態である。3.3.1.1節の「可愛がってもらった」のような事態と同じく、働きかけというより、ガ格受影的に表現するタイプである。「平田さんに親切にされた」と受身文との交替は非恩恵になり、テクレルとの交替が自然になる。

- (31) a. 父ちゃんが、オートバイのシーンをとったとき、けがをしちやつて、平田さんに親切にしてもらつた。「ちょうどよかつた。高校んときの友だちが菱焼酎をおくつてきてくれてさ。平田ちゃん、いける口だろ」(LBen_00018 辻邦(著)『父ちゃんはナンバーワン!』童心社, 1990)
- b. (×) 父ちゃんが、オートバイのシーンをとったとき、けがをしちやつて、平田さんに親切にされた。{(○) 親切にしてくれた}

3.1.3.5 本節のまとめ

以上、慣例的事態、規則的事態、慣習的事態は、S2(ニ格)が引き起こしたV-テモラウ事態の類型に基づく分類である。S2V 慣例的事態・規則的事態・慣習的事態と略す。ガ格の働きかけを必要としないので、受身の要因として考えられる。このうち、「誕生日会を開いてもらった・誕生日プレゼントをしてもらった・胴上げしてもらった・食事をさそつてもらった」のような社会通念に適う慣習的事態は、事態からしてより受身的だと判断できる。「恒例」「毎年」といった表現や「になったら」といった条件節との共起が見られるし、恩恵的事態であるため、ガ格の恩恵的な感情表出が文中に現れることがある。そして、S2V 非達成の自己制御性を持つ事態も、働きかけを中心に表現する事態ではないため、ガ格は常に受影的だと考えられる。



3.1.4 所属組織型動作主²⁵の場合

動作主は個別の人間以外に、ガ格とは所属関係の上位に立つ組織が、動作主のニ格になる実例も存在する。このタイプを<S2 上位に立つ組織型>と仮に示す。このような従属関係に

²⁵ 山田(2004:127)における「動作主の性質」に基づくテモラウ文の許容・受影の分析を考察して、主に、(1)不問(受影);(2)人間以外の動物(許容);(3)有情物を想定しにくい場合(受影)の3つにまとめられる。

(1) (全国から送られてきた本について)いつも使わせてもらっています。 (山田 2004:127)

(2) せっかく熊が魚を捕りに来ているんだから熊に捕ってもらおう。 (同上)

(3) 三日付の読者のサロンを詠み、懐かしい出来事を思い出させてもらった。 (同上-朝日新聞富山版)

本論でいう、ガ格受け手の所属の上位に立つ組織が動作主に該当する場合の分析は、主に(3)有情物を想定しにくい場合(受影)に類似する。

ある場合、動作主に対して行為を引き起こすような働きかけが困難な場合が多い。したがって、下位に属する個別のガ格主体が所属している組織が引き起こしたV-テモラウ事態に対して、受影的な立場にあることが多い。つまり、V-テモラウで表される事態が過程・非達成的であることが多い。用例(32a) (19)は、このタイプの実例である。

(32) a.性格的には当然同調しそうに思えるが、実際は参加しなかった。その理由は「自分等は日本棋院の棋士であり、棋院に育ててもらった。現状不満でも力を合わせて日本棋院を良くすることが大義である」感情に走らない、冷静な一面を持ち合わせているのだ。(LBb7_00011 小西泰三『藤沢秀行』講談社, 1987)

b.自分等は日本棋院の棋士であり、棋院に育てられた。{(○)→が育ててくれた}

用例(32a)は、動作主が「棋院」であるため、棋院で将棋を学んだり、勝負したりすることを「棋院に育ててもらった」と捉えている。直接受身に対応する直接テモラウ文であり、ガ格は完全に受身的な立場にあるので、そのまま受身文に交替できる。

(再掲 19)八冊の本の販売数は驚異的だったらしい。会社からは数度にわたり、彼女の秀逸な作品を褒め称える赤い薔薇が送られてきた。そればかりか報酬まで上げてもらつた。そのおかげで彼女は今こうしてニューヨークに移り住み、絵の仕事だけで暮らしているというわけだ。(PB49_00479 レベッカ・ワインターズ(著)/高山恵(訳)『大富豪と女神』ハーレクイン, 2004)

用例(19)も動作主は組織になっている。褒め称える赤い薔薇の送付と労賃の引き上げは、ガ格の働きかけの結果ではないと、前文の「赤い薔薇が送られてきた」受身文との並列と、「そればかりか～マデ」という取り立て表現との共起によって理解できる。ガ格は非働きかけで、受身文の受け手であると同時に、テモラウの受け手でもあり、S1の状況が原因となる動作主の行為によるガ格への直接利益的事態になっている。

3.2 共存する言語形式からの考察

<恩恵的受影型>の受身の要因は、BCCWJを通して、意味的な観点から考察できるだけではなく、共存する言語形式からも観察することが可能である。意味レベルの考察において、文と文の関連性、事態の性質、動作主の性質といった側面から、<恩恵的受影型>の受身性を探ってみた。そして、受身文・テクレル文との交替可否も検討した。

意味に対して、共存する言語の表現形式からもテモラウ文の受身の要因を抽出することができる。意味と違って、言語形式はガ格非働きかけであることを確実に示すことができ

ると考えられる。以下は、BCCWJ の実例を基に、受身的だと思われる＜恩恵的受影型＞の受身性を詳細に分析する。

3.2.1 V-テモラウ+プラス性の形容詞・感嘆表現

これまで、先行研究では＜非恩恵的受影型＞の代表的な言語形式として「テモラッテハ 困る」を取り上げられている。それに対し、本論の＜恩恵的受影型＞にも典型的な言語形式が存在するとコーパスの観察で分かった。用例(33)の「V-テモラウ+嬉しい+トキタラナイ」、用例(34)の「V-テモラッテハ+感嘆表現(ex, 大はしゃぎ)」は、実際に使われている恩恵的な表現形式になる。統括的にガ格主体にとっての予想外の恩恵的事態が展開していると、文形式を以って示している。したがって、受影型の恩恵型も表現形式から受身性を判断できることになる。そして、このような恩恵的言語形式と共に存するテモラウ文は、典型的な＜恩恵的受影型＞と看做すことができる。

I. V-テモラウ+嬉しい+トキタラナイ

(33) それで私は自分を気の毒な貧乏人と信じていました。ですから、自転車を買ってもらつたときの嬉しさときたらありませんでした。どこに行くのも自転車。(PB47_00187 立川志らく(著)『らくご小僧』新潮社,2004)

II. V-テモラッテハ+感嘆表現(大はしゃぎ)

(34) (前略)職人が働いているのをながめていた。あるいは、結婚しているいとこの宝石箱を見せてもらつては、大はしゃぎで感嘆の声を上げるのだった。(PB49_00128 アミタヴ・ゴーシュ(著)/井坂理穂(訳)『シャドウ・ラインズ』而立書房,2004)

3.2.2 マデV-テモラウ構造

次の用例(35)～(38)は、下記のように「ヲV-テモラウ」という構造から「マデV-テモラウ」という構造になっている。

例) ディスコ代を払ってもらった ⇒ ディスコ代まで払ってもらった

つまり、本来は、目的語「ディスコ代」と述語「払ってもらった」の間に、「ヲ格」の位置に取り立て助詞「まで」を用いて、主体にとって、「まで²⁶」の前の成分は予想外の事態であることを強調している。用例(35)～(37)はこのタイプにあたるのに対して、範囲を示

²⁶庵他(2001:349)では、「まで」を 意外な要素を付け加えたい場合に用いる取り立て表現であり、具体的には、社会通念や予想では考えられないような事態を当然だと思われる事態に付け加える場合には、「まで」を用いるのが適当であると指摘している。

す「まで」(用例38)は、働きかけ性を左右する成分にはならない。用例(38)は、従属節の「頼んで」に基づく働きかけ性の判断になる。

<受影型>

(35) 考えてみれば今夜、泊まる場所があるわけではなかった。夕食や酒をご馳走になり、ディスコ代まで払ってもらった。しかしここに泊めてもらうことは別だった。

(LBo9_00065 下川裕治(著)『オカマのパーさん』講談社, 2000)

(36) (前略) しかも高校時代の同窓会で、新潟に三秒型のホタルがいることを知り、案内までしてもらった。さらには紗織から、弘之がホタルの家というログハウスを持っていることも聞かされていた。(LB19_00253 浅黄斑(著)『死蟻』祥伝社, 1997)

(37) 何を話したのか覚えていない。でも、よかった。オレ、大矢郁史と話をした。握手までしてもらった。今日は手を洗わないよ。(LBq9_00229 鎌形睦美(著)/鎌形芳行(著)『ふたり』KTC中央出版, 2002)

<依頼型>

(38) (前略)福田家では、明智を見知った一警官を頼んで、自動車で駅まで出迎えに行ってもらった。明智の来着と同時に波越警部も福田邸へやってくる手筈になっていた。

(LBc9_00057 江戸川乱歩『江戸川乱歩推理文庫』講談社, 1988)

そして、「ちんぴらに絡まれているところを助けてもらった上に、家まで送りとどけてもらった。」ように、「さらに」のような意味合いを示す文構成「V-テモラッタ上に、 V-テモラッタ」である場合も、前掲のテモラウ文が受身の意味であれば、後件のテモラウ文も受身の意味になる。

次の用例(39)の「北畠家の墓石も見せてもらった」は、行為の対象を示す助詞「を」を「も」に転換することによって、ついでに行われた行為である意味合いが強くなる。つまり、偶然目にしたものを見せてもらったと表現したのである、<依頼型>の積極さと違って、消極さが感じられ、受影的である。

(39) 落城の炎の中で北畠氏の興亡を記す史料などが紛失してしまったため、浪岡城や北畠氏の歴史には不明な点が多い。浪岡城址はどうせ道の傍らに墓石などが遺っている程度と考えていたが、それは全くの自分自身の誤解であった。夏の早朝であったが、行ってみてあまりの規模の大きさに、呆然とした。発掘調査が実施され、丁寧に整備されている。北畠家の墓石も見せてもらった。心洗われる気持ちで青森の三内丸山遺跡に向った。(PB15_00109 美坂龍城(著)『城郭建造物遺構「櫓」探訪』文芸社, 2001)

3.2.3 受身文との並列

用例(40a)は、テモラウ文が受身文「勧められた」と並列している。受身文の能動主体がV-テモラウ文の動作主になり、<受身文の動作主=テモラウの動作主>の構造となる。

- (40) a. 予てから手紙で見学させていただけるよう、連絡がしてあつたので、快く見せていただけたことになった。そして増田仲助さんがつきつきりで説明してくださいました。
(中略) 増田さんは目を細めて酒の最初の一滴が流れだすところだと言われた。洗米機と浄水機を見せてもらって、麹をつくる部屋へ入れてもらった。私はこの部屋だけは絶対に入れてもらえないと覚悟はしていたものの、いとも簡単にどうぞと勧められたので、いささか戸惑ったのと同時に、私の真剣な眼差しに増田さんが心中密かに「この人なら…」と思ってくれたんだと、勝手な思い上がりに暫し耽ったものだった。(LBf4_00003 大木信明(著)『怖い食品 1000種』ナショナル出版, 1991)
b. (×) 洗米機と浄水機を見せてもらって、麹をつくる部屋へ入れられた。{(○) 入れてくれた}

用例(40a)は、文のはじめから見て<依頼型>に捉えやすいが、「麹をつくる部屋へ入れてもらった」事態について、「絶対に入れてもらえないと覚悟はしていたものの」「いとも簡単にどうぞと勧められたので、いささか戸惑った」と、主体の予期しない事態の発生に関する心境を語っている。したがって依頼への解釈から遠ざかって、受身的になる。受身文「入れられる」に交替すると、非恩恵的になり、テクレルとの交替は文の繋がりからして自然である。

- (41) a. 昭和三十八年から二十年あまり私は森銑三翁から毎月候文の手紙をもらった。翁が私の旧著を和木清三郎主宰「新文明」誌上で二ページにわたってほめてくれたから、以来毎月私の雑誌を贈呈すると、そのつどこまごま批評してくれる、それが全部候文なのである。翁は候文最後の人だった。森銑三翁といえばその小品「朝顔」に數え十四になる少女が、歌の師匠に初めてほめられて「めでたく候」と書いてもらつた。喜びに耐えず帰って母に示し、ともども喜んだのに日ならずしてふとした病いで少女ははかなくなつたという。候という字にはこういう使いかたもあったのである。(PB38_00013 山本夏彦(著)『完本文語文』文藝春秋, 2003)
b. (×) 少女が、歌の師匠に初めてほめられて(師匠が紙に)「めでたく候」と書かれた。
{(○) 書いてくれた}

用例(41a)は、テクレル文と受身文が前にきている。テクレル文「ほめてくれた」「こま

ごま批評してくれる」の動作主と、受身文「歌の師匠に初めてほめられて」の動作主と、テモラウ文「書いてもらった」の動作主とは同一人物である。したがってV-テモラウのガ格主体は、受身的であると理解できる。動詞「書く」は「買う」と同様で、間接テモラウ文であるため、テクレル文に対応する。

- (42) a. 「いや、私は後からのはうが用があつて、今は急ぎません。せつかくだから倉を見ていってください」熱心にさそわれて、立ったついでに四人は彼のコレクションを見せてもらった。(LBg9_00200 醍醐麻沙夫(著)『熊野路伝説殺人事件』徳間書店, 1992)
- b. (×) (前略)熱心にさそわれて、立ったついでに四人は彼のコレクションを見せられた。{(○)見せてくれた}

用例(42)も「熱心にさそわれた」結果として、「四人は彼のコレクションを見せてもらった」事態が生じたのであり、受影的である。間接構造であるため、テクレル文と交替しやすい。

- (43) a. 老虎と大虎は一つの小さな墓の前に立っていた。大虎が花束を捧げる。(中略)「そのあと賭博師に拾われて、数年間育ててもらった。いい親父だった。忘れられねえ」「そうか。おまえも孤児なのか」老虎が低く云い、素手で墓の汚れを拭う。両手の指が細かく震えていた。墓には二人の名前が刻まれている。(LBj9_00019 立原とうや(著)『撻』集英社, 1995)
- b. (○)そのあと賭博師に拾われて、数年間育てられた。いい親父だった。忘れられねえ。

用例(43a)は、ガ格の働きかけによって育てられた事態ではなく、受身文が従属節になつて、テモラウの動作主である賭博師に拾われて、育てる事態が実現したのである。結果的にガ格にとっての恩恵的な事態となったので、「育ててもらった」と、テモラウ文で表現している。ガ格は受身の立場に存在し、後文には、「いい親父だった。忘れられねえ」と、ガ格の感謝の言葉を述べている。用例(43a)は、育てる対象はガ格であり、働きかけが不可能であるため、直接テモラウ文が用いられ、直接受身文に交替できる。そしてテクレル文に対応する。

- (44) a. (略)一方、新婦は奥の部屋で親族の既婚女性に囲まれ、夫の家に行ってからの注意を受けながら、衣装と髪を整えてもらう。花嫁の衣装は、魔除けの力がある赤をなるべく全身にまとうようにする。(LBj3_00071 韓敏(著)『中国』河出書房新社)
- b. (??)既婚女性に囲まれ、夫の家に行ってからの注意を受けながら、衣装と髪を整え

られる。 { (?) 整えてくれる }

用例(44a)は、ガ格主体は前件の受身文「囲まれる」と「注意を受ける」受け手でもあるが、後件のテモラウ文は前件の付帯状況を示す。このような場合もガ格主体は受動的であると理解できる。しかし、受身文が先行すれば、すべてガ格受動的であるかは、一概に言えない。

(45) a. 母親は能登半島から出てきて、銀座の高級料亭の仲居になったが、偉い学者に見初

められ、二号さんになって、待合を出してもらった。(PB29_00435 新藤兼人(著)『ひとり歩きの朝』毎日新聞社, 2002)

b. (×) 母親は(中略)偉い学者に見初められ、二号さんになって、待合を出された。

{(×) 出してくれた ; (○) 出させてもらった}

用例(45a)の場合、「見初められた」動作主は「学者」である。「待合を出す」動作主は、受身文の被動作主の母である。つまり、受身文の動作主≠V-テモラウで表される事態の動作主の関係ではなく、V-テモラウで表される事態の実現に当たる支援者である。つまり、受身文の動作主=V-テモラウで表される事態を許可する動作主の関係であり、用例(40a)～(44a)の<V1 レル・ラレルの動作主=V2 テモラウの動作主>のタイプとは異なる。よって、依頼的であって、サセテモラッタに置き換えられるが、受身文とテクレル文には置き換えられないものである。

3.2.4 テクレル文との並列

このタイプは、テクレル文が先行し、テモラウ文とテクレル文が並列になり、<テクレル文の動作主=テモラウの動作主>の構造になっている。

(46) a. 市長は私たち一家のことを特別に気にかけてくれて、佐渡の生活にじめるように

と、何でも協力してくれた。本間啓五さんも紹介してもらった。皆からは「角本」さんと呼ばれている人だ。流ちような英語を話し、外国人ならではの苦労もあるだろうからと、いつでも手助けをしてくれると言ってくれた。(OB6X_00028 チャールズ・R・ジエンキンス(著)/伊藤真(訳)『告白』角川書店, 2005)

b. (×) 市長は私たち一家のことを特別に気にかけてくれて、(中略)本間啓五さんも紹介された。{(○) 本間啓五さんも紹介してくれた}

「市長は私たち一家のことを特別に気にかけてくれて、何でも協力してくれた。」と、テモラウの前にテクレルが先行している。「気にかける」は「非達成の自己制御性」を持つ事

態に属し、用例数をBCCWJで調べて168件という結果が得られた。このうち、やりもらい動詞との共起は合計51例である。次は、統計の詳細になる。

1) テクレル(34)・クダサル(7)との共起……計41例

⇒(内)気にかけてくれて・いる・いた(20)

2) テモラウ(4)・ティタダク(2)との共起……計6例

⇒(内)気にかけてもらって・いる・いた(0)

3) テアゲル(4)・テヤル(0)との共起……計4例

この中、「気にかけてくれて・いる・いた」は20例あるのに対し、「気にかけてもらって・いる・いた」は0件である。2)のテモラウ(4)の実例は以下の四つであり、いずれも働きかけ性はない。

(47) 「うまくいってる?」「問題はない?」と、気にかけてもらうだけでホッと安心できるタイプ。(LBn1_00014 実著者不明 1 哲学/148/0076『恋愛動物占い』小学館, 1999)

(48) 一応気にかけたほうがいいとは思います。ご近所に留守中気にかけてもらうとか…。
電話は怒ってみたらどうですか? (OC08_00789 Yahoo!知恵袋, 2005)

(49) この家で気にかけてもらえるのは、姉さんとコーラムだけなんだ。(LBs9_00226 マロリー・ブラックマン(著)/富永星(訳)『コーラムとセフィーの物語』ポプラ社, 2004)

(50) (前略)認められない, 評価されない, 仕事を教えてもらえない, 気にかけてもらえない, チームに溶け込めない, 仕事が合わない, 思っていた仕事と違う(PB16_00072 松田尚文(著)『実践!強い店長学』明日香出版社, 2001)

数字から分かるように、「気にかける」は、テモラウと結合して、働きかけの表現として用いるより、寧ろテクレルと共に、受動的な慣用表現として、受け手側が事態を受動的に受ける時に使っていることが多いと指摘できる。用例(46)の「紹介してもらった」は、どのように気にかけてくれているかの説明である。したがってV-テモラウ事態に対して、ガ格主体は受け手だけの存在である。用例(51)もV-テモラウ事態に対して、働きかけ性がないと判断できる。しかし、「喜んでくれた」動作主≠「泊めてもらった」動作主の関係で

(51) 僕はまず、「こんにちわ」と「ありがとう」を覚える。こんにちわ=ヤクシーで、ありがとう=ラヒメッティー。覚えたらすぐに使う。登山に同行した現地の人も, 自分たちの言葉を覚えて使ってくれたからと、とても喜んでくれた。もちろん、彼らの住んでいる、ゲルという毛皮でつくったテントにも泊めてもらった。せっかくめったに来られないところにいるのだから, その文化ができるだけ知ろう, という気持が僕に

はあるのだ。(LB07_00040 九里徳泰(著)『冒険王への100の戦術』山と溪谷社, 2000)

はなく、テクレルのガ格はテモラウ事態の許可の与え手である。V-テモラウで表される事態の後ろには、副詞表現「せっかく」や「めったに」と共起し、テモラウの主体の意志「その文化ができるだけ知ろう」という意志を表現しているので、依頼的な解釈になる。よって、同じくテクレル文との並列であるが、働きかけ性が異なる。

3.2.5 テアゲル文との並列

用例(52a)では、テアゲル文のガ格はテモラウのニ格として現れている。この場合もテモラウのガ格は事態からして受動的であると判断できる。が、「相手はそんなあなたの反応を見」ことによってV-テモラウで表される事態が達成されるため、受影でありながら、見る人間の感じ方により、事態が達成されるという自得的な特徴も表れている。また、「反応を見て」という継起的テ節も、<依頼型>のような「頼んで」「呼んで」といった働きかけ性を持つタイプと違って、働きかけ性はなく、受身文ともテクレル文とも対応できる。「可愛がる」「救う」と同じくV仕一対象者行為-主体の非意志行為タイプの動詞だからであろう。

- (52) a. 相手の感動に共感してあげること。そうすれば、相手はそんなあなたの反応 (リアクション) を見て、認めてもらったことの喜びを味わいます。さらにそれが新しい感動となり、「いやあ、君はえらいね。(後略)(LBj3_00152 佐藤綾子(著)『自分をどう表現するか』講談社, 1995)
- b. (○) 相手はそんなあなたの反応 (リアクション) を見て、認められたことの喜びを味わいます。{(○) 認めてくれる}

3.2.6 誘い掛け文・能動文の動作主=テモラウ文の動作主の場合

用例(53a) (54a)は、いずれも前件の誘い掛け文の動作主であるガ格が、後件のテモラウ文の動作主であるニ格となっている。つまり、<前件の誘い掛け文のガ格(動作主)=後件のテモラウ文のニ格(動作主)>という形であり、能動文の事態を引き起こす誘い手の主語であると同時に、V-テモラウで表される事態を引き起こす動作主にもなっている。

- (53) a. 三日(土) 暮れに兄さんが遊びに来いといっていたので行くことにした。(中略)
兄さんたちと話しながらごちそうをいただいた。七時に車で祇園まで送ってもらつた。(PB32_00022 大豊昇(著)『はっぴい・らいふ』文芸社, 2003)
- b. (×) 暮れに兄さんが遊びに来いといっていたので行くことにした。(中略)兄さんた

ちと話しながらごちそうをいただいた。七時に車で祇園まで送られた。{(○)送ってくれた}

用例(53a)には、「遊びに来い」と兄の誘いかけがあつて、ガ格は食事を頂き、祇園まで車で送つてもらったと、文が展開されたのである。つまり、一連の事態は、テモラウのガ格を対象に、ニ格が意図的に引き起こしていると分かる。そして前件の「兄さんが遊びに来いといつていった」という能動文の主格の「兄さん」は、後件のV-テモラウで表される事態の動作主と同一になっている。文中において、省略しているだけである。ガ格は「遊びに来い」という誘い掛けや、「ご馳走をいただく」という受動事態の受け手としての存在している。したがつて、後件の「七時に車で祇園まで送つてもらった」事態も、文の統一性から見て、V-テモラウで表される事態も同一動作主の動作の連續性によるものであり、ガ格はニ格の引き起こした一連の事態の受け手の立場にいるという解釈が妥当と見る。したがつてニ格は、誘い手であると同時にVテモラウの動作主でもあるという、一連の事態の引き起こし手としての存在であるという二重役割を果たしている。それに対して、テモラウのガ格は一連の事態の受け手としての立場である。

(54) a. 依頼者は、私をさる雑誌の対談の中から見つけてくれたそうで、それまでにフォーマルな講演などの経験のない私にとって、光栄でもありまたビクビクものでもあつた。(中略), 私はその申し出を引き受けることにした。(中略)講演前にあらかじめ、野田の町をつぶさに車で案内してもらった。(LBe3_00073 望月照彦(著)『都市民俗学』未来社, 1990)

b. (×) 私はその申し出を引き受けることにした。(中略)講演前にあらかじめ、野田の町をつぶさに車で案内された。

(○) 私はその申し出を引き受けることにした。(中略)講演前にあらかじめ、野田の町をつぶさに車で案内してくれた。

用例(54a)も同様で、テクレル事態が先行され、講演などの経験のない私を誘い、私はその申し出を引き受けることにした。前件のテクレルの主語は大きくV-テモラウで表される事態の動作主となっており、テモラウのガ格は一連の事態の受け手としての存在と解釈できる。また、「つぶさに車で案内してもらった」を「つぶさに(車で)案内して!」と相手に働きかけられない事態であり、依頼的な表現というより受影の立場における表現だと考えやすい。以上、実例を踏まえ、このタイプの受身形式は次のようにまとめると考えられる。

<前件の {誘い掛け文} のガ格(動作主)=後件の {テモラウ文} のニ格(動作主)>の場合

は、後件のテモラウ文は受身的な機能を示す。

この際、ガ格は、ニ格の一連の能動的事態の<行為・恩恵の受け手>であるのに対し、ニ格は、ガ格の一連の受動的事態の<能動主体・行為・恩恵の施し手>である。このような表現形式は、意味と構造の両方から判断できる。用例(53a) (54a) も用例(9a)と同様に、テモラウ文の動作主を省略しているので、そのままテクレルと交替できる。しかし、間接テモラウ文であるため、受身文との交替はマイナス性が生じる。

3.2.7 目的節・原因節の伴い

用例(55a)では、「退屈して家出などしないように」と、動作主がV-テモラウで表される事態を引き起こす目的を具体的に明記している。用例(29a)の「食事をさそつもらつた」事態の主節の前に、原因節が前にきている。そして誘いかけは友人であるように「カラ格」を用いて動作主を示している。動作主に事態を生じさせる目的・原因・理由などが明記される場合、ガ格主体は必ず受影的になると考える。

(55) a. (中略) デボは誕生日のお祝いに、車と運転の習得コースをプレゼントしてもらった。

退屈して家出などしないようにと、シドニーも真剣に考えたのだろう。しかし、デボは家の生活におおむね満足していたので、それは杞憂というものだった。

(Lbt2_00026 メアリー・S・ラベル(著)/大城光子(訳)/栗野真紀子(訳)『ミットフォード家の娘たち』
講談社, 2005)

b. (×) デボは誕生日のお祝いに、車と運転の習得コースをプレゼントされた。

(再掲 30) a. 親しい友人から、家族で食事に行くので、一緒に行かないかとさそつてもらつた。 (PB13_00506 吉沢久子(著)『私の気ままな老いじたく』主婦の友社; 角川書店(発売), 2001)

b. (○) 親しい友人から、家族で食事に行くので、一緒に行かないかと誘われた。 { (○)
誘ってくれた }

3.2.8 格助詞「二格」と「カラ格」による働きかけ性の違い

本節では、テモラウ文の動作主を、「S2 にV-テモラウ」形式の「ニ格」、それとも「S2 からV-テモラウ」形式の「カラ格」によって示されているかという表現形式の比較を通して、テモラウの働きかけ性を左右する要因を抽出する目的である。

3.2.8.1 先行研究

3.2.8.1.1 日本語記述文法研究会(2009)

日本語記述文法研究会(2009:5-6)では、「ニ格」と「カラ格」の意味用法をまとめている。本論の意味用法に類似するのは、「ニ格」の「相手」を示す用法と、「カラ格」の「動きの主体・起点」の二用法である。それぞれ該当例と共に次のように示す。

★ニ格(相手)……動作の相手(56)・授与の相手(57)・受身的動作の相手(58)

- (56) 隣の人に話しかける。
- (57) おばあさんが孫に絵本をやる。
- (58) 犯人が警察に捕まった。

★カラ格(動きの主体・起点)……動きの主体(59)・移動の起点(60)・方向の起点(61)

- (59) 私から集合時間を連絡しておきます。
- (60) 子供たちが教室から出きた。
- (61) ここから富士山がよく見える。

日本語記述文法研究会(2009)の「ニ格」と「カラ格」の意味用法を、それぞれ「動作の相手」と「起点」の二つに絞ることができる。

3.2.8.1.2 山田(2004)

山田(2004:96-107)では、動詞の類別から、テモラウ受益文における「カラ格」の許容度についてアンケート調査を行い、動作主としての「カラ格」の使用条件について、次のように指摘している。

A. 「カラ格」は、移動動詞の内の「貸す」や「送る」といった対象移動動詞に対して用いられる許容度が最も高い。

- (62) 母から送ってもらった柿を、少し友達に分けてあげた。
- (63) 田中先生から、貴重な資料を貸してもらった。

B. 「A ガ B ヲ C ニ」と3項を取る伝達動詞「伝える」「教える」などもカラ格の許容度が高い。

- (64) 私は、近所の人からその事件を伝えてもらって知った。
- (65) 田くんは、近所の高校生から数学を教えてもらった。

C. 「ほめる」「話しかける」のような発話内容移動動詞類はカラ格の許容度がやや落ちる。

- (66) 太郎は先生からほめてもらった。

(67) 花子は大好きな太郎から話しかけてもらって喜んだ。

D. 「招待する」「呼び寄せる」など態度的働きかけを表す動詞は、自然さの許容度が半分以下に低下している。

(68) 私は、田中さんからパーティーに招待してもらった。

(69) マリアさんは、夫から呼び寄せてもらって南米からやってきた。

E. 「愛する」「信頼する」などの心的態度を表す動詞は、自然さの許容度が半分かそれ以下にある。

(70) 太郎は、花子からたいへん愛してもらった。

(71) いろいろ説明して、やっと友人から信頼してもらった。

山田(2004)を考察して、本論は山田の例に基づき、移動のある三タイプを、それぞれ、Aのモノの移動；Bの情報の移動；Cの発話内容の移動の三つにまとめる。そして、移動を伴う動詞は「カラ格」が付きやすいのに対し、移動を伴わない動詞は、「カラ格」が付きにくくないとまとめることができる。

以上、二点の研究が示している「二格」と「カラ格」の意味用法は、テモラウ文の受身性から見たら、両者はどのような機能を持つかについて、また検討する余地が残されていると思われる。

3.2.8.2 本論の考察

本論は、「二格」動作主、「カラ格」動作主、動作主の ϕ 化形式、の三つの場合からテモラウ文の働きかけ性を論じる。

3.2.8.2.1 「二格」動作主——依頼事の落着点を焦点化する「二格」

通常、働きかけ性のある依頼型のテモラウ文では、動作主に「二格」を用いることが多い。このタイプを「二格」動作主と表現する。次の中日対訳の例を通して、「二格」の働きかけ機能を見る。

(72) 我-让-安安-做东-请客，到时候-我-要-和-建华-好好儿-掰扯掰扯。(作例)

Wo-rang-anan-zuodong-qingke, daoshihou-wo-yao-he-jianhua-haohaor-baichebaiche。

日本語訳：私は、安安さんにホスト役として務めてもらい、食事に招待してもらう。その時は、建华さんとことん理を追及しようと思う。

用例(72)では、使役主体に当たる「私」は、特定の動作主「安安」に焦点を当てて、これからある事態を引き起こすために働きかけようとしている。事態達成への主体の計画性

が表れ、働きかけ性が明確な文である。中国語では、日本語の＜依頼型＞テモラウ文の「二格」に相当する前置詞「让(rang)」を用いてガ格主体の依頼事の落着点である「動作主」を焦点化しているのである。したがってこのような使役性・計画性の強い指示的な文は中國語でも日本語でも、使役性の強い「让(rang)」と「二格」を用いている。よって、働きかけ性の機能が明確なテモラウ文は、動作主を焦点化する「二格」がより適切である。

3.2.8.2.2 「カラ格」動作主——事態発生の出発点を起点化する「カラ格」

通常の「二格」動作主に対し、受影型のテモラウ文は、用例(73)～(76)のように動作主を「カラ格」で示すことがある。このタイプを「カラ格」動作主と表現する。

(73) 親しい友人から、家族で食事に行くので、一緒に行かないかとさそつてもらった。²⁷

(74) 八冊の本の販売数は驚異的だったらしい。会社からは数度にわたり、彼女の秀逸な作品を褒め称える赤い薔薇が送られてきた。そればかりか報酬まで上げてもらった。²⁸

(75) 捕虜収容所で数ヶ月経った頃、私はイギリスの親しい友人から、イギリスの新聞の切り抜きを送つてもらった。(PB19_00197 ハインツ・シェッファー(著)/横川文雄(訳)『U-ボート 977』学習研究社、2001)

(76) 六十三年前、私が徳島の女学校に入学した時、割烹の時間というのがあって、袴をつけた美しい若い先生から、「洗濯板の有効な使い方」というのを教えてもらった。

(PB29_00206 瀬戸内寂聴(著)『寂聴生きいき帖』祥伝社、2002)

用例(73)～(76)は、いずれも文中にはガ格主体の働きかけの意図は見られない。そして、動作主に意図性が存在すると分かる。用例(73)は、友人からの食事の誘い掛けである。用例(74)も、会社という組織の動作主に行為を引き起こす意図が存在している。受身文「会社から薔薇が送られてきた。」を、二格のテモラウ文「会社に薔薇を送つてもらつた」に転換すると、働きかけ性が存在することになりやすい。(75)も「友人に」ではなく、「友人から」になっている。したがって、働きかけ性がないと考えられる。用例(76)も、レッスン中の先生の講義内容を聞いて、それを「教えてもらった」と表現しているのであって、働きかけ性がないと考える。そして、用例(73)は、発話内容の移動；用例(74)は、モノの移動；用例(75)は、情報の移動；用例(76)は、モノの移動、とそれぞれに当たる。四つの例はいずれも「カラ格」を用いて、移動の出発点は動作主にあることを示している。つまり

²⁷ 用例(29)に該当する。

²⁸ 用例(19)に該当する。

り「カラ格」を通じて、動作主を起点化しているため、いずれも受影的である。次の例の「カラ格」も動作主を起点化する機能を持つ。

(77) なぜか文芸部の部員によるバンドであったことから、即座に文芸部への入部を志願。

そして入学祝いとして両親から買ってもらったグヤトーンのエレキ・ギターとテスコのアンプを持って文芸部のバンドに合流する。(PB17_00184 近藤正義(著)/鈴木英之(著)『林哲司全仕事』音楽之友社, 2001)

(78) 分家した時に父親の洋蔵から買ってもらった店であったが、上京してからは仕事を捜すこともなく、売り払った金で居食いしながらミサヲの将来に望みを託し、その日暮しをしているだけだった。(LB19_00039 萩原葉子(著)『尋麻の家』講談社, 1997)

(79) みなさんから可愛がっていただきました。(LBn6_00032 竹谷年子(著)『帝国ホテルが教えてくれたこと』大和出版, 1999)

(80) 予想以上にみなさんから可愛がって頂けて、本当に幸せです、ありがとうございます。(OY04_07924Yahoo!ブログ, 2008)

3.2.8.2.3 両者の比較

焦点化の「ニ格」と起点化の「カラ格」は、成立事態の過程に違いが存在すると考えられる。

3.2.8.2.3.1 事態の成立過程の違い

ここでは、同一事態の発生から両者の違いを比較する。

(a) 友人に誘ってもらった。

(b) 友人から誘ってもらった。

「友人に誘ってもらった」は、友人というニ格の相手を目指した<依頼型>と解釈しやすいが、「友人から誘ってもらった」は、友人がガ格を目指した行為と捉えやすい。両者の成立過程を、図6と図7を用いて示す。



図6「ニ格」の場合の事態の成立



図7「カラ格」の場合の事態の成立

図6の「ニ格」は、S1のガ格主体が働きかけ手と同時に「誘われる」行為の受け手でもある。図7の「カラ格」は、S2の動作主が働きかけ手と同時に行為の送り手でもある。そしてS1が受け手だけの存在と分かる。つまり、「ニ格」の動作主を「カラ格」を用いて示

すことによって、本来依頼を受ける対象と行為を発する起点である対象を共に役割する動作主が、行為を発する起点だけの対象に変わったのである。格の変化から成立事態の過程にも変化が生じたのである。

以上、同じ事態を表現する際、「カラ格」を用いる場合と「ニ格」を用いる場合とでは、V-テモラウのVという行為の出発点についていえば同様であるが、事態成立の中点であるか、起点であるかの違いがある。したがって、このように、同一事態の比較によって、「カラ格」の場合、行為は動作主からガ格に及んでいると、受身的な意味解釈がしやすい可能性は「ニ格」より高いと言える。

3.2.8.2.3.2 計画性と偶発性の違い

上記に示したように、「ニ格」動作主の場合、「ニ格」は動作主を焦点化する機能を持つだけではなく、予め働きかける対象も目的も明確である。したがって事態の計画性を示すのに「ニ格」が用いられやすいのに対して、「カラ格」動作主の場合、「カラ格」は起点化の意味機能を持つだけではなく、テモラウ主体にとって出来事の発生が偶然である意を示す場合にも使われやすいと考えられる。用例(73)(74)、次の用例(81)もそうである。

(81) 帰京して田中、大平と会った竹入は、周が示したメモを田中に手渡す。それを見た大平外相は、「竹入さん、これをもらっていいですか?」と言うなり、メモを持って外務省にとって返したという。その後、筆者は新聞社の取材に絡んで、首相側近からこのメモの内容を見せてもらった。竹入メモには、後日、その要旨が報道された「中国基本姿勢」の文言が並んでいた。そこには、確かにメモが必要な事項が細かく記されていた。
(PB22_00038 馬弓良彦(著)『真説田中角栄』学習研究社, 2002)

用例(81)においては、テモラウ主体の意図は、取材にあっても、メモの内容を見るであっても、いずれにして、V-テモラウで表される事態の実現は、直接的な働きかけによって達成したと考えにくく、偶然相手から見ることができたと、文から読み取れる。もし、「首相側近に」と転換すると、偶発性が失い、依頼的になる。したがって、「カラ格」は起点化の機能だけではなく、偶発性もあると考えられる。それに対し、働きかけ性がある<依頼型>では、「ニ格」を用いることによって、事態の達成は、極めて直接的で、計画的だと分かる。以上、<受影型>の要因として、「カラ格」との関連性も考えられることを述べた。考察を踏まて、「ニ格」と「カラ格」の両者の違いは次のようにまとめられる。

使役性 <事態の計画性・動作主を焦点化する「二格」>

対

受身性 <事態の偶発性・動作主を起点化する「カラ格」>

両者は、事態の成立過程の違いにおいて、「二格」は事態達成への計画性を伴う使役性が存在するのに対して、「カラ格」は、事態達成の偶発性を伴う受身性が存在する、という違いだけではなく、さらに、依頼事の落着点を焦点化する機能と事態発生の出発点を起点化する機能の違いもある。したがって、ガ格の事態実現の意図性は、「二格」を用いることによって明確になり、「カラ格」を用いることによって、意図性が断然に落ちることが言える。

3.2.8.2.3.3 動詞のタイプによる二格とカラ格の使用

「二格」と「カラ格」の動作主は使役か受身か、動詞によって異なることがある。たとえば「助かる」は動作主が有情物でも無情物でも偶発性があっても「カラ格」は使えない。

(82) (○) たまたま通りかかった馬車に助けてもらった。

(83) (×) たまたま通りかかった馬車から助けてもらった。

(84) (○) 賭博師に育ててもらった。

(85) (×) 賭博師から育ててもらった。

山田(2004)によれば、砂川(1984:74)では受身文における「カラ格」の使用条件を詳細に分類している。そのうち、「行為の主体Aと行為の受けられる相手B、及び行為の結果D(AのBに対する働きかけの結果としてBが存在するようになる場所、あるいは立場(地位、境遇など))」の場合と「招待する、誘う、招く、呼び寄せる、勧誘する、推薦する、(議長に)選ぶ、など」²⁹では、「カラ格」が使いやすい。「助ける」「育てる」もこのタイプになるが、動作主を「カラ格」で示せない動詞である。次の「連れて行ってもらった」も移動の意味になるが、これはA地点→B地点への主体の位置変化行為という受動動作である。日本語記述文法研究会(2009:5-6)によると、「二格」は「受身的動作の相手」の意味を表す。このような場合は「二格」を用いても動作の出発点を示し、「カラ格」は逆に言えない。

(86) (○) 陽水に飲みに連れて行ってもらった。

(87) (×) 陽水から飲みに連れて行ってもらった。

実際、「連れて行ってもらう」の「二格」と「カラ格」の接続状況を、コーパスで検証して見た。「に連れて行(い)ってもら」の形でBCCWJを用いて検索すると、107例も検索され

²⁹ 山田(2004:97)では、砂川(1987:74)の受身文における「カラ格」の使用条件をまとめている。

たのに対し、「から連れて行(い)ってもら」は、1用例(88)しかないという結果を得た。用例(89)の「案内してもらう」も、BCCWJでの検索結果は、「に案内してもらう」は圧倒的に多く、32例があるが、「から案内してもらう」(89)は1例しかない。

(88) 十一月の話になりますが・・・義理姉から連れて行ってもらったレストランの記事をアップしたいと思います。メトロ地下街は初めて行く場所！店に着くと、既に待っている人が数組。(0Y14_38891Yahoo!ブログ, 2008)

(89) 予約の団体も居て、そのうちの1人が「ディズニーランドのファストパスみたいだ～♪」と言ってて、抜かされてるけど「イイ例え方をするな～」と感心しちゃった。(笑)三十分ほど待って、口髭を生やした紳士的な男性ウェイターさんから案内してもらいました。テーブルに並んでる料理が美味しそうだったので期待大！インテリアが、和だけどモダンな感じで素敵☆照明も目に優しい白熱灯で暖かい雰囲気。
(0Y14_38891Yahoo!ブログ, 2008)

したがって、「二格」と「カラ格」の違いは、動詞のタイプにも関わる。「誘う」「念を押す」といった「言う」系の移動は、「カラ格」を使いやさしいのに対し、「連れて行く」「案内する」といった主体の意志に伴う位置変化行為(V仕一対象者行為-主体の意志行為)や、「買う」といったV仕一対象物行為を示す動詞は、「カラ格」は使えにくいようである。

3.2.8.2.4 動作主φ化形式

<恩恵的受影型>の動作主は、「二格」動作主と「カラ格」で示す以外に、動作主がテモラウ文の節内に現れない(動作主φ化形式)タイプも存在する。以下、このタイプのテモラウ文の働きかけ性を論じる。

(a) 食事の後で、アーケード街に行った。φ プラダのリュックを買ってもらった。³⁰

食事の後で、アーケード街に行った。彼にφ プラダのリュックを買ってもらった。

食事の後で、アーケード街に行った。彼からφ プラダのリュックを買ってもらった。

(b) 講演前にあらかじめ、φ 野田の町をつぶさに車で案内してもらった。³¹

講演前にあらかじめ、依頼者にφ 野田の町をつぶさに車で案内してもらった。

講演前にあらかじめ、依頼者からφ 野田の町をつぶさに車で案内してもらった。

(c) 浪岡城址に、行ってみてあまりの規模の大きさに呆然とした。φ 北畠家の墓

³⁰ 例(a)の原文は、用例(6)を参照のこと。

³¹ 例(b)の原文は、用例(53)を参照のこと。

石も見せてもらった。³²

浪岡城址に、行ってみてあまりの規模の大きさに呆然とした。関係者に北畠家の墓石も見せてもらった。

浪岡城址に、行ってみてあまりの規模の大きさに呆然とした。関係者から北畠家の墓石も見せてもらった。

上記の例では、動作主ゆ化形式と「カラ格」は、より受身的に解釈しやすい。それに対し、「ニ格」がつくことによって、より働きかけ性があるという解釈になりやすい。

3.3 語彙レベルの考察

V-テモラウの動詞などとの共起からも、テモラウ主体が受動的な立場に位置することを判断できる。本論では、これを語レベルの考察としてまとめる。以下、意味・文法の役割を持つ動詞と共に表現の二つの角度から考察し、受身的な要因を抽出する。

3.3.1 意味・文法的な役割を持つ動詞の場合

<受影型>には、動詞の語彙的な意味といった要因が存在すると指摘できる。以下、BCCWJの実例を基に、考察していく。

3.3.1.1 ガ格受影的な傾向が強い動詞——可愛がる

「可愛がってもらった」のV-テモラウで表される事態は、「非達成の自己制御性」を持つ事態である。「S2V 非達成の自己制御性を持つ事態」と略す。それに対して、実際に生じている事態は、用例(90)の「膝に乗って、昔語りをしてもらった」と(91)の「伊豆によく連れて行ってもらった」事態である。つまり、動作主が行った行為を総合的にガ格主体は「可愛がってもらった」とと思っていたのである。いずれも直接ガ格主体に関わる行為であり、直接受身に対応する<恩恵的受影型>である。

(90) a. 末の娘ということで、父にはことさらに可愛がってもらった。いつも膝に乗って、
昔語りをしてもらった。その時の語り口、息継ぎ…この少年はそれをそのまま再現
している！保憲は彼女の背後に回った。(PB29_00492 足立和葉(著)『晴明ふしぎ草子』小学館,
2002)

b. (○)父にはことさらに可愛がられた。{(○)可愛がってくれた。} いつも膝に乗つ

³² 例(c)の原文は、用例(39)を参照のこと。

て, (×)昔語りをされた。{(○)昔語りをしてくれた}

(91) a. この清水監督には、私は、たいへんかわいがってもらつた。そのころ撮影所では、島津保次郎監督と清水宏監督のことを、なぜか、われわれはオヤジと呼んでいた。七つ年上の島津オヤジと違つて、清水さんは一歳違いでしかなかったが、それでもやはり清水オヤジである。この清水オヤジは、ロケの好きな監督だった。しばしば伊豆方面へロケやロケハンに出かけたが、私も何人かの仲間とよく連れて行ってもらつた。清水オヤジは、そういうわれわれにも、よくごちそうをしてくれた。だから、清水組のロケは、たいへん楽しみだつた。(PB17_00075 貴田庄(著)『小津安二郎と映画術』平凡社, 2001)

b. (○) この清水監督には、私は、たいへんかわいがられた。{(○)可愛がつてくれた}

(×)私も何人かの仲間とよく連れて行かれた。{(○)連れて行ってくれた}

ただし、用例(91)の「伊豆によく連れて行かれた」と受身文に交替すると、被動作主であるガ格に、嫌な気持ちが多少存在することになる。したがつて、「連れて行ってもらった」はV仕一対象者行為タイプであるが、S2Vにおける主体の意志による位置変化行為でもある(V仕一対象者行為-主体の意志行為)ため、受身文と対応すると、主体にとっての迷惑事態になる。それに対し、「可愛がつてもらつた・助けてもらつた」は、動作主の行為に対して、ガ格主体の許可と共に行動する主体の意志性を必要としないV仕一対象者行為-主体の非意志行為タイプであるため、そのまま受身文と交替しやすい。ただ、後文のV-テモラウで表される事態「昔語りをしてもらった」が対応するもとの文は「昔語りをする」であり、非V仕一対象者行為になるため、受身文との交替は、無理やり感が生じる。

なお、「可愛がつてもらつた」は自得的な用法も存在し、その用法について第八章で述べる。

3.3.1.2 依頼・受影・自得ともなり得る動詞——育てる

「育てる」は、「S1 ガ S2 ニ V テモラウ」のように直接テモラウを形成する動詞である。このような動詞によって作られたテモラウ文は育てる行為の対象によって、働きかけが可能な場合とそうでない受影の場合が存在する。以下、<依頼型>と<受影型>の実例を通して対照的に見ていく。

<依頼型>

(92) 新築した家の土地代と月 6~7万の生活費援助&食材代全て母が出しています。母は血の繋がらない子供を育ててもらっているし、子供も4人いる、また離婚でもされた

ら〇〇 (妹) がかわいそうとの理由から援助を止める気はありません。(0C11_00721Yahoo!
知恵袋 2005)

(93) 「コンニチハ。今日は本当に有り難う」とだけ言ったように少女には聞こえました。

男の人の声はそれほどに小さかったのですが少女は「この人だったらμを大切に育ててもらえる」と思いました。ですから「もし猫を大事にしてもらえないような人だったらμは連れ返って前沢家にはあげないことにしよう」といった考えはそのときふつ飛んでしまいました！(PB54_00057 鈴木史朗(著)『ボケ(痴呆)は予防できる』鳥影社, 2005)

(94) 宮城さんは「種ができれば関係者に配って育ててもらう。今後は塩満さんとの交流を深めたいし、花が咲くまで私も元気で頑張りたい」と話している。(PN4g_00018 西日本新聞社(著)『西日本新聞』西日本新聞社, 2004)

用例(92)は、生活が苦しいことが原因で子供を相手に育てるように働きかけている。用例(93)(94)は、猫や種を育てるように動作主に働きかけている。<依頼型>の三例は、「猫を育てもらう」「種を育てもらう」「子供を預かって育ててもらう」ように、どれもガ格自身を育てる対象としているのではなく、ガ格以外の対象を育てるように働きかけている。そして、用例(95)のように、親元から離れて自立することを、「世間に育ててもらっている」と捉えている。自得的な用法(破線部)になる。それに対して、用例(43)の<受影型>は、ガ格自身が育てられる対象になっている。

<自得型>

(95) 「親はずっと生きていてやれない。だから十八歳になったら親元を離れて大学へ行き世間に育ててもらいなさい」ということだった。(PM43_00039 大見忠弘(著)『財界』研究所, 2004)

<受影型>

(再掲 43) a.老虎と大虎は一つの小さな墓の前に立っていた。大虎が花束を捧げる。(中略)

「その後賭博師に拾われて、数年間育ててもらった。いい親父だった。忘れられねえ」「そうか。おまえも孤児なのか」老虎が低く云い、素手で墓の汚れを拭う。両手の指が細かく震えていた。墓には二人の名前が刻まれている。

(LBj9_00019 立原とうや(著)『撻』集英社, 1995)

b. (〇) その後賭博師に拾われて、数年間育てられた。

用例(43)は、前接する動詞「拾う」を、ガ格から自身を「拾ってくれる」ように、動作主ニ格に働きけることは通常ではないことである。さらに拾って育てるように、ニ格に依頼することも普通ではないことである。したがって<依頼型>のテモラウ文のように、「頼

んで・電話をして」といった、働きかけ性を持つ継起的テ節が前接するのではなく、非働きかけを示す「拾われて」といった受身文の継起的テ節が前接している。この文は、「賭博師に拾われて、育てられ、散々苦労させられた」と、一事態を示す後文が続くことも可能である。用例(96)も同様で、「今まで育ててもらった」は、受け手がガ格であるため、働きかけが不可能である。用例(43)は、前文に受身文があるため、後接するテモラウ文も受身文と交替できる。用例(96)は、「今まで育てられた恩を仇で返す」のであり、恩恵的事態が非恩恵的事態に変わることで、違和感なく受身文に置き換えられる。

(96) a. しかしそうはいっても母という人に祝福され、認められて受験と進路を決めたかつたとも思う。不仲のまま認められずに受験するのは、今まで育ててもらった恩を仇で返すようで、どうにもやりきれない気持ちになる。ぼくの進路のことで母と意見が違うことは、やりきれない心のわだかまりである。(PB29_00534 もえぎゅう(著)『ペーパナルニーズ』碧天舎, 2002)

b. (前略) (○) 不仲のまま認められずに受験するのは、今まで育てられた恩を仇で返すようで、どうにもやりきれない気持ちになる。

以上、分析を通して、ガ格以外の対象を育てるように働きかけることが可能であるのに對し、育てる対象がガ格自身になった場合、働きかけ性の存在は考えられにくく、典型的な受身型の意味を示すタイプになる。このタイプは「動詞の自己制御性」から見て働きかけが不可能なため、<受身文+テモラウ>の形式になっている。また、直接テモラウ文であるため、受身文と交替しやすい。

[ガ格が行為の除外対象である「育ててもらった」……依頼
[ガ格が行為の対象である「育ててもらった」……受影

3.3.1.3 文脈に左右されやすい動詞——見せる

「見せる」に対して、実例を観察して、様々な意味用法が存在すると分かった。下記の実例が示すように、事態のタイプと文脈によって、働きかけ性がない受影と自得と、働きかけ性がある依頼に分かれる。どれも「見せる」はガ格が見ようとする意志が存在しない限り、事態は成立しないようである。したがって、次の例は、多かれ少なかれガ格の見ようとする意志が存在すると文脈から判断できる。

<受影型>

(再掲 39) 落城の炎の中で北畠氏の興亡を記す史料などが紛失してしまったため、浪岡城や

北畠氏の歴史には不明な点が多い。浪岡城址はどうせ道の傍らに墓石などが遺っている程度と考えていたが、それは全くの自分自身の誤解であった。夏の早朝であったが、行ってみてあまりの規模の大きさに、呆然とした。発掘調査が実施され、丁寧に整備されている。北畠家の墓石も見せてもらった。心洗われる気持ちで青森の三内丸山遺蹟に向った。(PB15_00109 美坂龍城(著)『城郭建造物遺構「櫓」探訪』文芸社, 2001)

- (97) 年のわりに背が高く痩せた少年に尋ねた。少年がうなずく。「腕時計をあげたでしょ。見せてもらった。ぼくに自分のをくれたよ」少年は腕にしたスウォッチを見せた。(PB39_00188 クシシュトフ・キエシロフスキ(著)/クシシュトフ・ピエシェヴィチ(著)/坂倉千鶴(訳)『ヘヴン』角川書店, 2003)

<中立型>

- (98) 妹（死体の首を清めながら）姉は、食道がきれいだった。時々喉の奥の奥を見せてくれた。お薬を一粒舌の上にのせて、それが喉の奥に消えていくのをよく見せてもらつた。(LBo9_00189 多和田葉子(著)『光とゼラチンのタイプチッヒ』講談社, 2000)

<自得型>

- (99) 私は十一日の夜、松明の登廊を見てから、外陣に入り、それから礼堂に入れてくれて、初夜の行法も、もちろんかいま見るという見方ではあったが、見せてもらった。(LBg9_0018 井上靖(著)『井上靖歴史紀行文集』岩波書店, 1992)

- (100) 試合、最初から最後まで見せてもらった。引き締まった本当にナイスゲームだった。「雑音」の中、本当に良く頑張ったと思う。(OY15_06310Yahoo!ブログ 2008)

<依頼型>

- (101) 鳴海は樋口に頼んで、八木のFC契約書を見せてもらった。(PB49_00435 南英男(著)『罵道』桃園書房, 2004)

特に用例(99)は、「かいま見るという見方で」と示しているため、ガ格の見ようという意志が強く表れている。V-テモラウで表される事態は働きかけというより、ガ格が「垣間見る」という形でも見たいという意志によって実現した事態であるため、自得的である。用例(100)の「試合を見せてもらった」も、ガ格の予め見ようとする意志が存在し、自得的である。用例(39)は北畠家の墓石を見る目的で行ったのではなく、「浪岡城址」がガ格の最初の目的であり、「北畠家の墓石も見せてもらった」と文脈が示しているように、対象となるヲ格はたまたまガ格の目に入ったのであり、用例(99)(100)と違って、ガ格には予め事態実現の意志が存在するわけではない。この点からして受影的であるが、たまたま目に入って

見てみようという意志も存在するので、自得的とも理解できる。したがって用例(39)は用例(97)の動作主の行為が先行する<S2V 先行型の受影型>と異なり、またまた目に入ったので、「見せてもらった」と表現しているのである。

それに対して、用例(98)はテクレルが前にきて、動作主によって引き起こした行為であると分かる。生じた事態はガ格の利益に直接結び付かず、非恩恵的事態にもならないため、受影の中立型になる。また、用例(99)(100)より事態の成立に対してそれほど積極的ではなく、消極的である。この他、「見せる」は、用例(101)のように継起的テ節「頼んで」を入れて依頼することも可能である。したがって「見せる+Vテモラウ」形式は、対象となる事態によって、次の図8の五つのタイプに分類できる。それぞれのタイプには①～⑤の特徴が示していて、それに見合う実例は基本的な意味が崩れないように省略した形で示す。

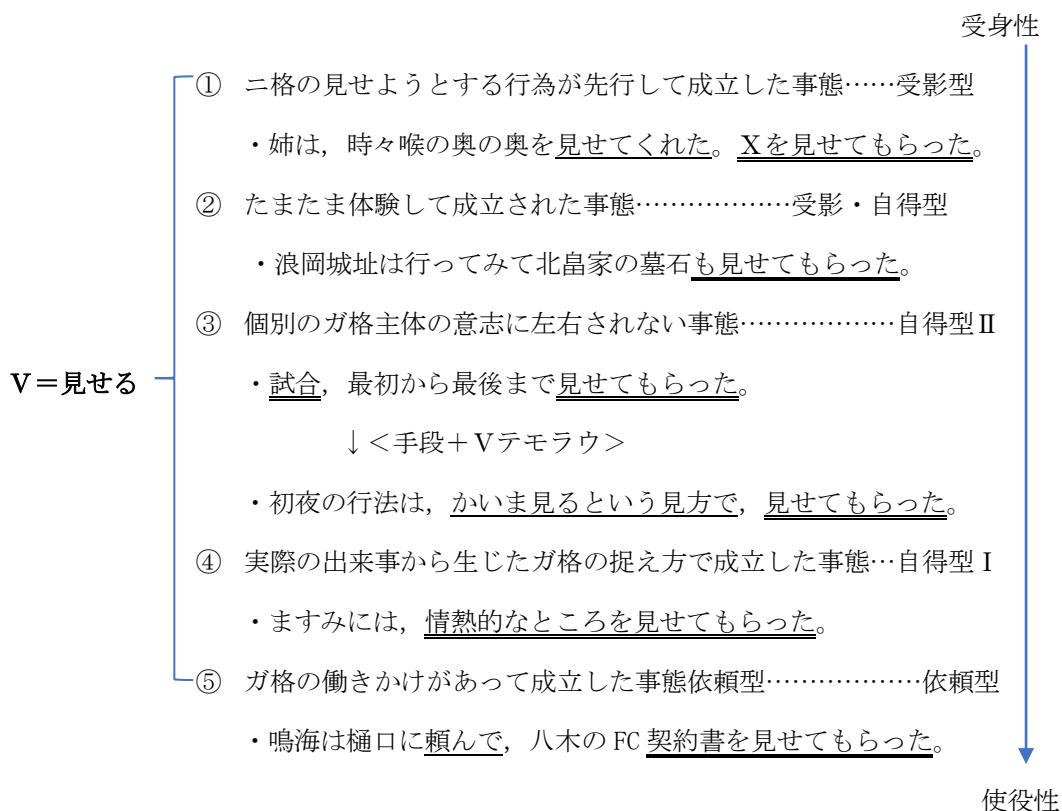


図8 「見せる+Vテモラウ」の働きかけ性

図8のように、「見せる」は「可愛がる」「育てる」と違って、間接テモラウ文であるため、文脈によって、働きかけが文脈によって左右しやすい。用法①は、動作主が先に見せる行為を行い、見せる事態が成立したのである、テクレルに言い換えられるが、受身文に言い換えられない受身的な意味を持つ<恩恵的受影型>である。②は、たまたま体験して成立した事態であり、非働きかけの受影と自得の間のタイプである。③は、V-テモラウの

Vに当たる動作主が明確的に文中に現れる S2V=テモラウ事態の非典型的な<自得型>であるのに対して、④は、S2V≠V-テモラウで表される事態である典型的な<自得型>である。⑤は、「頼んで」という働きかけ性の持つ継起的テ節から<依頼型>だと判断できる。

3.3.2 動詞の回帰型と非回帰型

考察によって、自得型・受影型は「救う・教える・助ける・連れて行く」といった回帰型の動詞が多いことが分かる。回帰型の動詞は、直接テモラウを形成しやすい。そのまま直接受身と交替しやすいため、<恩恵的受身型>の典型であると言える。非回帰型の動詞は、間接テモラウがほとんどで、<非恩恵的受身型>の場合、「テモラッテハ困る」の形式を取らなければならない。<恩恵的受身型>の受身性を示しながら、恩恵性も失わないので、テクレル文との交替が適切だと思われる。

自得型と受影型に現れやすい動詞と対応するテモラウの構造

	直接……舐める
テモラッテハ困る	間接……見る、思う、おりる、忘れる、弄る、余り通る、使う、求める、 気を抜く、甘く見る、噂を立てる、言う、飛んで行く、する、やる、 作る、長居する、一緒にする、真似する、記事にする、退屈する、 錯覚する、妥協する、勝手なことをする、工事をする、協力をする、 増える、住みつく、入る、間違う、受けとめる
	直接……一緒にする
テモラッタラ困る	間接……帰ってくる、忘れる、辞める、思う、する
	直接……助ける、育てる、連れて行く、教える、学ぶ
恩恵的テモラウ	間接……見せる、買う

3.3.3 驚異的表現との共起

共起する表現のタイプも、恩恵的受影型であるかどうかを判断できる。用例(102)の「思いがけない」は、予期しない事態の発生であることを示し、<驚異的表現>と仮称する。用例(103)の「やがて」も、働きかけ性は存在しない。そして、いずれも+事態のテモラウ文であり、<恩恵的受影型>である。

(102) そして午後、旦那のお母さんが来た。いつも、煮物とかご飯とか、色々おかげを持つてきてくれるんです。そしたら、お土産って言ってもらった。食べてみたかった「生

キャラメル」それと、有名らしい「バームクーヘン」なんか、驚いた。思いがけない出来事でした。(0Y11_05282Yahoo!ブログ, 2008)

(103) 身ごもった女たちもきて、からだにさわってもらい、やがて産まれる子に名をつけてもらった。(PB49_00190 ヘルマン・ヘッセ(著)/高橋健二(訳)『ガラス玉演戯』ブッキング, 2004)

<恩恵的受影型>は、驚異的表現との共起の存在の有無によって、共起するタイプ<驚異的表現・+事態>と共にしないタイプ< ϕ +事態>の二つに分類できる。そして、用例(102)の「～なんか、驚いた」「思いがけない出来事でした」の部分を取り除くと、働きかけ性が曖昧になるだけではなく、「そしたら」の前後の文は飛躍のある不自然な文になる。したがって、「～なんか、驚いた」「思いがけない出来事でした」の部分は、驚異的な事を表している表現との共起が存在しないタイプ< ϕ +事態>は、依頼の解釈になりやすい。そして、次のようにまとめられる。

<驚異的表現・+事態>……典型的な恩恵的受影型寄り

< ϕ ・+事態>……依頼型寄り

3.4 <恩恵的受影型>の働きかけ性の曖昧さ

<恩恵的受影型>の例は、以上考察したように、文中には働きかけの意を示す文脈は存在しないが、恩恵性において<依頼型>と共に、働きかけ性が曖昧に感じられることがある。これは<恩恵的受影型>なりの特徴とも指摘できる。以下、<恩恵的受影型>の曖昧さについて述べる。

3.4.1 <恩恵的受影型>の働きかけ性の曖昧さの要因

<恩恵的受影型>のV-テモラウ事態には様々なタイプが存在し、様々な文脈・言語形式が存在する。上記で分析したように、統括的に<恩恵的受影型>だと判断できるが、中には、<依頼型>寄り、<受影型>寄りも有り得る。曖昧という表現は、主にこのような意味として使われている。

<恩恵的受影型>の働きかけ性の曖昧さの要因は、働きかけの一般的な特徴に関連するからであると考えられる。働きかけの一般性から見て、ガ格にとっての一事態を引き起こすように働きかけることは極めて少ない。ガ格にとっての+事態を生じさせるような働きかけが通常の傾向だと言える。したがって、<恩恵的受影型>は受身型としてプラス性が存在するため、同様に恩恵取得の意味を持つ働きかけ性を有する<依頼型>と共に特徴

を持つことになる。このような受影型テモラウ文は受身的でありながら、テモラウ文の基本的な特徴も現れているため、<非恩恵的受影型>と違つて一見働きかけ性が曖昧そうなタイプではあるが、プラス事態であるテモラウの独特的な受身型だと見てよい。

このタイプは、働きかけ性を有しない点では、<依頼型>と異なり、<非恩恵的受影型>と共に通するが、恩恵性を有する点では、<非恩恵的受影型>と異なり、<依頼型>と共に通しているので、<受影型>の中の<依頼型>に接近する性格を持つタイプになる。したがつて、プラス性の持つ事態であると同時に、文中には、特に受身的な意味を示す文脈も具体的に存在していない<恩恵的受影型>は、文の働きかけ性を曖昧に捉えられる可能性があり、働きかけ性の有無の判断は<非恩恵的受影型>より付きにくい場合がある。これは、受影の恩恵的・非恩恵的といったテモラウ文の内部に関連する違いに止まらず、恩恵的テモラウ文と迷惑的受身文の両者の区別を示す重要な特徴ともいえる。したがつて、受身文の被害的事態と共に通する<非恩恵的受影型>のように、<受影型>の典型的な受身型と看做せないのである。

3.4.2 <恩恵的受影型>の典型・非典型的な事態

<恩恵的受影型>は、二格の行為が原因となるガ格受け手にとってのS2V型の<直接受影>の直接利益的事態であり、受身のプラス性が存在するタイプである。それにより、働きかけ性が曖昧に感じられることがあり、<受影型>の曖昧なタイプと思われやすいが、<恩恵的受影型>は考察したように、文脈には一切ガ格受け手の働きかけが見られないし、受影だと解釈できる要因も意味・言語形式・動詞などからも観察できる。よつて、本論では上記分析を踏まえて<恩恵的受影型>受身の典型と非典型に分類し、曖昧さを区別することが可能と見られる。

<恩恵的受影型>は、V-テモラウで表される事態が非典型的<ガ格コントロール可能な事態>と典型的<ガ格コントロール不可な事態>に分けられる。

<ガ格コントロール可能な事態>とは、V-テモラウが示す事態は個別のガ格主体を対象とする個別的な事態であり、ガ格が働きかけようと思えば働きかけ可能な事態である。つまり、動作主に達成する意志さえあれば達成可能な恩恵的事態でもあり、V達成的事態と仮に示す。そのため、文中には受身的な意味を示す文脈が存在しなければ、働きかけ性が曖昧に取られやすい場合が存在するタイプと思われやすい。

なお、<コントロール不可な事態>は個別のガ格主体の意志に左右されず、主体から依

頼して達成できる事態ではないタイプをいう。事態の発生は個別のガ格主体がコントロールできるかどうかによって依頼に近い受影型になるかは変わってくる。以上、改めて次のように簡潔に示す。

＜恩恵的受影型＞の場合

- 〔ガ格コントロール可能な事態⇒働きかけ性・曖昧・非典型⇒依頼寄りの＜受影型＞
- 〔ガ格コントロール不可な事態⇒働きかけ性・一曖昧・典型⇒＜受影型＞

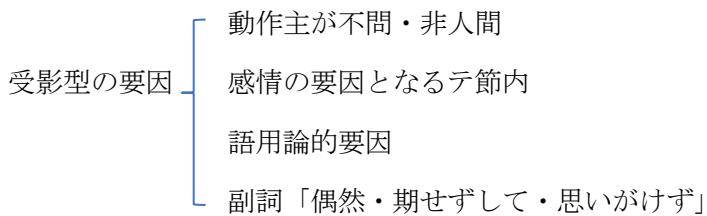
以下は、恩恵的受影事態の典型・非典型を表7にまとめる。

表7 恩恵的受影型の典型・非典型的な事態

タイプ	実例	事の制御性・受動の意
コント ロール 可	・飲みに連れていってもらった。結果的に“友だちの輪”が本当に広がったわけだ。	S2V 達成的事態 S1 予想外の結果・感情表出
	・プラダのリュックを買ってもらった。それは欲しくて仕方がないものだったので、思い切り嬉しい気分になった。	S2V 達成的事態 S1 欲念の満たし・思惑心理の合致による感情表出
	・暮れに兄さんが遊びに来いといっていたので行くことにした。兄さんたちと話しながらごちそうをいただいた。七時に車で祇園まで送ってもらった。	S2 誘い手, S2V 達成的事態, S1 常に受け手
	・毎年春場所と夏場所（当時は年二場所），両国の旧国技館へ連れていってもらった。私がすぐに好きになった。	S2V 達成的慣例事態, S1 変化
	・友人たちに送別会をしてもらった。 ・親しい友人から、一緒に行かないかとさそつてもらった。 ・胴上げしてもらった。嬉しくて、泣いた	・S2V 社会通念に適った達成的事態・S2 中心型 S1 喜びの感情表現
コント ロール 不可	・殺人犯が終身刑になつたらお風呂に入れてもう。 ・この清水監督には、私は、たいへんかわいがつてもらった。 ・手のひらにのるような大きさで生まれた双子の命を救つてもらった。	S2V 非個別のガ格に左右されない非達成的事態
	・不意の高波に襲われ、溺れかかったのを、アシラスに助けてもらった。	S2V ガ格の思いがけない展開
	・拾われて、育ててもらった。 ・気にかけてくれて、Xを紹介してもらった。	S2V 非達成的事態+S2V 達成 (前件の例挙)・過程的事態
	・会社からXを褒め称えるXが送られてきた。報酬まで上げてもらった。	S2 所属の組織 V 非達成的事態
	・デボは誕生日のお祝いに、車と運転の習得コースをプレゼントしてもらった。 <u>退屈して家出などしないように</u> と、シドニーも真剣に考えたのだろう。	S2V 達成的事態 S2 目的の明記
	・うわーはずかしい。先生に踊りをほめていただくなんて。（山田 2004） ・自転車を買ってもらったときの嬉しさときたらありませんでした。 ・宝石箱を見せてもらつては、大はしゃぎで感嘆の声を上げるのだった。	S2V 達成的事態 S1 恩恵の驚異 感情表出

4.まとめ

山田(2004:129)では、テモラウの受身性を判定する要因として、「動作主が不問・非人間」、「感情の要因となるテ節内」、「語用論的要因」、副詞「偶然・期せずして・思いがけず」との共起を指摘している。



本論は、コーパスを使って検証し、<恩恵的受影型>の受身的な要因を、文脈・受動文・能動文との並列、事態の持つ働きかけ性、動作主の性質、動詞の性質、格助詞のタイプなど、意味、共存する言語形式、語彙レベルのいずれからも判定可能な要因を観察できたのであり、バラエティー豊かに現れていると言える。詳細な結果は、以下にまとめる。

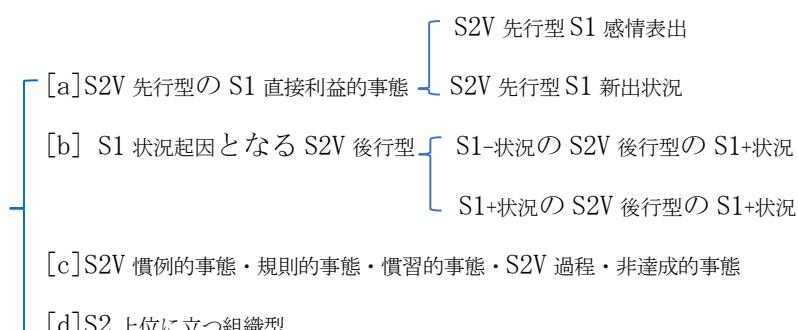
4.1 意味レベルの考察のまとめ

意味に基づく<恩恵的受影型>の受身性の考察では、文と文の関連性、事態の類型から受身の要因を抽出し、受身性を持つ関連構文との交替についても検討を行った。結果を以下に示す。

[1]<恩恵的受影型>のガ格とニ格の役割分担

ここでガ格は、ニ格の一連の能動的事態の<行為・恩恵の受け手>であるのに対し、ニ格は、ガ格の受動的事態の<能動主体・行為・恩恵の施し手>である役割を担う。テモラウ文の本来の使役性が失われている。

[2]受身的な要因



[a]S2V 先行型→S1 直接利益的事態となる事態……原因節・結果節が含まれる。

- S1 感情表出

ex, プラダのリュックを買ってもらった。それは欲しくて仕方がないものだったので,

思い切り嬉しい気分になった。

・ S1 新出状況

ex, 陽水さんに飲みに連れてていってもらった。結果的に“友だちの輪”が本当に広がったわけだ。

[b] S2V 後行型→S1 状況起因となる事態……逆説文・S1 主観的表現が特徴的である。

・ S1-状況→S1+状況

ex, 不意の高波に襲われ、溺れかかったのを, アシラスに助けてもらった。

・ S1+状況→S1+状況

ex, 八冊の本の販売数は驚異的だったらしい。会社からは数度にわたり、彼女の秀逸な作品を褒め称える赤い薔薇が送られてきた。そればかりか報酬まで上げてもらった。

[c] 事態のタイプに基づく分類……S1 の変化・S2 中心型の事態・事態への働きかけが不能が特徴と言える。

ex, 慣例的：毎年春場所と夏場所、両国の旧国技館へ連れていってもらった。私がすぐに好きになった(後略)。→(S1 の変化)

規則的：殺人犯が終身刑になつたらお風呂に入れてもらう。→(事態への働きかけが不能)

慣習的：送別会をしてもらった。胴上げしてもらった。→(S2 中心型の事態)

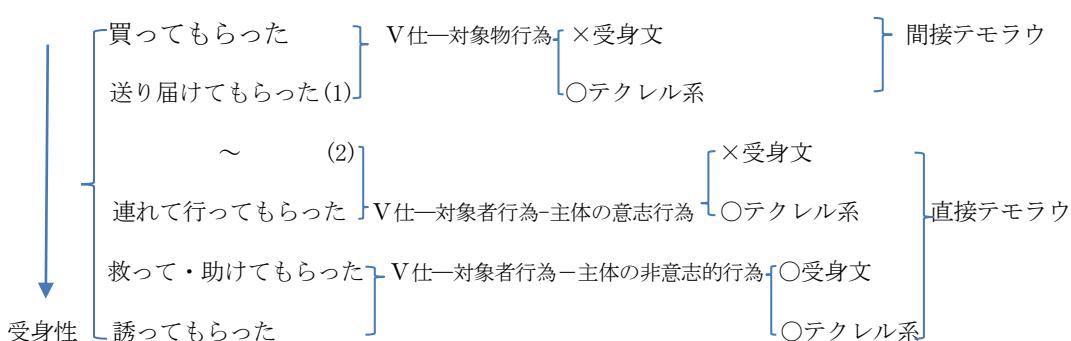
誕生日パーティーを祝ってもらった。

非達成的：父ちゃんが、オートバイのシーンをとったとき、けがをしちゃって、平田さんに親切にしてもらった。→(事態への働きかけが不能)

[d] S2 上位に立つ組織型……S2 への働きかけが不能、S2V 非達成的が特徴。

ex, 棋院に育ててもらった。

[3]受身文・テクレル文との交替



- a) 受身文との交替においては、直接テモラウと間接テモラウによって異なってくる。
- 「買う」のような対象物に影響を及ぼす行為(V仕一対象物行為)は、構造的には間接テモラウが形成され、間接受身と対応する。受身文との交替は、動作主の行為がテモラウ主体とは関連性が失ってしまう。テモラウは恩恵でも非恩恵でも、対象者を中心に行われる行為であるため、V仕一対象物行為をV仕一対象者行為に転換する必要があり、「テクレル」との対応が自然に思われる。それに対し、「連れて行く」のような対象者を中心にする行為(V仕一対象者行為)は、テモラウ主体に直接関連する行為であり、直接テモラウ文が形成される。そして直接受身文と交替可能である。ただ、「テクレル」とは構造的な交替ではなく、当該の文が表している事態・意味内容に対して、「テクレル」に交替させることが可能という意味である。
- b) 「連れて行ってもらった」は、ガ格の位置変化を示し、動作主が共に行動するV仕一対象者行為-主体の意志行為のタイプであり、受身文との交替は、ガ格が共に行動する意志性を失い、恩恵性も失ってしまうため、文の繋がりは不自然になる。したがって、受身文と対応できず、「テクレル」との交替が適切に思われる。それに対して、同じくV仕一対象者行為の「可愛がる・救う」「助ける」は、V-テモラウのVに該当する行為がガ格に直接影響を及ぼすV仕一対象者行為-主体の非意志行為のタイプであり、受身文と交替できるが、「助ける」は働きかけが可能であるため、「可愛がる・救う」と違つて、文中には主体の感謝の意を表明する際に、文法的には表現できても、文の自然さからみて受身文に対応しにくいと見られる。
- c) V仕一対象者行為を示す動詞であっても、「連れて行ってもらった」といった主体の意志の参入にも関わる位置変化行為(V仕一対象者行為-主体の意志行為)を示すタイプ、「命を救ってもらった」「助けてもらった」といった主体の意志行為の参入が必要しない(V仕一対象者行為-主体の非意志的行為)タイプに分ける必要がある。前者は、受身文よりテクレル文と交替しやすいのに対し、後者は、受身文とテクレル文の両方に対応できる。
- d) 文中には、V-テモラウで表される事態に対する主体の恩恵的な感情表出や、その場における感謝の意の表明といった文脈が存在すれば、受身文との交替に違和感が生じやすく、テクレル系との交替が、待遇的、恩恵的、受身的としてもより適切に、文の自然さも保てると思われる。

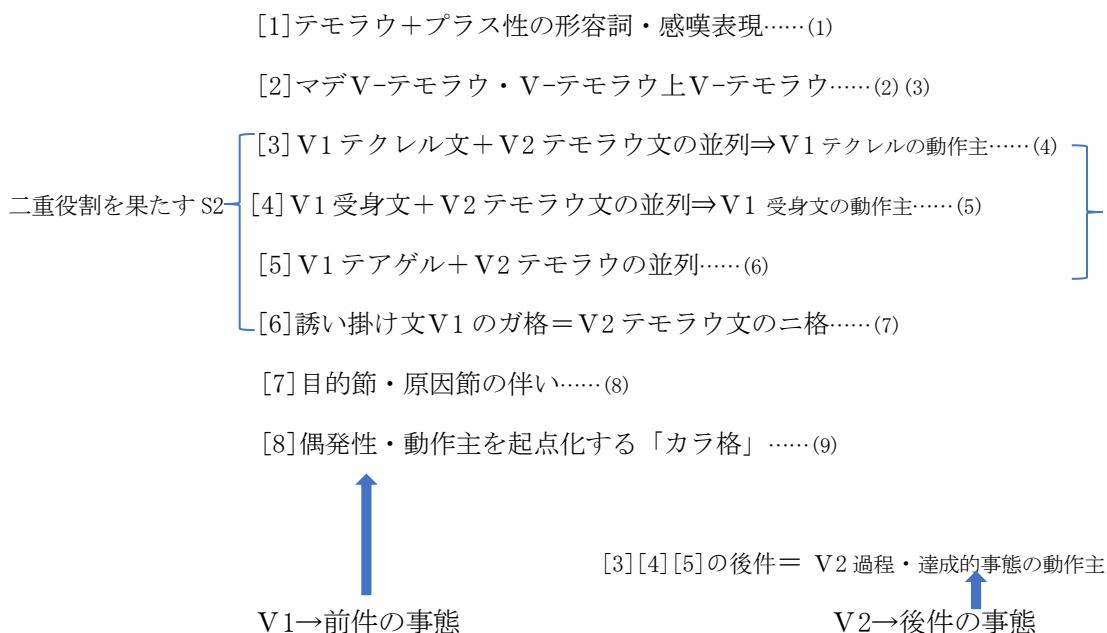
したがって、受身性を持つ受身文・テクレル文といった関連構文との交替を示す分析図の通りになる。よって、寺村(1982:250-1)が指摘するプラスの意味の場合は「テモラウ・

「テクレル」といった受益を示す補助動詞を用いるのと一致する結果になるが、李（2006：73）の、V-テモラウのV動詞の要求応諾性が低いほど働きかけ性が関わらない解釈になりやすく、受身文との交換性が高くなるという指摘とは異なる結果が得られた。つまり、主体の恩恵的な表出が文脈に存在する場合、文の自然さから見て交替しにくいわけである。

4.2 共存する言語形式レベルの考察のまとめ

＜恩恵的受影型＞に共存する言語表現に基づく考察では、BCCWJ の実例を基に、受身性を判断しやすい形式を抽出した結果をまとめる。

＜共存する言語形式レベルに基づく受身的な要因とそれに該当する実例＞



- (1) 自転車を買ってもらったときの嬉しさときたらありませんでした。
- (2) 夕食や酒をご馳走になり、ディスコ代まで払ってもらつた。
- (3) ちんぴらに絡まれているところを助けてもらった上に、家まで送りとどけてもらつた。
- (4) 気にかけてくれて、(中略)何でも協力してくれた。本間啓五さんも紹介してもらつた。
- (5) 会社から(中略)赤い薔薇が送られてきた。そればかりか報酬まで上げてもらつた。
- (6) 相手の感動に共感してあげること。そうすれば、相手はそんなあなたの反応を見て、認めてもらつたことの喜びを味わいます。
- (7) 暮れに兄さんが遊びに来いといっていたので行くことにした。兄さんたちと話しながらごちそうをいただいた。七時に車で祇園まで送つてもらつた。
- (8) 誕生日のお祝いに車と運転の習得コースをプレゼントしてもらつた。退屈して家出など

しないようにと真剣に考えた。

(9) 分家した時に父親の洋蔵から買ってもらった店であった。

[1] プラス性の形容詞と感嘆表現の使用は恩恵的受影型の典型的な表現形式ともいえる。

[2] 目的語を取り立て助詞「まで」を用いて強調し、ガ格受け手にとっての予想外の事態の意を示すことになる。

[3][4][5][6]には、前件の受身文・テクレル文・テアゲル文・誘い掛け文の動作主=後件のテモラウ文の動作主。このような文構造は、S2が二重役割を果たし、中国語で言う兼語式³³に当たる。後件のV-テモラウで表される事態の主節に動作主の省略現象が存在し、前件が「非達成の自己制御性」の事態の場合、後件のV-テモラウが前件への例挙的説明を行うのも特徴的である。兼語式を、次のように分析して示す。

[3] 後件のテモラウの動作主が、前文のテクレルの動作主でもある。

気にかけてくれ Xも紹介してもらった 何でも協力してくれた

S2V 非達成テクレル + S2V 達成(前件への例挙的説明)テモラウ + S1 の事態への感情表出

前件のV-テクレル事態は、「非達成の自己制御性」の持つ事態であり、後件のS2V達成的なタイプは前件への例挙的説明になっている。これは前件の非達成的事態の文の一特徴だと指摘できる。

[4] <受身文>との並列では、「(S1は) S2 にVレ・ラレテ, (S2に) Vテモラウ」のように、受身文とテモラウ文の両方の動作主になっている。

(ガ格)ヲ賭博師に拾われて 育ててもらった いい親父・忘れられない

S2V 非達成レル・ラレル + S2V 過程テモラウ + S1 事態への感情表出

[5] テアゲルとの並列では、「(S2は) S1 にVテアゲル, (S2に) Vテモラウ」のように、テアゲル文の動作主=テモラウ文の動作主になっている。

相手の感動に共感してあげる あなたの反応を見て 認めてもらった喜びを味わう

S2V 非達成テアゲル + S1V + S2V 非達成・S1 自得・受影・恩恵的感情表出

[6] 前件の誘い掛け文のガ格は、後件のテモラウ文の二格の動作主として省略されている。

前件の能動文のS2誘い手=後件のS2V達成的事態の動作主、S1が文中において常に受け手の存在である。

³³ ここでいう兼語式とは、テモラウ文の前件のテクレル文、受身文、テアゲル文のガ格が、同時に後件のテモラウ文の動作主(二格)になっている文構造を指す。この場合のテモラウ文のS2(二格)が、二つの文の動作主になっているが、文成分として、それぞれ異なる役割をしている。したがって、二重役割を担い、兼語式になっていると言える。

暮れに兄さんが遊びに来い

S2V

+

S2V 達成

車で祇園まで送ってもらった

[7] 目的節・原因節がテモラウの前後に接続し、事態発生の意図性が明記されることになる。

[8] 動作主を示す格助詞の機能による受身の原因

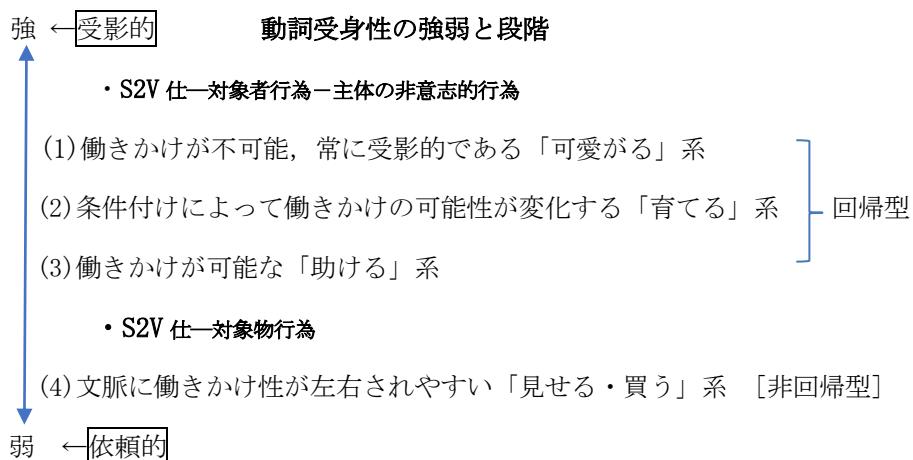
動作主を示す格助詞の機能から受身的な要因を探る際、比較を通して、「二格」は、<計画性・焦点化>機能を持ち、「カラ格」は、<偶発性・起点化>機能を持つ。したがって、前者はより使役的であるのに対して、後者はより受身的である。よって、事態の成立過程では、事態が偶発的で、非働きかけの下である場合、動作主を起点化する機能を持つ「カラ格」が使われやすいと分かった。この他、動作主が事態を引き起こす原因節を伴う場合も受身的であると解釈されやすくなる。勿論、動詞のタイプにもよると、詳細に分析した。

4.3 語彙レベルの考察のまとめ

[1] 動詞の特徴に基づく受影性の分類

主に動詞の受影性について考察し、分類を行った。動詞の特徴から見て、回帰型動詞は、典型的な受影型テモラウ文を作りやすく、形成する直接テモラウ文が受身文と対応(交替)しやすい。非回帰型動詞は、非典型的な受影型になりやすく、形成する間接テモラウ文は、意味上テクレル文と対応(交替)しやすい。

以下、動詞の受影性によって、四つの段階に分類した。



矢印が上に行くほど、受影性が強くなり、直接受身文に交替しても恩恵性が失われにくく、典型的な恩恵的受影型になる。矢印が下に行くほど受影性が遁減し、間接受身文に対応し、文が交替後に迷惑性が生じやすい。よって、ほぼその中間に位置する「助かる」は、

恩恵性を帯びる文脈の場合、文の自然さの角度から見て、そのまま受身文との対応に違和感が残ってしまい、非典型的な恩恵的受影型になりやすく、働きかけ性が存在すると思われやすい。

[2]驚異的表現との共起の存否

＜恩恵的受影型＞は、驚異的表現との共起の存否によって、＜驚異的表現・+事態＞と＜ϕ+事態＞の2タイプに分類した。前者が典型的な＜恩恵的受影型＞と判断できる³⁴のに対し、＜ϕ+事態＞は、依頼寄りに解釈されやすい。

³⁴この結果は、山田(2004:121)「『偶然・期せずして・思いがけず』などの共起は、単純受影になる。」の指摘と類似する。

第四章-(3) 非恩恵的受影型テモラウ文の意味・用法

1. はじめに

本章の目的は、BCCWJ の実例を基に、テモラウ主体であるガ格が、動作主の行為に直接影響される受身的な意味機能を示す＜非恩恵的受影型＞テモラウ文を対象に、受身的な意味機能を認定する要因を抽出することである。また、＜受影型＞の＜中立型＞を考察し、＜受影型＞の全体に対する結論をまとめる。

熊井(2015)では、＜非恩恵的受影型＞の代表的な形式「V-テモラッテハ困ル」について、動詞を中心に考察していたが、共起する副詞やその他の品詞の考察が不十分である。また、今回の考察では、意味から見て非恩恵の用例も存在し、＜非恩恵的受影型＞テモラウ文の様々な受身的な要因を詳細に記述されたとは言えない。そこで、受影的である＜非恩恵的受影型＞を研究対象にし、意味・形式・語彙といった角度から観察を行い、ガ格は非働きかけで、受身だと認定できる要因を詳細に記述することである。以下は、本章の構成である。

2で先行研究の＜非恩恵的受影型＞テモラウ文の概観及びそれとの比較を行う；3で＜非恩恵的受影型＞の受身的な意味を認定する要因を抽出し、受身文との交替可否を論じる；4で＜受影型＞の中立型を考察する；5で＜受影型＞と受身文との違いを述べ、6の＜受影型＞全体の結論では＜非恩恵的受影型＞＜恩恵的受影型＞＜中立型＞の比較、意味・形式・語彙の三つから＜受影型＞の受身的な特徴をまとめる。

2. 先行研究の非恩恵的受影型テモラウ文との比較

テモラウ文には受身的な機能でありながら、意味的には非恩恵的な用法が存在すると、仁田(1991)・許(2000)・山田(2004)・熊井(2015)などの研究によって明らかにされた。

仁田(1991:48-50)では、働きかけ性のない非恩恵的な意味を持つテモラウ文を、「非依頼非受益型」と名づけ、「テモラウ態の主体が、実際に動きを行う主体に依頼などといった働きかけを行っていないのに、動き主体の方が一方的に動きを行う」といったものである。」と定義し、下記の例を用いている。

- (1) 「(前略)お宅で何によらず立ちいる権利はないんですよ。だからたとえ火事になっても、そっちからむやみに踏みこめないんでね、けじめをまちがってもらっちゃ困りますよ」(流れ)(仁田 1991:49)

(2) 勝手に部屋に入つてもらつては困る。(仁田 1991:49)

(3) 「気にいらなかつたら、降りてください。こっちは忙しいんだ。いやいや乗つて貰う
こたあねえ。」(偕老)(仁田 1991:50)

仁田(1991)の「非依頼非受益型」の例は、「V-テモラッテハ困る」「V-テモラッタラ困る」「V-テモラウことはない」の三形式に集中していると分かる。そしてマイナスな意味を持つ副詞「勝手に・いやいや」との共起も見られる。

許(2000)では、特に恩恵が示さないテモラウと間接受身との共通性を明らかにした。「V-テモラッテハ困る」は、客体名詞句(二格)が無情物や自然現象である場合、相手の望ましくない行為に間接的に影響される場合に用いられやすい形式であるとし、次の例を挙げている。

(4) 定刻に来るはずのバスに20分も遅れてきてもらつちや困る。

(5) 何の連絡もなく勝手に会社を休んでもらつちや困るよ。

(6) 私は彼に何回も謝つてもらってどう反応していいか分からなかつた。

この内、例(6)に関して、何回も謝れることはガ格主体にとってマイナス的であることを文中では具体的に示されていないため、この例は必ずしも非恩恵的受影型とは言えず、本論では受影型の<中立型>と見なし、<中立型>の節で具体的に記述する。

熊井(2015)は、主に許(2000)・山田(2004)の「V-テモラッテハ困る」の研究を踏まえ、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の『少納言』の実例を基に、「V-テモラッテハ困る」と「V-ラレテハ困る」の両者の差異を、①機能・用法・使用頻度；②「V-ラレテハ困る」の受身の種類；③前項動詞の性質・言語環境；④動作主の性質；⑤「困る」はタ形や第三者を主体として用いられるかどうか；⑥「困る」以外のマイナス評価の形式といった観点から考察している。結果として、テモラウは「困る」以外と結び付くことは少ないが、レベルは、「たまらない」「かなわない」「まずい」「たいへんだ」「迷惑だ」など、バリエーションがあると述べている。

これに関して、筆者は賛同できず、実際BCCWJでは、「V-テモラッテハ困る」「V-テモラッタラ困る」「V-テモラウことはない」以外に、様々な<非恩恵的受影型>の形式が存在すると分かった。また、熊井(2015)は主に前項動詞から、山田(2004)は主に副詞と複文形式からテモラウの受身的な意味を判断しているが、コーパスの実例では、非恩恵的であり、受身的な意味機能を持つ要因は、文脈と文形式、副詞やその他共起する文成分、V-テモラウに前接する動詞といったレベルから観察できた。

つまり、先行研究が示している以上、BCCWJ の実例では受身的な要因をバラエティー豊かに示している。以下、実例を基に＜非恩恵的受影型＞の特徴を文の意味・形式・品詞といったレベルから突き止めていきたい。

3. <非恩恵的受影型>の受身的な要因

今回の考察対象に限定した四つの文末形式「テモラッタ・テモラウ・テモライタイ・テモラオウ」には、ガ格受け手にとってマイナス事態が生じた実例数は2件という結果である。したがって、本論の＜非恩恵的受影型＞は、仁田(1991) が指摘する「非依頼非受益型」の三形式に基づいて検索を行った。

BCCWJ から「V-テモラッテハ困る」は50例、「V-テモラッタラ困る」は6例、「V-テモラウことはない」は1例という検索結果が得られた。つまり、＜非恩恵的受影型＞は「V-テモラッテハ困る」「V-テモラッタラ困る」の二形式に集中して現れていることを意味するのである。

本論は、「V-テモラッテハ困る」「V-テモラッタラ困る」「V-テモラウことはない」の実態を把握するために、共起する内容を種類別に分け、その概観を以下表8に示す。

表8 「V-テモラッテハ困る・V-テモラッタラ困る・V-テモラウことはない」の実態

形式 類別	テモラッテハ困る・こまる(50例)			テモラッタラ困 る(6例)	テモラウこ とはない(1 例)	
一副詞・副 詞的成分 (9)	勝手・これ以上・簡単に・決して・ばらばら・その 程度・しない限り・都合のいいときだけ			無	無	
-動詞(19 ／2)	V	忘れる(5)・舐める(3)・長居する・退屈す る・錯覚する・間違う・妥協する・真似す る・弄る		V	忘れ る辞 める	
	OV	気を抜く・馬鹿にする・噂を立てる				
	AV	甘く見る				
-連体詞(6 ／1)	そんな(4)・あんな・そういう			そんな	無	
特定事態の 否定(11／ 3)	難民が増える・外国人が街に住みつく・間違ったこ とを言う・自分を売る・記事にする・{一生安心して メシが食える}・{気軽に私の力を利用したいなど} と思う・最小限度銀行という名前は使う・個々の店 に直接飛んで行く・山ですから平らなところは余り 通る・速記をする			肘攻撃だと思う 一緒にする 帰ってくる	無	
特定対象の V行為の否 定(5／0／ 1)	安部氏が自分の研究班に入る・中国でも韓国でも軍 事的な協力をする・皇室はわざわざ自分の方から階 段おりてくる・小平や権兵衛や四郎兵衛へも言う・ 末野興産と一緒にする			無	舅のあなた に平伏する	
合計 57(50／6／1)						

類別を具体的に示すと、V-テモラウと共に起する副詞のタイプ、連体詞のタイプ、V-テモラウのVに該当する動詞のタイプ、その他、「難民が増える」のような目的語と述語が結合する特定事態の出現への否定のタイプ、特定対象のV行為への否定のタイプといったものがある。

また、上記三形式以外には、BCCWJの実例の文脈の意味からして、ガ格受け手にとって

のマイナス事態だと判断できる例も存在する。以下、<非恩恵的受影型>を形式と意味の両方から考察する。表8の三形式に関する分析は3.2において詳細に言及する。

3.1－意味

<非恩恵的受影型>には、上記三つの特定の形式以外に、意味からしてガ格主体にとっての非恩恵的なタイプが存在する（「－意味」と示す）。

(7) 私の青年期に、いやな思い出がある。帝展（現・日展）系のあまり有名でない先生に手ほどきしてもらった {○手ほどきされた}。胡粉すり、使い走りの画学生であった。先生の家は、両国の高砂部屋の近くで、よく相撲取りが遊びにきた。山のような妖怪めいた関取が、二階をガクガクいわせながら上がってき、菓子鉢に手をつっこむ。みると一回で半分ぐらいすくいあげた。そして関取連中は、ヒワイな話をして顔を赤くする私をからかう。下劣な奴らという印象が強く、朝の稽古をみにこいとよくいわれたが、一度もみにいってやらなかった。こっちは女優田中絹代さんに「私はあなたと同じ十九です」と想いをこめてファンレターをおくっていた純真な青年である。そんなころ、先生のお供で席画会というのを見た。下積みの絵かきたちが料亭で、旦那衆の前で席画をかくのである。掛け軸にする絵をいともサラサラと、何枚でも、まったくおどろくほど同じにかくのである。これを旦那衆が首をかしげて感嘆し買ってゆくのである。私はこれをみてまったくウンザリした。（LBt7_00016 赤羽末吉（著）『私の絵本ろん』平凡社、2005）

(8) まじめな蟻たちのように、（中略）働き続けてきたお年寄りが、荷物のように置き去りにされ、忘れられている。いや、それでも時々、想い出してもらっている {○想い出されている}。お年寄りが年金をもらう時期になると、必ずホームを訪れる娘や息子たちがいるのである。（LBq9_00268 櫻井よしこ（著）『りんぼう先生おとぎ噺』集英社、2002）

用例(7)では、「あまり有名でない先生に手ほどきしてもらった。」また、先生に対して、「胡粉すり、使い走りの画学生であった。」と、テモラウの動作主である先生に対する消極的な評価を下している。この他、後文脈では、先生の家に訪れた際に関取連中に揶揄されたことや、先生と席画会を見に行き、下積みの絵描きたちが同じ絵を何枚も描き、旦那衆がそれを見て首をかしげて感嘆して買ってゆく。そのような様子を見てうんざりした気持ちになったのも、あまり有名でない先生に手ほどきしてもらってから生じた、ガ格主体にとっての一連のいやな思い出であり、一事態だからである。それが原因で、動作主に対する

るマイナス評価を付けたとも考えられる。これは文構造からではなく、動作主に対する消極的な評価という文脈から、ガ格にとっての非恩恵的な事態であると分かる。

V-テモラウが示している事態の働きかけ性に関して言えば、曖昧に思われてしまうことがある。つまり、V-テモラウが示している事態は、後件の続く一連の一事態を全体としてガ格主体は「あまり有名でない先生に手をほどこされた」と思った場合である一方、働きかけて生じた事態である場合も考えられる。後者の場合は具体的にいうと、指導するように働きかけて、その後、動作主に関わることによって、テモラウ主体にとっての一事態が生じるために、「あまり有名でない先生に手をほどこしてもらった」と受け止めた場合である。つまり、「あまり有名でない先生に手ほどこしてもらおう」という願望は、予めガ格主体が持っているわけではないのである。V-テモラウ部分が示している事態は事実であるが、修飾節の「あまり有名でない」先生と、一連の一事態を統括的な捉えて「いやな思い出がある」と評価する部分は、ガ格の非恩恵的な感情を表出している。

前掲の恩恵的な感情表出とは違って、ここでは、{S1 の非恩恵的な感情表出}であり、「あまり有名ではない先生」は、S2に対する不評である。文は、<前文{S1 の非恩恵的な感情表出}=後文{不評の S2 による S2V+その他の<一事態>}={S1 の感情表出の原因}>のように構成され、下記のように具体的に示すことができる。

タイプIV<前文{S1 の非恩恵的な感情表出}+後文{不評の S2+その他の<一事態>}>

= {S1 の感情表出の原因}>

S1 の非恩恵的な感情表出 不評の S2 による S2V + その他の<一事態> =S1 の感情表出の原因
(7)いやな思い出がある あまり有名でない先生 関取連中にからかわれたなど

V-テモラウの前後には、動作主に対するマイナス評価と共起する内容のテモラウ文は、考察では滅多にない例であり、非恩恵的であると明確に示していると言える。また、同じく迷惑の意味を持つように受身文と交替できる。

用例(8)では、前文には受身文「忘れられている」が先行され、忘れているはずのテモラウ主体である「お年寄り」が、年金をもらう時期に娘や息子たちに想い出されている。「思い出してもらっている」は「思い出されている」と受身文でも表現できるが、テモラウ文を用いて皮肉的意味を示している。したがって、用例(8)は非働きかけで、ガ格主体にとって非恩恵的な意味用法になる。

3.2-形式

仁田(1991)では、非恩恵的テモラウ文の一連の形式として、「V-テモラッテハ困る」「V-テモラッタラ困る」「V-テモラウことはない」に関わる用例を取り上げている。筆者は仁田(1991)に踏まえ、さらにBCCWJを通して非恩恵的な形式の存在を検証した。三形式は、次のように合計で57例が検出でき、事実として<非恩恵的受影型>が存在すると、文形式を以って証明することができる。これらの形式の意味特徴は微妙に異なっているが、大枠に次のように示すことが可能であろう。

V-テモラッテハ困る…50例	意味：動作主の相手から主体に向かってV-テモラウに 該当する行為の出現に対する拒否の意志表示 特徴：主に第一人称の主体に直接関わりを持つ一事態であ り、主体の省略が目立つ
V-テモラッタラ困る…6例	
V-テモラウことはない…1例	

三形式は共に消極的な意味を伝えているので、本論では、<-形式>と示す。次は、三形式の文の実態を概観し、受身文との交替可否を検討してから、表8の分類を踏まえて順次考察していく。まず、「V-テモラッテハ困る」についてである。

3.2.1 テモラッテハ困る

用例(9)(10)は、「これ以上」と共起することによって、ある基準を超えてはならないことを指摘している。V-テモラウが示す事態である「これ以上バレイショをつくる」と「これ以上変な噂をたてる」ことは、ガ格にとっての迷惑事態であるため、同様に「これ以上～V-レ・ラレテハ困る」と、受身形式を以って表現することができる。

- (9) a. 美代子はくやし涙を耐えるのに精一杯で、とても上田を見返す余裕などなくなっていた。「これ以上変な噂をたててもらっては困るのよ。うちは客商売なんだからね。さかりのついた猫みたいな人を雇っておくわけにはいかないのよ」たまらずに美代子は部屋を出た。(LBf9_00228 高橋三千綱(著)『オンザティ』講談社, 1991)
- b. これ以上変な噂をたてられては困るのよ。

- (10) a. あるいはビートも若干面積が伸びたところにさらに収量が伸びる、こういうことになると農林省筋の方から、北海道はこれ以上バレイショをつくってもらっては困る、ビートをつくってもらっては困る、こういう意見が聞こえるというのです。(OM21_00010
国会会議録, 1984)
- b. これ以上バレイショをつくられては困る。

用例(11)(12)は、テモラウ主体が行為の動作主である相手から、自然に忘れていく事態や馬鹿にされる事態を引き起こされないように、拒否しているのである。V-テモラウのVに該当する動作主の「忘れる」や「馬鹿にする」という状況は、ガ格受け手にとっての迷惑的な事態であるため、受身文の迷惑性と同様な性質を持っている。

(11) a.火球が妖しい炎を吹き上げながら通過していった。威嚇だったのであろう。火球は背後の壁で小さな爆発を起こして消滅した。「私がいることを忘れてもらっては困る」ルー・ホークは、バスター・ドソードの切先をエルスフォースにむけて言った。

(LBg9_00129 篠崎砂美(著)『魔封の大地アンクローゼ』角川書店, 1992)

b. 私がいることを忘れられては困る。

(12) a. 「…ふむ。東洋人の陸軍にしては、意外に反応が早かったようだな」公爵が呟いた。「そう馬鹿にしてもらっては困る」油断なく草薙の剣を構えた隆介が答える。「日露戦争ではロシア、世界大戦ではドイツと戦い…」乾いた唇を舐めた。

(LBm9_00045 赤城毅(著)『帝都最終決戦』中央公論社, 1998)

b. そう馬鹿にされては困る。

用例(13)は、「勝手」を用いて相手の行為を直接断っている。共にガ格主体が非働きかけであるため、「V-レ・ラレテハ困る」と自然に受身文と交替できる。

(13) a.私たちはどうしてもやりたくなかったので 直接子供の親（叔父）に謝罪とお断りの電話を入れました。義母にも主人から勝手な事をしてもらっては困るとはつきり言ってもらいました。(OC11_01668Yahoo!知恵袋, 2005)

b. 義母にも主人から勝手な事をされては困るとはつきり言ってもらいました。

3.2.2 テモラッタラ困る

「テモラッタラ困る」の例において、「V-テモラッタラ困る」形式を以て事態が実際に生じてしまえば、テモラウ主体にとってマイナスであり、「テモラッテハ困る(こまる)」と同じく「困る」を用いて意思表示を行っている。下記の用例は、どれも自然に受身文と交替できる。

(14) a.そんな動きがあったら困るという申し入れを知事さんがしておる。知事の知らぬところでそんなことをしてもらったら困る」と笑い飛ばすことができるだろう。

(OM14_00001 特定目的・国会会議録『国会会議録』, 1997)

b. 知事の知らぬところでそんなことをされたら困る。

- (15) a. どんなにエグイもんだったか。アブドーラ・ザ・ブッチャーのエルボードロップなんかがレスラーの肘攻撃だと思~~つ~~ても~~ら~~ら困る。(LB17_00036 山本小鉄(著)『いぢばん強いのは誰だ』講談社, 1997)
- b. アブドーラ・ザ・ブッチャーのエルボードロップなんかがレスラーの肘攻撃だと思~~つ~~われたら困る。
- (16) a. 宿下がりをしたらどうかという話が出たのですがすぐに母方の親戚が来て「帰
ってきてもらたら困ると知事さんはおっしゃるけれども、住民は、住民の知らぬところでそんなことをやられたら困ると言う。(OC09_09512Yahoo!知恵袋, 2005)
- b. 帰ってこられたら困ると知事さんはおっしゃるけれども、住民は、住民の知らぬところでそんなことをやられたら困ると言う。
- (17) a. (前略)クジラを捕っていたことが明るみに出たが、彼らならば「日本の捕鯨と
一緒にしてもらたら困る」「殺してやろうか！！！」とすごいけんまくでいった
そうです。それ以来「あの人人が私を殺すって言った。(PB46_00089川端裕人(著)『クジラ
を捕って、考えた』徳間書店, 2004)
- b. 日本の捕鯨と一緒にされたら困る。

3.2.3 テモラウことはない

「テモラウことはない」形式は、「することはない」とテモラウが共起している。「することはない」は、V-テモラウのVに該当する行為を行わないようにガ格主体が禁止を促している。実際、用例を観察すると、二つの意味合いがある。

仁田(1991)の用例(3)では、「いやいやという状態で乗ってくるようなことをする必要はない」と、動作主の状態は、ガ格主体にとっては不都合であると怒りの意を示しているのに対し、BCCWJの用例(18)は、「舅のあなたが平伏するなんて、そんなことをしなくていいの上」と、動作主の状態は同じくガ格主体にとっての不都合であるが、怒りではなくガ格主体の遠慮の気持を示している。したがって、「テモラウことはない」は、「テモラッテハ困る」「テモラッタラ困る」とは、ガ格主体にとっての不都合な事態が発生しているニュアンスからして共通しているが、遠慮の意味合いの有無において、「テモラッテハ困る」「テモラッタラ困る」の二形式とは異なっている。また、「テモラウことはない」形式は、検索結果では1例しかなく、<非恩恵的受影型>の形式として使われることが少ないと意味するのである。受身文との交替は可能であるが、用例(18b)は「テモラウことはない」に

比較して口調が強く感じられる。

(再掲 3) 「気にいらなかつたら、降りてください。こっちは忙しいんだ。いやいや乗
って貰うこたあねえ。」(偕老)(仁田 1991:50)

(18) a.副頭目が門前で馬から下りると、手下どもははやしたてた。「いよう花婿 まぶしい
ほどの男っぷりだ。見とれるぜ、見とれるぜ」劉老人は台盃を捧げ、酒をつぎ、地面
にひれ伏す。副頭目は老人を立たせようとした。「舅のあなたに、平伏してもらうこと
はない」「いいえ、私は親分さまのお指図に従う百姓にすぎません」副頭目はすでに酔
っていて、高笑いをした。「俺が婿になってやつたら、悪いようにはしないぜ。あんた
の娘もしあわせにしてやるさ」副頭目は、到着を祝う下馬盃を飲みほし、麦打ち場の
花飾りを眺めつつ、また二杯を飲む。(PB19_00052 津本陽(著)『新釈水滸伝』潮出版社, 2001)

b. (前略) 舅のあなたに、平伏されることはない。 (後略)

以上のように、三つの非恩恵的形式の意味をBCCWJの実例を通して具体的に検討した。
以下、表1のV-テモラウと共に起する副詞・連体詞・動詞・特定事態の出現への否定・特定
対象の行為への否定といった面から、三つの形式の実態を探る。

3.2.4 その他の-形式

この他、先行研究ではあまり取り上げられていない非恩恵的な意味を示す形式も存在し、
以下にまとめる。

I. 「こんなに」「N+なんか」 + 「V-テモラッテハ」

(19) 「あたしは不思議におもっただけですから」「あの、藤岡さん、こんなにしてもらつ
ては。あたしの時計は清森くんたちが買ってくれたんだし…」(LBd9_00172 田中雅美(著)『赤
い靴探偵団』集英社, 1989)

(20) 「本当かよ。それはマズイぞ。よりによって自分が勤務しているときに戦争なんか起
きてもらつては」そんな話をしていたら、二小隊のファン・サンジュ上兵が来た。

(PB33_00726 イ・ソンチャン(著)/裴淵弘(訳)『オマエラ、軍隊シッテルカ！？』バジリコ, 2003)

(21) つまらないものですが、どうぞ。一いえいえ、そのようなことをしてもらっては、こ
ちらが困ります。一いえいえ、それでは、私の気持ちがおさまりません。(LBb9_00122 火
浦功(著)『ハードボイルドで行こう』角川書店, 1987)

II. (「一緒に・同等に」) + 「V-テモラッテハ迷惑」「V-テモラウノハ迷惑」

(22) (前略)でも、こんな美しい花と七面鳥を一緒にしてもらってはチョッと迷惑ッ！？

(0Y10_00091 Yahoo! ブログ, 2008)

(23) 非人・乞食を抱えて渡船させているが、彼らと自分たち水主を同等に扱ってもらつては迷惑であるとしている。(PB12_00226 横口和雄(著)『信州の江戸社会』信濃毎日新聞社, 2001)

(24) 人に迷惑がかかると思ってね。療育園にいるときには人に助けてもらうのは迷惑だと言われてきたから。そんなふうに心底思っていたし、思わされていたんだよ(LBj3_00139 安積純子(著)『生の技法』藤原書店, 1995)

(25) だからわたしとしては、あのひとに病院のことを手伝ってもらうのは、有難迷惑なんですよ、いちばんいいのは、彼女をご家族のほうでちゃんと迎えいれてあげることなんだ(OB1X_00097 五木寛之(著)『凍河』文芸春秋, 1976)

III. V-テモラッテハ+禁止表現(「ダメ」「いかん」)

(26) 裏ビデオと名簿を交換して見ました。それと貸衣装は、美容院に紹介してもらつてはダメ！(0C11_01629 Yahoo!知恵袋, 2005)

(27) 「三日後にまた来る」と神主を突き放して歩き出した。十歩ほど歩いてもどって来た。
「なめてもらってはいかんな、寺社奉行に訴え出るぞ」と言って再び背を向けた。
(PB19_00242 峰隆一郎(著)『富札を斬る』双葉社, 2001)

IV. V-テモラッテハ+のためにならぬ

(28) あくまで離脱と脱隊は異なることを伊東は主張する。「個人の脱隊と同じに考えてもらつては、互いのためにならぬでしょう」 最後に伊東は暗に全面的斬り合いも辞さぬ覚悟をほのめかした。(PB39_00249 秋山香乃(著)『新選組藤堂平助』文芸社, 2003)

V. V-テモラエナイ+悲しい

(29) そりや、自分も演奏の邪魔にならぬよう気配を消して撮影してましたから…。でも、
気付いてもらえないとなるとちと悲しいものはありますね。(0Y15_17408 Yahoo! ブログ, 2008)

VI. V-テモラッテモ+嬉しい

(30) 未だにお茶汲みは女性専門の仕事のように、当然のように言われますが、男性は男性にお茶いれても嬉しいからそういう風に命令するのでしょうか？まあ確かに男性に淹れてもらって、ビヨーンな感じです(0C05_03197 Yahoo! 知恵袋, 2005)

上記示した用例(19)～(30)のように、「困る」が現れないものも多いだが、「困る」と解釈できる文末になったりして、いずれも「V-テモラッテハ困る」と同様なタイプとして取り扱うことができる。用例(19)(20)は、「V-テモラッテハ困る」の省略したタイプであり、

「こんなに」との共起も多く見られる。用例(26)(27)は、「V-テモラッテハダメ」「V-テモラッテハいかん」のように、禁止表現の後接である。本節は、次のようにまとめた。

「V-テモラッテハ困る」の「困る」の代わりに1)2)の表現を使用している

- 1) 迷惑・だめ・いかん
- 2) ためにならない・悲しい・嬉しい・嬉しい・など

3.3-語彙

上記の一意味、一形式に対して、「V-テモラッテハ困る」「V-テモラッタラ困る」「V-テモラウことはない」の三形式と共に起する副詞・連体詞、Vの部分に当たる動詞などは、いずれも消極的な意味合いを持つものが多いため、<一語彙>として示し、まとめて語彙レベルの考察として扱う。

3.3.1 副詞

ここでは、副詞と非働きかけ非恩恵的事態との関連性について具体的に検討する。仁田(1991)では、前掲した用例(2)(3)のように、副詞との共起を示す<非恩恵的受影型>の例を、「いやいやV-テモラウことはない」「勝手にV-テモラッテハ困る」の2例を取り上げている。「いやいや」「勝手に」との共起によってさらにガ格主体にとって、非恩恵的な意味合いが強く示されることになる。今回のBCCWJの考察でも、実例(13)のように「V-テモラッテハ困る」と「勝手に」との共起が1例あり、二格の行為がガ格主体の非働きかけのもとで勝手に生じている。そしてそのような勝手な行為は、いずれもガ格領域に勝手に侵入してきたのである。

(再掲 13) 私たちはどうしてもやりたくなかつたので直接子供の親(叔父)に謝罪とお断りの電話を入れました。義母にも主人から勝手な事をしてもらっては困るとはっきり言ってもらいました。 (OC11_01668Yahoo!知恵袋, 2005)

また、下記の実例のように、「勝手に」の以外に、「これ以上・簡単に・決して」といった副詞と「その程度・ばらばら・しない限り・都合のいいときだけ」といった副詞的修飾成分との共起も見られる。

(再掲 9) (前略) 「これ以上変な噂をたててもらっては困るのよ。うちは客商売なんだからね。 さかりのついた猫みたいな人を雇つておくわけにはいかないのよ」 (後略) (LBF9_00228 高橋三千綱(著)『オンザティ』講談社, 1991)

- (31) その程度のものをデザインといってもらっては困る。 (LBi9_00053 天野祐吉(著)/安野光雅
(著)『ことば・把手・旅』暮らしの手帖社, 1994)
- (32) そういうばらばらな行動になるような指示を本国政府に求めてもらっては困るとい
う意味でございます。(OM46_00002 国会会議録, 1991)
- (33) 米沢委員都合のいいときだけ次元が違うなんと言つてもらっては困るんだな。例えば
NTTなんか、何も好きこのんで救済しているんじやないよ。(OM21_00009 国会会議録, 1985)
- (34) 対応の仕方として、なかなか現場には入りづらい、もちろん簡単に入つてもらっては
困るわけなのですが、その部分をちょっとお知らせいただきたいと思います。(OM51_00003
国会会議録, 1996)
- (35) 十人のうち九人の親は、こどもに裏切られたという感じを持つ。これは決して親不孝
のすすめと受けとつてもらっては困るが、親というのは元来そういうものである。こど
もに過度の期待を持ってはいけない。(OB1X_00078 水野肇(著)『夫と妻のための老年学』中央公論
社, 1978)
- (36) 長友はあいかわらずファウルが目立ったし、寺田も安定した守備はできていなかった。
まだまだ最終予選の半分も終わりきっていない。まだまだ気を抜いてもらっては困る。
(0Y15_13321Yahoo!ブログ, 2008)

- (37) そのことを再検討しない限りこれは地元の市議会でも工事をしてもらっては困
るということを言っているにもかかわらず、また日本がここで強制的に、強制的と
いうのはおかしいですけれども(略) (OM45_00001 国会会議録, 1991)

用例(9) (13) (31)～(37)は、V-テモラウが示している事態のいずれもガ格主体にとって
望ましくない事態であり、ある条件を満たさなければ困ることを示している。また、いざ
れも動作主による事態をガ格主体は消極的に見ているのであり、共起する副詞やそれに準
ずるものも消極的な評価が続きやすい「これ以上」「その程度」「決して」「勝手に」「簡単
に」「都合のいいときだけ」といったものである。この内、「これ以上」との共起が多く、
57例の中に15例も存在し、「勝手に」との共起は1例であると、今回の調査で新たに分か
った。また、このタイプは通常ではガ格主体にとっての恩恵的事態であるように表現せず、
ガ格主体にとっての非恩恵的であるといったマイナスな事態が続きやすいということにな
り、「これ以上噂を立てられて嬉しい」のように受身文とも交替できるのである。

以上、こういった一副詞が三形式と共に起することによって、テモラウ文は受身文との交
替ができるだけではなく、ガ格主体にとって非恩恵的な迷惑事態の発生であることをより

明確に示した。

3.3.2 動詞

BCCWJ の実例を観察して、「テモラッテハ困る」「テモラッタラ困る」といった非恩恵的な形式は一副詞と共に起しない場合、マイナス的な意味合いを持つ動詞などが前にくることが多い。先行研究として、前掲した仁田(1991)の用例(1)では、動詞「間違う」が前にきている。

(再掲 1) 「(前略)お宅で何によらず立ちいる権利はないんですよ。だからたとえ火事になつても、そっちからむやみに踏みこめないんでね、けじめをまちがってもらっちゃ困りますよ」(流れ)(仁田 1991:49)

BCCWJ では、「忘れる」「舐める」「辞める」といった消極的な意味合いを示す動詞と、「気を抜く」「馬鹿にする」といった「目的語+述語」の構造と、「甘く見る」といった「形容詞+動詞」の複合的動詞構造が「テモラッテハ困る」などの前にきてている。それぞれ、下記のように、V構造・OV構造・AV構造と示し、一括して<一動詞>として示す。この内のOV構造・AV構造は、主に慣用表現になる。実例は以下の通りである。

I. <V構造>……忘れる(5)・舐める(3)・長居する・退屈する・錯覚する・間違う・妥協する・真似する・弄る

(38) 入ったよ！」負けじと霖之助と早苗が地勢と危地を発動し防ぎにかかる。リグル「私も忘れてもらったら困るよ！」さらにリグルが刹那の号令を発動。

(39) 得策ではなかった。松平信綱は唇を噛んで悔しがった。政治における場数の差というところであろうか。しかし、この政宗の為し様に、「舐めてもらっては困る」と反駁した男がいた。(PB29_00550 竹中亮(著)『真田大戦記』学習研究社, 2002)

(40) (前略)たとえば、会社になくてはならない社員が辞表を出したとする。社長は辞めてもらったら困るので、昇進や昇給を約束して引き止めようとする。

II. <OV構造>……気を抜く・馬鹿にする・噂を立てる

(41) 長友はあいかわらずファウルが目立ったし、寺田も安定した守備はできていなかった。まだまだ最終予選の半分も終わりきっていない。まだまだ気を抜いてもらっては困る。(0Y15_13321Yahoo!ブログ, 2008)

(42) 「…ふむ。東洋人の陸軍にしては、意外に反応が早かったようだな」公爵が呟いた。「そう馬鹿にしてもらっては困る」油断なく草薙の剣を構えた隆介が答える。「日露戦

争ではロシア、世界大戦ではドイツと戦い…」乾いた唇を舐めた。 (LBm9_00045 赤城毅(著)
『帝都最終決戦』中央公論社, 1998)

III. <AV-構造>……甘く見る

- (43) また邪神が出てくると想定しているんだね。そんなに上手くいくのかなあ。そもそも、
人類を倒すという所で躊躇いたね。巨大ロボ「アニマリオン」を甘く見てもらっては困る。
兎耳剣 まちばうけ斬り！！！ネーミングセンスはともかく、格好いいぜ！！
(0Y15_17336Yahoo!ブログ, 2008)

実例において、「テモラッテハ困る」「テモラッタラ困る」の二形式だけ、ガ格主体にとっての消極的な事態が生じている状況を示す一動詞と共に起され、そのような事態が生じることを嫌がる意思伝達をガ格主体が行っている。いずれも受身文と交替できる。

3.3.3 連体詞

下記の実例では、「あんなこと」「そんなこと」「そんな暗いこと」「そんな滅多なこと」「そんなふうに」と、否定的な表現を前接することによって、動作主の行為を、テモラウ主体が否定的に見ているのが分かる。共に「テモラッテハ困る」「テモラッタラ困る」の二形式との共起であり、いずれもV-テモラウが示す事態は、ガ格にとっての不利益的な事態であると分かる。受身文と交替可能と見て、受身文との交替例を省くことにする。

- (44) 「いやいや、あんなことやってもらっては困るよ」となるかもしれません。 (LBn3_00084
山岡義典(著)『時代が動くとき』ぎょうせい, 1999)
- (45) プロデューサーの方が、『そんなことをしてもらっては困る』っていって、取り去られたのを憶えています」 (PB47_00182SanMa Meng(著)『ザ・ゴールデン・カップスワンモアタイム』小
学館, 2004)
- (46) 鈴蘭としては、そんな滅多なことを言ってもらっては困る。もちろん、貴瀬だってそ
れを望んでいるわけではないのだろうけど。 (PB59_00293 林トモアキ(著)『お・り・が・み』角川
書店, 2005)
- (47) そんな暗いことを言ってもらっては困るとおっしゃることでしょう。 (LB13_00094
実著者不明『日本経済入門』ダイヤモンド社, 1997)

- (48) そういうふうに各大学がやってもらっては困る。 (OM14_00002 国会会議録, 1977)
- このように、副詞も動詞も連体詞も、語レベルではいずれもマイナスな意味を持つことによって、マイナスな評価が続きやすく、「テモラッテハ困る」「テモラッタラ困る」とい

った<一形式>とも共起しやすいのである。

3.3.4 特定事態の否定

副詞・動詞・連体詞の他、「テモラッテハ困る」といった非恩恵的な形式は、下記の実例が示すように、「自分を売る(用例 49)」「難民が増える・外国人が街に住みつく(用例 50)」「県庁にさえ入れば一生安心してメシが食えると思う(用例 51)」「気軽に私の力を利用したいなどと思う(用例 52)」、前掲した「記事にする」「舅のあなたに平伏する」「日本の捕鯨と一緒にする」「最小限度銀行という名前は使う」といった事態と結び付き、事柄の範囲はガ格主体にとっての非恩恵的な事態が多いと分かる。したがって、V-テモラウ事態への非働きかけであるのも同然である。

(49) 自分の人間的な魅力で仕事をするという考え方は、絶対に間違っています。むしろ、
自分を売ってもらっては困るのです。 (LBr1_00032 田部井昌子(著)『資産ゼロから大成功する「魔法
の粉」の使い方』講談社, 2003)

(50) 「これ以上、ドイツが変わるのはごめんだ」というのが理由。これ以上難民が増えて
もらっては困る。 これ以上外国人が街に住みついてもらっては困る。 (LBj3_00073 藤井良
広(著)『通貨崩壊』日本経済新聞社, 1995)

(51) とにかく、熊本県庁株式会社はベンチャー県庁なのですから、県庁にさえ入れば一生
安心してメシが食えると思ってもらっては困るのです。 (OB4X_00040 細川護熙(著)『鄙の論理』
光文社, 1991)

(52) 気軽に私の力を利用したいなどと、思ってもらっては困るのだがな、アンジェリーク。
(PB2n_00096 分担不明『アンジェリークアドバンスガイド』光栄, 2002)

3.3.5 特定の対象のV行為への否定

特定対象のV行為への否定とは、用例(53)のように「安部氏が自分の研究班に入らっても
らっては困る」と、V-テモラウに該当する行為への否定だけではなく、「安部氏」という
特定の個別対象への否定である。この他、「中国でも韓国でも軍事的な協力をする」「末野
興産と一緒にする」「皇室はわざわざ自分の方から階段おりてくる」「小平や権兵衛や、
四郎兵衛へもいう」といったものもあり、いずれも動作主という特定の対象へのV行為へ
の否定である。

(53) 大河内先生の意見に風間は賛成する。福井は反対する。なぜこんな断定的な言葉がで

てきたのかわかりません」師である安部氏が自分の研究班に入ってもらつては困ると語り激しく非難した人物に、自分が同調していた事実を知られたくないとでも言うように風間証言は消極的なトーンに落ちていった。(LBn4_00039 櫻井よしこ(著)『安部先生、患者の命を蔑ろにしましたね』中央公論新社, 1999)

(54) 立木洋君これはアメリカが積極的に要請して、アジアの諸国はこれ反対しているんですよ、中國でも韓国でもこういう軍事的な協力をしてもらつては困ると。 (0M46_00002 国会会議録, 1991)

(55) 西の末野、(末野興産) 東の桃源社といってマスコミには集中的にやられましたけどね。私とすれば末野興産と一緒にしてもらつては困るという気持ちだったんですが。

(PB53_00242 ベンジャミン・フルフォード(著)『日本マスコミ「臆病」の構造』宝島社, 2005)

(56) それじゃ近所の民生委員のおじさんになっちゃう。だから、皇室はわざわざ自分の方から階段おりてきてもらつては困る。 (0B4X_00193 『ビートたけし(著)だから私は嫌われる』新潮社, 1991)

(57) 「小平や権兵衛や、四郎兵衛へも、いうてもらつては困る」(LBn9_00011 池波正太郎(著)『侠客』角川書店, 1999)

3.4まとめ

以上、<受影型>の一タイプとして、<非恩恵的受影型>の受身性を、意味・形式といった側面から具体的に考察・分析を行った。そして、次のような結果が得られた。

[1]意味レベルの考察

意味レベルの考察では、V-テモラウの動作主に対して消極的に評価する表現やガ格主体にとっての一連のマイナスな事態の発生が文脈で示されている。したがって、仕手へのマイナス評価と一連のマイナスな事態の出現から、ガ格主体にとっての非恩恵的で非働きかけであると判断でき、受身文との交替も自然である。

今回の調査では、文脈の意味から非働きかけ非恩恵であるテモラウの実例は、それほど多くなく、1例しか判明できなかった。したがって、仁田(1991)が挙げた特定な文形式以外の<非恩恵的受影型>の使用は、非常に少ないということになる。その原因を突き止めると、つまり、テモラウ文の場合は、使役的な機能でも受身的な機能でも恩恵取得の意味合いが中心なため、ガ格主体にとっての一事態を引き起こすことは、テモラウの本来の特徴から懸け離れるからと指摘できる。

[2]形式レベルの考察

形式レベルの考察は先行研究を踏まえた考察であり、考察によって、「テモラッテハ困る」「テモラッタラ困る」「テモラウことはない」という一形式では、BCCWJ から 57 例が検出され、事実として<非恩恵的受影型>の文形式が存在することになる。その内、特に「テモラッテハ困る」形式は 50 例も存在し、「テモラッタラ困る」より集中的に表れる結果が得られた。

また、三形式は、第一人称が主体であることが多く、文中において省略されるケースも多いと指摘できる。さらに、「テモラッテハ困る」「テモラッタラ困る」の二形式は意味的に類似しているとしているが、三形式を総じて不利な事態の出現への拒否という意思表示であり、テモラウが表現している事態に対してガ格受動的であるという意味になる。<非恩恵的受影型>は、V-テモラウのV行為に対してガ格主体は常に受身的な立場に存在し、非恩恵的な事態を被ることになり、迷惑性を示す意味の多い受身文と同様な性質が共有し、自然に受身文と交替できるだけではなく、<非恩恵的受影型>の三形式は形式的に受身的な機能を持つと認定できる。したがって<受影型>においても、<非恩恵的受影型>は受身の典型であると同時に、三形式は<非恩恵的受影型>の代表的な形式として理解できる成分であると言える。

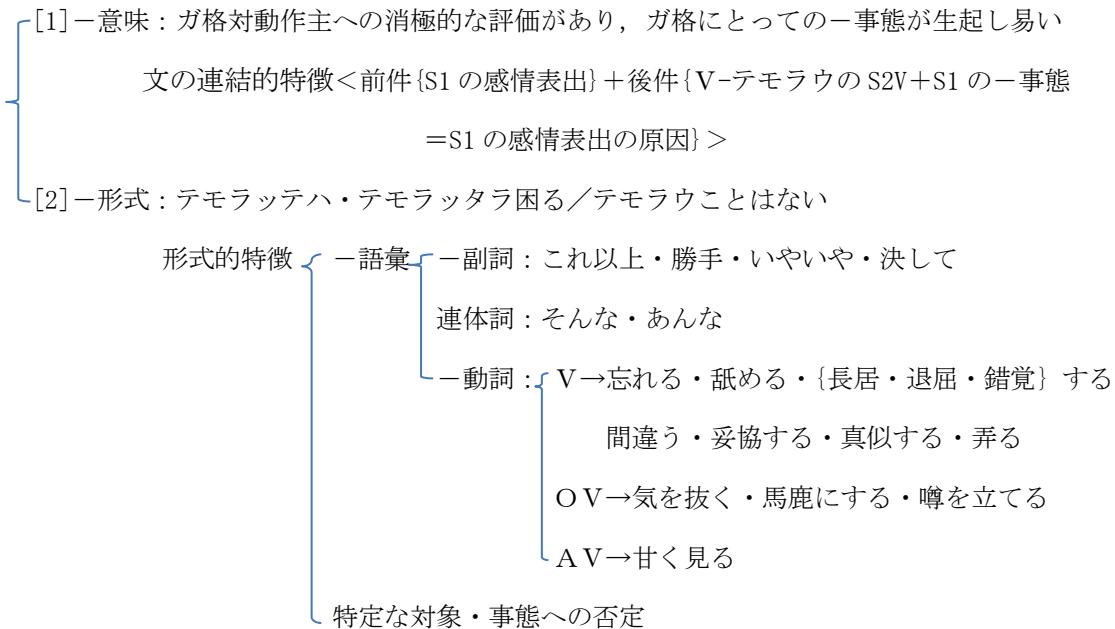
一形式において、通常のテモラウ文と違ってマイナスな意味を示す語彙との共起が圧倒的に多いようである。

- a. 一副詞との共起では、仁田が指摘する「イヤイヤ・勝手」の他に、「これ以上～V-テモラッテハ困る」といった共起が目立つ。そして「乗る・見る」のような非一動詞の場合、「いやいや・甘く」といったマイナスな副詞的成分が前にくる。
- b. 一副詞との共起がない場合、V-テモラウのVは「忘れる・舐める・馬鹿にする」といった一動詞と共に存している。

a・b のように、ガ格受動的でありながら一意味も付与され、V-テモラウ事態への非働きかけであるも同然になり、より違和感なく自然に受身文に転換できると、今回の考察で新たに分かったのである。

以上、<非恩恵的受影型>は統括的に否定的な表現が用いられやすいし、ガ格主体にとっての非恩恵の一受動的事態が多く、テモラウ事態への働きかけはないのが通常であると指摘できる。具体的に次の側面に現れている。

<非恩恵的受影型>



4. 中立型

BCCWJには、先行研究が指摘した恩恵と非恩恵の中間にガ格受け手にとって、恩恵・非恩恵でもない<受影型>のタイプがある。このタイプは、本論では<中立型>と仮称する。事態を恩恵・非恩恵的に捉えるというより、動作主が引き起こした事態は、ガ格受け手がたまたま体験した事態であったり、直接利益に結び付かない事態であったり、事態発生への客観的な陳述がこのタイプの特徴である。ガ格受け手がたまたま体験した事態とは、ガ格の働きかけによって成立された事態ではなく、相手が行っていることをガ格がたまたま目にした、或いはたまたま出くわした事態である。

用例(58)では、「猫の遺品を見せてもらった」事態は、ガ格受け手にとって+事態でも一事態でもない。文中にはガ格主体の働きかけも示されず、動作主を起点化する「カラ格」を用いられ、テモラウ事態がガ格主体にとって受身的であると理解できる。さらに、「猫が死んだと聞かされた」と受身文が先行され、より受影に解釈しやすいことになる。「猫の遺品と、履歴書というのを見せられた」と受身文との交替も自然である。

(58) その太郎(猫の名←筆者)は、今年の正月に、とうとう死んでしまった。絵のほうの猫は、ついに髭をつけてもらうことができずじまいであった。猫が死んだと聞かされた晩、私は長谷川さんから、猫の遺品と、履歴書というのを見せてもらった。遺品のほうは、奥さんの手製だという緑色のフェルトの首輪で、キラキラ光るスパンコールが

たくさん縫いつけてあった。太郎のよそ行きの首輪だと、長谷川さんは言った。「よそ行きって、どういうときですか」「お客様のあるときとか、誕生日などですね」履歴書を読むと、太郎は、長谷川さんの弟で作家の、長谷川四郎氏の家で生まれている。

特技、という項目があつて、一フランス語及びロシア語を習得し、特に次の章句に堪能なり一といふ、その次の一一行のフランス語には、「価値ある猫は節制を以て飲食す」と、訳文がつけてあつた。一小唄を聞き、都々逸を聞いた後でベートーヴェンを聞くというような雑色文化を好まず一といふ件りもあって、長谷川さんは、「主人よりもはるかに偉いですよ」と言うのであつたが、その長谷川さんが、あるとき、私に、「エゲツナイなんて、いやな言葉ですねえ。江戸っ子がそんな言葉を使うようになったら世も末ですよ」と言ったことがある。(PB57_00121 洲之内徹(著)『しゃれのめす』世界文化社、2005)

用例(59)のV-テモラウ事態も働きかけというより、「見せられた」と受影的に解釈するのが妥当に思われる。後文の「私には一寸気味の悪い像だった」内容が、V-テモラウ事態はガ格受け手にとってプラス的ではないことを示す。また、ガ格受け手である「私」にその像を見せたが、その像は受け手の「私」にはあまり直接的な利害関係がない。つまり、テモラウ文を用いて受影的事態を客観的に述べているだけである。迷惑性を持つく非恩恵的受影型>の典型と異なり、恩恵と非恩恵の中間に位置する<中立型>と考えられる。

(59) 帰宅すると中野さんはお手伝いの曾根さんに「原泉は買物でおそになります」といわれた。この夜、『むらぎも』の安吉が大切にしていた「土中のもの」を見せてもらった。私には一寸気味の悪い像だったが、中野さんのやさしくこの像を撫でる手つきが印象に残った。(LBn9_00122 松尾尊児(著)『中野重治訪問記』岩波書店、1999)

用例(60)では、「時々～見せてくれた」とテモラウ文の前にテクレル文が前接している。つまり、テクレル主体が見せる行為を行い、テモラウ文の二格が行われた行為をそのまま目にした。見た私の方から、それを「見せてもらった」と表現したのである。見る事態の成立に対してテモラウのガ格受け手は、比較的に消極的であると分かる。そして、ガ格受け手に何らかの利益に直接結び付かないで、V-テモラウ事態に対して働きかけというより受影の可能性が高い。

(60) 妹(死体の首を清めながら)姉は、食道がきれいだった。時々喉の奥の奥を見せてくれた。お薬を一粒舌の上にのせて、それが喉の奥に消えていくのをよく見せてもらった。(LBo9_00189 多和田葉子(著)『光とゼラチンのライプチッヒ』講談社、2000)

(61) そのポリスとは、歩きながら話を交わした。年は二十八歳。デブの名も教えてもらつ

た。トンネルの手前にコントロール（料金所）があり（トンネルからそこまで二キロメートルぐらい），待て，と言わされて（後略）(LBk2_00051 池田拓(著)『南北アメリカ徒步縦横断日記』無明舎出版, 1996)

例(61)は、同様で、話を交わしながら、名前を教えられたのであり、偶然な事態であり、そして、特にガ格への利益は明確的ではないため、受影の＜中立型＞と見る。

5. <受影型>の位置づけと受身文との違い

5.1 位置づけ

以上、<受影型>の恩恵・非恩恵的な用法を取り出すことによって、<受影型>の恩恵取得の有無の存在に関わるだけではなく、それぞれのタイプのより受身的、よりテモラウ的な特徴も現れることになる。それは単なる受身文とテモラウ文の違いだけではなく、つまり、テモラウの意味・用法において、使役から受身まで、言語現象は連続的であると証明することになる。本論では、以上の分析を踏まえて、テモラウ文の受身の意味を持つ<受影型>は、レル・ラレルの受身文に極めて近い存在のテモラウ文であると位置づける。両者は、類似点が多く、しかし、全く同様な文であるという認識でもない。以下は、両者の相違について分析・記述を行う。

5.2 受身文との比較

<受影型>テモラウと受身文の両者の類似点は、意外な事態に対する受身性である。両者の相違点について、受身文は、レル・ラレルという形式の文として存在し、被害的な事態を被ることをメインに伝える表現であるが、<受影型>は受身文と違って、非恩恵的な事態より、恩恵的な事態が引き起こされることが多い。したがって、両者の大きな違いは、意外な喜びを示す恩恵的なテモラウ文対以外な災いを示す被害的な受身文である。そして片方は、意味上の受動、片方は、文の構造上の受動である。したがって、<受影型>テモラウ文は、ガ格受動的事態でありながら、依頼的な解釈に近づく可能性もある。両者の相違点を次のように大まかに示すことができる。

テモラウ文(恩恵的・意味上の受動) ← → 受身文(被害的・構造上の受動)

6. <受影型>のまとめ

<受影型>では、受身的なプラス・マイナス的な文形式、文の意味、恩恵と非恩恵に基

づき、<非恩恵的受影型>と<恩恵的受影型>と<中立型>に分類した。また、三つの特徴を考察し、次のようにまとめることができる。

6.1 <非恩恵的受影型><恩恵的受影型><中立型>の比較

<+事態>と<-事態>を分けて記述することによって、単なるマイナスとプラスの影響をガ格が受けているだけではなく、受身文とテモラウ文の違いも現れたのである。つまり<-事態>を示す<非恩恵的受影型>は、事態を受けると同時に非恩恵もガ格は取得することになる。非受益という面からして、より受身的な性質の側面を持ち、ガ格受け手が被害を受けているという受身文の特徴をはっきり示されることになる。一方、<+事態>を示す<恩恵的受影型>は、事態を受身的に受ける点からして<-事態>と変わらないが、益を取得する点からして両者は異なっている。<+事態>のほうは、恩恵取得の面から見てテモラウ文の基本的な特徴である受益の点で一致している。したがって、分析によって、<-事態>は、被害的な事態であり、非恩恵的で最も受身文の性質を備えているため、典型的な<受影型>のタイプと看做すことができる。それに対し、<+事態>は、受身的に事態を受けているが、恩恵取得は<依頼型>に偏る特徴を持つため、<受影型>でありながら、ガ格の思惑心理に合致し、潜在的な使役性がやや現れていると言え、非典型的な<受影型>と看做す。それぞれの特徴を、以下のようにまとめるとする。

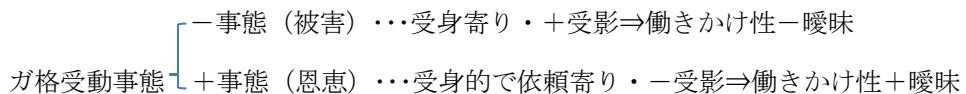
[1] <恩恵的受影型>は依頼と受影の両方とも解釈できるため、<受影型>の典型から外され、<受影型>における<依頼寄り>の特徴のあるタイプになるが、意味・形式・語レベルから典型的な受身型の<恩恵的受影型>も存在すると考察で分かった。

[2]<非恩恵的受影型>は、テモラウ文において<受身寄り>であるため、典型的な受身型である<受影型>と看做すことが可能であり、受身的な機能を持つタイプだと判断できる。

[3]<中立型>は、非恩恵も恩恵もなく、ガ格主体の直接的な利益に結び付かない事態が殆どであり、たまたま体験した事態を述べるのも特徴として挙げられる。

したがって、<非恩恵的受影型>は最も典型的な受身型テモラウ文になる。それに対し、<恩恵的受影型>は、前文脈には二格対ガ格の働きかけがあり、文の連結からして受身的であっても、受益の特徴が存在し、<+事態>であるため、依頼的な意味合いが読み取れるのである。つまり、「イヤイヤV-テモラウことはない」「勝手ニ(ナN) V-テモラッテハ困る」といった形式を持つ<非恩恵的受影型>と比較して、働きかけ性は明確ではない場

合がある。両者の違いを次のようにまとめられる。



6.2 受身性を認証可能な要因と関連する受身性の構文との交替

＜受影型＞テモラウ文の受身性は、BCCWJ の実例を通して、文の形式・意味・語の何れからも観察することができる。また、受身的な要因、受身文との交替可否を論じ、＜非恩恵的受影型＞は、受身文のマイナス性と通じるため、受身文と交替しやすいのに対し、＜恩恵的受影型＞は、受身文と交替可能な条件が複雑であるという結果が得られた。つまり、＜恩恵的受影型＞の場合、ガ格の恩恵的な評価がテモラウ文の前後に接続されず、「育てる・助ける」といった＜回帰型動詞＞によって形成されたガ格が直接受け手である直接テモラウ文は受身文と交替しやすいが、それ以外、受身性も恩恵性も失われないのにテクレル文との交替が自然であると考えられる。したがって、同じ受身的な意味でありながら、恩恵の有無によって関連する構文も違ってくる。以下、＜受影型＞が受身の意味に伴う文形式の違いと関連構文との交替について簡単にまとめる。

＜受影型の受身性と交替しやすい構文について＞

＜受影型＞の受身性を認証可能な要因として挙げられるものは、恩恵・非恩恵的な形式、並列する従属節の形式、取り立て構造、事態のタイプ、動作主の性質、共起する形容詞、感嘆表現の有無、副詞、動詞のタイプなどがある。総じて言えば、＜非恩恵的受影型＞は受身文、＜恩恵的受影型＞はテクレル文に対応しやすいが、プラス性の受身である＜恩恵的受影型＞は、動詞がV仕一対象者行為-主体の非意志的行為タイプであれば、そのまま受身文に転換できる。それ以外の＜恩恵的受影型＞は意味的・形式的・語彙的な要因であっても、テクレル文に対応する。以下、形式、意味、語に分けて概略的に見てみる。

A. BCCWJ の実態分析 I ——<受影型>の形式レベルにおいて

形式レベルの考察では、受影の恩恵・非恩恵的な形式、並列する従属節の形式から受影型の受身性を判断できる。

[1] <非恩恵的受影型>の受身的形式

「テモラッテハ困る」はガ格への迷惑事態を示す＜非恩恵的受影型＞の中心的な受身形式であり、構造的に迷惑性が主である受身文に近似する。また、非恩恵的受影型は、構造

から被害的な受身文と交替でき、受身文と交替可能な構造を改めて次のようにまとめる。

- a. V-テモラッテハ困る {迷惑・だめ・いかん・ためにならない・悲しい・嬉しい・嬉しい} ⇔ V-レ・ラレテハ困る
- b. V-テモラウコトハナイ ⇔ V-レル・ラレルコトハナイ

[2] <恩恵的受影型>の受身的形式

<恩恵的受影型>は、恩恵性が中心であるテクレル文に近似する。その受身的形式について第四章-(2)の「4のまとめ」において詳細に論じている。なお、受身文と交替可能な構造を改めて簡単にまとめる。

- c. V-テモラウ+プラス性の形容詞(ex, 嬉しい)・感嘆表現
- d. マテV-テモラウ形式
- e. 前接する受身文・テクレル文・テアゲル文と同一動作主

B. BCCWJ の実態分析II——<受影型>の意味レベルにおいて

[3] 動作主は、所属関係の上位に存在する組織である場合、ガ格は受影的である。

[4] 「優しくしてもらい」のような非達成的自己制御性の事態は、ガ格は受影的である。

[5] 意味から見て、働きかけ性がなく、動作主の動作が起因となるガ格への恩恵的事態(S2V起因のガ格直接利益的事態)の場合、ガ格は受影的である。

C. BCCWJ の実態分析III——<受影型>の語彙レベルにおいて

[6] 動詞の特徴から見て、回帰型動詞は典型的な受影型テモラウ文を作りやすく、形成する直接テモラウ文が受身文と対応(交替)しやすい。非回帰型動詞は非典型的な受影型になりやすく、形成する間接テモラウ文は意味上テクレル文と対応しやすい。

- 直接テモラウ ex, 救う・可愛がる・助ける(回帰型)
 - ✗間接テモラウ ex, 買う
 - ✗S1の位置変化 ex, 連れて行く・送り届ける
 - ✗受け手 S1の行為 ex, 見せる
- ⇒✗は、テクレル構文と交換可能と見られるもの

[7] <計画性・焦点化の「二格」>より<偶然性・起点化の「カラ格」>はより受影的である。

[8] 「勝手に・思いがけない・やがて」との共起がある場合、より典型的な<恩恵的受影型>と解釈されやすい。

第五章 許容型テモラウ文の意味・用法

1. はじめに

本章の目的は、テモラウ文の<許容型>の意味・用法を明らかにすることである。テモラウ文は、前述したように、主な意味・機能はガ格主体からニ格の動作主に何らかの行為を要求したり、希望したりするものである。したがって、使役的な機能を持つ働きかけ性のある<依頼型>の用法は、テモラウ文の典型である。しかし、極少数でありながら、働きかけ性の有しない受身的な機能である<受影型>も存在する。

(1) これから今日一日中、二係の諸君には、東京中を走り回ってもらう。(OB3X_00105 胡桃沢

耕史(著)『新・翔んでる警視』広済堂出版、1987)使役的な<依頼型>

(2) この清水監督には、私は、たいへんかわいがってもらつた。(PB17_00075 貴田庄(著)

『小津安二郎と映画術』平凡社、2001)受身的な<受影型>

用例(1)(2)のような二用法は、多くの研究(奥津・徐:1982;仁田:1991;益岡 2001など)によつて証明されているが、筆者は、この他、さらに依頼にも受影にも位置づけにくい許容の用法も存在すると考える。山田(2004)では、許容的な意味・用法について触れているが、詳細な区分と説明が行われていない。筆者は、BCCWJ を考察し、<許容型>には異なる言語事実が存在し、区別する必要があると思う。

そこで、本章は<許容型>の意味・用法を詳細に分析し、<依頼型>と<受影型>との違いも論じ、<許容型>の特徴を明らかにする。最後には、使役・受身との関連性を論じ、<許容型>のそれぞれの用法をヴォイスの中で位置づけをする。以下は、本章の構成である。

第2節で<許容型>に関する先行研究を概観し問題点を指摘する。第3節で<許容型>の定義と各下位類を詳細に記述する。第4節で<依頼型>と<受影型>との違いを論じ<許容型>の特徴を明らかにする。第5節で<許容型>の下位類の相違と使役・受身との関連性についてまとめる。第6節のまとめでは<許容型>の四つの下位類をヴォイスの中で位置づける図式を提示する。

2. <許容型>に関する先行研究

山田(2004)では、使役的な依頼と受身的な受影の中間に許容的な用法を取り立て、「それ自体出来する方向に動いていることを許容する表現や出来している事態を敢えて終結させるという働きかけを行わず、持続させることを意図した表現である」と定義し、下記の例を

挙げている。

(3) (リクルート事件について)忘れてもらいたいと思っているのは政治家たちの方らしい。

(山田 2004:121)

(4) 疲れているようだったから、そのまま寝ていてもらつた。（山田 2004:121）

(5) せっかく熊が魚を捕りに来ているんだから熊に捕ってもらおう。（山田 2004:121）

上記の例を、山田はまとめて許容と扱っているが、筆者は、許容にも用法の違いが存在するため、それぞれの用法を分類する必要性があると考える。

たとえば、用例(3)は、動作主である「世間(の人々)」からリクルート事件を忘れる事態が生じるように、文末形式「V-テモライタイ」を用いてガ格主体である政治家たちの願望を示している。ガ格主体は、忘れる事態に対して許容しつつ希望し、そして、積極的に受け入れようとしているのが分かる。用例(4)(5)は、事態の進行方向を阻止せずに許容し、既に存在する状況を持続させるタイプであり、許容の典型的なものと言える。したがって、用例(3)は、用例(4)(5)の本来の消極的な許容とは言えず、許容の特殊なタイプと考えられ、用例(4)(5)とは、<積極>対<消極>的な違いである。

さらに、BCCWJ からテモラッタ・テモラウ・モライタイ・テモラオウのいずれの文末形式からも<許容型>の実例が採集できた。今まで許容の実例が少ないという背景か、<許容型>テモラウ文は、ガ格主体である人間を中心に、そして、動作主の事態実現を中心について論じられてきたが、実際、コーパスには、ガ格主体が人間以外の動物である実例も存在し、未実現事態への許容の実例も検出できたのである。これらの例を含めて、これまで十分に分析されてきたとは言えない。以下、<許容型>の様々な意味・用法を詳細に分析し、下位分類を行う。

3. 本論で扱う<許容型>

この節では、<許容型>の定義と各下位タイプを詳細に記述する。

3.1 <許容型>の定義と下位類

BCCWJ では、未実現事態への許容の実例も検出されたため、<許容型>テモラウ文(以下、<許容型>)の定義は、ガ格主体の働きかけとは無関係に、動作主の方からある事態が引き起こされ、ガ格主体は、事態に対して阻止せずに希望したり認めたりして受け入れる、または、放置するテモラウ文であると規定する。したがって、このタイプのテモラウ文のガ

格は、動作主の事態出現、あるいはこれから引き起こそうとする事態に対して許容するか否かは、制御可能であると見る。次のように下位分類を行う。

<受容型>

(6) サンパウロのシェーンバウム医師の勧めどおり, 新型の高価な陶材を詰めてもらった。

(LB19_00268 ジョルジオ・プレスブルゲル(著)/鈴木昭裕(訳)『歯とスペイ』河出書房新社, 1997)

<放任型>

(再掲 4) 疲れているようだったから, そのまま寝ていてもらつた。(山田 2004:121)

(再掲 5) せっかく熊が魚を捕りに来ているんだから熊に捕ってもらおう。(山田 2004:121)

<中間型>

(7) 私の帰りをこんなに歓迎してくれてありがとう, といって三匹の頭を平等に交互に撫でる。三匹とも, 目を細めて気持ちよさそうに頭を撫でてもらう。(LBs6_00014 今井美沙子(著)『やっぱり猫はエライ』樹花舎;星雲社(発売), 2004)

<願望的許容型>

(再掲 3) (リクルート事件について)忘れてもらいたいと思っているのは政治家たちの方らしい。(山田 2004:121)

テモラウの働きかけ性から見て、用例(3)は、<許容型>に類似しつつガ格主体の依頼的な希望の意図も多少現れている典型的な<許容型>のタイプとはいえないのに対し、用例(4)(5)は、何らかの事態を起こそうとする依頼的な働きかけも意図も見られない典型的な<許容型>であり、両タイプは、許容でありながらやや異なっている。したがって、<許容型>の下位タイプには、用例(3)のように許容しつつ希望する<願望的許容型>と、用例(4)(5)のように事態の発生を妨げず関与せず、消極的に放置する<放任型>と、さらに、BCCWJ から採集した用例(6)のような事態を認めて受け入れる<受容型>と、用例(7)のようなガ格は人間以外の動物であり、受容と放任の間と思われる<中間型>の四タイプに分類する。以下、それぞれのタイプについて詳細に記述する。

3.1.1 受容型

<受容型>とは、ガ格主体には働きかけの意図がなく、動作主には行為を起こす意図が存在し、その行為のほとんどがガ格主体を対象・目当てとして引き起こしたものである。そしてガ格主体には、(動作主による)その行為を拒否したり受け入れたりする決定権があるテモラウ文であると定義する。BCCWJ から次のような実例が採集できた。

(再掲 6) サンパウロのシェーンバウム医師の勧めどおり, 新型の高価な陶材を詰めてもらつた。 (LB19_00268 ジョルジオ・プレスブルグ(著)/鈴木昭裕(訳)『歯とスパイ』河出書房新社, 1997)

(8) 今回のツアーでよかったですのは、赤レンガ倉庫。趣があっていいねえ。そこで滞在時間は1時間しかなかったんだけど、アイスクリームを食べ、雑貨屋さんを見て、のれんに一目ぼれした。母が買ってあげようか? というので, 買ってもらった。

(0Y14_21090Yahoo!ブログ, 2008)

用例(6)(8)は、動作主には、行為の事前に既に「新型の高価な陶材の勧め」と「のれんを買ってあげようか」という事態を引き起こす意図が現れている。ガ格主体は、それを阻止せざるを受け入れるのである。つまり、動作主の「詰める」「買う」行為が出現する前に、ガ格主体への同意の要求が存在し、ガ格主体は、動作主が引き起こした事態に対して実現の決定権を握る中心的な人物である。ガ格主体の同意を得ていない限り、新型の高価な陶材の詰め作業、暖簾を買う事態は、実現されない。

しかし、用例(8)と(6)では、きめ細かく観察すれば、次のような違いがある。用例(8)は、動作主主導の事態を受け入れるという、完全な受容であるが、それに対して、用例(6)では、動作主が当該の動作に当たって、ガ格が「費用」を払うという行為を行っており、それが引き金になって生じる動作主の動作の受容である。

そして、恩恵から見て用例(6)(8)は異なる。用例(6)の場合、動作主は、ガ格主体の許容によって、高価な陶材を詰められる直接受益者になる。それに対して、ガ格主体は、費用を支払って、治療を受けているため、動作主の行為はガ格主体にとって当たり前のことをしてもらっているが、新型の高価な陶材を詰められることによって歯の働きがよくなり、長く使えたのであれば、ガ格主体は間接な受益者になる。つまり、ガ格主体が、与えられた物の価値を認めたのであれば、受益することになる。用例(8)の場合、動作主の引きこした事態をガ格が認め、事態から生じた恩恵も直接的にガ格主体に関わっていき、ガ格が直接受益者になり、主体選びの主体受益である。

(9) 十一日、北京五輪の競泳男子百メートル平泳ぎで五輪連覇を果たした北島康介（二十五）の実家の精肉店「肉のきたじま」には名物のメンチカツを求める人で長蛇の列ができあがった。従業員によると通常の3倍の量を用意した盛況ぶり。さらに商品を卸している老舗百貨店の高島屋日本橋店では、午後2時ごろに“北島印のメンチカツ”関連商品が売り切れるなど「北島景気」に沸いた。揚げても揚げても追いつかない。(中略)ある従業員は「三千個ぐらい用意している。いつもの3倍ぐらいかな」とうれし

い悲鳴を上げた。きりがないため、午後5時過ぎに販売打ち切りを決定。列の最後尾に「こちらのお客様で完売です」と書かれた紙が手渡された。最後は1人2パック（1パック5個）の制限がかけられ午後6時半に完売。最後尾の後に並んだ女性が「どうしてもほしい」と5分間ほど粘ったため、子供にプレゼントされるミニメンチで納得してもらった。店頭以外でも売れ行きは快調だった。（0Y14_16125Yahoo!ブログ、2008）

用例(9)では、「最後尾の後に並んでいた女性が5分間も粘った」と、ニ格の固持によって生じた事態であると分かる。そして、それが原因を示す「タメ節」によって示しており、ニ格が引き起こした事態が原因となるガ格主体の対応であることから許容型と判断できる。しかし、ニ格の要望をそのまま受け入れたのではなく、「子供にプレゼントされるミニメンチで納得してもらった」と、それに近い条件で相手を納得させたのである。つまり、動作主が引き起こした事態に対して、受け入れるか拒否するかの決定権はガ格主体にある。ガ格主体が同意しない限り、V-テモラウで表される事態が生じないため、<受容型>だと判断できる。用例(8)に比べて、ガ格のやむを得ない対応だと、やや消極的な側面を伺わせる。

(10) 「ごめん、ちょっと急いでるの」慌てて携帯を切って、外に飛び出した梨沙の背後でクラクションが鳴った。振り返ると、「よっ！」とタクシーの中から文緒が顔を出していた。結局、梨沙は、文緒も一緒に、八雲のタクシーで順平のマンションまで行ってもらった。（LBo9_00254 山内美香(著)『フレンズ』双葉社、2000）

用例(10)も、動作主「文雄」からガ格主体である「梨沙」への働きかけが先であるため、許容型だと判断できる。そして、その働きかけはガ格を対象に引き起こされた事態であることから、ガ格はそれを受け入れたということから、この許容のテモラウ文は<受容型>と判断する。

(11) 自分の日本語に磨きをかけたいと思いながらも、時間的な余裕がなくて日本語学校にかよえない者が数多くいる。こうした人たちの求めに応じて、都合のいい時刻に自宅にきてもらう。（PM31_00489 丸谷馨(著)/加藤仁(著)『Yomiuri Weekly』読売新聞社、2003）

用例(11)は、ガ格主体自身の日本語学習経験が存在し、日本語学校に通えない者の事情が頭に浮かびあがつたのである。文の中心は、ガ格自身というよりガ格の脳裏に浮かび上がった情景に存在する人たちである。その人たちには日本語を自由に学びに行ける時間がない。したがって、日本語学校に通えない者が来たい時に来ればよいとガ格が思ったのである。つまり、「来る」行為を行う動作主が決めた都合のよい時刻に来ればよいのであり、ガ格主体である私は、それに従って動作主の行為を受け入れるのである。選択権は、日本語

学校に通えない者にある。したがって、用例(11)の受益者は、ガ格ではなく、ニ格の動作主である日本語学校に通えない者であり、かれらは直接受益者になる。

(12) 引き出しいっぱいの真っ白な下着はウィラードに押しつけ、使うなり捨てるなり勝手にしてくれる。ミス・ジェーン・グラントの着せ替え人形になるのはもうたくさんだ。
(PB39_00314DrewJennifer. (著)/古川倫子(訳)『野蛮な誘惑』ハーレクイン, 2003)

用例(12)は、ガ格主体の想定された事態であって、動作主は何時、どのような事態が生じても、ガ格主体は関与しないと、文末はテモラオウを用いて意志表示を行っている。そして、動作主に対する働きかけがある場合とない場合の両方が有り得ると考えられる。しかし、働きかけがあるとしても、これから生じる動作主の事態への方向付けを、ガ格主体は、意図的に拘束しないことを表明している。文の意味的な特徴から見て、次の<放任型>の消極的な対応と非常に類似しているが、<放任型>は主に<事態実現後の許容>であり、文形式も<受容型>と異なる。それに対して、<受容型>は総じて、今までの<事態実現後の許容>とはやや異なって、<事態実現前の許容>であり、用例(12)も<受容型>の一タイプとして位置づけたのである。したがって、本節で扱う<受容型>は、今までの先行研究では、あまり問題にされなかった<許容型>の一種である。

以上のように、用例(6)(8)(9)(10)のガ格は、動作主が引き起こした事態に対して決定権を握っている。用例(11)(12)は、ガ格の角度から相手であるニ格の自主選択を描いている。したがって、<受容型>の中心的な存在は必ずしもガ格ではないと分かる。しかし、動作主の事態実現に対して、いずれもガ格主体が制御しようと思えば可能である。文の中心人物が異なるため、直接受益者は用例(8)のガ格主体に限らず、用例(6)(9)(10)(11)(12)のニ格が受益者になる場合もある。<受容型>の恩恵と働きかけ性を次のように図式化することができる。



図9 <受容型>の働きかけ性と恩恵の図式

S1は依頼者であるガ格主体を示し、S2は動作を行うニ格の動作主を示す。S1からS2までの点線は、S1がS2の行為を許容することを示す。S1の許容は、S2にとって恩恵が生じるため、下のS1からS2までの実線を用いてS1のS2への恩恵を示す。上のS2からS1の点線と実線は、S2の事態がS1にとって状況によって直接的・間接的な恩恵を受けることを示す。実線は、用例(8)のガ格の直接的な恩恵を示し、点線は、用例(6)(9)(10)(11)(12)

のガ格の間接的な恩恵を示す。

3.1.2 放任型

<放任型>とは、ガ格主体には働きかけの意図がないうえに、動作主が引き起こした事態は、ガ格主体を対象・目当てとして引き起こされた事態でもなく、ガ格主体が消極的に対応し、それを妨げずに放置するテモラウ文であると定義する。たとえば、次の用例(13)のように、「コーヒーの無料サービス」というような事態が既に生じているタイプが多い。そして、ガ格主体に返ってくる恩恵が非常に間接的である場合も多いと想定される。BCCWJ から次のような実例を検出できた。

(13) 先日もある西脇の茶店でサービスですとコーヒ一代金を無料にしてもらった。

(OY03_11199Yahoo!ブログ, 2008)

用例(13)のコーヒーの無料サービスは、ガ格主体である私が起因で起きた事態ではなく、客観的な事実の容認である。もし、状況が、ガ格の私が茶店のオーナーのアイドルであり、コーヒーの無料サービスはそれが起因となった場合、ガ格が直接受益者になる。しかし、用例(13)は、私が来たからコーヒーが無料になったのではなく、運が良くて偶々出くわした情況であり、ガ格主体は受身的に事態を受け入れただけである。この際、立ち上がって無料のコーヒーを飲まないことも可能である。したがって、一定の環境のもとにおいて、ガ格である私は、事態を受け入れたのであり、この文は、先行研究では、あまり触れられていない<放任型>のタイプである。<放任型>には、次のような持続と無関与の特徴に分けられる。

a. 持続

(再掲 4) 疲れているようだったから、そのまま寝ていてもらった。(山田 2004:121)

(再掲 5) せっかく熊が魚を捕りに来ているんだから熊に捕ってもらおう。(山田 2004:121)

b. 無関与

(再掲 13) 先日もある西脇の茶店でサービスですとコーヒ一代金を無料にしてもらった。

(OY03_11199Yahoo!ブログ, 2008)

上記の例は、動作主の事態出現へのガ格主体の容認において共通しているが、用例(4)と(5)は、動作主が引き起こした事態や現状を、何らかの手段を講じて妨げようと思えば可能であるが、それを妨げずそのまま持続させる特徴が顕著である。対して用例(13)の場合、ガ格主体はその場にいなくてもコーヒーの無料サービスが続くのであり、ガ格は無関与で、

その方向を許容しただけである。a 持続, b 無関与の両方とも, 動作主の行為とガ格主体に返ってくる恩恵は間接的であり, ガ格主体の消極的な対応に変わりがないのである。<放任型>の働きかけ性と恩恵は, 図 10 のように示す。



図 10 <放任型>の恩恵と働きかけ性

S1 から S2 までの点線は, S1 が S2 の動作を許容することを示す。S1 の許容は, S2 にとって恩恵が生じるため, 下の S1 から S2 までの実線を用いて S1 の S2 への恩恵を示す。上の S2 から S1 の点線は, S2 の事態が S1 にとって状況によって間接的な恩恵を受けることを示す。

3.1.3 願望的許容型

<願望的許容型>とは, ガ格主体は, 動作主が引き起こした事態に対して, 希望しつつ許容するテモラウ文であると定義する。このタイプは, 最も積極的な<許容型>であると見る。用例(1)以外に, BCCWJ とインターネットには次の例も検出された。

(再掲 1) (リクルート事件について) 忘れてもらいたいと思っているのは政治家たちの方らしい。

(14) 相手のチャンスもサイドからだったが。短期決戦。このまま攻撃的にいってもらいたい。それで散るとしてもなにか残る気がする。(0Y15_05585Yahoo!ブログ, 2008)

(15) 「お役に立てるのなら光栄です」「大佐には今後も, そのまま軍籍に留まっていてもらいたい」。(OB3X_00026 シドニイ・シェルダン(著)/天馬龍行(訳)/紀泰隆(訳)『時間の砂』アカデミー出版サービス, 1990)

(16) わざわざ報道するということは飽きてもらう事で得をする人が居るということ。

<https://togetter.com/li/1005441> (2016年7月29)

用例(14)(15)の「このまま攻撃的にいってもらいたい」と「そのまま軍籍に留まっていてもらいたい」とは, 既に攻撃が行われていることと, 既に軍籍を有していることを意味する。そして, 攻撃の状態・軍籍の保留状態は, ガ格主体が積極的に認めて維持させようとしているのである。それに対して, 用例(16)は, 事態の結果による利益の享受が強調され, 既に起きた事態をガ格主体が積極的に受け入れている。いずれも用例(1)と同様で, ガ格主体の許容及び願望を示している。<願望的許容型>の恩恵と働きかけ性は図 11 のように示す。

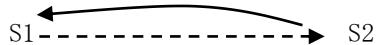


図 11 <願望的許容型>の恩恵と働きかけ性

S1 から S2 までの点線は、S1 が S2 の進行中の動作を許容、促していることを示す。S2 から S1 の実線は、S2 の行為が、S1 にとって直接的な恩恵が生じる。<願望的許容型>は、<許容型>の中で、<依頼型>に最も近い用法と見られ、したがって、<受容型>と<放任型>と違って S1 の受益が中心であると考えられる。

3.1.4 中間型

<中間型>は、言語的に正確に意志伝達ができない場合を指す。たとえば、テモラウの主体が動物である場合、人間と違って、言語的に自らの意志を動作主である人間に正確に伝えられない。また、動物に限らず、人間でも同じ現象が起こり得る。したがって、言語的に意思表示がスムーズに行えないタイプは<中間型>に取り入れる。

(再掲 7) 私の帰りをこんなに歓迎してくれてありがとう、といつて三匹の頭を平等に交互に撫でる。三匹とも、目を細めて気持ちよさそうに頭を撫でてもらう。(LBs6_00014 今井 美沙子(著)『やっぱり猫はエライ』樹花舎;星雲社(発売), 2004)

用例(7)は、擬人的な用法である。ガ格主体である猫が撫でるように働きかけて起こしたこと態ではなく、テモラウの動作主の人間である「私」が、帰りに寄ってきた猫が可愛く感じ、「三匹の頭を平等に交互に撫でる」という事態を引き起したのである。ガ格主体は、人間ではない動物の猫であるため、人間ほど正確に意志伝達ができない。

したがって、文中の猫に対する「気持ちよさそう」の描写は、実際の猫の感受であるか、それとも、相手に対する思い込みの判断であるかは不明であり、ガ格主体である猫が人間の動きを積極的に受け入れる<受容型>と消極的に人間の動きの成りゆきに任せる<放任型>の両方が有り得ると考えられ、<中間型>に分類する。したがって、文の形式も上記の三タイプとも異なっている。

3.2 <許容型>の言語環境及び文形式

山田(2004:129)では、<許容型>を判定する要因について、次の四つを提示している。この他、「{そ／こ} のまま」との共起も指摘している。

- 許容型の要因
- 命令などモダリティの後続
 - タメ(に)節内
 - 動作主が不問・非人間
 - 語用論的要因

本章では、<許容型>は、従属節に動作主の状況を中心に、主節に動作主の状況に対するガ格主体の許容的な姿勢を述べることが多いという特徴に基づいて、文末形式のテモラッタ・テモラウ・テモラオウ・テモライタイの四つの文末形式の言語環境の特徴を、<伝述>(現象を客観的に描写し、人に伝えること)と<主観的願望陳述>の二つに分ける。

<伝述>

—原因節—

—結果節—

サンパウロのシェーンバウム医師の勧め <u>どおり</u>	新型の高価な陶材を詰めてもらった
母がのれんを買ってあげようか? という <u>ので</u>	買ってもらった
女性が5分間ほど粘った <u>ため</u>	ミニメンチで納得してもらった
疲れているようだった <u>から</u>	そのまま寝ていてもらった
先日もある西脇の茶店でサービス <u>ですと</u>	コーヒー代金を無料にしてもらった
日本語学校にかよえながい者数多くいる	こうした人たちの求めに応じて、都合のいい時刻に自宅にきてもらう

<主観的願望陳述>

世間がリクルート事件について忘れつつ	政治たちもそれを忘れてもらいたい
このまま	攻撃的にいってもらいたい
恨みたかったら	恨んでもらおう
熊が魚を捕りに来ているんだから	熊に捕ってもらおう
下着はウィラードに押しつけ、使うなり	勝手にしてもらおう
捨てるなり	

S2V(状態・事態出現の陳述)

S1の許容

従属節に動作主の状況は、後接の主節である結果となる原因節を作り、主節はその原因に対するガ格主体の許容的な結果を示す。したがって、従属節には、原因を示すカラ・ノデ・タメ、引用のト・ドオリが使われている。そして、<伝述>には、タ形がよく用いられるのに対し、<主観的願望陳述>には、文末にシタイ・ショウが現れやすい特徴が指摘できる。

また、「恨みたかったら、恨んでもらおう」のように、前後文には、同じ動詞を繰り返し

現象が多く見られたり、「このまま・そのままVテモラウ」といった共起（山田 2004:121）や、シテオクといった文末形式を取りやすいことなども特徴として指摘できる。

ただ、用例(17)(18)のように、行為直前の「そのまま」との共起は、許容より、強い依頼になる。次の例は、「そのまま」が付くことによって、他を許されず、命じる状態で遂行するような意味合いを示す。<許容型>の働きかけ性と恩恵を依頼・受影と区別して図12のように示す。

(17) そのまま塩を振って食べてもらう。（0Y14_39046Yahoo!ブログ, 2008）

(18) 「(前略)、また連絡しますので」と言い、半ば強引に、ドアの外へ押し出すようなか
つこうで、そのまま帰ってもらった。（PB39_00020 森青花(著)『さよなら』角川書店, 2003）

<願望的許容型><受容型><中間型><放任型>

図12 <許容型>の図式
(非働きかけのS2VのS1の容認)

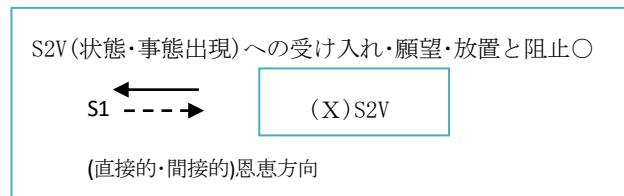


図12の矢印「---→」は、S2の事態出現によるS1の許容・阻止を示し、矢印「←」は、恩恵の方向を表すのである。S2Vは、動作主の動作を示し、具体的にV-テモラウ(詰めてもらう・買ってもらう)のVに当たる「詰める・買う」といった行為である。Xはその他他の文成分である。

4. <依頼型>と<受影型>との比較

ここでは、<依頼型>と<受影型>との違いを論じ、<許容型>の特徴を明らかにする。

4.1 <依頼型>との比較

<依頼型>とは、行為を起こす契機がガ格主体であり、ガ格主体は、テモラウ文の中心的な存在であり、事態実現のために動作主に働きかけるテモラウ文である。以下の実例のように、このタイプのテモラウ文は使役的な機能で、ガ格主体の動作主への働きかけが中心である。

(19) 大勢そろって小唄の温習があるという作り話を、おつなの口から母親のおはるの耳に
入れてもらった。（LBk9_00034 笹沢左保(著)『八丁堀・お助け同心秘聞』祥伝社, 1996）

(20) A子さんのマンションはオートロックだが、管理人に頼んでおいて、配達員のために

開けてもらう。 (PN2c_00020 読売新聞東京本社(著)『読売新聞』読売新聞社, 2002BCCWJ)

<依頼型>は、用例(19)のような、ガ格主体が働きかけ手であると同時に恩恵の受け手でもあるタイプと、用例(20)のような、受益格(B)が現れるタイプが存在している。用例(20)は、働きかけ手であるAさん(S1)と、仕手である管理人(S2)と受益格である配送員(B)の三者が存在し、図13のように、働きかけも恩恵も複雑になる。

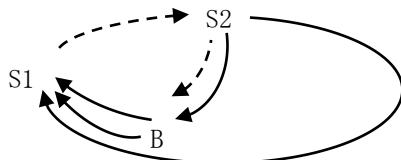


図13 受益者が二人も存在する<依頼型>の恩恵と働きかけ性

図13の点線は、ガ格主体(S1)から動作主(S2)への働きかけと、動作主(S2)が受益格である配送員(B)に行なわれた一連の動作の関係を示す。恩恵の受け手は、配送員(B)と働きかけ手であるAさん(S1)の二人が現れることになる。S2からBまでの実線は、「開ける」動作にBが受益することになり、BからS1までの実線は、Bが入ることによってS1が受益することになる。S2からS1の実線は、配送員のために管理人がドアを開ける事態によるS1の受益を示す。

<依頼型>は、<許容型>と文構成も異なる。<許容型>は、二格の状況を述べることが中心である<S2の状況+S1の許容>のような複文的な構成が多いのに対し、<依頼型>は、ガ格自身の状況を述べるのが中心である<S1の状況+S1の依頼>という構成であり、単文や複文形式のいずれも存在する。このような文構成も、両者の大きな意味的な対立と言える。<依頼型>は、図14に図式する。

図14 <依頼型>の図式

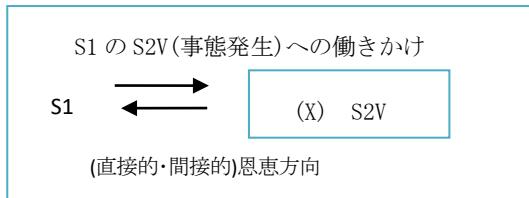


図14の矢印「————→」は<依頼型>の働きかけを示し、矢印「←————」はガ格主体への恩恵を示すものである。<依頼型>の働きかけ構造は、働きかけと恩恵を含めて実線で示すことができる。

4.2 <受影型>との比較

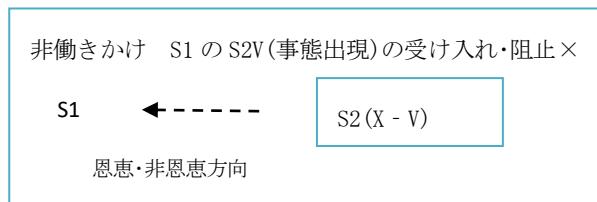
<受影型>とは、ガ格主体の働きかけが文中に見られず、事態が動作主の方から一方的

に生じたため、ガ格主体はそれを阻止できずに一方的に動作主によって引き起こされる事態のプラス(受益型→用例(22))・マイナス(非受益型→用例(21))的な影響を受けるテモラウ文である。<受影型>は、動作主によって思いがけずに引き起こされた事態に対するガ格主体の感情的な述べ方が多く、既に起こった事態を阻止しようとしても不可能である。用例と図式は、以下のように示す。

(21) 気にいらなかつたら、降りて下さい。こっちは忙しいんだ。いやいや乗って貰うこたあねえ。(仁田 1991:50)

(22) うわーはずかしい。先生に踊りをほめていただくなんて。(山田 2004:126)

図 15 <受影型>の図式



<受影型>は、非働きかけのタイプであるため、図 15 の矢印「←-----」は、<受影型>のガ格主体において、動作主の行為による恩恵や非恩恵的なことを受ける意を示すのである。

5. <許容型>の特徴と四タイプの相違と使役・受身との関連性

本節は、<許容型>の特徴と四つの下位タイプの相違と使役・受身との関連性についてまとめる。

5.1 <許容型><依頼型><受影型>の三者の類似点と相違点と使役・受身との関連性

<許容型>、<依頼型>、<受影型>の三者の類似点と相違点について、<許容型>は、ガ格主体の働きかけがなく、思いがけずに生じた事態を受動的に受ける点において、受身的な<受影型>と類似し、動作主の行為を容認・阻止可能である点において、使役的な<依頼型>と類似する。しかし、ガ格主体の働きかけが文中には見られないのは<依頼型>と異なり、動作主への事態進行を阻止しようと思えば阻止できるのは<受影型>と異なる。

そして、<許容型>は、ガ格主体の働きかけがなく、思いがけずに生じた事態を受動的に受ける点において、受身的な<受影型>と類似し、動作主の行為を容認・阻止可能である点において使役的な<依頼型>と類似する。つまり、<依頼型>と<受影型>との両方の性質を有しながら、類似しつつ異なっているのである。

また、<許容型>は、総じてガ格主体の働きかけが中心の<依頼型>に比べて、事態の発生には消極的である。働きかけ性に限らず、文構造や恩恵も<依頼型>と<受影型>と異なって特殊的である。したがって、<許容型>をテモラウの働きかけの一類として分類できると考えられる。

5.2 <許容型>の下位タイプの共通点と相違点と使役・受身の関連性

まず、共通点として、動作主が引き起こした事態をガ格主体が容認・阻止可能である点において共通し、文の中心的な存在は動作主であることが分かる。文構造では、前後文の動詞を繰り返し現象が多く見られる。

相違点としては、<受容型>は、事態の発生はガ格主体に直接降りかかり、ガ格主体の同意を得ていない限り事態実現されない。したがって、<受容型>は、事態実現させる使役寄りの特徴が強い<事態実現前の許容>であると分析によって明らかであった。それに対し、<放任型>は、ガ格主体はただ事態出現に対して、距離をおいて眺めているだけであって、動作主の事態出現はガ格主体に拘束されないのが特徴的であり、事態を放置しても実現されるものである。<放任型>は、<事態実現後の許容>であり、受身と類似するが、ガ格主体が動作主の行為を制御可能である点において、受身的な<受影型>とは異なっている。

また、<受容型>と<放任型>は、単なるガ格の受け入れと放置という対応の仕方の違いだけではなく、その行為は、ガ格主体が起因であるかどうかによる違いもある。<受容型>は、動作主が引き起こした事態はガ格主体が起因である場合が多く、ガ格の同意の要求が存在するのに対し、<放任型>は、動作主が引き起こした事態はガ格主体が起因ではない場合が多く、事態はいずれもガ格主体への影響が間接的であり、ガ格主体は消極的な対応になりやすいと考えられる。<放任型>は、いずれも動作主の行為をガ格主体は関与しない、方向付けしない、無関心という意味合いを示すが、動作主の行為を放置することで生じる事態が、ガ格主体の思惑・心理に合致する場合は、単なる見て見ぬ振りの消極的な対応ではなくなることも有り得る。たとえば、「処理していない仕事があって、そのまま寝ていてもらった。」文は、二格の動作主の寝る行為によって、ガ格主体である受け手が直接受益することになり、<願望的許容型>に対応することになる。

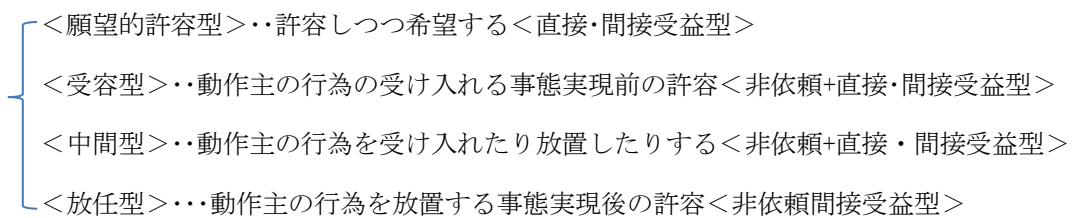
<中間型>は、ガ格主体である猫は、撫でる行為を拒否して逃げ出さずにいたが、人間のようにはつきりと正確に意志判断ができないため、動作主である人間の撫でる行為を積

極的に受け入れる＜受容型＞と、その成り行きに任せ、消極的に対応する＜放任型＞の両方が考えられる。＜願望的許容型＞は、＜許容型＞の中でも比較的積極的なタイプであり、＜依頼型＞に最も類似し、使役寄りであると見られる。

5. 3＜許容型＞の恩恵

＜許容型＞の恩恵について、＜受容型＞は、ガ格主体が直接・間接的に恩恵を取得する＜非依頼直接・間接受益型＞であるのに対し、動作主の行為を消極的に承認する＜放任型＞は、状態を維持することで間接的に恩恵を得る＜非依頼間接受益型＞である。＜中間型＞は、ガ格主体の受け止め方の消極・積極の両方が有り得るので、＜非依頼直接・間接受益型＞と考えられる。＜願望的許容型＞は、＜依頼型＞に類似し、ガ格主体や受益格に恩恵が行く場合が多く、＜ガ格直接・間接受益型＞になる。＜許容型＞を以下の四つに分類し、恩恵のタイプは＜＞で示す。また、「恨みたかったら、恨んでもらおう。(作例)」のように許容の非恩恵型も存在すると考えられる。＜許容型＞を分析した結果、以下の四つのタイプにまとめられる。

許容型(S2VへのS1の許容の姿勢) ↓



6. まとめ

本研究は、先行研究を踏まえて、BCCWJ とインターネット上のデータを利用して、テモラウの＜許容型＞の意味・用法に関する新しい分類案を付け加えた。このように詳細に分析・記述することによって、＜許容型＞の様々な言語事実を明らかになっただけではなく、＜許容型＞の全体像を描き出すこともできた。図 16 が示しているように、＜許容型＞と使役寄りの＜依頼型＞と受身寄りの＜受影型＞と比較することによって、その特徴は一目瞭然である。また、＜許容型＞は、使役と受身の間に位置しているが、＜許容型＞の四つの下位類は、使役と受身に近似する程度の差が存在し、＜願望的許容型＞はより使役に接近するのに対して、＜放任型＞はより受身に接近している。

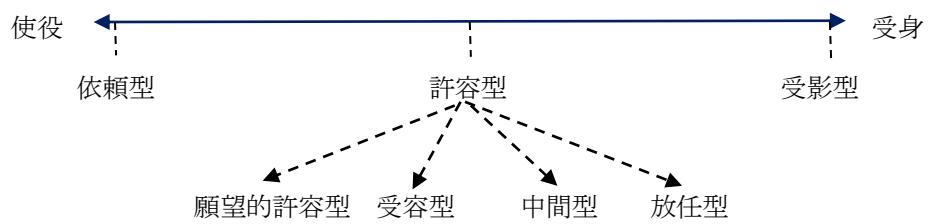


図 16 <許容型>の下位タイプと使役・受身との関連性

以上まとめると、テモラウは、使役的な依頼と受身的な受影の二用法に限らず、<許容型>も存在し、<許容型>の下位類の間には、さらに関連性が存在するのである。

第六章 状況設定型テモラウ文の意味と類型

1. はじめに

本章で扱う＜状況設定型＞テモラウ文(以下、＜状況設定型＞と略す)とは、V-テモラウで表される事態の成立にガ格主体による状況の提示が必要となるテモラウ文を指す。＜状況設定型＞は、非言語的な働きかけが典型であるため、働きかけを表すテモラウ文の特殊なタイプであると言える。

これまで、このタイプのテモラウ文に言及している先行研究は存在するが、コーパスという膨大なデータを基にした研究は少ない。したがって、＜状況設定型＞の働きかけについての分析が不十分であると思われる。こうした背景のもと、本章では、V-テモラウで表される事態の成立に必要な様々な状況設定の仕方を分類し、使役文との関連性の中で、＜状況設定型＞の働きかけの特徴を詳細に記述してまとめることを目的とする。研究の手順は以下の通りである。

第2節で先行研究を概観するとともにその問題点を指摘する。第3節で＜状況設定型＞の特徴と＜状況設定型＞を通常のテモラウ文から分離する理由、および＜状況設定型＞の定義と下位類について述べる。第4節から考察に入る。第4節ではまず＜状況設定型＞における典型的な下位類である非言語型を考察し、第5節では一般的な特徴を示す周辺的な下位類である言語型について考察するとともに、第4節と第5節で下位類化を行った＜状況設定型＞について詳細に記述する。第6節で結論を述べ、＜状況設定型＞の特徴と段階性を明確にし、今後の課題について述べる。

2. 先行研究

本論における＜状況設定型＞のテモラウ文について、金(2011)では「仕向け」と称して以下の用例(1)～(4)を挙げ、このタイプは依頼という働きかけ性の意味が読み取れず、受影でもないと解釈している。また、これらはガ格名詞からニ格名詞(動作主)に直接要求するものではなく、ニ格名詞の行為を実現させるよう間接的に仕向けるタイプであると定義している。

- (1) みんなでひとつの物を作り上げて関係者に喜んでもらうということが、実は仕事をする上で一番大切なことだと思っています。(金 2011:15)
- (2) ホーンを鳴らして取り合えず気付いてもらった。(金 2011:15)

(3) 職員の助言で女性の話を否定せず受け入れるよう努め、ようやく落ち着いてもらった。

(金 2011:15)

(4) 事情を説明して分かってもらった。(金 2011:19)

しかし、用例(3)などは、テモラウで表される事態が実現されやすいように、ガ格主体は、「ホーンを鳴らして」といった点線部の状況を作っている。本論では、点線部がガ格主体の働きかけの主観的な願望行為を示していると考える。したがって、このタイプには言語的な働きかけとは異なる働きかけ性が存在している。

先行研究が指摘した仕向けの間接的なタイプ以外に、今回コーパスから事態の成立に対するガ格主体の状況設定が極めて直接的である用例(5)(6)のようなタイプも取り出すことができたのである。

(5) 眠ろうとしたとたん男に変身してしまったのだ。隣にいた慎之介が目を丸くしたのは当然である。ケイはあわてて鳩尾を突き、かわいそうだが失神してもらった。ど、どうしよう(LBi9_00077 六道慧(著)『キスは殺しの始まり』中央公論社, 1994)

(6) 茄子もキノコも油を吸う食材なので、割と多いはずのオリーブオイルはすっかり吸われ、フライパンがカラリとする(笑)そこに小麦粉を投入し、煎りながら、吸いすぎの油を吐き出してもらう。(0Y03_02368Yahoo!ブログ, 2008)

以上、先行研究とコーパスの実例を考察して、ガ格主体の状況設定は、少なくとも言語(用例3, 4)と非言語(用例1, 2, 5, 6)のように二つに分類することができると言える。つまり、先行研究が指摘する「仕向け」を含め、<状況設定型>には、事態の成立に当たって、状況の提示の仕方が言語である場合と非言語である場合が存在し、さらにV-テモラウで表される事態の成立にはガ格直接達成である場合と間接達成である場合が存在し、詳細に区分する必要がある。

3. 通常のテモラウ文と区別する特徴

本節では、<状況設定型>を通常のテモラウ文から分離する理由と根拠を述べた上で、本章の<状況設定型>に関する詳細な定義と下位類を示す。

3.1 <状況設定型>を取り立てる理由

テモラウ文の働きかけの仕方は様々である。たとえば、用例(7)(5)は、いずれもテモラ

ウを用いて、働きかけによって達成された事態を表現しているが、働きかけを示す状況設定の部分が言語と非言語とで大きく異なっている。

(7) a. 母にお願いしてケーキを買ってきてもらった。 (作例)

b. 母にケーキを買ってきてもらった。

c. 母にケーキを買って！

(再掲 5) a. ケイはあわてて鳩尾を突き、かわいそ~~う~~うだが失神してもらった。

b. ??頼んで、失神してもらった。

c. ??失神して！

用例(7)は、aのように、「お願いして」「頼んで」といった依頼的なテ節と共に起ることが可能である。または、bのように、テ節を付け加えなくても働きかけ性のあるテモラウ文として成立する。つまり、用例(7)a, b, cのいずれからも分かるように、働きかけを行う際に、ガ格主体はニ格の動作主に対し、言語的なルートを通して依頼や命令を行うことが可能であると解釈することができる。

それに対して、用例(5a)の後件のV-テモラウで表される事態は「非達成の自己制御性」を持つ事態であり、V-テモラウで表される事態の成立に、(5b)「頼んで」のような直接依頼と(5c)の直接命令といった言語的な働きかけを想定することはできず、「鳩尾を突き」といった具体的な動作によって事態を達成させている。

つまり、用例(7)は相手に行^くわせるために、命令や依頼という形で働きかけることが可能であるのに対し、用例(5a)は命令も依頼もできず、ガ格主体自らが状況を整えるように事態を達成する行為を行っている。前件(V1)の状況は後件(V2)にとってV-テモラウで表される事態を達成する際の必須条件となっている。言い換えると、テモラウ文の成立に当たり、共存する表現形式として「鳩尾を突き」という条件節を備える必要があるということである。用例(5a)はこの点において、用例(7a)の言語的なタイプとは大きく異なっている。後件の「失神してもらった」という事態は、実際には相手を「失神させた」のであり、極めて直接的な手段によって事態を達成させたということになる。したがって、テモラウ文をそのまま使役文に置き換えてもそれほど違和感がない。つまり、用例(5a)の非言語的な働きかけは、テモラウが用いられてはいるが、実際には使役文と同様の性質を持っていると言える。

本論の第三章では、テモラウ文の意味用法の多様性を区別するために、<依頼型>と働

きかけ性を区別し、テモラウ文を典型的な用法と非典型的な用法とに分けた。用例(7a)は、状況的な依頼のない通常のテモラウ文の言語的な働きかけの用法であるため、第三章の＜依頼型＞に区分する。これはテモラウの典型的な用法である。用例(5a)は、働きかけ性が存在するが、非言語的な状況設定が必要となるテモラウの非典型的な用法であり、依頼型とともに、働きかけ性の下位類に位置する。

以上に示したように、V-テモラウで表される事態をもたらす方法が「鳩尾を突き」といった状況型テ節か、「頼んで」のような依頼型テ節かによって、働きかけの仕方がかなり異なってくる。そのため、＜状況設定型＞テモラウ文を、通常の言語的な直接依頼のテモラウ文から切り離し、働きかけ性の下位類として位置付けたのである。後者の「頼んで」を＜依頼型テ節＞、前者の「鳩尾を突き」を＜状況型テ節＞とそれぞれ仮称することにする。V-テモラウで表される事態が＜状況型テ節＞によって達成されるという点が＜状況設定型＞テモラウ文が他のタイプと異なる大きな特徴と言える。次に、＜状況設定型＞の定義と下位類を概観する。

3.2 <状況設定型>の定義と下位類

本章では、上記分離する理由とBCCWJの実例の特徴に基づき、＜状況設定型＞テモラウ文を次のように定義する。

＜状況設定型＞テモラウ文とは、ガ格主体が意図を持ってニ格主体に働きかけても、事態が予定どおり実現できるとは限らないため、V-テモラウで表される事態への働きかけと成立に当たり、必要な状況をガ格主体自らが整えるタイプのテモラウ文である。具体的には、ガ格主体が直接状況を整える場合と、事態が実現しやすい状況をニ格主体に準備をさせる場合がある。そのような状況を作ることによって、はじめて働きかけた事態の実現を果たすことができる、或いは果たしやすくなるタイプのテモラウ文であると定義する。事態実現のための状況設定には様々なタイプが存在し、以下、言語型と非言語型に分けて考察する。この二つのタイプはいずれも直接型と間接型を含むが、言語型は間接型がメインになる。

I. 非言語型……[1]直接型

[2]間接型

II. 言語型………[1]直接型

[2]間接型

本章では、非言語的な働きかけを行う非言語型を＜状況設定型＞の典型と見なし、言語的な働きかけを行う言語型の状況設定型と対照しながら考察することにより、両者の違い及び＜状況設定型＞の特徴と各下位類間の連続性を見出すことを目的とする。まずは＜状況設定型＞の典型である非言語型から考察していく。

4. 非言語型

直接言語的な働きかけを行うテモラウ文の典型は「頼んで・呼んで、V-テモラウ」といった＜依頼型テ節＞を伴うのに対し、本章で扱う状況設定型は「鳩尾を突き・小麦粉を投入し、V-テモラウ」といった非言語的な＜状況型テ節＞を伴うテモラウ文である。ニ格主体が無情物であるタイプと、V-テモラウで表される事態は「非達成の自己制御性」を持つ事態と「過程の自己制御性」を持つ事態のタイプが存在し、それぞれの事態の成立には非言語的な状況設定が必須であるため、＜状況設定型＞の典型であると見なされる。

状況設定の非言語型には直接型と間接型を含む。直接型とは、「鳩尾を突き」といったガ格主体の行為が前件の状況設定となるとともに、後件のテモラウ事態の成立の直接的な原因にもなっているタイプである。V-テモラウで表される事態の達成には直接達成と間接達成に分類できる。間接型とは、ガ格主体が状況を設定するが、前件の状況設定の従属節も後件の主節の事態(例、自信をもってもらう)もニ格主体である動作主の行為であり、ガ格主体にとっては間接的であると言えるタイプである。このタイプを＜間接関与・間接達成＞と仮に名付ける。

4.1 直接関与・直接達成

＜直接関与・直接達成＞について、前件のV1の状況設定の動作をガ格主体が直接行うため、直接関与と仮称する。また、直接関与がV-テモラウで表される事態のV2の成立の直接的な要因となっているため、これを＜直接達成＞と表現する。ニ格主体(動作主)には、有情型と無情型が存在するため、これに基づく下位分類を行う。＜直接関与・直接達成＞は、これまでの研究ではあまり触れられていないタイプである。以下、各タイプの実例を詳細に見ていく。

4.1.1 動作主無情物型

これまで、テモラウの働きかけ対象は人間であるというのが前提となっていた。人間同士でなければ働きかけの行為のやり取りが実現できないという考え方からか、ニ格主体が無情物型のタイプは、これまで研究対象として取り上げられてこなかったのである。しかし、BCCWJ には人間以外の無生物がニ格主体となるテモラウの用法も存在し、状況設定が必要となるものである。動作主が無情物である場合、V-テモラウで表される事態を達成することは不可能である。そのため、ここでは動作主と称するよりニ格主体と称するほうが適切であると思われる。これらを＜動作主有情物型＞と区別して、＜動作主無情物型＞と名付ける。

＜茄子とキノコ＞

(再掲 6) a. 茄子もキノコも油を吸う食材なので、割と多いはずのオリーブオイルはすっかり吸われ、フライパンがカラリとする（笑）そこに小麦粉を投入し、煎りながら、吸いすぎの油を吐き出してもらう。 (0Y03_02368Yahoo!ブログ, 2008)

b. 茄子とキノコに小麦粉を投入し、吸いすぎの油を吐き出させる。(使役文)

用例(6a)の「吐き出す」動詞は、「達成の自己制御性」を持つ動詞であるが、ニ格主体は働きかけを行うことができない無生物であるため、V-テモラウで表される事態は「非達成の自己制御性」を持つ事態となる。人間同士の働きかけと異なり、間に人間を介し、人間がフライパンに小麦粉を投入するという状況となっている。それにより、「吸いすぎた油を吐き出させた」という事態を達成したのである。このタイプは極めて使役寄りのテモラウ文であり、状況設定型の典型であると言える。従属節V1 の「小麦粉を投入し」という状況は、事態を達成する必要条件となり、対象であるニ格主体(=茄子とキノコ)を変化させる。つまり、対象を変化させる機能を持つのであり、使役文で表現しても文の意味は変わらない。無情物の動作主であっても恩恵性は存在する。小麦粉を投入することによって茄子とキノコの吸いすぎた油を吸って焦げにくく、洗いやすくなるといった恩恵は存在する。しかし、＜受影型＞の動作主の一方的な行為によって得られた恩恵とは異なる。これは、ガ格主体が使役的な状況を作ることによって得られた恩恵であると言える。

4.1.2 動作主有情物型

働きかけにおいて、動作主が有情物であっても、働きかけられた事態は動作主にとって達成できるとは限らない。たとえば、用例(5)のような「非達成の自己制御性」を持つ事態

の場合には状況設定が必要になる。

<失神してもらった>……V非達成

(再掲5) 眠ろうとしたとたん男に変身してしまったのだ。隣にいた慎之介が目を丸くした
のは当然である。ケイはあわてて鳩尾を突き、かわいそうだが失神してもらった。
ど、どうしよう (0Y03_02368Yahoo!ブログ, 2008)

用例(5)の「失神する」は無意志動詞であり、「失神してもらう」はニ格主体にとって「非達成の自己制御性」を持つ事態である。したがって、前件の「鳩尾を突き」という状況設定が事態達成への条件として存在する必要がある。この用例は「失神させた」という使役文に置き換えることができる。

<気分が悪くなるよう首を横に傾けてもらった>……V非達成

(8) 高橋さんは、嘔吐中枢の個人差や慣れの影響を調べた。目隠しをした大人十二人のイス
を回転させ、気分が悪くなるよう首を横に傾けてもらった。短い人は1分ももたずに吐
き、長い人は十分まで耐えられた。個人差はやはり大きい。(PN2a_00013 朝日新聞社(著)『朝
日新聞』朝日新聞社, 2002)

用例(8)のV-テモラウで表される事態は、「気分が悪くなるよう首を横に傾ける」ことであり、気分が悪くなるのは椅子を回転させることが原因である。それで首を横に傾けたのである。V1「イスを回転させる」動作はガ格主体による状況設定であり、それがV2「気分が悪くなる」「首を横に傾ける」の直接的な原因となっている。用例(5)(8)は、いずれも「鳩尾を突き」「気分を悪くさせ、首を傾けさせた」のように、言語的な依頼によらずにV-テモラウで表される事態を実現しており、使役文と交替しても文の意味は変わらない。

4.1.3 変化性使役文の状況設定型との関連性

直接型の基本は、「非達成の自己制御性」を持つ事態であったりニ格が無情物であったりするため、ニ格主体による事態実現が不可能であるというところにある。したがって、「鳩尾を突き」「イスを回転させ」「小麦粉を投入し」のように、無情物であっても有情物であっても、これまで論じてきた人間同士の働きかけとは全く異なる働きかけとなる。状況設定の仕方からすると、動作主無情物型の場合は、ガ格主体が直接ニ格である茄子とキノコに付着するように状況を作り、これを<付着型>と仮称する。これに対し、動作主有情物型の場合、物理的な動作がニ格主体の身体に直接接觸する形で状況を作り

る。この特徴に基づき、このようなものを＜接触型＞と仮称する。

後述する言語型の状況設定に比べて、＜付着型＞・＜接触型＞は、二格主体に対して極めて直接的に作用を及ぼしている＜状況設定型＞と言える。そして、主節のV-テモラウで表される事態が「非達成の自己制御性」タイプの場合、三つの例の従属節のV1「小麦粉を投入し」「鳩尾を突き」「イスを回転させ」は、いずれも二格主体を変化させる＜対象変化＞という機能を持っている。また、V-テモラウで表される事態は二格主体が達成不可能な事態であっても、ガ格主体がそれを要求する以上、ガ格主体にとっては予見可能な事態である。事態達成への主導権はほとんどガ格主体が握っており、事態の実現は果たされやすい。上記に示した特徴はいずれも用例(9)の使役文の＜状況設定型＞と非常に類似している。

(9) 氷を冷蔵庫から取り出して、溶けさせる。 (作例)

主体は予め氷を溶かそうという願望を持っている。それで氷を冷蔵庫から取り出す行為を行ったのである。冷蔵庫から出すという行為は氷を溶かす有効な方法であると予め知っている。そのため、後件の事態の成立はガ格主体にとって意外な出来事ではないと想定できる。「失神してもらった」という事態の成立においても、ガ格主体には予め失神させたいという気持ちがある。したがって、「鳩尾を突き」という方法をとって失神させたのである。つまり、鳩尾を突いたり口を塞いだりする前件のガ格主体の行為は、相手を「失神させる」ためである。したがって、「失神してもらいたい」と表現しても差し支えないであろう。

使役文と同じく、前件の状況設定にはテモラウ主体の主観的な願望を示す行為がテ節として現れている。これは「気分を悪くさせる」の用例や無情物への働きかけにおいても同様であり、いずれも後件の事態は主体と直接関わりを持つ事態であり、その成立にあたっては、いかなる方法を取ってもその事態を達成させたい目的が存在する。使役文の状況設定型と同じく、ガ格主体はテ節の状況設定が事態達成への有効な方法であると予め知っているのである。事態を達成した結果もテモラウ主体にとって、予想外の結果ではなく、使役文と置き換えて極めて自然である。用例(5)(6)(8)は、使役文の状況型と同様、状況設定型における典型であると言える。

「失神してもらった=失神させた」「茄子とキノコに油を吐き出してもらう=吐き出させる」のように、これらは使役寄りのテモラウの特殊な用法である。このタイプの使役性は、典型的な指図を行う使役文「洋平に部屋に入つてもらった=洋平に部屋に入らせた」と依

頼的な「頼んで買ってもらう」といったタイプとは異なる。「鳩尾を突き」「小麦粉を投入し」「イスを回転させ」は、二格主体に接触・付着することによって変化を生じさせ、V-テモラウで表される事態を実現する。つまりこのテモラウ文は変化性使役文タイプであると言える。したがって＜付着型＞・＜接触型＞のテモラウ文は、典型的な＜状況設定型＞のテモラウ文であると言える。

以上を通して、有情物動作主にとって「失神してもらう」といった「非達成の自己制御性」を持つ事態や無情物の動作主に働きかけるテモラウ文は、対象を変化させる＜付着型＞・＜接触型＞の状況設定を伴うという特徴を持ち、次のようにまとめられる。

状況設定の特徴：対象を変化させるための＜付着型＞・＜接触型＞

テ節：S1V(事態達成への有効な手段) → 主節：S2V(予見可能・必然的な結果)

＜接触型＞・＜付着型＞の状況型テ節と主節のV-テモラウで表される事態の実現との間とは極めて近い距離にあり、直結している。V-テモラウで表される事態は、ガ格主体にとって予見可能な事態であり、テ節の状況設定を行うことによって必然的な結果が生じるといった関係にある。

4.2 直接関与・間接達成

＜直接関与・間接達成＞はいずれも人間同士のやり取りである。V-テモラウで表される事態には「過程の自己制御性」を持つ事態と「達成の自己制御性」を持つ事態がある。V-テモラウで表される事態はガ格主体に直接関わりがある事態であるため、前件の状況節はほとんど動作主がV2の動作を実現しやすいように、ガ格主体が自らある状況を設定するのである。＜直接関与・直接達成＞とは異なり、前件のガ格主体の直接関与を受け、後件のV-テモラウで表される事態が二格によって達成されるのであり、それはガ格主体から見れば間接的な達成であると言える。したがって、このタイプを＜直接関与・間接達成＞と仮称する。以下、実例を考察していく。

＜明るい表情を作ってもらった＞……V過程

(10) この写真の女性はわが家の特設スタジオで撮影した。ダイレクトストロボ照射では光が強すぎてしまった。○これで決まりだ画題：八月のある日→P O I N T ポーズのつけ方でモデルが生きる！帽子を赤い派手な色に変え、黒バックに黒の椅子を置き、そこには掛けさせ明るい表情をつくってもらった。フォギーフィルターをかけたので柔らかい

雰囲気になり、若々しさが表現出来た。(PB17_00110 西川善雄(著)『ちがいのわかる写真術。』三樹書房, 2001)

「明るい表情を作る」行為は、精神的な状況に関わるものであり、動作主の意志でコントロールして作ることは困難な場合があるが、動作主によって異なってくる。したがって「過程の自己制御性」を持つ事態であり、「ポーズのつけ方」は、「明るい表情をつくってもらった」原因になっている。テモラウで表される事態の前件の「黒の椅子を置き」は、椅子を置くことによって「掛けさせる」と直接結び付いているが、「明るい表情をつくる」という動作のための直接的な状況設定ではない。したがって「黒の椅子を置き」は極めて間接的な状況設定であると言える。

<名前と顔を覚えてもらった><分かってもらう>……V過程

(11) 浪人中は社会党執行部に在籍しながら、コツコツといろんな人たちや団体の世話をし
て、名前と顔を覚えてもらった。(PB32_00168 松下隆一(著)『北神けいろうの挑戦』コスミック出
版, 2003) ⇄覚えさせた

(12) クラクションを鳴らし、「ほら、さっきのと音違うでしょ?」とわかつてもらう。
(OC08_05989Yahoo!知恵袋, 2005) ⇄分からせる

用例(11)は、相手に自分の名前と顔を覚えさせるために、ガ格主体が頻繁にニ格主体の居場所に顔を出したり、コツコツと世話したりと、V-テモラウで表される事態を達成するための条件や原因を自ら作っている。つまり、ある手段を通じて「覚えてもらう」というV-テモラウで表される事態を実現させようとしている。この場合、実際覚えるかどうかは相手次第となる。用例(12)「クラクションを鳴らし、音の違いをわかつてもらう。」も同様である。音の違いを分からせるために、ガ格主体が直接状況を作っている。

<足してもらった><買ってもらった>……V達成

(13) それ以上追及してはこなかった。ミミは無理に笑顔を作り、安西にサングリアを足し
てもらった。(LB09_00152 佐々木譲(著)『ワシントン封印工作』新潮社, 2000) ⇄足させた

(14) 資金集めに、一枚二元の「愛心券」を作り、共青団員に買ってもらった。(LBm3_00035
清水勝彦(著)『奔流中国』朝日新聞社, 1998)

用例(13)では、ガ格主体が自分のために足す行為を動作主に行わせている。言語的な働きかけではなく、足して欲しそうに無理に笑顔を作ることによって、安西の「サングリアを足す」という結果に繋がったのである。典型的な状況設定であると言えるが、「足して」と言語的な依頼型でも働きかけられるので、<接触型><付着型>ほど典型的な状況設定

ではあるとは言えない。用例(14)も同様で、相手が買いやすい環境を、ガ格主体が「愛心券を作つて」自ら整えている。

<喜んで・満足してもらう>……V非達成

(15) お好きな普通食に、フランスの旧友から贈られた古葡萄酒を添えて、喜んでもらった。

(LBs9_00129 芹沢光治良(著)『神の微笑』, 新潮社, 2004) ⇔ 喜ばせた

(16) 出来る時に10分でもいいからサポーターの相手をする。そして彼らに満足してもらう。サポーターが試合に来てくれて、クラブのグッズを買っててくれる。(LBj7_00026 ジーコ

(著) / セルソ・ダリオ・ウンゼルチ(著) / 訳者不明『ジーコの「勝利の法則」』, 小学館, 1995) ⇔ 満足させる

用例(15)は「古葡萄酒を添えて、喜んでもらった。」、用例(16)は「10分でもいいからサポーターの相手をする。彼らに満足してもらう。」のように、前件の状況設定にはガ格主体が直接関与している。「喜ぶ・満足する」は心理動詞であり、<接触型>や用例(10)～(14)のタイプとは異なり、動作主にプラスになることをガ格主体が望んでいる。「喜んでもらう」「満足してもらう」はいずれも言語的な働きかけによって実現しにくく、「古葡萄酒を添えて」「サポーターの相手をする」といったガ格主体自らの行為が状況設定となっている。間接構造に対応するテモラウ文であり、V-テモラウで表される事態の成立は、世話して自分の名前を覚えてもらうよりも恩恵が間接的になる。上記の用例のうち、「明るい表情を作つてもらった」タイプは「鳩尾を突き、失神してもらった。」の次に、間接達成の中では直接達成に近い例である。

以上のように、<直接関与・間接達成>はガ格主体とニ格主体の共同作業によってV-テモラウ事態が成立する。言い換えると、状況型テ節ではガ格主体の具体的な働きかけの動作を示している。つまり、ガ格主体は事態実現できるように状況を整えているが、動作主がV-テモラウ事態を実現するか、または実現できるかに関して言えば、<直接関与・直接達成>ほどには、状況型のテ節との関係はそれほど直結しないと言える。つまり、ガ格主体の動作は、動作主のV-テモラウ事態の実現のきっかけとなっているが、実現は相手次第ということである。このようなタイプの状況設定の特徴を<動作誘発型>と仮称する。事態の達成においてガ格主導型ではないので、直接達成より予見しにくい。状況型テ節はガ格主体の動作が現れているが、これらは事態達成への有効な手段の一つとなる。<直接関与・間接達成>を、次のように構造を示すことができる。

状況設定の特徴：ニ格対象が事態を実現しやすいように誘発する<動作誘発型>
テ節：(事態達成への有効な手段の一つ) → 主節：S2V(直接達成より予見しにくい・必然的な結果にならない場合がある)

4.3 間接関与・間接達成

直接型に対して、間接型がある。間接型の「自信をもってもらう」のような事態は誰かの意志によって左右される事態ではない。ガ格主体は、テモラウ事態が達成できるような状況を提示するが、前件の状況設定も後件のテモラウ事態の達成も、動作主自身の体験と行為によるものである。そしてガ格主体が提示し、動作主自ら行う前件の状況設定が、後件のV-テモラウ事態の成立の間接的な要因となっている。このようなテモラウ文を間接型と略称する。間接型のV-テモラウで表される事態は、主にガ格主体がニ格の動作主のある状態をさせたいと希望している。つまり、直接型と異なるのは、動作主にそうなりやすい状況を提供するが、V1の状況節の動作はガ格主体が行うのではなく、動作主自身が行うのである。したがって間接型においては、ガ格主体は間接的に関与するのみで、実際にはニ格主体によって達成される。ガ格主体から見れば間接達成であるため、このタイプを<間接関与・間接達成>と仮称する。V-テモラウで表される事態が表現しているのはニ格主体の心理を表す動詞であり、前述した物理的状況設定型の使役性と異なる。以下、個々の実例を考察し、このタイプの状況設定の特徴をまとめていく。

<自信・思想・愛着を持つてもらう>

(17) (略) 私ならまず美容院とかにつれていくかな。外見を変えて見た目からまず自信をもつてもらう。それでもし笑顔が戻ってきたら、あとは何で彼氏に振られるのか考えて、アドバイスして(略)(OC09_07544Yahoo!知恵袋, 2005) ⇄自信を持たせる

(18) 造営費を節約するほか、国民参加によって森に愛着をもつてもらう。一石二鳥のアイデアを用意していたのである。(LB16_00018 井原俊一(著)『日本の美林』岩波書店, 1997) ⇄愛着を持たせる

(19) やはりそれが、それだけ権限範囲が広くなる、そういうような思想を持つてもらう。(OM68_00001 参考人・堺屋太一君『国会会議録』第163回国会, 2005) ⇄思想を持たせる

V-テモラウで表される事態の「持つ」という動詞は、「達成の自己制御性」を持つ動詞であるが、前の目的語によって達成・過程・非達成的になる。「自信を持つ」「思想を持つ」

は、「過程の自己制御性」を持つ事態であり、「愛着をもってもらう」は、「非達成の自己制御性」を持つ事態である。したがって、「自信」を持つように命じても、意志を持って自信を持つことはできない。よって、自信も愛着も実際の二格主体は、ガ格主体が設定したことと体験することによってV-テモラウ事態を達成していくのである。たとえば、用例(17)では、直接動作主に働きかけることが困難であるため、ガ格主体は「外見を変える」といった具体的な方法を示し、動作主に「自信を持つ」よう提案を行っている。「自信を持つ」ことにより、二格の動作主に直接的な恩恵を与える。恩恵も事態の成立もガ格にとっては間接的であると言える。用例(18)の「愛着をもってもらう」も、「非達成の自己制御性」を持つ事態であり、「参加によって」、相手が「愛着をもつ」という状況を、ガ格主体が作っている。「自信を持つ」に比べて、常に状況作りの文脈が必要であると見られる。ここでは「森」は受益格になり、事態の達成によって、使役主体のガ格は間接的に恩恵を受けることになる。それに対して、用例(19)「思想を持つ」ことも「過程の自己制御性」を持つ事態であるが、自然に思想を持つようになる場合もあるため、「自信を持つ」「愛着をもつ」より、「思想を持つ」のほうが状況作りは周辺的なものとなる。

三者(17)(18)(19)とも、ガ格主体にとってみれば、恩恵は間接的なものであり、ガ格主体は事態の成立に間接的な関わりを持つという構造となっており、使役主体であるガ格は事態の成立に直接の関わりを持たない。「自信を持たせる」「愛着を持たせる」などの使役文と置き換えることができるが、「自信を持ってもらう・愛着を持ってもらう・思想を持ってもらう」はいずれもル形のテモラウ文であり、ガ格主体の提案や計らいにより本当に事態を成立させることができるかどうかは予見不可能である。

<地獄・温泉気分を味わう>……V過程

(20) システムを構築することだ。まずアトラス政府の官僚たちを地上に追放して地獄を味わってもらう。それからゼウスを倒し、メデューサに治安維持を行わせる。(LBt9_00223
池上永一(著)『シャングリ・ラ』角川書店, 2005)⇒地獄を味わせる

(21) 手の込んだ仕事に、日本の伝統を感じるアートである。そのあとで、樹齢 2000 年の総檜のお風呂にお連れして、広々とした湯舟と、日本文化に浸っていただき、しばし温泉気分を味わってもらう。(PB26_00167AmiyMori(著)『ホテルを楽しもう』交通新聞社, 2002)⇒温泉気分を味わせる

「地獄を味わってもらう」「温泉気分を味わってもらう」の「味わう」は、本来的には心理的な動詞ではなく味覚の動詞であるが、目的語によっては心理的な動詞にもなり得る。

つまり、「抹茶アイスクリームを味わう」「美味しいケーキを味わってもらう」のように、物を食べて触感で確かめるタイプと、「温泉気分を味わう」「地獄を味わう」のように、動作主の体験によって確かめるタイプがある。一見、同じようにみえる使い方であるが、目的語によっては、味覚の動詞からある気分や雰囲気を味わうという本来の使い方からかけ離れた心理動詞にもなるのである。しかし、心理動詞の場合はV-テモラウで表される事態の達成度が低いため、「追放する」は、「地獄を味わってもらう」という事態の達成への直接的な状況設定になる。

「檜のお風呂にお連れして」も、二格主体がお風呂に入って温泉気分を味わうための状況作りをガ格主体が行っている。つまり、「追放する」「檜のお風呂にお連れして」といったガ格主体の意図や行為が、テモラウで表される事態達成の直接的な原因となっている。ただこれには個人差が存在し、温泉気分を味わった、地獄を味わったと思う人もいればそうでない人もいる。が、「自信を持つ」よりは事態達成との距離が近いと思われる。「地獄を味わってもらう」はガ格主体の願望に過ぎない場合が多いと考えられ、予見しにくい事態である。

<実感する+テモラウ>……V過程

(22) 流し台にあった食器を片づけ、整理整頓された環境を対象者に実感してもらった。対象者は、汚れを洗い落とし、変化した抵抗感を視覚と触覚情報にて捉え、水を扱った後に漂う湿度を全身で感じ、清潔な台所空間を味わった。(PB54_00007 大久保美也子(著) / 大久

保訓(著) / 山本晶子(著)『活動分析アプローチ—中枢神経系障害の評価と治療』青海社) ⇔実感させる

(23) 門信一郎 (東京大学) 「プラズマって何だろう (物質の第4の状態)」「簡易プラズマ実験」【内容】「プラズマ」とは特別な物質ではなく、固体・液体・気体に続く物質の4つめの“状態”である、ということを学び、実は身近な存在であることを実感してもらう。(PB33_00808 井上徳之(著) / 毛利衛(著)『スーパーサイエンススクール』数研出版, 2003) ⇔同上

「実感してもらう」は、検索結果としては実例2例しか存在しない。直接動作主に命じて言語的に働きかけることは可能であるが、二格主体による事態の達成度合いが低い行為であり、言語のみによる事態実現は困難である。そのため、状況節のV1は「食器を片付けて」のように体験型になっている。自ら整理整頓するような環境を実感させているのである。または、「学ぶこと」を通して、プラズマが身近な存在であることを体験させるの

である。つまり、実感するための状況をガ格主体が提供し、ニ格主体がその状況を体験することによってテモラウ事態(実感する)が達成しやすくなるのである。

<幸せな気持ちになってもらう>……V過程

(24) 料理なんて、対決するものじゃないだろう。人に喜んでもらって、幸福な気持ちになつてもらう。そういうものだ。おもしろおかしく、こっちがうまい、こっちはまずいと騒ぐなど、だいいち一所懸命料理を作った人に失礼じゃないか。ということで、ぼくはいったん「少し考えさせて下さい」と電話を切った。(LBn2_00007 陳建一(著)『ぼくの父、陳建民』大和書房, 1999)

「幸福な気持ちになる」は、「幸福な気持ちになれ！」と言語的に命じたのではなく、人に喜んでもらうことを通じて幸せを実感していくのである。したがって、「実感してもらう」と同様、前件の状況設定は、ガ格主体がニ格主体に作らせるのである。

以上分析したように、間接関与・間接達成はいずれもV-テモラウ事態の成立に状況設定が必要となる。前述した直接型との相違点は、状況設定がニ格主体の体験であるという点である。これを<体験型>状況設定と仮称する。<体験型>はいずれの場合も非言語的な状況設定である。相手がテモラウ事態を実現する意味という意味では、「走ってもらう」と類似している。構造上は、ガ格主体はテモラウで表される事態の成立と直接的な関係がない。前件の状況節も後件のV-テモラウで表される事態もニ格主体である動作主の行為によって行われている。このタイプの特徴を次のようにまとめる。

S2V(条件設定:きっかけ).....► S2V(事態が生じやすくなるが、事態成立の予見は難易度
がある)

自信を持つことは難しいのに対して、温泉気分を味わうことは簡単に達成できるかもしれない。したがって、自信を持ってもらう場合は、文脈に「まず」との共起が見られる。要するに、準備段階からV-テモラウで表される事態達成までの間には、いくつもの状況を設定することが可能であると考えられる。言い換えると、物理的状況設定型「鳩尾を突き、失神してもらった」ほど直接的ではなく、事態成立も予見しにくい。このタイプは構造上、使役文と対応するが、「失神してもらった→失神させた」の持つ使役性とは異なる。

5. 言語型

言語型の状況設定は、言語的な働きかけが存在しても、それは直接V-テモラウで表され

る動作を行ってもらうための言語的な働きかけではなく、依頼するにあたり、テモラウで表される事態達成の原因となるある事情を言語的に設定することによって、動作主にテモラウ事態を引き起こしやすくするタイプである。言語的に直接依頼する＜依頼型＞より、状況設定が付け加わる形の働きかけであるという点で、間接的であると言える。しかし、言語型であるということから考えれば＜依頼型＞に近く、非言語型と異なり、＜状況設定型＞の一般的なタイプであると考える。用例数も多く、総じて、直接関与・間接達成タイプが多く見られる。このタイプを＜二者間の直接関与間接達成＞と＜三者間の直接関与間接達成＞の二タイプに分類する。「事情を語り・語り込む・話して(て)、（わかりやすく）説明して、わけを話して、相談して、旨を告げ、報告して、誓約を入れて、詫びを入れて、説き伏せて、（必死に）説得して、交渉して」といった言語的な状況設定を30例ほど検出することができた。この中には、「過程の自己制御性」を持つ動詞のタイプが10例ある。以下、いくつかの代表例を考察していく。

5.1 二者間の直接関与間接達成

二者間の直接関与間接達成には、次に述べる三タイプがある。以下、代表例を挙げながら考察していく。

5.1.1 間接働きかけ

言語的であり、間接的に働きかけるタイプは、主に「非達成の自己制御性」と「過程の自己制御性」を持つ動詞の場合である。非言語型の直接関与・間接達成と異なり、言語型の直接関与・間接達成では、たとえば「安心してもらう」の場合、「安心しろ・安心して！」と、直接命じたり依頼したりする働きかけではなく、相手が安心できるように情報を知らせるといった状況設定を行う。「笑ってもらえた」も、二格主体が笑うように、「～と話して」のように、笑えるような話題をガ格主体が提示し、言語的な状況設定を行っている。

<安心してもらう(た)>……V過程

- (25) 情報提供の期待と、被害者に逮捕を知らせ、少しでも安心してもらうことが、和田本部長の狙い。(PM41_01032 実著者不明『週刊新潮』新潮社, 2004) ⇄ 安心させた
- (26) 十九時二十分、取り敢えず心配をかけているC1に、ACへ全員無事着いた由報告し安心してもらった。よくも頑張れたものだ、実に十二時間二十分余りの大アルバイトだった。(PB12_00210 田中昌二郎(著)『より高く、より遠く、未知を求めて』嵐岱隊, 2001) ⇄ 安心させた

<笑ってもらえた>……V非達成

(27) 今度はもう少し早く行った方がいいと思った。ナンの人達も私の怪我を知つてて、心配してもらって申し訳ない気がした。しかし、ずっと横になってばかりだったから、なぜか足は痛くなく、腰が痛かったとか事故に遇うまで乗っていたエクストレイルと色も同じエクストレイルを買ったという話をしたら笑ってもらえたので、ま～良かった。

(0Y14_46572 Yahoo! ブログ, 2008)

<遠慮してもらった>……V過程

(28) 船田氏は今、山崎派とも距離を置く。昨年十一月に都内のホテルで開いたパーティーに橋本元首相を招きながら、山崎拓・元政調会長には「加藤政局」直後を理由に出席を遠慮してもらった。(PN1c_00027 小田尚(著)/読売新聞東京本社(著)『読売新聞』読売新聞社, 2001)

用例(28)の「理由に」は、「理由を提示する」という意味であり、前件では「加藤政局の直後だから」という理由を相手に示しているのが分かる。それによって、相手が出席を遠慮しなければならないような状況設定を行っている。つまり、言語的な手段を用いて状況を設定することによって相手を安心させた、笑わせた、辞退させたということである。相手による達成が不可能であるため、言語型状況設定の中でも非言語型の<直接関与・直接達成>のタイプに近いものであると言え、使役的な用法になる。

<了承し・納得し・認め・承認し・承知してもらう>……V過程

(29) 締め切り間近の仕事を抱えてもいたが、事情を話してなんとか了承してもらった。

(PB39_00317 影山和子(著)『ガンのある日常』NTT出版, 2003)

(30) その導入の手順などについて、まず幹部社員に説明し、つぎに一般社員にも説明して納得してもらった。(LBn3_00160 中林政雄(著)/佐々木俊世(著)/赤坂和則(著)/赤森伸子(著)『社会保険労務士になるには』ペリカン社, 1999)

(31) 「一級」の判定もそれを証明しているではないか。何回かの交渉の結果、何とか認めてもらった。(OB6X_00216 加藤浩美(著)『たったひとつのたからもの』文藝春秋, 2003)

(32) この説明もうまくいって、プロジェクト・マネジャーはまた期限の延長と予算の増額を経営会議に承認してもらった。(PB59_00403 中嶋秀隆(著)『ピガサス 101』碧天舎, 2005)

(33) 杉原が決断した。しかし、殺人事件が起こったわけだからと、旅館の全景だけは、写すことを承知してもらった。(LBi9_00128 山村美紗(著)『京都・出雲殺人事件』実業之日本社, 1994)

用例(29)の「事情を話して」、用例(30)の「説明して」、用例(31)の「何回が交渉した結果」、用例(32)の「この説明もうまくいって」などは、了承する、納得する、認める、承認

するための一定の前提条件の状況を作っている。用例(33)の「殺人事件が起ったわけだから」の後ろには、「言って(説明して)」が省略されている。したがって、それ「殺人事件が起ったわけだからと(言って／説明して)」は、全景を写すことを承知させる状況を作っているということになる。

5.1.2 直接働きかけ

次に、「達成の自己制御性」を持つ動詞によって構成されたテモラウで表される事態について述べる。本来は言語的に働きかけてもよいものであるが、言語的に状況を作つて追加的に依頼することによって、より相手が実現しやすくなるというタイプのものである。したがつて、<状況設定型>の中でも、直接言語的な働きかけを行うことも可能なタイプであり、<依頼型>に最も近いと言える。前件の「詫びを入れて」「事情を語りこむ」といった状況設定は、言語が事態達成の間接的な行為となつており、テモラウで表される事態成立の必然的な条件にはなつていない。

<反故にし・撤退し・引き受けてもらつた・買ってもらう>……V達成

(34) 自由党の選対責任者である渡辺秀央に詫びを入れて、約束を反故にしてもらつた。

(PB43_00291 前田和男(著)『選挙参謀』太田出版, 2004)

(35) 「永為奴客（とこしえに臣下として服従します）」との誓約を入れてやつと高句麗軍に撤退してもらつた。(LBd2_00042 麗羅(著)『人物韓国史』徳間書店, 1989)

(36) 客がいて、商品があつて、頭を下げ、説明して買ってもらう。(OB2X_00198 赤川次郎(著)『早春物語』角川書店, 1985)

(37) 取り組みの事情を語り込むと印刷屋さんが感動され喜んで予想以上の値段で引き受けもらつた。(LBp3_00097 麗宏吉(著)『まちづくりボランティア』ブックハウスジャパン, 2001)

「反故にしてもらつた」は、「約束を反故にして！」と直接に依頼したのではなく、詫びを入れるという間接的な行為によつて「約束を反故にする」という事態の実現を果たしたものである。この例は、ニ格主体である動作主が反故にするようなことが言えるように、ガ格が直接関与して、間接的に状況設定を行つてゐる。これと同様に、用例(35)の「高句麗軍に撤退してもらつた」も、「誓約を入れる」ことが事態成立の直接的な原因となつてゐる。「頭を下げ、説明する」は、相手が買わざるを得ないような状況を作つてゐると言える。「事情を語り込む」は、「予想以上の値段で引き受けもらつた」の条件となつてゐる。

5.1.3 間接・直接働きかけ

「過程の自己制御性」を持つ動詞の中にも、意志性が強く感じられるものとそうでないものがある。意志性の強いタイプの動詞が用いられる場合、状況設定と非状況設定の2つタイプが存在する。

<考えてもらう>……V過程

前項動詞「考える」の実例は、「考えてもらった」と「考えてもらおう」は0件、「考えてもらう」は3件、「考えてもらいたい」は、全467件のうちに17件も存在し、意志性の強いタイプであると言える。

<状況設定>

(38) 言葉、絵、写真から連想してもらう。ストーリーの中で登場人物として考えてもらう。

(PB56_00045 酒井隆(著)『上手なネットアンケートの方法』中経出版, 2005)

<非状況設定>

(39) 年収が下がったような場合には何か配慮しろ、災害と同じような特例措置をぜひ考えてもらいたい。(OM24_00001 米沢分科員『国会会議録』第094回国会, 1981)

「考える」は「ストーリーの中で登場人物として考えてもらう」のような状況設定のタイプもあれば、「年収が下がったような場合には何か配慮しろ、災害と同じような特例措置をぜひ考えてもらいたい」と、言葉で指示する場合もある。この他、「分かってもらう・思い出してもらう」なども、状況設定と非状況設定が存在する。次の例「分かってもらう」は状況を作っているが、それに対し、「こちらの立場もわかつてもらいたい」と直接言語で働きかける場合もある。

<分かってもらう>

<状況設定>

(再掲 13) クラクションを鳴らし、「ほら、さっきのと音違うでしょ？」とわかつてもらう。(OC08_05989Yahoo!知恵袋, 2005)

<非状況設定>

(40) もしあの憎悪を少しでも緩和できるものなら、そうしたい。そしてこちらの立場もわかつてもらいたい。(OB1X_00086 森村誠一(著)『青春の証明』角川書店, 1977)

「分かる」の場合は、「分かって頂戴」とも言えるため、状況設定とそうでない場合の両方が存在する。

<思い出してもらう><連想してもらう>

(41) 言葉, 絵, 写真から連想してもらう。 (PB56_00045 酒井隆(著)『上手なネットアンケートの方法』
中経出版, 2005)

ここでは、ガ格主体が言葉で思い出す・連想するように依頼するというより、読む人に静かさを思い出すような言葉、絵、写真などを与えて連想しやすい状況設定を行い、思い出す・連想するように導くのである。

<思ってもらう>

「思ってもらいたい」の2例で、状況設定の用例が見られる。

(42) 私は結婚して子供ができるても、旦那さんを1番に思いたいし、彼からもそう思ってもらいたい。 (OC10_03274Yahoo!知恵袋, 2005)

(43) 鬼島は乾いた声で笑った。「この娘さんの家族に困った事が起こると思ってもらいたい。わかるな、わしの言う意味が」 (OB1X_00287 五木寛之(著)『水中花』新潮社, 1979)

ここをまとめると、「思ってもらう」や「分かってもらう」は、「てくれ」「てください」、「てもらいたい」などと言って相手に要求することができるが、「考えてもらう」は、用例(39)のように言えるため、「思ってもらう」より強く相手に要求することが可能であると見られる。「考える」は、自分で努力しないと事態実現はできず、また「考える」は、副詞の「是非」や「ぜひとも」「よくよく」「もっとしっかりと」と共起したり、「ちゃんと人のいう事を考えろ」など言うこともできる。これらのことから、「考える」は意志性が強く、「分かる」「思う」と異なる「過程の自己制御性」を持つ動詞であると言える。

以上のように、<二者間の直接関与間接達成>の<言語型>の状況設定は、ほとんど<動作誘発型>に類似し、ニ格主体である動作主がガ格主体の思うとおりになりやすい言語的な状況を作っている。このようなタイプを<言語誘発型>と仮称する。中には、「登場人物として考えてもらう」のような<指示型>も存在するが、二者間の言語型の状況設定の典型は、やはり「話して笑ってもらえた」「知らせて安心してもらった」のような「非達成の自己制御性」と「過程の自己制御性」を持つ動詞に対する<言語誘発型>の状況設定であると考える。このタイプは常に状況設定が必要となる。

状況設定の特徴：ニ格主体が事態を実現しやすい状況設定を行う<言語誘発型><指示型>
テ節：(事態達成への有効な手段の一つ) → 主節：S2V(直接達成より間接的・必然的な
結果にならない場合がある)

5.2 三者間の直接関与間接達成

<言語誘発型>に対して、次のタイプは、行為の価値評価になるための状況設定である。このタイプを<能力型>状況設定と仮称する。

<合格してもらう・採用してもらった>……V過程

(44) 授業の方もそろそろスピードアップし、終了した項目から演習も取り入れていきたい
と思っています。何とか1人でも多く合格してもらわないと…。(0Y03_11792 Yahoo!プロ
グ, 2008)

(45) エレクトロニクス産業の未来に大きな可能性を予感して、憧れだけで飛び込んだ研究
者人生が、まさに頂上の無い山を登り続ける作業なのだということを後に実感して、自
らの人生の幸運を一人で喜んだ。るべき理想の極限の技術体系を予見・洞察して、そ
の理想の技術体系を具現化するために必要な全ての課題を抽出し、その全てを研究開
発・実用化することが研究であるが、理想の技術体系に次第に接近することはできても、
完全にやり遂げるなどということは通常できないからである。千九百六十六年三月、前
述したテーマで工学博士号を取得し、翌四月助手に採用してもらった。(PB45_00024 大見忠
弘(著)『復活！日本の半導体産業』財界研究所, 2004)

「合格してもらう」は、一種の価値評価的な行為である。相手との関係の中で成立する
行為であるため、相手に直接言語的に働きかけても実現できるとは限らない。「終了した項
目から演習も取り入れる」ことは、合格しやすい状況を作っている。「採用してもらう」も
相手とのやり取りの関係の中で成立する行為であり、採用する人間が必要となる。「前述し
たテーマで工学博士号を取得した」ことが助手に採用された条件となっている。つまり、
相手が採用しやすい状況を提示している。ただし、この言語的な働きかけは、前の言語
的な依頼とは異なる。「合格する」は対抗相手との関係において行われる行為であれば何か
を勝ち抜く必要がある。或いは、基準点以上の点数を取って合格する。「採用する」は対抗
相手・採用相手との三者関係があって、対抗相手との競争というより、ガ格主体の実力を
動作主である採用者に認められないと採用は果たせない。したがって、「合格する」と「採
用する」は事態実現の過程における必要条件が異なっているため、これらを次の二つのタ
イプに分ける。

I. 「合格する」は、対抗する相手との関係において行われる行為であり、対抗相手も同
様の行為を行う必要がある。

II. 「採用する」は、採用する動作主がいて、採用条件に見合う能力を動作主に見抜かれてはじめて採用に至るタイプである。

「採用する」は「合格する」と同じく、相手が存在するが、「採用する」は上下関係における上位者が下位者を評価するものである。よって、「採用してもらう」は、対抗する相手との競争や合格ラインを満たす行為とは異なり、ガ格主体が採用に必要な能力を具えていること、そしてそれを採用者が認めることの2つが揃うことが必要なタイプである。V-テモラウの前項動詞は、達成度合いの低い動詞であるため、これを補うための理由付けをすることが多い。

6. まとめ

[1]本章のまとめ

以上、状況設定型テモラウ文を<依頼型>に区別する特徴を挙げ、使役文の状況設定との類似点に触れ、そして状況設定の下位類を詳細に区分した。よって、テモラウ文の働きかけを行うための様々な状況設定型の特徴が明らかになった。ここまで分析結果を表1にまとめる。

表1 状況設定の下位類・状況型テ節の機能及び事態成立する段階的変化・V-テモラウで表す事態の特徴

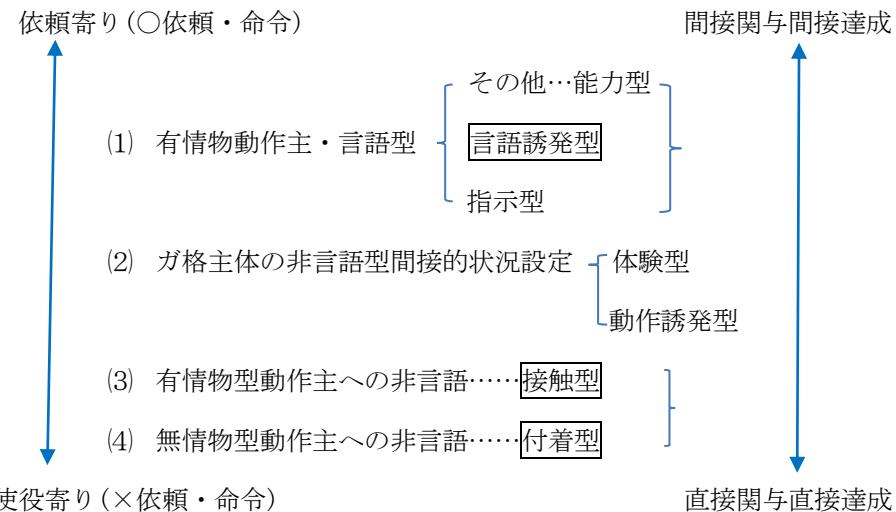
非 言 語 型	×	段階性副詞 「まず・とり あえず」との 共起○×	動 作 主	状況型テ節の 特徴・機能(ニ 格を変化させ る機能○×)	ガ格の主観的直接 関与・間接関与	事態成立の段 階性・必然性 (○×)	事態の自己制御性／ 予見可能な事態／サ セルとの置き換え (○)
			無 情 物	付着型 ○	小麦粉を投入し	直接関与直接 達成・○	× V非達成 ○茄子とキノコに油 を吐き出して
				接触型 ○	鳩尾を突き イスを回転させ		V非達成 ○失神して ○気分を悪くさせ、傾 けて
				動作誘発型 ○	無理に笑顔を作り コツコツと世話を して 愛心券を作り	直接関与間接 達成・×	V達成 足して V過程 覚えて V達成 買って
	○		有 情 物	体験型 ×	食器を片づけ 外見を変えて	間接関与間接 達成・×	V過程 実感して 自信を持って
				言語誘発型 ○	知らせ 話をしたら 説明し 事情を語り込む	直接関与間接 達成・○	V過程 安心して V非達成 笑って V過程 納得して V達成 引き受けて
				指示型×	登場人物として	直接関与間接 達成・×	V過程 考えて
	×			能力型×	資格を取得し	三者間・直接 関与間接達成	V過程 採用して

状況型の類似点は、従属節のV1の状況設定が後件の働きかけの成立の直接的な要因と

なっていることである。本章で動作主の性質に基づいて有情物と無情物に区分することによって、言語的・非言語的な状況設定が現れたのである。本章では、様々な状況提示の仕方・特徴に基づいて名称付けを行い、表1<付着型><接触型>のように状況設定型の下位分類を行った。表1から分かるように、二格主体が達成しにくい事態においては、ガ格主体の状況設定の必要性がより有効的になる。たとえば、「失神してもらう・安心してもらう・笑ってもらう」などである。このうち、非言語型は状況設定の典型であり、無情物型は典型的なかでも特に典型的なものであると言える。逆に、「自信を持ってもらう」は、そのための方法を提示することが可能であるが、事態が実現するかどうかはガ格主体には予見しにくい。また、三者間の直接関与間接達成のタイプは、常にガ格主体の能力的な条件が必要となる。

本章では、状況設定型の種類及びガ格主体はV-テモラウで表される事態の成立を依頼・命令することが可能であるか否かに基づいて、状況設定型テモラウ文を次の四段階にまとめる。そして次のような状況設定型の依頼性・使役性の段階的变化が形成される。

<状況設定型テモラウ文の依頼性・使役性との関連性>



図の(3)(4)は、二格主体(動作主無情物型と動作主有情物型)によるV-テモラウで表される事態の実行・実現は不可能であるため、いずれも使役文の状況設定と同じく、テモラウ文におけるガ格主体の<直接関与直接達成>のタイプとなり、前件のV1が示す状況節は、ガ格主体の動作が直接二格主体に接触・付着するような物理的状況設定である<付着型><接触型>を作る特徴を示している。このような複文的構造のテモラウ文の前件の状況節には必ず、事態を達成させるガ格主体の主観的な願望に基づく行為が現れ、その行為は二格主体を変化させる機能を持つ。後件の事態の結果は使役主体がコントロールできるため、

主体にとって事態の結果は予見可能であり、言語的な働きかけによる依頼・命令は不可能であるため、使役文と置き換えるても、文の意味は変化しない。テモラウ文の中で最も使役寄りであり、最も典型的な状況設定がなされるタイプである。これに対し、(1)(2)は＜動作誘発型＞＜言語誘発型＞の状況設定となっており、ほとんどが間接達成である。矢印が上に行くほど依頼的であり、依頼的なテモラウ文は使役文と置き換え可能であるが、置き換えた場合には元の文の依頼的な意味合いは失われ、意味において本質的に異なったものとなる。

なお、＜付着型＞の二格主体は無情物であるため、達成の自己制御性の中において論じることはできない。＜接触型＞の「失神してもらう」という事態は、二格主体にとって非達成的であるが、実例から分かるように、このタイプは受影型ではなく、働きかけ性が存在する。この結果は、これまでの無意志動詞(=「非達成の自己制御性」の動詞)は受影型となり、「過程の自己制御性」の動詞と「非達成の自己制御性」の動詞は依頼型にならない(山田 2004:123)という結論と対立するものである。

[2]使役文との違い

使役文の状況設定型との比較について、テモラウ文の働きかけの特徴は、ガ格の意向に望ましい働きかけを行うことが多いという点である。テモラウ文のコーパス観察では、心理的な状況を表す動詞のうち、「喜んでもらう」は166例、「心配してもらう」は10例しかなく、プラスの意味合いを持つ動詞の割合が多いという結果が得られた。つまり、テモラウ文は心理的にマイナスである事態を自分にも相手にも希望しないということが分かる。一方、マイナス的事態が行われるよう要求する例も少なからず存在する。たとえば、次のような例がそうである。

(46) a. (前略) どうせ死ぬなら、最期まで生き続けて悲しんでもらった方が良いんじゃないですか？(0Y14_47984Yahoo!ブログ, 2008)

b. (前略) どうせ死ぬなら、最期まで生き続けて悲しませた方が良いんじゃないですか？

(47) a. (前略) 不倫相手の親に慰謝料を請求したいくらいです。(それで向こうの家族にも悲しんでもらいたい) (OC09_06999Yahoo!知恵袋, 2005)

b. 不倫相手の親に慰謝料を請求したいくらいです。(それで向こうの家族にも悲しませたい)

用例(46) (47)は、それぞれ(46)b と(47)b の使役文に置き換えられる。それに対し、次のような使役文は、テモラウ文に置き換えられない。

(48) a. 何度も何度も挑戦して、うまくいかなくて、両親を悲しました。(作例)

b. ??何度も何度も挑戦して、うまくいかなくて、両親に悲しんでもらった。

用例(48)は、a のように「両親を悲しました」と表現することが可能であるが、「うまくいかなくて、両親に悲しんでもらった」とテモラウ文に置き換えると非文になる。したがって、「悲しんでもらった」のように、相手に心理的にマイナスの事態を引き起こそうとする働きかけや、相手をマイナスの状況にさせる要求は、次の例である「自分だけじゃなくみんなにも絶望してもらいたいからまどかのマギア素材貼っとくわ」「つまらない。演技でもいいから、多少は驚いてもらいたかった」「裏切ってもらいたい」のように、最初からガ格主体の意図性がある場合以外は、テモラウ文で表現しにくいと考えられる。

(49) 自分だけじゃなくみんなにも絶望してもらいたいからまどかのマギア素材貼っとく

わ(<http://chomagireko.blog.jp/archives/3380589.html>, 2017年08月27日)

(50) 根津愛はまるで表情を変えなかった。つまらない。演技でもいいから、多少は驚いて
もらいたかった。 (PB29_00043 愛川晶(著)『網にかかった悪夢』光文社, 2002)

(51) 「ランカを護る」という指令の尊守を以って他の17歳の指令を跳ね除けて、裏切つ
てもらいたい。 (OY15_06882Yahoo!ブログ, 2008)

上記の例のように、ガ格に利益があるわけでもなく、ニ格にも益を与えず、逆に心理的にマイナスの事態を積極的に与えようとするテモラウの用法は、テモラウ文が恩恵的表現である基本的な姿から外れた用法であると言える。これは、テモラウ文の一般的な用法ではないため、「悲しんでもらう」よりさらに用例数は少ないことがコーパスの観察によって明らかになった。また、「喜んでもらう」はガ格に直接恩恵が返ってくることはなく、ニ格が益を得ることになるが、ニ格が「喜ぶ」ことをガ格が望んでいるため、ニ格が喜ぶことにより間接的にガ格も益を受けることになる。今後はさらに、使役文の状況設定との類似点・相違点について考察を進める必要がある。

第七章 組織依頼のテモラウ文と他動詞文の交替

1. はじめに

日本語では、個別も組織も、相手に自分のために何かを行わせるように働きかけを行う際、もとの文である「S2(→動作主)が(Xを)V-る・た」という他動詞文を用いるより、受益者のガ格主体(→S1)を付け加えて「S1 が S2 に(Xを)V-テモラウ」というテモラウ文を用いるのが一般的である。

本論は、BCCWJ を考察の対象にして、テモラウ文の実例を先行研究と異なる角度から分類を行う。その際、病院といった専門組織への働きかけは、テモラウ文ではなく、テモラウの前項他動詞で表現しても、動作主が変わらず、本来のテモラウ文の基本的な授受関係の意味に変化が生じないことがある。しかしそれにも拘らず、これまでテモラウの働きかけ性を論ずる場合、他動詞文との交替可能な<組織依頼>のテモラウ文をまとめて取り上げた先行研究は少ないようである。

そこで、本論は、<組織依頼>のテモラウ文を立てて、テモラウ文と他動詞文の用法が重なって表現できる現象を中心に考察し、テモラウ文の新たな特徴、構造的な再分類を見出すことを目的とする。以下は、本章の構成である。

第2節で先行研究のテモラウ文の意味用法の概観及びそれとの比較を行う；第3節で本章にて取り扱っている<組織依頼>の実例に基づく詳細な定義及びこの種のテモラウ文の基本的な文形式の特徴を論じる；第4節で<組織依頼>のテモラウ文と他動詞文と交替の可能性を論じる；第5節でテモラウ文の構造的な再分類を行う；第6節の結論では形式・意味・構造などの面から<組織依頼>のテモラウ文を取り立てる根拠をまとめることとする。

2. 先行研究

テモラウの意味用法について、主体の働きかけの意図の有無に基づく使役的な依頼(1)と受身的な受影(2)に分類する先行研究(仁田:1991;益岡:2001;李:20001;山田:2004;日本語文法記述研究会:2009など)がある。しかし、用例(3)(4)は同様に分類すると文の特徴がよく表れない。

(1) 先生に手伝ってもらった。(日本語文法記述研究会 2009:129)

(2) 5時ごろになってやっと子どもにも遊ぶことに飽きてもらって, 帰ることができた。(山田 2004:122)

(3) a. 女の人のかみの形や顔をきれいにしてくれるところ。れいびよういんでパーマ

をかけてもらう。 (PB2n_00085 実著者不明『新レインボーにほんご絵じてん』学習研究社, 2002)

b. 美容院でパーマをかけた。

用例(3)aは、bのようにテモラウの前項他動詞だけでもテモラウの基本的な授受関係を示すことができる。それに対し、用例(1)は「先生に手伝った」と他動詞文に置き換えると、用例(3)bの文と異なるのが分かる。しかし、これまでのガ格主体の意図に基づく分類であれば、用例(1)(3)はいずれも使役的な「依頼」に区分される。

本章は、BCCWJ の実例を考察の対象にし、用例(3)のようなテモラウ文は、主に病院といった専門組織への働きかけに集中していると分かった。このようなテモラウ文は使役・受身の両方の性質を持ちつつ、他動詞文とも交替できる。さらに動作主の行為がガ格主体の領域に直接作用し、持ち主の受身文に通ずる<持つ主のテモラウ文>の性質も有すると考えられる。そこで、本章は今までの分類の仕方と異なり、コーパスの実例を動作主の角度から分類を行い、用例(3)のテモラウ文を<組織依頼>のテモラウ文と仮称する。他動詞文との交替可否を探る一方、テモラウの構造的な再分類も試みる。

3.<組織依頼>のテモラウ文

この節では、動作主の意味的な観点からさらに<依頼型>を枝分けして、<組織依頼>を取り出す。以下、<個別依頼>と対照的に見ていき、この種のテモラウ文の働きかけ性及び構文的な特徴を見出すことを目的とする。

3.1 <組織依頼>の定義

<組織依頼>とは、病院など限定された組織という場所でしか受けられない専門行為に携わる専門的な技能を持つ集団への働きかけである。これは、量的な問題ではなく、一人で営む美容院であっても組織として捉えられる。それに対し、組織である動作主の専門行為以外の働きかけは<個別依頼>とする。両者は対立的な関係ではなく、動作主の意味に基づく分類である。このような分類を通じて、テモラウ文の意味用法にどのような違いが反映されるかを明らかにする。以下は、<個別依頼>と比較してその詳細を明らかにする。

3.2 場所格の現れ

<組織依頼>のテモラウ文は動作主を二格で示す典型的な依頼型のテモラウ文と違って、場所格³⁵で動作主を示す特徴があると指摘できる。用例(4)(5)(6)のように「場所へ(ニ)行ッテ・場所デV-テモラウ」といった形式のテモラウ文が多いとコーパスの観察で分かった。

- (4) 使用済み注射器は専用プラスティック容器に入れて、まとめて病院へ持つて行き、処分してもらう。(0Y14_08700Yahoo!ブログ, 2008)
- (5) 鑑識で、調べてもらう。もし、チョコレートに異常があれば、このケースの指紋を探ろう。(LBc9_00017 赤川次郎(著)『三毛猫ホームズのクリスマス』角川書店, 1988)
- (6) その後、神殿でお祓いを受け、祝詞をあげてもらう。(PB13_00726 分担不明『冠婚葬祭実用辞典』学習研究社, 2001)

用例(4)(5)(6)に現れた場所はいずれも純粋な場所ではなく、制度的・物理的な場所であり、V-テモラウ事態であるVの動作主として専門的かつサービス的な行為を担う二重役割を果たす組織的なものである。専門行為を行う動作主が限定されるため、特定の組織に依頼しない限り、希望の事態が実現されない特徴がある。

3.3 動作主の潜在化

<組織依頼>のテモラウ文は、用例(3)(7)のように専門職への働きかけは「行って・赴き」といった継起的テ節やデ格を用いて動作主を示すことが多く、場所的な組織の背後には専門的な行為を行う具体的な動作主である個人が存在しているが、文中において働きかけても動作主として現れない特徴があると言える。そして、動作主が専門職であるため、働きかけ性の弱い非典型的なテモラウ文が多く、会話文より地の文で表現されることが多いと指摘できる。

- (再掲 3) 女の人のかみの形や顔をきれいにしてくれるところ。れいびよういんでパーマをかけてもらう。(前掲『新レインボーにほんご絵じてん』)
- (7) 定期的に歯科医院に赴き、衛生士に機械的にクリーニングしたりなどしてきれいにしてもらう。(PB54_00034 赤城稔(著)『「高濃度クマザサエキス」開発の奇跡』ソフトバンクパブリッシング, 2005)

³⁵仁田(2009:36)では、用例「警察で事の真相を発表した」は、行為主が「Xで」の形式で現れ、行為主の名詞が「ところ性」を有すると述べている。

それに対し＜個別依頼＞は、用例(8)(9)のように動作主の行為が専門職ではない場合が多く、「～ニ・ニ頼ンデV-テモラウ」といった文形式を用い、働きかけ性のある「頼んで」「誘い出して」といった依頼的な継起的テ節がよく現れることになり、具体的な依頼事がテ節に後続することが多い。

(8) 顔見知りの従業員の男の子に頼んで、席を作つてもらう。(OB2X_00345 田中康夫(著)『なんとなく、クリスタル』河出書房新社, 1981)

(9) 夫への不満が募ってくると、こうやって幼なじみの律子を誘い出して、愚痴を聞いてもらう。(0Y14_02769Yahoo!ブログ, 2008)

さらに、用例(10)のように＜Xに勧められ、S2にV-テモラウ＞という成り行きも特に＜個別依頼＞の働きかけには必要とされず、＜組織依頼＞には多く見られるのではないかと思われる。

(10) そこに行ってみれば？」と薦めてくれた。さっそく行ってみた。最初は、小児科で診てもらった。(PB19_00167 稲川尚子(著)『ママと呼んで！由くん』まどか出版, 2001)

なお、＜組織依頼＞＜個別依頼＞の継起的テ節は依頼において、次のような違いが存在する。組織には「行ッテ」の類がよく用いられることは、組織という場所に行かなければ、ある種の行為が受けられないのであり、行為を受ける準備段階を示す。それに対し、個別依頼における「頼ンデ」の類は依頼する具体的な動作主である人間が強調され、通常、依頼事が後接され、「行ッテ」の準備段階の次の具体的な行為の依頼段階になり、＜個別依頼＞には現れやすいのである。両者のテ節の役割の違いを次のようにまとめられる。

＜組織依頼＞「行ッテ」類→動作主の役割を担う場所が前接され、行為を受ける準備段階に入ることを示す。

＜個別依頼＞「頼ンデ」類→動作主が担う個別の人間が前接され、具体的な行為の依頼段階に入ることを示す。

3.4 本節のまとめ

以上、動作主の意味によって働きかけられる相手を、個人と組織に分類した。考察によると、テモラウ文において＜組織依頼＞と＜個別依頼＞とでは、動作主の特徴が異なるだけではなく、両者は働きかけの仕方や文の形式的な特徴においてもかなり異なっていると

言える。そして、次のような2点の違いが反映され、個別依頼とは異なる<組織依頼>の特徴としてまとめられる。

I. <組織依頼>のテモラウ文の形式的特徴

<組織依頼>は、通常の<個別依頼>の「S1 ガ S2 ニ・頼ンデ V-テモラウ」文形式に対して、「歯医者へ行って」・「内科で」・「病院で」といった文形式が多用され、「場所+に(へ)行ッテ」・「場所+デ」といった場所格で動作主を示すことである。分析を踏まえて文形式の特徴を次のようにまとめることとする。

- (S1 は) S2 組織に行って、 V(専門行為に関わる動詞) テモラウ
- S2 組織で V(専門行為に関わる動詞) テモラウ

II. 動作主の特徴

<組織依頼>の場所は純粋な場所ではなく、組織的なものである制度的な場所であると同時に、行為の授受が行われる物理的な場所でもある。つまり、場所である一方、大きく見て「V-テモラウ」の内容である「V」の動作主でもあり、専門的な行為を担う役割も果たしている、という二つの機能を有する組織的なものである。

- S2 専門行為に携わる動作主・場所的な組織

III. 個別の動作主の潜在化

場所的な組織の背後には専門的な行為を担う人間、つまり組織に属する具体的な働きかけ相手である個人の動作主が存在しているが、文中において働きかけがあつても具体的に動作主として現れないのが特徴的である。したがって、動作主でありながら場所の機能も有する組織依頼には、「頼ンデ」といった個別の動作主を示す依頼的な継起的テ節やニ格が現れにくいのである。

IV. 働きかけの特徴

<組織依頼>は、病院・動物センター・電力会社など、専門性かつサービス的な行為を果たす役割の人間や特有の機能を果たす組織に働きかけている。そのため、専門行為を行う動作主が限定されたため、特定の組織に依頼しない限り、希望の事態が実現されないのである。そして、動作主が専門職であるため、働きかけ性の弱い非典型的なテモラウ文が多く、会話文において直接動作主に働きかけることが少ない。そのため、地の文で表現されることが多いと指摘できる。

以下、BCCWJ の実例を通して、他動詞文との交替可否、及びテモラウ文の構造的な再分

類を試みる。

4. 他動詞文との交替

以下は、BCCWJ の実例を通して、テモラウ文と他動詞文との交替について、交替可能、不可能に分けて、要因を明らかにする。

4.1 交替可能な場合——変化性・処置性組織依頼

次の用例(11) (3) (12)の<組織依頼>のテモラウ文は、場所格の現れ、動作主の潜在化といった特徴の他、恩恵の有無を別にして文成分の増減や格の転換無しで、他動詞文と交替できる特徴がある。

(11) ご主人の勤務している大学病院の内科で診察してもらった。(OBIX_00078 水野肇(著)『夫と妻のための老年学』中央公論社, 1978) ⇔ (11)' 内科で診察した。

(再掲 3) 女の人のかみの形や顔をきれいにしてくれるところ。れいびよういんでパーマをかけてもらう。(前掲『新レインボーにほんご絵じてん』) ⇔ (3)' 美容院でパーマをかけた。

(12) もう我慢も限界だとばかり、僕は猫を動物センターに連れて行き、処分してもらった。(LBh9_00024 永倉萬治(著)『晴れた空、そよぐ風』PHP研究所, 1993) ⇔ (12)' 動物センターで猫を処分した。

三つの働きかけの共通点は、いずれも限定した組織的な場所でしか受けられない専門行為に、ガ格主体の意志による働きかけである。その働きかけによって引きこされた動作主の行為に対し、ガ格主体や所有物などはいずれも<受身>の状況に置かれている。ここでいう<受身>の状況とは、テモラウの主格・主格の身体局部や持ち物が動作主の行為を受ける<受け手>となっている。動作主の行為はいずれも直接受け手に作用を及ぼしたり、影響を与えていている。本章では、ガ格主体が受身的な立場に置かれている状況を<主格受け手性>と仮称しているが、交替可能な場合の<主格受け手性>は「私は田中先生に英語を教えてもらった」のような、単なる事態や恩恵を受動的に受け入れるような受身的な状況とは異なっている。

上記三タイプの組織依頼の<主格受け手性>の特徴は、主格(ガ格主体)が働きかけ手でありながら、持ち主の身体・身体局部・領域・持ち物が病院などの組織のような動作主の専門行為に処置や変化を加えられる<受け手>となっているのである。したがって、この

場合の<受>は処置性・変化性を持つ受動的事態を受ける意であり、<手>は<身>に相当し、動作主の行為がガ格主体に直接作用を及ぼす具体的な対象や着点を示すものである。言い換えると、主格の身体・身体局部・領域及び所有物の三つを指している。これらは動作主の行為の直接<受け手>となっている。このような組織依頼は本稿では<処置性・変化性組織依頼>と仮称し、受け手となる対象の特徴に基づき、次の三つに分類する。

- ① <主格受け手>……用例(11)
- ② <主格局部受け手>……用例(3)
- ③ <主格領域・所有物受け手>……用例(12)

<主格受け手>は用例(11)に当たり、主格の身体が動作主の行為の直接的な<受け手>となっている。<主格局部受け手>は用例(3)に当たり、主格の身体局部が<受け手>となっている。<主格領域・所有物受け手>は用例(12)に当たり、主格の領域・所有物が<受け手>となっている。組織の専門行為はいずれもそれぞれの受け手に直接作用を及ぼしたり、影響を与えていた。①②③はいずれも限定した組織でしか受けられない専門行為に対して、ガ格は働きかけ手でありながら行為の参与者である<受け手>でもあり、動作主の行為によって処理や変化を加えられている。このようなテモラウ文の構造を次のようにまとめられる。

<(S1 は) S2 組織に行って、 V (専門行為に関わる動詞) テモラウ
／S2 組織で V (専門行為に関わる動詞) テモラウ>

このような構造及び処置性・変化性の受動事態の特徴が他動詞文と交替可能な要因として挙げられると考える。そして、他動詞文に置き換えるても、動作主に曖昧性が生じる可能性が低く、テモラウ文と同様な授受関係を示すことが可能であると主張できる。以下、さらに実例を通して、<処置性・変化性組織依頼>の三つの<主格受け手性>を詳細に分析し、テモラウ文と他動詞文との交替を検討する。

4.1.1 <主格受け手>のテモラウ文

<主格受け手>のテモラウ文は用例(13) (14) (15)が示しているように、動作主は病院やその一部門であり、診察を行う専門的な組織である。動作主の専門的な行為はいずれも直接受け手であるガ格主体に作用を及ぼしているのである。したがって、このようなテモラウ文は「診察した」「検査した」「痩身エステをした」と他動詞文に置き換えられる。

- (13) 7ヶ月札幌の病院に再入院、名古屋の病院を退院してから三日目に、札幌の病院で診察してもらった。仁美はなつかしいポニーテールの高瀬先生に会うと笑顔が止まらなかった。(LBi9_00164 小坂国男(著)『希望』花伝社, 1994) ⇔ (13)' 札幌の病院で診察した。
- (14) 昨日別の病院で検査してもらいました。GPTは以前より下がっていましたがNH3が三百九十で黄疸もひどく肝硬変と言われました(OY03_06312Yahoo!ブログ, 2008) ⇔ (14)' 病院で検査しました。
- (15) 今日、美容院で痩身エステをしてもらった。(作例) ⇔ (15)' 今日、美容院で痩身エステをした。

4.1.2 <主格局部受け手>のテモラウ文

<主格局部受け手>のテモラウ文は、いずれもガ格主体の身体局部が直接動作主の専門行為に影響され、変化されるテモラウ文のことをいう。<主格局部受け手>のテモラウ文の例は次のようなものである。

- (16) 病院で手術して摘出された臓器などは、どのように処分されるのでしょうか？この間手術してもらったので、ちょっと気になっています。(OC09_03343Yahoo!知恵袋, 2005) ⇔ (16)' (前略) この間手術したので、ちょっと気になっています。
- (17) 家に入ると清二が来てい、「喜んどくなはれ。あの金で手術してもらうことになりました。(後略)(LBq7_00049 河本壽栄(著)『二代目さん』青蛙房, 2002) ⇔ (17)' (前略) あの金で手術することになりました。
- (再掲 3) 女の人のかみの形や顔をきれいにしてくれるところ。れいびよういんでパーマをかけてもらう。(前掲『新レインボーホンゴ絵じてん』) ⇔ (3)' 美容院でパーマをかける。
- (18) しもきたの美容院に行って、髪を切ってもらった。(PB33_00091 石本伸晃(著)『ピエールの司法修習ロワイアル』ダイヤモンド社, 2003) ⇔ (18)' 美容院に行って、髪を切った。
- (19) サロンに行って、スカルプしてもらう。(OC09_08404Yahoo!知恵袋, 2005) ⇔ (19)' サロンに行って、スカルプする。
- (20) 今日のリハビリホットバッグで両太ももと腰を暖めもらう。気持が良い。(OY14_47792Yahoo!ブログ, 2008) ⇔ (20)' リハビリホットバッグで両太ももと腰を暖める。
- (21) 耳が聞こえないとのことで耳鼻医院へ。鼓膜が汚れていたので洗浄してもらう。顔に黄色い脂が浮き、ふき取るときつい黄色。同じ物が耳垢となって残るのだろう。

(PB59_00104 井上恵(著)『お地蔵さま』新風舎, 2005) ⇔ (21)' 耳が聞こえないとのことでの耳鼻医
院へ。鼓膜が汚れていたので洗浄する。(後略)

(22) 「膝にたまつた水は抜いてもらつた。…今は物が当たつても痛くないよ。ほら、こうして動けるし！」(LBf9_00052 ゆうきみすず(著)『すばる』講談社, 1991, BCCWJ) ⇔ (22)' 膝にたまつた水は抜いた。(後略)

(23) 由香里のあまりの長電話に耐えかねて、由香里が自分の部屋へ持つて行けないように、
コードを短く直してもらつた。そのことで由香里が怒り、毎日妻と直す直さないで争
っていた。(OB2X_00194 穂積隆信(著)『積木くずし』桐原書店, 1982) ⇔ (23)' コードを短く直した。

上記に挙げたテモラウ文は、いずれもガ格主体の働きかけによって動作主が専門行為を
引き起こし、ガ格の身体局部に作用を及ぼしている。それにもかかわらず、用例(16)(17)
は「手術を受ける・受けた。」と言い換えられるように、ガ格主体側にとっての受動的事
態であるため、他動詞文「(病院で)手術した・する。」と表現できる。用例(3)(18)も「美容
院でパーマをかける。」「美容院に行って、髪を切った。」と、用例(19)(20)(21)(22)(23)
もそれぞれ「サロンに行って、スカルプする。」「リハビリホットバッグで両太ももと腰を暖
める。」「鼓膜を洗浄する。」「膝にたまつた水は抜いた。」「コードを短く直した。」と、
同様に他動詞文と交替できる。交替後、動作主ではないテモラウのガ格主体は依然として
他動詞文の主格として存在し、そして、他動詞文においても、テモラウ文と同様に働きか
け手であると同時に身体局部が受動事態の<受け手>となっている。つまり、行為の受け
手及び参与者としての存在でありながら依然として他動詞文のガ格に充てることができる
のである。

4.1.3 <主格領域・所有物受け手>のテモラウ文

<主格領域・所有物受け手>のテモラウ文は、ガ格主体の領域や所有物が動作主の行為
の直接<受け手>となり、動作主の行為によってガ格主体の領域・所有物に変化が生じる
特徴を持つテモラウ文である。<主格領域・所有物受け手>の例は次のようなものがある。

(再掲 12) もう我慢も限界だとばかり、僕は猫を動物センターに連れて行き、処分しても
らった。(前掲『晴れた空、そよぐ風』) ⇔ (12)' 僕は猫を動物センターに連れて行き、処分
した。

(再掲 5) 鑑識で、調べてもらう。もし、チョコレートに異常があれば、このケースの指紋を採ろう。(前掲『三毛猫ホームズのクリスマス』) ⇔ (5)' 鑑識でチョコレートの異常を調べる。

(24) 停めてあった電気を、電力会社に連絡して通してもらった。プロパンガスを補充した。

(LBh9_00242 勝目梓(著)『髑髏が往く』光文社, 1993) ⇔ (24)' 電力会社に連絡して電気を通した。

(25) 引越しをするので、電力会社に連絡して電気を停めてもらった。(作例) ⇔ (25)' 電力会社に連絡して電気を停めた。

(26) 家の中でも車椅子なので、私はバリア・フリーの工事をしてもらった。(LBq9_00200 田辺聖子(著)『i めえ～る』世界文化社, 2002) ⇔ (26)' 家の中でも車椅子なので、バリア・フリーの工事をした。

(27) この事件のために、特別に回線を一つ取りつけてもらった。これで、今後は意地悪なお手伝いの須美子や、煩しい母親の雪江の手を経ないで、プライベートな電話も受け取ることができる。(LBd9_00135 内田康夫(著)『白鳥殺人事件』光文社, 1989) ⇔ (27)' この事件のために、特別に回線を一つ取りつけた。(後略)

(28) 料金とガス料金を払った。家賃もふりこんでおいた。靴屋に寄って、踵を新しい物にかえてもらった。(OB3X_00282 村上春樹(著)『ダンス・ダンス・ダンス』講談社, 1988) ⇔ (28)' (前略)靴屋に寄って、踵を新しい物にかえた。

(29) 家のキットは業者から島に送ってもらった。(PB42_00295 川口正志(著)『島で暮らしたい!』彩流社, 2004) ⇔ (29)' 家のキットは業者から島に送った。

(30) 堀田のソフトバンクに行き、呼び出し音が2回くらいで切れてしまう携帯の設定を直してもらう。(OY03_06722Yahoo!ブログ, 2008) ⇔ (30)' ソフトバンクに行き、(中略)携帯の設定を直す。

(31) 郵便局へ行って、荷物を送ってもらった。(作例) ⇔ (31)' 郵便局へ行って、荷物を送った。

(32) この暑さで3日も放置してたら、酸化してどれにくくなっています。シートの張替えがクリーニングしてもらうしかないでしょうね。クリーニングしても落ちる保障はありません。(OC08_01781Yahoo!知恵袋, 2005) ⇔ (32)' (前略)クリーニングする。

このタイプは用例(12)のように、ガ格主体の所有物の猫が組織という動作主の専門行為の<受け手>となっている。<受け手>の猫が殺されるような強制処分に強いられるといった、処置的・変化的な受動事態を受ける主体となり、専門組織の動作主である動物セン

ターの行為によって、ガ格側にこのような受動的事態の変化が生じるのである。働きかけ手である主格の「僕」は直接動物センターである動作主の行為には関係せず、間接的に事態の影響を受けることになる。決して直接動作主の行為によって変化的な作用をもたらされない特徴がある。用例(5)も同様で、鑑識は専門行為を行う組織であり、ガ格主体の所有物のチョコレートが鑑識に調べられる行為の受け手となっている。用例(24)(25)も動作主の行為に影響される受け手はガ格主体より、ガ格主体の領域に属する電気が受け手となっている。動作主の行為によって電気が点くか停まるかの変化が生じる。限定した組織しか行えない行為であるため、「電力会社に連絡して電気を通した/停めた」と他動詞文でいえるのである。用例(26)はガ格の領域が行為の受け手となり、動作主は専門職を担っているため、「私はバリア・フリーの工事をした」と他動詞で表現できる。そして、バリア・フリーの工事を行う専門職の集団や人間はサービスの送り手の立場であるため、依頼主であるガ格は動作主に「工事をさせた」と使役文でも表現できる。用例(27)～(32)も靴屋・業者・ソフトバンク・郵便局・クリーニング屋などが、いずれも専門性かつ限定したサービス行為を行う特有な機能を果たす組織となる。これらの組織でしか受けられない行為によって主格の領域・所有物が受け手となって処置・変化を加えられる。したがって、同様に解釈できるし、また、いずれも他動詞文と交替できる。

こういった専門組織へ働きかけを行い、結果として、ガ格を含めたガ格領域が受動的な立場になる。そして、実際にはガ格主体の持ち物が動作主の専門行為の＜受け手＞となり、処置・変化を加えられるのであり、ガ格主体には直接関係しない事態であるのが特徴的である。限定した組織でしか受けられない行為であるため、他動詞文に置き換えるても動作主に曖昧性が生じる可能性が低いと考えられる。さらに考察によって、＜主格領域・所有物受け手＞タイプは＜主格受け手＞＜主格局部受け手＞より用例数が多いことが分かった。

4.1.4＜主格受け手性＞の共通性

組織依頼の＜主格受け手性＞の共通性は、動作主の潜在化と場所格への働きかけといった共通性以外には、次の二点の共通性があると言える。

I. 使役性と受身性の共存

組織依頼の＜主格受け手性＞の①②③の共通点は、総じてガ格主体の＜能動的働きかけ＞である。つまり、限定した組織的な場所でしか受けられない専門的な行為に、いずれもガ格主体に事態を引き起こす意図が存在している。したがって、働きかけは使役的で、ガ

格主体の意志による能動的な働きかけである。その働きかけによって引き起こされた動作主の行為のほとんどが「帰ってもらう」のように、動作主に留まる<非回帰型>の行為ではなく、専門組織という動作主の行為はいずれも<受け手>であるガ格側の身体・身体局部・所有物に対して、直接処置的・変化的な行為を行う<回帰型>のタイプである。<受け手>側は、事態に対していずれも受身的な立場にあり、受動的に事態を受けているのである。つまり、この場合の<受動的事態>は、他のテモラウ文のガ格主体が受ける「帰ってもらう」のような恩恵的受動や、「教えてもらう」のような事態を受け入れる受動とは異なっていることが分かる。したがって<主格受け手性>の三タイプは総じて、ガ格の<能動的働きかけ>対場所格の代替不可能な専門組織の行為による<処置性・変化性組織依頼>の<受動的事態>という特徴がある。S2 組織処置性・変化性V-テモラウと仮に示す。

II. 他動詞文と交替可能な<組織依頼>の前項動詞の特徴

<組織依頼>のテモラウ文と他動詞文と交替できるタイプは、代替不可能な組織的な動作主(→S2 組織)の専門行為に伴い、個別のガ格主体(→S1 個別)に何か影響・変化が生じるような受身的な事態である。そのため、動詞の性質は先行研究で扱われているテモラウ文の前項動詞「入る・乗る・行く・喜ぶ」といった動詞とは異なり、「手術する・髪を切る・鼓膜を洗浄する」といった専門行為に関わる動詞と事象を示すものが中心であると言える。

以上を踏まえて、このように場所格への働きかけを示す構文的特徴を持つ<組織依頼>のテモラウ文は、格の転換及び文成分の増減無しで他動詞文と交替できる。交替した他動詞文のガ格はテモラウ文と同様に行為の受け手の存在である一方、動作主は他動詞文の主格に位置しなくとも、文中に依頼しても現れない S2 組織の一員であるという意味的な変化が生じないものである。つまり、他動詞文でも、テモラウ文が示すような基本的な授受関係を表すことができる。したがって本論は、上記考察したように、テモラウ文と他動詞文が交替しやすい条件として、テモラウ文のガ格主体の身体・身体局部・領域・持ち物が、病院などの代替不可能な専門組織という場所格への働きかけにおいて、潜在化された動作主の専門行為によって処置・変化を加えられる<受け手>となった場合のテモラウ文は、他動詞文と交替できるのである。また、このタイプは用例(26)のように、専門職の集団がサービスの送り手の立場にあるため、動作主に「(前略) バリア・フリーの工事をさせた」と使役文とも交替できるのである。

4.2 交替不可能な場合——取得性組織依頼

「手術してもらった」は、本節で挙げる「書類を発行してもらった」「文藝春秋に教えてもらった」と同じ、いずれも組織への働きかけであり、ガ格に何か動作が生じている。

しかし、異なる受動的な意味を示すテモラウ文であると思われる。後者である「書類を発行してもらった」は、組織という動作主からガ格が何かを得るという意味を持つテモラウ文であり、対象によって物と情報の取得の二つに区分できるが、まとめて〈取得性組織依頼〉と仮称する。このタイプのテモラウ文は、主に産出的な行為の与え手を引き出す機能を果たし、組織という場所格が現れても他動詞文と交替できない。

4.2.1 物の取得

〈物の取得〉の場合、「証明書を発行してもらう」のように、ガ格主体は動作主の外部動作によって一方的に物を得るのである。用例(12)の「猫を処分してもらった」のように、本来所有していたものを消滅させるのに対して、「発行する・再交付する・処方する・貸す」は、相手から新たにものを獲得するのである。したがって、他動詞文とは交替できない。用例(38)の動詞「作る」も産出性がある動詞であり、他動詞文と交替できない。しかし、{主格→外部への物の移動}のような場合は他動性がある。

(33) 派出所へ行って、正式な証明書を発行してもらう。(0Y14_14094Yahoo!ブログ, 2008) × (33)'

派出所へ行って、正式な証明書を発行する。

(34) 駅に行って、チケットを発行してもらった。(作例) × (34)' 駅に行って、チケットを発行した。

(35) 「年金証書再交付申請書」を所轄の社会保険事務所に提出して再交付してもらう。

(PM43_00054『週刊ダイヤモンド』ダイヤモンド社, 2004) × (35)' 「年金証書再交付申請書」を所轄の社会保険事務所に提出して再交付する。

(36) 喉の調子が完治せずに、咳も止まない。その為、先週、内科に行ったついでに薬を処方してもらった。(0Y11_09245Yahoo!ブログ, 2008) × (36)' (前略)内科に行ったついでに薬を処方した。

(37) ハグ丸は、鞄には入りきらないので、デパートの紙袋を貸してもらった。(PM41_00651
片山奈保子(著)『COBALT (コバルト)』集英社, 2004) × (37)' デパートの紙袋を貸した。

(38) 寿司屋へ行って大きなおむすびを作ってもらう。(LBt0_00011伊丹十三(著)『女たちよ!』新潮社, 2005) × (38)' 寿司屋へ行って大きなおむすびを作る。

4.2.2 情報の取得

<情報の取得>の場合、「紹介してもらう」「教えてもらう」などは、主に新たな情報が伝達されることになる。動作主から「もの」を得る点では、<物の取得>と類似する。ただ、ガ格にとっての受動的事態であるが、証明書のように物として与えられない。また、直接ガ格の身体や所有に作用を及ぼさない行為である点では、外部動作によって何かを得る<物の取得><処置性・変化性組織依頼>のいずれとも異なる。主に情報の与え手を引き出す意味を示す。

(39) 市役所で取材先を紹介してもらう。 (OT33_00102『現代社会』東京書籍株式会社, 2006) × (39)'

市役所で取材先を紹介する。

(40) 文藝春秋に電話し, 重松さん担当の編集者の方にいろいろ教えてもらった。 (PB49_00201

嘉門達夫(著)『口笛吹いて』文藝春秋, 2004) × (40)' (前略) いろいろ教えた。

(41) 三百年余の風雪にさらされ, 字もかすんでいる。資料館で読み方を教えてもらう。

(PM11_01094 中野翠(著)/岩見隆夫(著)『サンデー毎日』毎日新聞社, 2001) × (41)' (前略) 資料館で
読み方を教える。

両者は、動作主が引き起こした事態が、病院などの専門職への働きかけである<処置性・変化性組織依頼>と同じ、ガ格主体にとっての受動的事態であるが、「診察する・手術する・猫を処分する・髪を切る」といった行為のように、組織の専門行為という外部動作がガ格主体に直接作用せず、受け手にも変化が生じない点で異なっている。V-テモラウで表される行為は{外部→主格へのモノの移動}性を伴う産出的な行為であり、主格が相手である動作主から所有しないものを得る点では、用例(42)の個別依頼に類似していると言える。

(42) 食べたソフトクリームの味がわすれられなくて、由布子さんにソフトクリームを買ってきてもらった。 (LBq3_00143 清水久美子(著)『夢がかなう日』偕成社, 2002) × (42)' 由布子さんにソフトクリームを買ってきて了。

用例(42)の<個別依頼>は、「買う」にテモラウをつけ加えることによって受益者の必要度が高くなる。用例(42)のもとの文「由布子さんがソフトクリームを買ってきた」という事態はガ格に影響を及ぼしているが、<処置性・変化性組織依頼>の主格受け手性の受身状況とは違って、<取得性組織依頼>も含めて、この種のテモラウ文のガ格主体は事態を実現する指示的な立場にある。したがって、他動詞文と交替できないと考えられる。ただし、事態の出現場所を付け加えて、「由布子さんにソフトクリーム屋からソフトクリームを買って来てもらつた」と示すのであれば、「由布子さんのためにソフトクリーム屋からソフトク

リームを買って来た」と他動詞文で表現できる。この場合は、「アイスクリーム屋から買った」 という事態の発生場所が強調されるのに対し、テモラウ文は「誰に買った」 という受益格が強調されることになる。

以上のように、<取得性組織依頼>は<処置性・変化性組織依頼>と異なり、テモラウの省略は、使役主体でありながら行為の受け手であるガ格と動作主のニ格との関係を正確に反映できず、ガ格主体の依頼行為による動作主の方から物・情報を得るという受動的立場にあるという特徴も表れなくなるのである。したがって、<取得性組織依頼>は他動詞文と交替できない。両タイプを、次のようにまとめる。

取得性組織依頼	物の取得	ex, 証明書を発行してもらう・処方してもらう
	情報の取得	ex, 教えてもらう・紹介してもらう

4.3. その他、交替可能・不可能・曖昧な場合

4.3.1 その他、他動詞文と交替可能な場合——継起的テ節

次の例では、動作主を「頼んで」といった継起的テ節で示している。このように「頼んで(依頼して)、(Xを)V-テモラウ」形式も、他動詞文と交替できる度合いが高くなる。用例(46)の「呼んできてもらった」は電話や手紙で呼ぶのと類似している。いずれも第三者経由による事態の実現であるため、他動詞文と交替できる。

(43) 私はフォーマット写真社のマギー・マレイに頼んで、私の治療のとりくみを写真で記録してもらった。 (PB47_00005 オルタナティヴジョー・スペンス(著)/萩原弘子(訳)『私、階級、家族』新水社, 2004) ⇔ (43)' (前略)に頼んで、私の治療のとりくみを写真で記録した。

(44) カール・グルーバは、病院に依頼して、担当医を変えてもらった。(作例) ⇔ (44)' カール・グルーバは、病院に依頼して、担当医を変えた。

(45) 社員も、大人で間に合わなくなると、彼は桐生の妹に頼んで少年を送り届けてもらつた。 (LBf7_00002 早瀬利之(著)『タイガー・モリと呼ばれた男』スキージャーナル, 1991) ⇔ (45)' 彼は桐生の妹に頼んで少年を送り届けた。

(46) 庄太夫はモナシリにたのんで、テウレシコルをチセに呼んできてもらった。 (LBbn_00030 木暮正夫『シャクシャインの戦い』童心社, 1987) ⇔ (46)' (前略)モナシリにたのんで、テウレスコルをチセに呼んできた。

(47) 顔見知りの従業員の男の子に頼んで、席を作ってもらう。 (OB2X_00345 田中康夫(著)『なんなく、クリスタル』河出書房新社, 1981) ⇔ (47)' 顔見知りの従業員の男の子に頼んで、作る。

4.3.2 その他、交替不可能な場合——二格で示す個別の動作主が現れる場合

次の例では、波線で示しているように、組織に属する個別の動作主が現れている。このように「二格」で示す個別の動作主が現れる場合は、他動詞文と交替できず、テモラウ文か使役文が必要となる。

(48) 去年の暮れ、ぼくは池袋駅前の靴屋のおじさんに、古くなった靴を修理してもらつてました。(PB50_00086 山崎一夫(著)『たぬきランド』実業之日本社, 2005) × (48)' (前略)ぼくは池袋駅前の靴屋のおじさんに、古くなった靴を修理した。

(49) 定期的に歯科医院に赴き、衛生士に機械的にクリーニングしたりなどしてきれいにしてもらう。(PB54_00034 赤城稔(著)『高濃度クマザサエキス』開発の奇跡』ソフトバンクパブリッシング, 2005) × (49)' (前略) 歯科医院に赴き、衛生士に機械的にクリーニングしたりなどしてきれいにする。

(50) 田さんは主治医にときどき定期検診をしてもらう。(LBt9_00126 司馬遼太郎(著)『沖縄・先島への道』朝日新聞社, 2005) × (50)' 田さんは主治医にときどき定期検診をする。

4.3.3 その他、他動詞文と交替して曖昧な場合

他動詞文と交替して曖昧なタイプは、代行行為を担うサービス業への働きかけが想定される。たとえば、「処々で洗車してもらった」を「洗車した」に転換すると、「スル」と「サセル」といった動作主の曖昧性の度合いが高くなる。このタイプを<代替性組織依頼>と仮称する。<処置性・変化性組織依頼>の特定の場所でしか受けられない専門性の行為と異なって、「洗車する」という行為は、セルフ的な行為、機械的なサービス行為など、いずれも可能な場合がある。このタイプは<個別依頼>に近いと言える。

(51) 娘が黒姫の山荘で写真を撮ってもらった。あたまの上に煙のようなものがただよい、四〇才くらいの鼻の高い男の人が映っていた。(LBk3_00079 『現代民話考立』風書房, 1996) ⇌
(51)' 娘が黒姫の山荘で写真を撮った。

用例(51)の<個別依頼>は、動作主を省略しているため、「撮った」とも言い換えられる。ただ、ガ格主体が「撮った」と、写真撮影の代行的組織の人間やカメラの持った友人に「撮らせた」といった曖昧性が生じる。そして、撮影対象「娘を撮ったか」「その他の風景を撮ったか」といった曖昧性も生じてしまうことがある。

5. テモラウ文の構造的な再分類

テモラウ文と受身文の分類に関する先行研究は多々あるが、本論は、仁田(1991, 2009)・日本語文法記述研究会(2009)の分類を中心に参照する。仁田(1991:47-8)では、テモラウを「まとものテモラウ態³⁶(以下、直接テモラウ)」「第三者のテモラウ態³⁷(以下、間接テモラウ)」の二構造に分類している。〈直接テモラウ〉は構造的に直接受身に対応でき、〈間接テモラウ〉は構造的に間接受身に対応できる。

〈処置性・変化性組織依頼〉といった〈主格受け手性〉の三タイプは、ガ格主体が受身の状況に置かれ、主体の身体・身体局部・領域・所有物が受け手となっている特徴がある。このことから、本論では、〈処置性・変化性組織依頼〉のテモラウ文は〈持ち主のテモラウ〉の下位タイプとして設置できるし、構造的には直接受身・持ち主の受身にも対応できる。その一タイプである〈主格領域・所有物受け手〉は間接受身にも対応できると考えている。以下、テモラウ文も受身文と同様に、〈持ち主のテモラウ文〉が存在し、三構造に分類できることを論じる。

5.1 〈主格受け手〉のテモラウ文の場合

組織依頼の〈主格受け手〉のタイプは、用例(11)が挙げられる。このタイプは、構造的に直接テモラウと直接受身に対応しながら、持ち主のテモラウの下位タイプとして設置できると考える。以下、個別依頼の用例(52)(53)と比較してみる。

〈個別依頼〉

(52) 直接テモラウ：私は清水監督に可愛がってもらった³⁸

との文：清水監督は私を可愛がった。

直接受身：私は清水監督に可愛がられた。

(53) 直接のテモラウ：僕は先生に叱ってもらった。

³⁶まとものテモラウ態：との文に存在する非ガ格主体の共演成分をガ格主体に転換し、それに従って、ガ格主体の共演成分をガ格主体から外したテモラウ態であり、必須的に要求される構成要素の数に増減が存在しない。

³⁷第三者のテモラウ態：との文の共演成分として存在していない第三者をガ格主体に据えたテモラウ態である。

³⁸この清水監督には、私は、たいへんかわいがってもらった。{(PB17_00075 貴田庄(著)『小津安二郎と映画術』平凡社, 2001)による。}

もとの文：先生は僕を叱った。

直接受身：僕は先生に叱られた。

用例(52) (53)は、文構造が変わっても、もとの文・直接受身・直接テモラウの間は、動詞の要求される格成分の数が文構造の変化によって増減していない。もとの文と直接構造を、次のように略して示すことができる。

もとの文：S2 ガ S1 ヲ Vル
直接テモラウ：S1 ガ S2 ヲ V-テモラウ
直接受身：S1 ガ S2 に V レル・ラレル

この略式構造に従って、次の用例(11)の組織依頼の<主格受け手>のテモラウ文も同様に転換できる。もとの文と直接受身・直接テモラウは次のように対応できる。

<組織依頼>

(再掲 11) もとの文：大学病院の内科が私を診察した。
直接テモラウ：(前略) (私は)大学病院の内科で診察してもらった。³⁹
直接受身：(私は)大学病院の内科で診察された。

ただし、用例(11)と(52) (53)とは異なるテモラウ文である。用例(11)の組織依頼の<主格受け手>の専門行為は、動作主が直接ガ格主体の身体に当たって、処置や変化を及ぼす専門行為を行うため、他動詞文と交替できるだけではなく、直接テモラウに対応しながら持ち主のテモラウの性質もある。それに対し、直接テモラウのタイプである用例(53)「僕は先生に叱ってもらった」、用例(52)「私は清水監督に可愛がってもらった」は、用例(11)と同様に他動詞文で「僕は先生を叱った」「私は清水監督に可愛がった」と表現できず、直接テモラウの性質しか持たない。

5. 2<主格局部受け手>のテモラウ文の場合

仁田(2009:160-2)では、持ち主の受身を三タイプ設置している。そのうちの「接触場所の持ち主による<持ち主の受身>」は、持ち主の受身の典型とされ、「接触動作を行う動作主・接触される相手・接触場所」の三つの要素が必要であり、接触相手と接触場所とは分離不可能な所有関係にある。そして、「接触相手」を残ると、直接受身が形成されるのに対し、

³⁹前掲したBCCWJの用例であるため、以下の用例の後のBCCWJの実例の情報「(用例番号・著者・著書名・出版社・年代)」を略す。

「接触場所」が残ると、持ち主の受身が要求されると指摘している。「接触場所の持ち主による<持ち主の受身>」の構造について、仁田(2009)は次のような形式を提示している。

$$\text{全体ガXに接触場所 } \{\text{ヲ/ニ}\} \text{ Vサレル} = \text{ 全体ガXニVサレル}$$

筆者は、<主格局部受け手>は「接触場所の持ち主による<持ち主の受身>」に類似するテモラウ文であると考え、上述したように、次のように図式化してみる。

(再掲 18) テモラウ文：私は美容院で髪を切ってもらった。

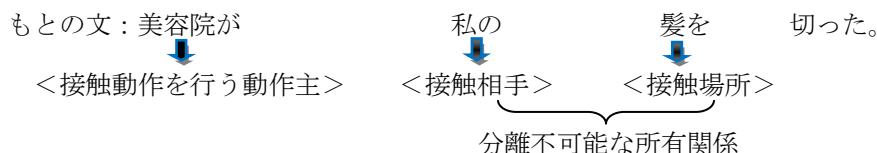


図1<主格局部受け手>とともに文の文成分の関係図

さらに、<主格局部受け手>のテモラウ文を、上述の分析法に基づいて実例分析を行う。この際、接觸相手と接觸場所の実現に分けて、直接テモラウと持ち主のテモラウとの対応を見る。

(再掲 16) 病院で手術して摘出された臓器などは、どのように処分されるのでしょうか？この間手術してもらったので、ちょっと気になっています。

<接觸相手>の実現：病院が私に手術した。

⇒私は病院で手術された。直接受身

⇒私は病院で手術してもらった。直接テモラウ

<接觸場所>の実現：病院が私の臓器を手術した。

⇒私は病院で臓器を手術された。持ち主の受身

⇒私は病院で臓器を手術してもらった。持ち主のテモラウ

(再掲 3) びよういんでパーマをかけてもらう。

<接觸相手>の実現：美容院が私にパーマをかけた。

⇒私は美容院でパーマをかけられた。直接(持ち主の)受身

⇒私は美容院でパーマをかけてもらった。直接(持ち主の)テモラウ

<接觸場所>の実現：美容院が前髪にパーマをかけた。

⇒私は前髪に美容院でパーマをかけられた。持ち主の受身

⇒私は美容院でパーマをかけてもらった。持ち主のテモラウ

(再掲 18) (前略) 美容院に行って、髪を切ってもらった。

<接觸場所>の実現：美容院が私の髪を切った。

⇒私は美容院で髪を切られた。 持ち主の受身

⇒私は美容院で髪を切ってもらった。 直接(持ち主の)テモラウ

(再掲 19) サロンに行って、スカルプしてもらう。

<接触相手>の実現：サロンが私にスカルプした

⇒私はサロンでスカルプされた。 直接受身

<接触場所>の実現：サロンが私の爪をスカルプした

⇒私は爪をサロンでスカルプされた。 持ち主の受身

⇒私はサロンでスカルプしてもらった。持ち主のテモラウ態

(再掲 20) 今日のリハビリホットバッグで両太ももと腰を暖めてもらう。 気持が良い。

<接触相手>の実現：？？リハビリホットバッグで私を暖める。

⇒？？私はリハビリホットバッグで暖められた。

<接触場所>の実現：リハビリホットバッグで両太ももと腰を暖める。

⇒私はリハビリホットバッグで両太ももと腰を暖められた。持ち主の受身

⇒私はリハビリホットバッグで両太ももと腰を暖めてもらった。持ち主のテモラウ態

(再掲 21) 耳が聞こないとことで耳鼻医院へ。 鼓膜が汚れていたので洗浄してもらう。

<接触相手>の実現：？病院が私を洗浄した。

⇒??私は病院で洗浄された。

<接触場所>の実現：病院が私の鼓膜を洗浄した。

⇒私は鼓膜を病院で洗浄された。 持ち主の受身

⇒私は病院で鼓膜を洗浄してもらった。 直接(持ち主の)テモラウ

以上のように、<主格局部受け手>の実例を「接触場所の持ち主による<持ち主の受身>」に転換した結果、直接受身文は直接テモラウ文に、持ち主の受身文は持ち主のテモラウ文にそれぞれ対応すると分かる。一部の例は直接テモラウ文と持ち主のテモラウ文の両方にも対応するが、「髪を切った・太ももと腰を暖める・鼓膜を洗浄した」は、接触場所の「髪・太もも・鼓膜」を省略してしまうと、「私を暖めた」「私を〔切った・洗浄した〕」と、文の欠落感が現れる。「手術する・パーマをかける・スカルプする」も、決まった身体局部が受け手となっているので、<主格局部受け手>のテモラウ文は、持ち主の受身に類似し、<持ち主のテモラウ>の典型と見なすことができる。

そうすると、仁田(1991)の「まとものテモラウ態(直接テモラウ)」と「第三者のテモラウ態(間接テモラウ)」の他、さらに<持ち主のテモラウ>が存在することになる。また、文成

分の増減がなく、格を転換してもとの文を表現できるため、これらは直接テモラウ文にも対応するわけである。

5.3 <主格領域・所有物受け手>のテモラウ文の場合

<主格領域・所有物受け手>は、ガ格主体の領域・所有物が受け手となり、動作主の行為によって処理・変化される対象となっている。間接テモラウに対応すると予想する。そして、対応する受身文にも転換した。

(54) あなたが布を見る。

⇒私があなたに布を見てもらう。（仁田 1991:48 第三者のテモラウ態）

(再掲 12) 僕は猫を動物センターに連れて行き、処分してもらった。



受身文：僕は猫を動物センターに処分された。

図 2 <主格領域・所有物受け手>とともに文成分の関係図

このタイプのテモラウ文は、用例(12)の関係図 2 が示すように、もとの文の共演成分として存在しない第三者の「僕」を、テモラウ文と受身文のガ格から外してもとの文に転換すると、処分の対象(=「接触相手」)は猫であり、処分される対象(=「接触相手」)の猫に何らかの変化が生じる。「接触相手」の所有者である「僕」は変化されず、間接的な影響を受ける立場にある。

つまり、ガ格主体の領域や所有物に直接関係する行為で、ガ格領域や所有物が変化されるのであって、<主格領域・所有物受け手>は、<主格受け手><主格局部受け手>のような分離不能なものとは違って、<受け手>である「猫」は、ガ格である「僕」とは分離可能な所有関係にあるため、間接テモラウ文に対応すると考えられる。

しかし、同じく間接テモラウ文（→「第三者のテモラウ態」）である「私があなたに布を見てもらう」とは、構造は同じであるが、「私と布」は所有関係ではないが、<主格領域・所有物受け手>は<受け手>である「猫」と所有者のガ格主体とは所有関係であるため、持ち主のテモラウの性質も持っている。その他の<主格領域・所有物受け手>のタイプも、ガ格の領域・所有物の<受け手>はいずれもガ格とは分離可能な所有関係にあるため、間接テモラウに対応しながら、持ち主のテモラウの性質も持っていると考えられるのである。

そして考察によって、ガ格に直接関わりのない<主格領域・所有物受け手>のテモラウ文は、間接テモラウ文の一タイプでもあり、<主格受け手>と<主格局部受け手>の二タイプに比べて、仁田が指摘するように、<主格領域・所有物受け手>である間接テモラウ文(→「第三者のテモラウ態」)の用例数が多いことが分かった。

5.4 本節のまとめ

以上、<処置性・変化性組織依頼>の三タイプは、いずれも限定した組織的な場所でしか受けられない専門行為にガ格側は、処理・変化される<受け手>となっている。このようなく組織依頼>の特徴は、産出性がない、専門性が高い、変化性のある<受動的事態>であると概することができる。代替不可能な行為であり、他動詞文に言い換えると、ガ格主体は指図する者でありながら行為の受け手でもあり、したがって、先行研究で言及されてきた典型的なテモラウ文と大きく異なるのが分かる。

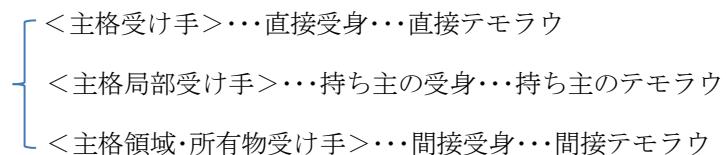
[1] <主格受け手性>の三つと受身文との対応関係において

処置性・変化性の意味を示す<主格受け手性>の三タイプのテモラウ文は、格の転換と文成分の増減無しで、他動詞文に言い換えられるだけではなく、恩恵は別として、構造的には受身文とも対応する。

[2] テモラウの再分類において

<主格受け手性>のテモラウ文の主体(=受け手であるガ格の身体・ガ格の身体局部・ガ格の{領域・所有物})が受ける<受動的事態>によって、三つに分類した。三つのうち、<主格局部受け手>のタイプは、仁田の「持ち主の受身」の分類の観点に基づいて分析を行った結果、テモラウ文にも、受身文と同じく、<持ち主のテモラウ>が存在すると分かった。したがって、テモラウ文を今までの二構造から次のような三構造に分類することを試みた。<主格受け手性>の三タイプとテモラウ文・受身文の三構造との対応関係は、以下のようにまとめられる。

<主格受け手性>・テモラウ文・受身文の対応関係



6.まとめ

本論は、以上のように、テモラウ文から＜組織依頼＞のテモラウ文を取り出して、組織依頼の様々なタイプにおけるテモラウ文と他動詞文との交替の可能性を論ずる一方、テモラウの構造的な再分類を行った。そして、以下のような結論を導き出した。

[1]＜組織依頼＞と＜個別依頼＞のテモラウ文の異なる特徴について

＜組織依頼＞は、＜個別依頼＞と動作主の特徴が異なるだけではなく、両者は働きかけの仕方や文の特徴においてもかなり異なっていると、考察によって明らかにした。

個別依頼の「洋平に部屋に入つてもらった」と組織依頼の「病院で手術してもらった」とは、両タイプのテモラウ文が、動作主をニ格かデ格かで示す文成分の違いによって、全く異なる構文と関連している。前者の「洋平に」のテモラウ文は指図的で、主に動作主の動きを述べることがメインであり、使役文に関連する。それに対し、後者の「病院で」のテモラウ文は、主にガ格自身が限定の場所でしか受けられない行為を客観的に述べている。したがって、働きかけ性のあるテモラウ文であるが、実際は使役と受身の両方の性質がありながら、働きかけ性が弱く、他動詞文とも関連する。

つまり、＜組織依頼＞は、「何処で受ける専門行為」といった事態発生の場所が強調されるのに対し、＜個別依頼＞は、「誰に」という事態を引き起こす具体的な個別の動作主が強調するのがポイントである。

また、＜組織依頼＞のテモラウ文は、特定の専門組織に行って行為を受けるので、対話場面において直接動作主に働きかけるというより、働きかけ性が弱く地の文が多いと指摘できる。それに対し、＜個別依頼＞は、働きかけ性の強い典型的なテモラウ文が多く、他動詞文と交替できない場合が多い。

そして、専門性かつサービス的な行為を果たす役割の人間や特有な機能を果たす組織に働きかける＜組織依頼＞の場合は、専門行為を担う動作主が限定されたため、その組織に依頼しない限り、希望の事態が実現されない特徴がある。文中に現れる場所格は、場所である一方、大きく見て「V-テモラウ」の内容である「V」の動作主でもあり、専門的な行為を担う役割も果たしている、という二機能を有する組織的なものである。したがって、場所の背後に専門職に携わる個別の動作主がいて、働きかけを行っても、文中に現れないのが特徴的である。したがって、他動詞文と交替可能な組織依頼のテモラウ文は、考察によって、以下の三点の特徴を指摘できる。

- 1) 動作主の潜在化
- 2) 専門組織という場所格への働きかけ
- 3) 主格の身体、身体局部、領域・所有物が組織の専門行為の受け手となっている。

[2] 他動詞文との交替について

テモラウ文には、格の転換と文成分の増減無しで他動詞文と交替できるタイプが存在している。それは、主に<処置性・変化性組織依頼>の<主格受け手性>の三タイプに集中していると分かった。その原因を探って、<主格受け手性>の三タイプである<処置性・変化性組織依頼>のテモラウ文は、上記1)と2)の特徴以外に、限定した場所でしか受けられない専門的な行為に、受け手であるガ格側(身体・ガ格の身体局部・ガ格の{領域・所有物})が、S2組織の行為によって変化する特徴がある。S2 処置性・変化性組織依頼の場合、S2組織が限定されているため、他動詞文に交替でき、動作主に曖昧性が低くなる。そして、本来のテモラウ文で表されている基本的な授受関係の意味も示すことができると分かった。したがって、S2 処置性・変化性組織依頼のV-テモラウのVという前項他動詞の特徴は、産出性がない、専門性が高い、変化性のある受動的事態の三つに簡単に概すことができる。よって、通常のテモラウ文の「入る・待つ・走る」と異なり、「診察する・手術する・髪を切る・鼓膜を洗浄する・回線を取り付ける・チョコレートの異常を調べる」といった処置性・変化性に携わる専門行為である。このような特徴のテモラウ文は、他動詞文と交替しやすくなると言える。したがって、<個別依頼>とは、場所格の使用の違いだけではなく、動詞の使用の違いも存在する。

交替できる文構造には、「S1 は S2組織(へ)行って(で)、(Xを)V-テモラウ専門行為に関わる事態」と「S2組織に頼んで、(Xを)V-テモラウ専門行為に関わる事態」といった形式上の制約が存在する。それに対し、<取得性組織依頼>やガ格自身でも行える行為である<代替性組織依頼><個別依頼>は、動作主を具体的に示す必要性がある。

この他、動作主を「頼んで」といった継起的テ節で示す場合も、他動詞文と交替できる度合いも高くなる。他動詞文と交替可否の分析結果を以下にまとめた。



また、テモラウ文と他動詞文が交替しやすい条件として、次のようにまとめた。

I : テモラウ文のガ格主体の身体・身体局部・領域・持ち物が、病院などの代替不可能な専門組織という場所格への働きかけにおいて、潜在化された動作主の専門行為によって処置・変化を加えられる〈受け手〉となった場合のテモラウ文は、他動詞文と交替できる。

II : 動作主を「頼んで」といった継起的テ節で示す場合のテモラウ文は、他動詞文と交替しやすくなる。

そして、交替不可能な場合は、次のようにまとめた。

I : 「二格」で示す個別の動作主が現れるテモラウ文は、他動詞文と交替できない。

II : 本来所有せず新たに獲得する{外部→主格へのモノの移動}性を伴う産出性を持つ行為は他動詞文と交替できない。

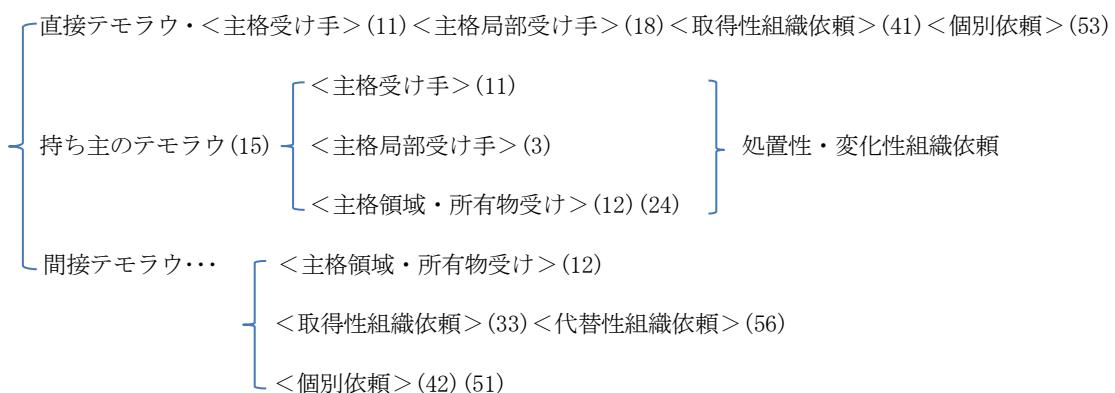
[3]テモラウ文の構造的な分類について

テモラウは、考察によって三構造に分類できると明らかになった。そして、組織依頼の〈主格受け手性〉の三タイプは、〈受け手〉の〈受動的事態〉によって、〈主格受け手〉〈主格局部受け手〉〈主格領域・所有物受け手〉の三つに分類した。三つは、分析によって、いずれも持ち主の性質があるため、〈持ち主のテモラウ〉の下位タイプとして設置できる。

このうち、〈主格局部受け手〉は、変化する〈受け手〉と持ち主とは分離不可の関係であるため、持ち主のテモラウの典型と見なす。したがって、テモラウ文も受身文と同様に、〈持ち主のテモラウ文〉が存在し、今までの二構造から三構造に分類することができる。〈主格受け手性〉の三タイプは、〈持ち主のテモラウ〉の下位タイプとして設置できる一方、テモラウの三構造にも対応できる。実例及び構造的な対応関係は、以下の通りである。

〈組織依頼〉

- (11) ご主人の勤務している大学病院の内科で診察してもらった。(前掲, BCCWJ)
- (3) しもきたの美容院に行って、髪を切ってもらった。(前掲, BCCWJ)
- (12) 僕は猫を動物センターに連れて行き、処分してもらった。(前掲, BCCWJ)
- (24) 停めてあった電気を、電力会社に連絡して通してもらった。(前掲, BCCWJ)



<取得性組織依頼>

(33) 派出所へ行って、正式な証明書を発行してもらう。(前掲, BCCWJ)

(41) 資料館で読み方を教えてもらう。(前掲, BCCWJ)

<代替性組織依頼>

(56) 洗車してもらった。(作例)

<個別依頼>

(53) 僕は先生に叱ってもらった。

(42) 由布子さんにソフトクリームを買ってきてもらった。(前掲, BCCWJ)

(51) 娘が黒姫の山荘で写真を撮ってもらった。(前掲, BCCWJ)

したがって、テモラウ文も受身文と同様に、三構造に分類することができると明らかになった。

[4] テモラウ文・使役文・受身文・他動詞文の共通性について

<組織依頼>のテモラウ文は、以上で示したように、他動詞文や受身文に言い換えられるだけではなく、動作主が専門職であるため、そして、働きかけ手が対価を支払って、行為を行わせているため、前述したように使役文（洋服屋さんに洋服を作ってもらった→洋服屋さんに洋服を作らせた）にも言い換えることができる。そして、使役文から他動詞文（→洋服屋さんで洋服を作った）にも言い換えられるのである。したがって、<組織依頼>を取り出すことによって、テモラウ文・他動詞文・受身文・使役文の四者の共通性が見られたのである。

<組織依頼>のテモラウ文を考察することによって、構造の違いからテモラウの働きかけ性の違いが見えてきたのである。このタイプのテモラウ文は、動作主、働きかけ性において<個別依頼>との異なる特徴があるだけではなく、さらに、他の構文との関連性とい

った様々な文法現象も発見できたのである。したがって、<組織依頼>のテモラウ文を取り出すことによって、テモラウ文の様々な意味・用法が明らかになっただけではなく、他動詞文の新たな意味・機能も明らかになったと言える。よって、<組織依頼>は、テモラウ文の働きかけの一類として分類できると考えられる。今後は実例に基づいて、さらにテモラウ文と他動詞文との交替の可能性を探っていきたい。

また、中国語にも同じ言語現象が見られる。中国語では、使役文は「让(请)请～给我～」といった形式で表されることが多いが、<組織依頼>の場合は、むしろ次のように日本語の使役文・テモラウ文に相当する「让(请)～给我～」のような形式を省略して表現するほうがより一般的である。

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| (57) 在(去)医院补牙。 | 日訳：歯医者に行って、虫歯の治療をする。 |
| (58) 在(去)美容院做皮肤护理。 | 日訳：エステに行って、肌の手入れをする。 |
| (59) 在琉璃厂裱画。 | 日訳：瑠璃場で画を表装する。 |
| (60) 去干洗店洗衣服。 | 日訳：クリーニング屋に行って、洋服をクリーニングする。 |
| (61) 去学校开证明。 | 日訳：証明書を発行してもらう。 |

このように、今後、組織依頼において中国語との対照研究も進めていく必要があると思われる。両言語のこのタイプの用法の違いを明らかにし、今後の中日言語教育にも役に立つと考えられる。

第八章 自得型テモラウ文の意味・用法

1. はじめに

V-テモラウで表される事態の取得は、いずれもガ格求心的であるが、動作主ニ格の動作の指向性からして、必ずしもテモラウ主体であるガ格(S1)を対象にして生じたわけではない。これまで、テモラウの意味用法について、用例(1)は使役的で働きかけ性のある<依頼型>、用例(2)は受身的で働きかけ性のない<受影型>であると、先行研究(柿本 1993; 益岡 2001; 李 2010; 山田 2004 など)では明確に位置付けている。使役的な依頼も受身的な受影も、動作の指向性はいずれもガ格主体を直接に対象としている。そしてV-テモラウで表される事態は、いずれも「連絡に入る・助ける」といった場合のように、ニ格の動作主(S2)の実際の行為(S2V)と一致しているのである。

(1) あたしたちは、土屋さんに頼んで、石田さんの携帯電話にも連絡を入れてもらった⁴⁰。

(PB39_00286 秋野ひとみ(著)『夢のつづきでつかまえて』講談社, 2003)

(2) 隣村からの帰り道、カトリはいじめっ子に取り囮まれた。困ったなと思ったが、たまたま通りかかった馬車に助けてもらった。客は愛想のいいお婆さんだった。(PB49_00465 鏡京介(著)『牧場の少女カトリ』竹書房, 2004)

それに対して、用例(3)の動作主の動作の指向性は、ガ格主体を対象と限定していないのが分かる。

(3) 今日はお昼を巡礼名物親父パブロの所で食べる予定なのに、早く着いてしまう。パブロは陽気なおじいさん。巡礼を歓迎するために、中世の巡礼の姿をして迎えてくれる。巡礼は彼のレストランで羊を食べて、元気も分けてもらう。私たちもここでお昼をと考えたのだ。(LBs2_00049 中谷光月子(著)『サンティアゴ巡礼へ行こう!』彩流社, 2004)

また、管見の限り、用例(3)のようなテモラウの用法は、これまであまり研究対象として取り上げられていないようである。本章では、動作主の実際的な動作を表現している依頼型・受影型のV-テモラウ事態を<S2V型>と仮称し、用例(3)のような間接的に達成されるV-テモラウ事態を<非S2V型>と仮称する。BCCWJの実例を基に分析し、<自得型>の特徴を明確にすることは本章の目的である。以下は、本章の構成になる。

第2節で通常のテモラウ文との比較を行う。第3節で<自得型>の定義付けと実例分析を行う。第4節の結論では、<自得型>テモラウ文の意味機能と特徴をまとめることとする。

⁴⁰ 下線について、直線は実際に生じている事態、破線は自得する事態と、それぞれに引いている。

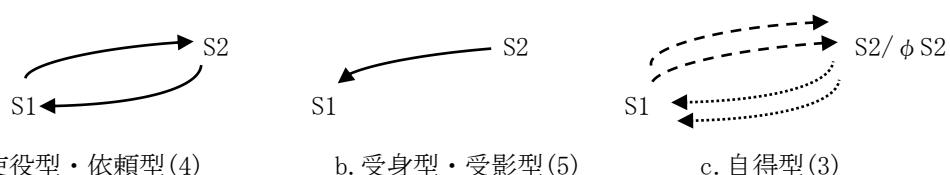
2. 通常のテモラウ文との比較

用例(4)のテモラウ文について、柿元(1993:53)では、事態の生起に主語が意思的・積極的に関与しているという点から使役的な用法であると指摘している。本論では、働きかけ性からして<依頼型>と名付けている。それに対して用例(5)は、非意志的で受身的な用法であると柿元(1993:53)が指摘している。本論でいう<受影型>に当たる。

(4) 彼は息子に学校をやめてもらった。(柿元 1993 : 53)

(5) 私は生れた時から乳母に育ててもらった。(柿元 1993 : 54)

<依頼型>である典型的なタイプでも、<受影型>である周辺的なタイプでも、V-テモラウにはいずれも二格の動作主の行為が現れている。用例(4)の場合、V-テモラウの前項動詞「やめる」行為を、実際二格の動作主がガ格の指示的な働きかけに基づいて行われている。用例(5)の場合、V-テモラウの前項動詞「育てる」に相応する行為を、実際二格の動作主がガ格非依頼の前提の下で行われている。したがって、<依頼型>の二格と<受影型>のガ格は、それぞれ<指示の受け手>と<行為の受け手>の立場に存在し、<依頼型>のガ格の指示と<受影型>の二格の行為はいずれも直接に対象に向けて発せられているのが分かる。この点において依頼型も受影型も共通していると言える。それに対し、BCCWJ から抽出した用例(3)の二格は、必ずしもガ格が希望しているV-テモラウ行為(元気を分けてもらう)に相応する行為を行っているわけではない。次の図 a. b. c を通して依頼型・受影型・自得型テモラウ文の意味用法を比較してみる。



(4) 学校をやめてもらった。 (5) 生れた時から乳母に育ててもらった。 (3) 元気も分けてもらう。

図 テモラウ文の働きかけ性から生じた意味・用法の違い

図 a は依頼型の図であり、先行研究が指摘した主語が意志的・積極的に関与している用法になる。このタイプはテモラウ文の典型的な用法であり、テモラウ主体であるガ格(S1)が働きかけによって動作主のニ格(S2)から恩恵や行為を取得する。図 b は受影型の図であり、主語の意志が現れず、ニ格主体(S2)の行為がガ格主体(S1)に作用を及ぼす受身的な用法である。典型から外れた周辺的な用法を示すタイプになる。それに対し、図 c は自得型(用例 3)の図である。用例(3)から分かるように、ガ格主体(S1)が動作主であるニ格主体(S2)に対し、料理を注文するような間接的な働きかけを行ったかもしれないが、テモラウで表

される事態に対する直接的な働きかけをしていないのが分かる。したがって、図cの上のS1→S2の二つの点線矢印は、様々な間接的働きかけを示す。動作主(S2)によって生じた事態は、受影型のように直接ガ格主体を限定にして影響を及ぼしていないのが分かる。V-テモラウで表される事態の成立は、動作主が引き起こした様々な行為をガ格主体自分なりに解釈を行うことによって成立されるのが分かる。したがって、下のS2→S1の二つの点線矢印は、動作主の様々な振る舞いが間接的にガ格主体に影響を及ぼしていることを示すものになる。図a・図bのV-テモラウはいずれも動作主の実際的な行為を表現し、テモラウ主体とニ格主体はそれぞれ指示者・受け手・動作主の役割を果たすような存在であると分かる。それに対し、図cの自得型テモラウ文は、実際に生じている事態とそれが存在し、テモラウで表される事態の達成はガ格主体にとって極めて間接的であり、V-テモラウで表される事態は、動作主の実際行為とは一致しないのが分かる。先行研究の用例(4)(5)とはいずれも異なるタイプのテモラウ文であると言える。また、本章で扱うテモラウの用法は<状況設定型>とも異なる。状況設定型はいずれもガ格に回帰しない<非回帰型>の動詞であるのに対し、本章で扱う自得型のV-テモラウのVに当たる動詞は「元気を分ける」のようなガ格に回帰する<回帰型>の動詞がほとんどである。それによって構成されたV-テモラウ事態は働きかけ不可能な事態、またはガ格の思う通りに「仕向け」という方法でも実現できない事態が中心である。

以上述べたように、<自得型>テモラウ文を明確に位置付ける先行研究は少ないため、以下は自得型の定義、自得の機能を有する特徴的な実例を具体的に検討し、テモラウ文の新たな意味機能を発掘するのが本章の目的である。

3. <自得型>の定義と下位類

<自得型>テモラウ文(以下、<自得型>)とは、通常のV-テモラウが示すようなニ格の動作主の実際的な行為や心的状況を指示したり表現したりするものではなく、ガ格主体自身の体験やニ格の動作主によって引き起こした事態を、テモラウ主体であるガ格主体がある捉え方をして初めて成立するテモラウ文である。V-テモラウで表される事態は実際、ガ格主体に直接的に影響を及ぼすものではなく、相手の行為やガ格主体自身の体験をガ格主体が再認識して、それをV-テモラウを用いて表現するものである。V-テモラウで表される事態の成立は、他者への働きかけによって達せられた他者の行為ではなく、ガ格主体自ら認識したことによって成立されている。ガ格主体によって得られたことを表現するこの

のようなテモラウ文を本論では＜自得型＞と位置付け、実際に生じている事態とV-テモラウで表される事態とは一致しないのが自得型の基本的な特徴である。その中には、ガ格主体意図的とガ格主体非意図的の二種類が存在し、事態の成立的な特徴によって＜依存型＞＜契機型＞＜自得と受影に揺れ動くタイプ＞の3つに分類する。

3.1 依存型

＜依存型＞とは、V-テモラウで表されている事態はガ格主体が予め願望している事態であり、働きかけが不可能な事態であるため、その実現にあたってガ格主体は特定な環境に依存しない限り、事態が成立しないものである。＜依存型＞は事態実現の直前の主体の捉え方であり、ガ格主体意図的なタイプであると言える。

3.1.1 実在する二格主体

＜元気を分けてもらった＞

(再掲3)今日はお昼を巡礼名物親父パブロの所で食べる予定なのに、早く着いてしまう。

パブロは陽気なおじいさん。巡礼を歓迎するために、中世の巡礼の姿をして迎えてくれる。巡礼は彼のレストランで羊を食べて、元気も分けてもらう。私たちもここでお昼をと考えたのだ。(前掲『サンティアゴ巡礼へ行こう!』)

用例(3)は、レストラン側として主体の注文した羊料理の提供だけとしか考えられないが、ガ格主体は、パブロの出された羊料理を食べ、彼の明るさとも思わせる振る舞いを実際に体験することによって元気が得られると捉えている。テモラウ文の基本的な構成要素、働きかけ手と同時に受け手でもあるガ格主体に相当する文成分「巡礼(巡礼に参加する人々)」と、行為を引き出す対象である二格主体「パブロ」が存在している。働きかける意図も対象もはっきりしていて、働きかけ性が存在するテモラウ文であるが、ガ格主体は意図を持って対象に「元気を分けて!」と直接働きかけることは不可能であり、元気を分けるように仕向けることも不可能である。そしてテ節「食べて」は、働きかけ機能がなく、主節の「元気を分けてもらう」も、V動作に当たる動作主の行為も實際には現れてない。したがって「分けさせる」と使役文で表現できない。それを実現するには、ガ格主体は動作主の存在場所に行って元気を分けてもらう準備段階とも見なす行為、食事を取る行為によって、自分を対象と限定しない二格主体の非意図的な行為を勝手に感じたり想像したり、自分なりに解釈してはじめてテモラウが表現している「元気を分けてもらう」

事態が達成されるのである。

3.1.2 実在しないニ格主体

<血の穢れを清めてもらった>

(6) この地には世界の中心であることを示すオムパロス（へその意味）という石が置かれて
あったが、オレステスはその上に座った。それから予言の神アポロンによって血の穢れ
を清めてもらった。しかし彼の重い罪までが消滅したわけではなかった。(PB11_00037 楠
見千鶴子(著)『ギリシア神話物語』講談社, 2001)

用例(6)は典型的な自得型である。オレステスはへその意味を持つオムパロスという石に座る行為さえすれば、予言の神アポロンによって血の穢れを清められるのであると、ガ格主体は信じている。「元気を分けてもらう」と同じく、文中にはガ格主体である「オレステス」も、ニ格に相当する文成分「予言の神アポロン」も、そして「血の穢れを清める」とガ格主体が願望する事態も示されている。しかし、ガ格主体には予め事態実現の意図や働きかけの対象が存在していても、ニ格は非実在的な動作主であるため、事態もオムパロスの石に座る状況を自ら設定し、予言の神によって血の穢れを清められると自得するのである。「血の穢れを清めてもらった」の場合、神という働きかける対象のニ格は文成分として存在しているが、実在しない対象であるため、事態の成立は自得するしかない。したがって、極めて間接的であり、自得型の典型であると言える。

<自分の身と引きかえに教えてもらった>

(7) 雪山童子の話は 雪山 (Himalaya) に修行した釈迦が、羅刹より「諸行無常 是生滅法」という偈の半分を聞き、残りの半分「生滅滅已 寂滅為樂」という偈を、自分の身と引きかえに教えてもらった。そして約束どおり羅刹の前に身を投じた時、羅刹は帝釈天となって釈迦の体を奉持した。(LBg9_00171 谷川良子(著)『枕草子女房たちの世界』日本エディタースクール出版部)

用例(7)「自分の身と引きかえに教えてもらった」は、伝説では、釈迦が羅刹に残りの半分の偈「生滅滅已 寂滅為樂」を聞くために自分の体を羅刹に与えたという。つまり、身を捨てることにより、諸行無常の理——人と物への執着から解脱すれば、心の安楽が得られるのであると悟った。ガ格主体が身を投げることによって教えられたわけであり、前件の「自分の身と引きかえに」は「教えてもらった」事態の成立の要因となっている。釈迦が自分を犠牲する体験を通して学び取ったのであり、テモラウが示している事態も悟り

のようなものである。<依存型>と同じく、複文的に表現できるが、異なるのは体験して分かったのであるため、同じく複合的事態であるが、このタイプは働きかける意図も対象も具体的でない「オムパロスという石の上に座った。予言の神アポロンによって血の穢れを清めもらった」と類似している。また、動作主の動作も実際受動的にガ格主体に作用を及ぼしていない。したがって動作主が存在しないタイプであり、V-テモラウは事態への解釈に過ぎないと分かる。

<世間に育ててもらひなさい>

(8) 「親はずっと生きていてやれない。だから十八歳になつたら親元を離れて大学へ行き世間に育ててもらひなさい」ということだった。(PM43_00039 大見忠弘(著)『財界』財界研究所, 2004)

用例(8)は、大学という環境に入り込み、様々な苦労を体験することを「世間に育ててもらう」と、ガ格主体は解釈している。用例(1)の<依頼型>と類似する文構造であるが、主節のV2「世間に育ててもらう」は、用例(1)「連絡を入れてもらった」のように直接に働きかけられないし、動作主による達成も不可能である。つまり、事態達成への準備段階から事態達成までは、すべてガ格主体の意図的な行為を通じてV-テモラウ事態が達成されるのである。したがって、V1(→食べて、座る)も<依頼型>のテ節の「頼んで」と違って、相手の行為を引き起こす働きかけ性がなく、手段としての機能を果たしているだけである。つまり、ガ格主体の単独的な行為を通じて動作主の行為を勝手に感じたり想像したり、自分なりに解釈してV-テモラウで表される事態を成立させるのである。また、ガ格主体が自ら事態を達成する準備を行う状況を作ることが特徴的で、文中には「彼のレストラン」「オムパロスという石」「大学」といった依存場所が現れ、そこに行けば事態を実現しやすく、典型的な状況依存型の自得のタイプと言える。事態に間接的に影響される点からしてガ格主体は受け手の立場にあり、受身文と交替できるという特徴を持つ。

3.1.3 本節のまとめ

[1]<実在するニ格主体>と<実在しないニ格主体>の両方は、同じく<依存型>であるが、働きかけ性と受身性において微妙に違っている。まず、働きかけ性について言えば、予め事態の完成への計画的な考えは持ち、事態を達成させる意図性が存在するが、働きかけ性に関して言えば異なっている。「元気を分けてもらう」場合、羊を出すように注文す

ることは間接的に対象に働きかけることが可能である。それに対し、「血の穢れを清めてもらった」場合、神という働きかける対象の二格は文成分として存在するが、予言の神アポロンは実在しない対象であるため、座る行為によって神アポロンに働きかけようとしている。働きかけは同じく間接的であるが、実際、二格は働きかけようとしても働きかけられない存在である。また、V-テモラウが表現している事態から言えば、両者とも受身的であるが、異なっている。「元気を分けてもらう」の場合、パブロのレストランで料理を注文してパブロの出された料理を食べ、彼の明るさとも思わせる素振りを実際体験することはガ格にとって可能であり、そこから伝わってくる元気さはガ格が実際受けられるのである。それに対し、「血の穢れを清めてもらった」の場合、予め事態実現の意図はガ格には存在されていても、実際神から何も受けられず、一連の行為を経て「予言の神アポロンによって血の穢れを清められる」と、ガ格自身にそう思いさせるだけであり、ガ格の捉え方に頼って実現されないものである。つまり、「元気を分けてもらう」は「血の穢れを清めてもらった」に比べ、受身的な行為は対象から受けられ、事態を達成していく可能性は実際存在している。複文の従属節に関して、注文といった間接的な働きかけが可能かどうかで異なっているが、後半の「元気を分けてもらう」と「血の穢れを清めてもらう」ことに関して、両タイプは、共に働きかけ性は存在せず、「食べる」「座る」「行って」「身を投げて」といった行為を通じて事態が達成されると、ガ格はそう確信するのである。両タイプは、最初の状況設定から最後の事態達成まで、いずれもガ格の意図的な行為によって実現されている。

[2] ガ格が願望しているV-テモラウ事態は直接相手に働きかけられない事態であるため、文中には、「V1+テ節」にガ格の実現に向けた意図的な状況作りのようなガ格の行為が行われている。それは「食べて」「座って」といったガ格自身に関わる行為であり、二格主体の行為まで及ぶような働きかけ機能を持たない動詞である。また、主節の「V2+テモラウ」が表現している事態は、典型的な<依頼型>のガ格対ニ格への指示的な行為ではなく、いずれもガ格の捉え方である。つまり、ニ格の勝手な振る舞いを感じることやガ格自身の行動を通じて勝手に想像することによって、事態を実現するものである。いずれもガ格は予めある捉え方を持ち、それを自分の行為を通して得ていくというプロセスである。主節の「V2+テモラウ」が表現している内容は非ニ格行為であり、<非S2V型>の<自得型>であるのが分かる。自得型の<依存型>は、<V1(S1V)テ節+V2(S1の捉え方)テモラウ>の複文的文構造であるとまとめることができる。ガ格にとっての恩

恵的な事態であるため、テモラウで表現されている。

[3]従属節のテ形がV-テモラウ事態の成立の必須的な条件となっている。それさえ満たせばV-テモラウ事態が成立されるのである。したがって<依存型>の自得は、受身的な側面があり、可能構文の状況可能に近い性格も持つと考えられる。

3.2 契機型

<契機型>とは、事態出現後のテモラウ主体の再認識をV-テモラウを用いて表現している。V-テモラウが示している事態は、テモラウの表現主体が相手の行為やガ格自身の体験をきっかけに、事態を再認識して新しい意味を割り当ててV-テモラウを用いて表現するものである。したがって、予め働きかけの意図を持つ<依存型>と違い、V-テモラウ文の特徴は次の用例d.eのように、ガ格の統括的な評価を示している。文構造は、用例dのような單文形式や、用例eのような二格の実際的な行為を例挙してV-テモラウを用いて感想を述べるような文構造が特徴的である。勿論、「Vて、V-テモラウ」のような依存型の文構造が現れないわけではない。実例の量を観察して一つの傾向として指摘できるのではないかと思う。

d. 地理関係の本には世界各地の珍しい風物を教えてもらった。 <単文形式>

e. ハワイの人へ優しくしてもらい、大きな身体に合わせた中国の帽子、チャイナマンズ・ハットを作ってもらった。 <実線の実際な行為を例挙する文構造>

文中の表現主体は、テモラウ主体と第三者の語り手の両方が含まれるが、いずれも予め働きかけ対象も意図も存在する<依存型>と違い、事態実現の直後のガ格主体の捉え方・解釈・評価・性質付けである。ガ格の動作(S1V)や二格の動作(S2V)が評価のきっかけになり、テモラウの内側に含まれないのである。<依存型>と同様に、事態の性質からして間接受影であるが、表現主体がそう評価したり思わせたりするきっかけが文に現れたり、主節では、事態実現後の主体の性質付けや評価的な捉え方が中心となり、状況設定はあまり現れない点で異なっている。その中、いくつかのタイプが存在し、区別する必要がある。以下、各節の具体例を通して見る。

3.2.1 有情物・無情物型

<有情物・無情物型>の場合、動作主が明確に存在しないため、動作主の教える行為やガ格主体の学ばせる行為を実際にすることはできない。いずれも出来事をきかつ

けにガ格主体にそう思わせたと契機の特徴を示している。

<富士山から学ばせてもらった>

(9) 夏の富士山は、雪がない、秋の富士山は、少し雪がある、冬の富士山は、雪化粧の通り。

そうなんです、富士山は見る場所、時によって色んな富士山が見える。新幹線から見る富士山、富士急ハイランドから見る富士山、富士五湖、の河口湖、山中湖、西湖、精進湖、本栖湖のどの湖からも見え方は違う。富士山から学ばせてもらった。(0Y14_41527Yahoo! ブログ、2008)

<地理関係の本に教えてもらった>

(10) 哲学関係の本には考える事の重要さを教えられ、地理関係の本には世界各地の珍しい風物を教えてもらった。この時読んだ本の影響か、僕は何時かは世界一周旅行をしたいという夢を持っている。(0B4X_00145 立花隆(著)『ぼくはこんな本を読んできた』文芸春秋、1995)

「富士山から学ばせてもらった」と「地理関係の本に教えてもらった」は、形式的に「富士山が私に学ばせた」「地理関係の本が私に教えた」と構文的に解釈できるが、二格主体は典型的な人間ではない無情物であるため、直接に働きかけることは不可能である。用例(9)は、異なる角度から富士山を見る体験によって物の見方が変わることを富士山から自然に学び取ったと捉え、V-テモラウ事態が成立したのである。用例(10)は、本を読むことを通じて学び取る。これもガ格が読書などの経験を通じて人間以外の二格の動作主から教えてもらったと自得するのである。

<いい雰囲気を教えてもらった>

(11) 数ヶ月に1度の夜の打ち上げは、タイの留学生自慢の手作りトムヤンクン。こんな感じかな？？？僕、なんにもしていなかったけど、いい雰囲気を教えてもらった。

(0Y14_01136Yahoo! ブログ、2008)

用例(11)も同様である。打ち上げパーティーという体験がよい雰囲気と思わせたのである。「いい雰囲気を教えてもらった」は文脈により、タイの留学生といった複数の動作主が存在し、ガ格主体は打ち上げパーティーに実際体験したのである。この点において無情物型の二格のタイプと異なっている。「元気を分けてもらう」と類似するが、文脈からしてガ格主体である「僕」は、「教える」の動作主に何らかの働きかけをして、よい雰囲気を実際に教えられたとは考えられず、ガ格主体は体験によってそう思うようになったのであり、<契機型>の特徴を示している。また、事態の性質からして、受身的である。

上記の用例は、ニ格無情物型が中心であるため、いずれも動作主が明確に存在しないことになる。したがって、現実に動作主に教えるや学ばせる事態は生じたのではなく、ある体験を経て自然に、表現主体がそう捉えるようになったのである。つまり、ある体験が恩恵として捉える自得型のタイプであると指摘できる。そして受身文と交替できる。

3.2.2 有情物・有情物型 I

<有情物・有情物型 I>のV-テモラウで表されている事態は、ガ格主体の働きかけで生じた動作主の行為ではなく、動作主ニ格の行為を眺めて評価することによって成立するテモラウ文である。したがって、<依存型>と<有情物・無情物型>と違って、ガ格主体の行為(S1V)というより、動作主の行為(S2V)が中心に現れる。したがってガ格主体にとってより受身的である。

<ずい分、甘えさせてもらった>

- (12) 面倒見のいい男だったから、ずい分、甘えさせてもらった。酒も飲ませてもらったし、
人も紹介してもらった。 そうやって付き合っていくうちに、彼は、ポツリポツリと、自分のこと話をしてくれた。(LBg9_00109 永倉萬治(著)『アニバーサリー・ソング』新潮社, 1992)

「ずい分、甘えさせてもらった」は、出来事として「酒も飲ませてもらったし、人も紹介してもらった」は存在し、それがきっかけで結果的にガ格主体はトータル的に自分が「甘えさせてもらった」と受け止めたのである。「酒も飲ませてもらったし、人も紹介してもらった」事態は、言語的な依頼が可能であるのに対し、「面倒見のいい男だったから、ずい分、甘えさせてもらった」事態は、より受影的である、と異なる意味を示すテモラウ文が並列しているタイプになる。

<精神的に助けてもらった>

- (13) 「2年生から参加したインターンシップでの経験が就職活動にとても役立ちました
し、センターには精神面ですごく助けてもらった。愚痴を聞いてもらったり問題点を指
摘していただいたことは本当にありがたかった。 内定を取るまでモチベーションが下が
らなかつた(PM51_00808 小田公美子(著)『AERA (アエラ)』朝日新聞社, 2005)

「精神面ですごく助けてもらった」事態も、「ずい分、甘えさせてもらった」に類似したタイプである。「愚痴を聞いてもらう」ということは、ガ格主体の意図的な行為であると分かるが、それは直接センターに依頼したのではなく、愚痴を話して相手が愚痴を聞くことを「愚痴を聞いてもらった」と恩恵的に表現したのである。したがって、ガ格主体が行つ

た行為は、愚痴を相手に話しただけである。「問題点を指摘していただいた」ことも、問題点を指摘するように依頼したのではなく、相手がしてくれた行為であり、ガ格主体にとっての受動的事態である。いずれも直接的に依頼したのではないと言える。そして「愚痴を聞いてもらったり問題点を指摘していただいた」ことによって間接的に「精神面ですごく助けてもらった」と、ガ格主体は捉えたのである。

＜空虚さを埋めてもらった＞

(14) 私の同級生が、年上の女と深い関係になりましてね、(中略)」「とにかく、友人は、田舎から出て来て、淋しかったから、この女に近づいた。その男は末っ子で静かな男でしてね。何となくいつも他人に甘えていたいような奴だった。女も、彼を好きは好きだったんだろうけど、利用した節もある。亭主が女を作つて逃げた後の、空虚さを彼に埋めてもらった。二人の娘たちの勉強を見てもらうことまで彼にさせた。それだけ利用したんだから、もういい加減、放してやれ、と僕は言ったんです。(LBb9_00017 曽野綾子(著)『慈悲海岸』集英社, 1987)

用例(14)は、空虚さを埋めるように働きかけたり動作主が一方的に埋めたりしたわけではなく、実際に生じた出来事は、動作主がガ格主体に近づいたり二人の娘の勉強の世話をしたりすることである。それを、表現主体が空虚さを彼に埋めてもらったと表現し、性質付けを行っているのである。つまり、実際ニ格の動作主である「彼」から恩恵的に感じる行為をそのまま表現したのではなく、ニ格が行ったことを統括的に「空虚さを埋めてもらった」と表現主体が再解釈したのである、自得的である。また、用例(14)は、語り手が第三者であるかガ格主体であるかによって文の意味が異なってくる。表現主体である語り手の第三者がニ格の身内として事態を語る場合は、テモラウ主体にとっての恩恵的事態であるが、ニ格は損している意味合いも込めている。それに対し、ガ格主体が語っている場合は、そのような意味合いが含まれず、ニ格への感謝の意味合いを示す。いずれにして、テモラウ主体であるガ格主体にとっての恩恵的事態であることには変わりがないのである。また、「空虚さを埋めてもらった」V-テモラウ事態は、世話を焼いたと有りのままに起こった事態とは一致していない。そしていずれも表現主体の捉え方を示す主節は自得型であるのに対して、実際に生じた動作主の行為は主節の成立要因となっている。この他、類似するタイプもいくつかある。

(15) 教会の友人たちにも、どれほどの精神的支えになつてもらったことだろう。くずおれ
そうになる心をそつと支えてもらった。 (LBs9_00245 植松文江(著)『十四年十回のがん手術を生き

抜いて』光文社, 2004)

「精神的支えになってもらった」も働きかけというより、相手がしてくれたことを精神的に支えられたとガ格主体が思ったのである。

(16) キャンプの最初の日から、モラービトは本当によくしてくれました。チームで唯一のレッジーノ（レッジョ人）で、兄弟みたいに受け入れてもらった。レッジョの方言や悪い言葉もすぐに教えてくれたし。インタビューでもぼくのことをすごく褒めてくれました。(PB37_00025 アルフレード・ペドゥッラ(著)/中村俊輔(著)/片野道郎(訳)『Shunsuke』朝日新聞社, 2003)

「兄弟みたいに受け入れてもらった」も、親切にしてもらったように、自分に対して行われた相手の一連の行為をガ格自身が親切に感じた、兄弟みたいに受け入れたと捉えたのである。

(17) ある日気が付くと、中国からハワイまで流れ着いていて、大きすぎる身体をもてあましていた時に、ハワイの人に優しくしてもらい、大きな身体に合わせた中国の帽子、チャイナマンズ・ハットを作ってもらった。(PB5n_00029 佐伯進(著)『アロハ・エア』シンコーミュージック・エンタテイメント, 2005)

「ハワイの人に優しくしてもらい」は、実際に動作主に「優しくして！」と働きかけたというより、「大きな身体に合わせた中国の帽子、チャイナマンズ・ハットを作ってもらった」といった動作主が実際に行われた行為をガ格主体から見て優しく感じたのである。したがって、自得的である。次の用例(18)の「支配的価値観を教えてもらった」も、誰かが教えたのではなく、セミナーを長年担当として感じたことである。

(18) このセミナーを長年担当している間に、私は数多くの人々から、その人の支配的価値観を教えてもらった。(LBq1_00008 ハイラム・W・スミス(著)/実著者不明『もっとも大切なこと』キングペア出版, 2002)

以上、考察したように、<依存型><契機型>の2タイプは、ともにV-テモラウで表される事態が表現主体の自得となり、<非S2V型>の間接受影的な事態である。

3.2.3 有情物・有情物型Ⅱ

<有情物・有情物型Ⅱ>は、V-テモラウのVに当たる動作主が明確的に文中に現れているタイプである。用例(19)(20)の試合と行法は、いずれも個別のテモラウ主体に関係なく、規定通りに進行する事態である。したがって働きかけようとしても働きかけられない事態であり、V-テモラウで表される事態の成立はガ格の見ようという意志によって達成された

ものであり、自得的である。そして動作主の行為がそのまま目に入ってきた点から言えば受影的である。このようなテモラウの用法は、特に文形式を以って示されなくても、受身的だと判断できる。

(19) 試合、最初から最後まで見せてもらった。引き締まった本当にナイスゲームだった。

「雑音」の中、本当に良く頑張ったと思う。(0Y15_06310Yahoo!ブログ 2008)

(20) 私は十一日の夜、松明の登廊を見てから、外陣に入り、それから礼堂に入れてもらつて、初夜の行法も、もちろんかいま見るという見方ではあったが、見せてもらった。

(LBg9_0018 井上靖(著)『井上靖歴史紀行文集』岩波書店, 1992)

用例(21)は、「ますみ」を観察し、性質付けを行っている。用例(22)も同様なタイプであり、事実として働きかけて生じた二格の動作主の実際の行為ではなく、二格の行為や出来事を眺めてそれがきっかけでガ格主体はそう捉えるのである。「君の弱みを見せてもらった」と同様である。

(21) 正直、ほっとした。ますみには、おとなしやかな外見からは想像もつかない、情熱的なところを見せてもらった。隠されていた内面を、乱が引き出したと言えるかもしれない。(LBh9_00245 横溝美晶(著)『一角獣秘宝伝』祥伝社, 1993)

(22) 「大介には本物の父親らしさを見せてもらったわ。それで充分よ」マドンナは唇を噛みしめてから決然といった。(LBr9_00098 内山安雄(著)『霧の中の頬子』角川春樹事務所, 2003)

(23) ダッカ・ハイジャック事件のときは、私は法務省刑事局長。一週間徹夜で首相官邸につめ、福田赳夫総理、園田直官房長官以下の苦惱をつぶさに見せてもらった。最後まで超法規的釈放に反対した福田一法務大臣は事件直後辞任された。(OB3X_00165 伊藤栄樹(著)『人は死ねばゴミになる』新潮社, 1988)

用例(23)は、相手が悩んでいる状態や行っていることを目にして、それを相手の「苦惱をつぶさに見せてもらった」と表現している。

3.2.4 本節のまとめ

[1]<契機型>は、いずれも働きかけられない事態であると同時に「非達成の自己制御性」の持つ事態である。動詞の性質からみて「埋める+てもらう」のように、「食べてもらう」と違い、ガ格受身的な立場になる動詞が中心である。

[2]<契機型>の文中には、ガ格の捉え方を示す要因やきっかけが存在するため、テモラウの表現主体がV-テモラウを用いて事態に対する捉え方を述べているのである。

3.3 自得型と受影型に揺れ動くタイプ

テモラウ文には、今まで記述した＜自得型＞と異なるものがある。用例(24)(25)の「可愛がってもらった」と用例(2)(26)の「助けてもらった」は、V-テモラウがただ事態を評価しているだけではなく、二格の一方的な行為が意図的にガ格対象に向かって生じている場合とそうでない場合の両方が存在する。

(24) 赤ちゃんのとき、冬の日に遊びに行ったら、パンツ一枚の私を、「こんな薄着で風邪でも引かせたらどうするの！」と、母を連れて洋服屋へーは普通の発想。我が祖母は一筋縄では参りません。裁縫道具を取り出すと、あっという間にあったかパンツを縫い上げてしまったのでした。女流名人の祝賀会壇上、立ち方が美しくないと、ささーっと舞台の袖に来て鬼のような形相で、「いちよっ！！足！！」と手本を見せながら叱ってくれた。初孫だったからとっても可愛がってもらった。(LBt7_00034 清水市代(著)『天辺』毎日コミュニケーションズ, 2005)

(25) 末の娘ということで、父にはことさらに可愛がってもらった。いつも膝に乗って、昔語りをしてもらった。(PB29_00492 足立和葉(著)『晴明ふしげ草子』小学館, 2002)

用例(24)は、「風を引くことを心配してパンツを縫い上げる」とことと叱ってくれたことを「可愛がられた」と解釈し、自得的である。それに対し、用例(25)の動作主の行為は、直接テモラウ主体に作用を及ぼしているので、直接受影の＜受影型＞を見る。つまり、用例(25)のガ格は行為の直接な受け手として存在され、二格の「可愛がる」行為が受け手のガ格を対象に意図的に生じられているため、直接受影になる。したがって、「可愛がる」といった動詞のタイプにより、テモラウ文には＜自得と受影に揺れ動くタイプ＞が存在する。

(26) 「きがるっちが私の事をすっごく心配して聖教新聞を取ってくれたから、それを読んで私は精神的に安定するようになったし、また周りの人にも自分の事を伝えて助けてもらえたし、母のような友人にも、Aさんにも助けてもらったし、母にも助けてもらつた。そして先生の指導にも助けてもらつた。実は私、自〇を考えていたんだ。く〇まに飛び込もうと思っていたの。」彼女の自〇を考えていた事にびっくりしました。その彼女はさらに、「私は今、生きていること 자체が奇跡なんだね！功徳なんだね！すべて私の命を助けるために動いていた事だったんだね！！」私もいままでの事が彼女の命を救う事だとは思ってもいませんでした。「嬉しいよ。私、命がある事が嬉しいよ！皆に感謝するよ。本当に感謝の祈りをするよ！！」(0Y14_52910Yahoo!ブログ 2008)

(再掲 2)隣村からの帰り道、カトリはいじめっ子に取り囲まれた。困ったなと思ったが、た

またま通りかかった馬車に助けてもらった。客は愛想のいいお婆さんだった。(PB49_00465)

鏡京介(著)『牧場の少女カトリ』竹書房, 2004)

用例(26)も、複数の人間がしてくれたことを精神的な安定につながり、「命を助けてもらった」とガ格主体が表現している。中には、「彼女の自〇(→自殺⁴¹)を考えていた事にびっくりしました。(中略)私も今までの事が彼女の命を救う事だとは思ってもいませんでした。」とガ格主体の自得に対し、動作主の否定的な心理を綴っているものがあり、自得と受影の両方に捉える例である。それに対し、用例(2)の「助けてもらった」は直接受影になる。

(27) 父ちゃんが、オートバイのシーンをとったとき、けがをしちゃって、平田さんに親切にしてもらった。(LBen_00018辻邦(著)『父ちゃんはナンバーワン!』童心社, 1990)

用例(27)も同様な解釈になる。また、いずれの状況でも、「可愛がってもらった」は受身文に置き換えられるのに対し、「親切にしてもらった」は受身文に置き換えると、ガ格主体にとって一事態になってしまう。

3.4 依存型・契機型・自得型と受影型に揺れ動くタイプの相違

<依存型>と<契機型>は、大きく<自得型>に区分しているが、主体の事態実現の意図性の存否において異なっている。<依存型>は、予めV-テモラウで表されている捉え方を持ち、事態実現の意図が存在し、それを得ようして計画的にある環境を依存することによって事態を達成させるタイプである。それに対し、<契機型>は、事態実現の意図というより、ガ格非意図的な自得であり、総じてガ格の事態直後の捉え方であり、主体の再解釈、再認識、性質付けといった統括的な評価をV-テモラウを用いて表現しているのである、とそれぞれ特徴付けられる。しかし、動作主の行為はV-テモラウに現れず、事態はガ格の捉え方が中心によって成立される点に関して両者は違いがない。そしていつも働きかけられない事態であると同時に「非達成の自己制御性」の持つ事態である。また、<依存型>は<主体の願望的事態>であるのに対し、<契機型>は<主体の統括的評価>であると特徴づけできる。したがって<依存型>は使役寄りの受身に近いタイプであるのに対し、<契機型>は<依存型>よりさらに受身的である。両者はいずれも実際に生じている事態とV-テモラウで表されている事態と一致しない点において共通している。この点からして<自得型>は総じて間接受影が中心なタイプであると言える。

⁴¹ ○の内容は、コーパスでは具体的に示していないため、筆者の判断によって「自殺」と付け加えた。

勿論、<自得型>には、動詞のタイプによって二格の行為に対するガ格の捉え方による間接受影とガ格の直接受影の両方に揺れ動くものもあり、V-テモラウのVに当たる動作主が明確的に文中に現れたり現れなかつたりするが、ガ格自身の行為や捉え方によって実現される点において共通している。また、<依存型>と<契機型>は自得型の典型であるのに対し、「可愛がってもらった」「親切してもらった」「試合、最初から最後まで見せてもらった」「かいま見るという見方で見せてもらった」は、<受影型>に近づく自得の周辺的なタイプである。

文構造において、<依存型>は、状況設定の従属節のテ形が<依存型>のV-テモラウ事態の成立の必須条件であり、<依頼型>の<状況設定型>に類似し、複文的構造が基本となる。それに対し、<契機型>は、主体の体験が契機として評価しているのが特徴であり、状況設定が見られず、複文より單文形式が多い。つまり、「可愛がる」や「試合を見せてもらった」の他、原因となる S1V と S2V は、テモラウ文の外側にあるのが中心である。それぞれの特徴と下位類、それに対応する用例を以下に示す。

<依存型>…Vテ, V-テモラウ<Vテ節(S1Vの状況設定)+Vテモラウ(S1の捉え方・間接受影)>

- 実在する二格主体…ex, 行って, 元気を分けてもらう
- 実在しない二格主体…ex, 座って, 血の穢れを清めてもらう

<契機型>… (1) 有情物・無情物型… ex, 富士山から学ばせてもらった

(S1V) < V2(S1 の統括的な評価・間接受影) テモラウ>

(2) 有情物・有情物型 I … ex, 空虚さを埋めてもらった

(S2V) < V2(S1 の統括的な評価・間接受影) テモラウ>

(3) 有情物・有情物型II…ex, 試合, 最初から最後まで見せてもらった

ex, 苦惱をつぶさに見せてもらった

(S2V) < (S2V) + V2 (S1 の統括的な評価・直接&間接受影) テモラウ>

＜自得と受影の間に揺れ動くタイプ＞…ex, 可愛がってもらった

〈S2V+V2(S1V・間接・直接受影) テモラウ〉

4. まとめ

BCCWJ から今までの分類の観点では十分説明できない「自得型」の機能を持つテモラ文を発見し、詳細に記述を行うことによって「自得型」の意味・用法を明らかにした。

「依頼型」は、「荷物を持ってもらう」ように働きかけが可能な事態であるのに対し、

自得型>は、「達成の自己制御性」の度合いが極めて低い事態であるため、依頼は不可能である。したがって事態の成立は、ニ格への働きかけによって達成されるものではなく、ガ格の捉え方によって成立される。本章では、意味に基づき、ガ格の典型的な状況設定とも思われる<依存型>と、何らかのきっかけで事態を統括的に評価する<契機型>の二タイプに分類した。このうち、用例数から見て、<契機型>が多く、自得型の典型と見なすが、<依存型>も、V-テモラウが表現している事態はニ格主体の実際の行いではないため、自得型の典型と見る。<自得と受影に揺れ動くタイプ>は、直接受影の<受影型>と理解させる場合があるため、自得型の周辺的なタイプであると考えられる。

<自得型>は、事態の持つ働きかけ性から典型的な<依頼型>と違っているだけではなく、V-テモラウが表現している事態と動作主の行為と一致しない観点から<受影型>とも違い、間接受影が基本である。したがって<自得型>はテモラウの機能においても特殊なタイプとなり、<自得型>を一タイプとして取り立てる必要がある。そして次のようにその特徴をまとめることができる。

自得型…V-テモラウのVが示す行為は、他者である動作主S2の行為によって達成されたものではなく、ガ格自身の行為や対象となる事態への捉え方によって実現されるものが中心である。そのため、実際生じている事態とV-テモラウが示している事態と一致しないのが基本的な特徴である。よって、受身の性質はニ格の非意図的なく間接受影的事態>が中心である。

今後、さらに考察の範囲を拡大し、自得型と受身文の分類と対応して見ていき、テモラウ文の特徴をまとめが必要があると考える。

第九章 テモラウ文の意味・用法の総体

1. はじめに

本論の目的は、テモラウ文の意味用法の記述、テモラウ文の意味用法とヴォイスとの関連性、テモラウ文の構造的な再分類の三つが主としている。意味用法の分析において、山田の三つの意味機能を基に、<依頼型>・<状況設定型>・<組織依頼>・<許容型>・<自得型>・<受影型>の六つに分類し、その他、両義型の存在も指摘した。また、六つの意味用法の下位類を設定し、テモラウ文をさらに詳しく体系的に記述した。テモラウ文の意味用法に関するこのような詳細な下位分類を行うことにより、テモラウ文の様々な働きかけの特徴・受影的な特徴を発見できたのである。

2. テモラウ文の意味・用法の総体

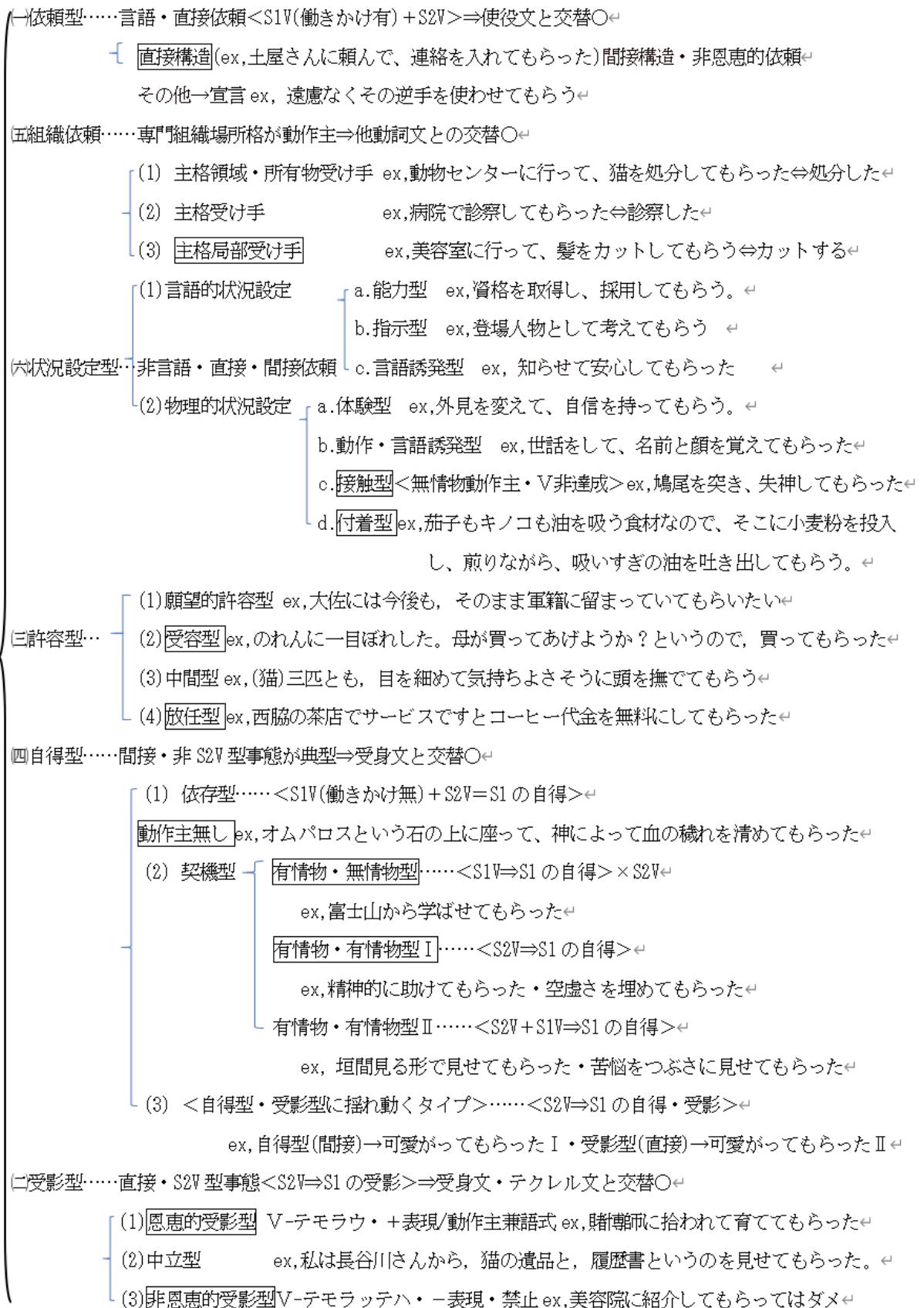
次は、<依頼型>・<状況設定型>・<組織依頼>・<許容型>・<自得型>・<受影型>を比較しながら、各タイプを見ていく。

2.1 意味・用法の総体図

次頁にて、BCCWJ の実例を基にしたテモラウ文の六つの意味用法とそれぞれの下位類の総体図を提案する。この総体図は、テモラウ文の意味用法に関する新しい分類案であり、各意味用法の典型を囲む形で示す。

このうち、<依頼型>・<状況設定型>・<組織依頼>は働きかけ性の下位類であるのに対し、<許容型>・<自得型>・<受影型>は非働きかけの下位類である。<依頼型>・<組織依頼>・<状況設定型>は、働きかけ性を持つ点では共通性を持つが、働きかけの仕方とヴォイスとの関連性から見た三者の特徴には異なりが存在する。<依頼型>は、言語的な直接働きかけであるのに対し、<状況設定型>は、物理的・言語的に状況を設定するように働きかけるのである。したがって、直接言語的な働きかけを行う<依頼型>とはかなり異なる働きかけの仕方になる。<組織依頼>は、働きかけ性が存在しつつ、専門組織の行為が主格であるガ格の身体・所有に変化性をもたらす作用において、使役文・受身文とも共通性がありながら、他動詞文と交替できる点では、個別の動作主に依頼する<依頼型>・<状況設定型>の両者とも異なり、非典型的な働きかけであると指摘できる。働きかけ性を持つタイプに対し、<許容型>・<自得型>・<受影型>は、非働きかけのタイプである。テモラウ文の多様な意味・用法の総体を再度全体的に取り上げまとめとした。

テモラウの意味用法・総体図



分類図の(一)依頼型と(二)受影型は、恩恵取得する面において一部共通するが、働きかけ性の有無とヴォイスとの関連性では、全く重なりのないテモラウの用法である。(三)許容型は、<依頼型>・<受影型>の両者の中間に位置するタイプである。(四)自得型は、動作主の動作の指向性から見ると、いずれのタイプとも異なっているが、ヴォイスの関連性では、受身文と交替できる。しかし、間接受影である点において直接受影の<受影型>と異なる。

このようにテモラウの意味・用法に関する詳細な下位分類を行うことで、テモラウの新しい特徴が明らかになっただけではなく、使役文・他動詞文・受身文との関連性を示す新たな特徴、他動詞文の新たな意味機能、使役・受身との新たな共通性も発見できた。なお、テモラウ文の六つの意味・用法をS2V型事態と非S2V型を分けて示すと次のようになる。

依頼型・組織依頼・状況設定・許容型・自得型・受影型六つの比較

S2V型事態(依頼・組織・状況・許容・受影) ←→ 非S2V型事態(自得)

2.2 両義型

両義型とは、働きかけ性は<依頼型>にも<受影型>にも捉えられるタイプである。以下、両義に捉えられる要因を具体的に分析する。

- (1) 少女はアルルの夏まつりに初めて出場できるのでうれしい。髪も「ミレイユ」と呼ぶアルルの少女風に結ってもらった。白い大きなケープの襟。(LBq7_00005 原田宿命(著)『フランス・ルネサンス舞踊紀行』未来社, 2002)

用例(1)では、「髪を『ミレイユ』と呼ぶアルルの少女風に結って！」と、働きかけることが可能である。しかし、働きかけではなく、自然に動作主である相手がそのようにしてくれたという解釈もあり得る。つまり、祭りの場合は、髪形や洋服に統一の決まりがあるので、そうであれば、<依頼型>ではなく、決まりに従った受影的な事態に近づき、結んだ動作主の行為は、ある決まりに従って行われた行為になる。

- (2) 小さいころから子ども部屋を共有してきた姉妹が、十五歳と十三歳になるとそれぞれ個室を与えてもらった。姉は自分の部屋を「天国」と呼んでいる。そこは自分だけの場所、外界からの隠れ家だ。(LBr3_00134 リチャード・ヘイマン(著)/高橋愛(訳)『こんなとき 10代にどう言えばいいの！？』小学館プロダクション, 2003)

用例(2)では、一定の年齢になることが「個室を与えてもらった」事態の条件となっている。つまり、「十五歳と十三歳になる」というガ格(S1)の状況が「個室を与えてもらった」ことの起因となり、したがって前件の条件節と結果の主節には必然性が存在すると言える。

(3) そのとき面白半分に畳算までおぼえた。大雪になるとお寺に泊めてもらった。淋しかろうと、和尚さんは抱き寝をしてくれたそうである。 (LBp2_00074 石堂清倫(著)『わが異端の昭和史』平凡社, 2001)

(4) 洪水は繰り返されました。人々は堤防が切れそうになると、地主や富農から畳を提供してもらい、堤防に運んで堤防が崩れるのを防いだといいます。 (LBq2_00041 渡辺敏泰(著)『長野県の自然とくらし』信濃毎日新聞社, 2002)

用例(3)(4)も、「大雪になると」「堤防が切れそうになると」があって、それにより、二格の行為も容易に引き起こすことが可能になる。つまり、S1の状況が、動作主(S2)の事態を引き起こすきっかけとなり、ガ格の直接利益的事態に繋がったのである。したがって条件節に伴い、自然にV-テモラウで表される事態が生じたと理解できる。しかし、このタイプの働きかけ性に関しては、曖昧な点がある。つまり、ある状態になることで、テモラウ事態を行えるようにガ格が働きかけ、動作主が事態を行われた可能性も有り得る。そういう場合は、受影的な事態ではなく、依頼的な事態になる。そのため、働きかけ性が曖昧に思われてしまうことになる。

(5) 訪れた農家では、一家総出で、近くのシナモン林？畑に案内してくれた。2～3mに育った木を刈り取り、枝打ちをして、皮むき、巻き込み、グレーディングの作業を見せてもらった。 碎けたチップはオイル用とか。感心したのは十歳ぐらいの子供たちがとてもよく手伝いをすることである。 (LBj6_00005 神藏嘉高(著)『世界のハーブと花紀行』誠文堂新光社, 1995)

用例(5)「グレーディングの作業を見せてもらった」では、ガ格の意志で農家を訪れたが、畠の案内に関し、「一家総出で案内してくれた」とテクレル文を用いることで、動作主であるテクレル主体が積極的に相手のために何かを行おうとする意欲を表している。つまり、農家を訪れるのは、テモラウ主体の意図的な行為であるが、「一家総出」では、テモラウ文の主体にとっての予想外の出来事である。

この文の前の部分ではテモラウ主体が農家を訪れた目的が具体的に明記されていない。また、動作主が案内する行為には、非常に積極的意欲的な意味が含まれている。したがって、後ろの「木を刈り取り、枝打ちをして、皮むき、巻き込み、グレーディング」といった一連の農作業に関し、「見せてもらった」とテモラウ文で表現しているが、この部分に関する働きかけ性は曖昧に思われやすい。

つまり、テモラウ主体が農家を訪れた目的は、2つの意味に取れる。1つ目は、その農

作業をわざわざ見るためかもしれない。2つ目は、観光でそこに泊まり、「木を刈り取り、枝打ちをして、皮むき、巻き込み、グレーディング」といった一連の農作業を農家が積極的に披露していたのを見たかもしれない。後者の非働きかけの場合は、動作主が引き起こした事態を恩恵として受け止めてテモラウ文を使っていると考えられる。前者の働きかけ性を有するテモラウの使用の場合、「木を刈り取り、枝打ちをして、皮むき、巻き込み、グレーディングの作業」は、テモラウ主体が農家を訪れた目的と一致する場合となる。したがってこの文は、以上のような解釈が可能となることから働きかけ性は曖昧である。

次の「寝袋に寝かせてもらった。ちょっと古めの無銭旅行のセオリーも教えてもらった。それから、勇気もね。」という例(6)では、テモラウ文のガ格である少年から働きかけを行う＜依頼型＞と、動作主であり少年から見た小父さんの僕が進んで少年に行う行為である＜受影型＞の両方とも考えられる。

(6) 少年は水筒をしまって、缶ジュースを二本出した。一本を俺に勧めたが俺は断わった。

ジュースより煙草だ。俺は煙草に火をつけた。「そんなことより、ぼくの水が役に立つたことの方が嬉しいですね」少年はジュースを飲みながら、横目で俺を見て言う。「小父さんには随分借りがある。お握りを貰った。ワインナも貰った。寝袋に寝かせてもらつた。ちょっと古めの無銭旅行のセオリーも教えてもらった。それから、勇気もね。最後のは少しいい文句でしょう」「ふん。ほざけ」俺は鼻で笑った。「水でいくらか借りを返したつもりか。そいつは残念だったな。旅先での借りは、返せないってことも教えといてやるから憶えておくんだな」「どういうことです」少年はジュースの缶から唇を離して俺を見た。「日常での貸し借りは、日常生活の中で清算できる」俺は煙草をくわえたまま、軍手を丸めてフロントバッグに、パンク修理道具をまとめてサイドバッグに詰めながら言った。「だが、旅は日常じゃない。金にしろ物にしろ手助けにしろ、旅先での借りは、日常生活の価値観で計り切れるものじゃない。たとえば、今きみに貰った水筒半分の水。日常生活でどれほどの価値がある。しかし、今、この場に限って、水筒半分の水は俺だけにとっては値段のつけようもないものなんだ。金の多少、物の大小、手助けの難易。そんなことは問題にならない。旅の借りとはそうしたものだ。(後略)」

(LBd9_00033 風間一輝『男たちは北へ』早川書房, 1989)

以上分析したように、これらの例は、働きかけ性の有無に関して曖昧であり、＜依頼型＞とも＜受影型＞とも捉えることが可能であるため、本論では、＜両義型＞として分類する。つまり、ガ格主体の事態実現の働きかけと動作主の事態出現の両方とも有り得るタイ

プである。働きかけ性が曖昧なタイプについては、山田(2004)も類似する指摘が見られる。さらに、<依頼型>と<受影型>に揺れるだけではなく、第八章でも触っていたが、「可愛がる」のような動詞の場合は、動作主の動作がガ格主体を対象に生じているかによって、<自得型>か<受影型>かにゆれる場合がある。

3. 梯足

3.1 各意味用法の比較

テモラウの意味用法について、各章で詳しく考察した。ここでは、各意味用法を簡単に比較する。

<依頼型>は、行為への依頼と指示であるため、その行為を遂行するにあたって動作主が中心的な存在となり、恩恵はガ格にある。また、ガ格の働きかけに従い、ニ格の行為が生起されるのである。

<許容型>は、恩恵が必ずしもガ格にあるとは限らず、ニ格にあるタイプも存在する。動作主の行為を許容するので、動作主が恩恵を得ることが多い。

<受影型>は、テモラウ文の動作主に対する働きかけというより、動作主の衝撃的な行為が原因で、ガ格主体の事態発生に対する自らの感情が述べられることが特徴的である。文表現として「テモラッテハ困る」のようなマイナス方向的と、「テモラッテ嬉しい」のようなプラス方向的な言語表現形式を用いる表現の仕方が含まれる。

<許容型>と<受影型>は、いずれもニ格の行為が先行されるが、起きた事態に対して制御可能かどうかによって異なる。<許容型>のガ格は、ニ格の行為を制御可能であるのに対し、<受影型>は制御不可である。三者の特徴を改めて次のように示す。

依頼型…事態実現の働きかけが中心的である。

許容型…事態出現の許容が中心であり、事態出現への制御は可能である。

受影型…事態出現の受動的立場が中心であり、事態出現への制御は不可能である。

<許容型><受影型>と同じく非働きかけである<自得型>は、ある事態に対するガ格の捉え方である。非働きかけの三タイプは、ニ格の行為の先行の有無により、それに伴う文構造も違ってくる。<許容型><自得型><受影型>の特徴を改めて次のように示す。

許容型…S2V+S1 の受け入れ(動作主の行為をガ格主体が受け入れる)

自得型…S2V+S1 の捉え方(動作主の行為に対するガ格主体のある捉え方を示す)

受影型…S2V+S1 の驚き(動作主の行為に対するガ格主体の驚きを表す)

<依頼型>のテモラウ文は、相手に働きかけ、行為の依頼を述べるのが特徴であるのに対し、<受影型>のテモラウ文は、行為の遂行や事態を起こさせることとは別に、事態に影響される一方、受け手であるガ格の感情を述べるのが特徴である。<依頼型>と<受影型>の特徴から、<依頼型>は、「与え事の遂行」であるのに対し、<受影型>は「受け事の感情叙述型」であると特徴付けることができる。

ここでは、仁田(1990)が指摘する動詞の三つの自己制御性に基づいて、言語的な働きかけが可能なタイプと不可能なタイプに分ける。不可能なタイプは、<自得型>や<状況設定型>になり、複文の形式的構造がよく現れる。

<依頼型>は働きかけ性も動作主の行為も存在し、働きかけによって動作主の行為が行われたのであり、V-テモラウが表現している事態と一致するのである。それに対して<自得型>は、ガ格の何らかの行為が行われ、そしてガ格の捉え方によって文が成り立つのである。<自得型>には、働きかけ性が間接的なタイプとそうでないタイプが存在し、V-テモラウのVにあたる動作は実際の動作とは一致しないのが基本である。<依頼型>と<自得型>の特徴は、次のようにまとめられる。

依頼型…V-テモラウ行為はガ格の働きかけによって実現された動作主の行為である。

ガ格は事態の指図者である立場に対し、ニ格は事態実現の主役である。

自得型…V-テモラウ行為は動作主の行為ではない。ガ格は事態実現の主役＋事態の間接受け手の立場であるのに対し、ニ格は事態実現の脇役である。

<自得型>は、動作主に命令できない事態であるため、ガ格の事態実現に向けた状況設定が見られる。働きかけ性のある<状況設定型>に類似する側面を持っているが、動作主の行為を達成させる点において<状況設定型>のような使役性を有しないことが異なっている。<状況設定型>のテモラウ文は、有情物や無情物の動作主に積極的な働きかけや依頼が見られないのが特徴的である。物の性質や人間の動作・表情などを通じ、状況を設定することにより、事態実現をするのである。

<受影型>は、ガ格の捉え方ではなく、ニ格の動作主の行為が実際に起きており、直接ガ格に作用を及ぼし、V-テモラウが表現している行為と一致するのである。たとえば、「育ててもらった」場合は、育てる行為が行われ、ガ格にとっての<直接受影事態>であるのに対し、<自得型>は、非働きかけで、受身に区分されやすいが、動作主が存在する「いやいや乗ってもらうことはない」の受身用法と異なっていることが考察によって明らかになった。

<自得型>と<受影型>との大きな違いとしては、特に<恩恵的受影型>の大多数の事態は、ガ格が働きかけようと思えば働きかけられることが多いのに対し、<自得型>の事態は、働きかけられないことを前提とするものが多い。

また、<自得型>はガ格の捉え方であり、「情熱的な所を見せてもらった」は、ガ格にとっての<間接受影事態>になる。しかし、<受影型>と<自得型>の中には、「可愛がってもらった」のように、動詞のタイプによって、相手の一連の行為をガ格自身が可愛がられたとして評価的に捉える<自得型>の場合と、ガ格が直接受影事態の受け手となる<受影型>の場合の両方が存在するものがある。<自得型>と<受影型>との違いは、次のようにまとめられる。

受影型…V-テモラウ行為は動作主の行為であり、ガ格受け手にとっての二格の意図的なく直接受影事態となり、ガ格は直接受け手の立場にある。

自得型…V-テモラウ行為は、動作主の行為ではなく、ガ格受け手にとっての二格の非意図的なく間接受影事態である。ガ格は非直接受け手の立場にある。ガ格は直接受け手の立場から外されるタイプが中心。

<自得型>は、使役性を帶びつつ、使役より受身的な性質が強いテモラウ文である。<受影型>とは同じく受身的であるが、間接的受影の立場である。<依頼型><自得型><受影型>の三者の構文と位置づけは、次のようにまとめられる。

$$\left. \begin{array}{l} \text{依頼型…}<\text{ガ格の働きかけ}+\text{ガ格の働きかけに従う二格の行為}> \Rightarrow \text{使役文・他動詞文} \\ \text{自得型…}<\text{ガ格・二格の行為}+\text{ガ格の捉え方}+\text{間接受動}> \\ \text{受影型…}<\text{二格の行為}+\text{ガ格の直接受動}> \end{array} \right\} \Rightarrow \text{受身文}$$

3.2 テモラウの受動型の三タイプの比較

<受影型>のガ格は行為の直接な受け手であるが、ガ格受け手の身体や所有物に変化をもたらす<組織依頼>の三タイプである<主格受け手>・<主格局部受け手>・<主格所属領域受け手>の受動型とは違っている。

<受影型>のガ格は、二格の行為の完全な受け手というより、二格によって引き起こした事態にガ格の参入を求めたり(連れて行ってもらう)、ガ格に関わる事態に二格が一方的に割り込んだりするものである。したがって二格と共に行動をすることにより、二格の行為に直接影響され、ガ格にとっての+事態・-事態が生じる(直接受影事態)ものである。それに対し、<主格受け手>の三タイプは二格の行為の完全な受け手の立場に位置し、主

格にとっての所有の減少・変化的事態が生じる(直接受動事態)。

なお、<自得型>は、ガ格受け手にとっての二格の非意図的な<間接受影事態>が中心である。したがって、テモラウ文の受動型の三タイプ(組織の主格受け手の三タイプ・自得型・受影型)の違いは、V-テモラウのタイプから比較すると、次のようにまとめられる。また、次のように、受動的事態が異なると、関連する構文も違ってくるのである。

主格受け手…直接受動事態(手術する・工事する・猫を処分する・カットする・パーマする) ●他動文に関連。二格の動作は、直接に主格の身体・身体局部・所属物に作用を及ぼし、本来、ガ格が所有しているものを消滅させたり変化させたりする直接受動事態である。
構造→まとものテモラウ文・持ち主のテモラウ文

自 得 型…間接受影事態(元気を分ける・血の穢れを清める・いい雰囲気を教える・精神的に支える・情熱的なところを見せる・試合を見せる) ●受身文に関連
外部への存在や影響といった間接受影事態に基づく主格の捉え方である。

受 影 型…直接受影事態(連れて行く{到達できないレベルまでの到達}、育てる、命を助ける、テモラッテハ困る) ●受身文に関連
ニ格の動作は、直接に主格に影響を及ぼし、主格にとってのマイナスやプラス的な事態をもたらすのである。

構造→まともの受身文・第三者の受身文

3.3 繼起的テ節の共起と働きかけ性の関連

テ節のタイプは、次のようなものが存在し、継起的テ節のタイプからテモラウ文の働きかけ性の強弱を判断できる。

依頼型…頼ん・呼んでV-テモラウ ex, 顔見知りの従業員の男の子に頼んで, 席を作ってもらう。

状況設定型…状況型テ節 V-テモラウ ex, 小麦を投入し, 茄子とキノコに吸い過ぎた油を吐き出してもらう

組織依頼…行って・でV-テモラウ ex, 美容室に行って, カットしてもらう。

自得型…食べてV-テモラウ ex, オムバロスという石の上に座って, 神によって血の穢れを清めもらった。

受影型…(逆接)意外な展開 ex, 困ったなと思ったが, たまたま通りかかった馬車に助けてもらった。ナシ畑へ連れて行ってもらった。そのときの『二十世紀』のおいしさは

忘れられない。

継起的テ節のV1の動詞は、対象に向かう行為から主体自身に留まる行為へと、変化するにつれ、テモラウの働きかけ性も弱くなり、依頼から依頼と受動の中間になりやすいと言える。

また、<依頼型>は、相手の行為に直接要求するので、「頼んで・呼んで」といった対象の行為を引き起こす行動(→V1 ガ格外側に繋ぐ行動)を取るのに対し、間接的なタイプである<自得型>は、相手の行為が及ばない行動(→V2 ガ格内側に留まる行動)を取る。したがって働きかけ性のない<自得型>は、働きかけ性のある<依頼型>とは、前件の動詞の機能によつても働きかけ性が異なっている。これも、<自得型>と<依頼型>の構文的な特徴であると言える。上記でまとめた6つの分類の中、<受影型>は、継起的テ節が取りにくいタイプである。

また、本論はBCCWJの用例を分析して、基本的にテモラウ主体の願望的な行為が前件のテ節に現れれば、働きかけ性が存在するという立場を取る。ただし、働きかけの意図が存在しても、それは事態実現の手段によってタイプが異なってくる。

V-テモラウで表される事態の成立は、ニ格によって達成された(S2V型の達成)か、ガ格によって達成された(S1V型の達成)かで決定される。V-テモラウで表される事態は、ニ格の意志で達成可能であるか、といった事態の達成・非達成的な原因に左右され、依頼可能な場面や、状況設定が必要な場面や、自得でせざるを得なる場面などで、タイプが異なつてくる。

表1では事態の成立の達成はガ格(S1V型の達成)であるかニ格(S2V型の達成)であるか、事態達成へのプロセスを意味するテ節のタイプはどうであるか、テモラウ文の構造との関連性をまとめた。

表1 ガ格主体(S1)の目標事態の達成とテ節との関連性

事態の成立 ⁴² (S2V・S1V)		構造	テ節の代表例	テ節の機能	テ節(S2V・S1V)	文の機能
非達成(1)失神する		間接型(1) ⁴³	鳩尾を突き	手段	S1V型	状況・○ ⁴⁴
非達成(2)元気を分ける		直接型	羊肉を食べて	体験	S1V型	自得・○
過程(1)	名前を覚える	直接型	世話をして	手段	S1V型	状況・○
過程 (2)	自信を持つ	間接型(2)	外見を変えて	方法	S1 提案の S2V 型	状況・○
	実感して	同上	食器を洗い	方法	S1 環境の S2V 型	状況・○
	森に愛着を持つ	同上	参加によって	体験	S1 環境の S2V 型	状況・○
達成 (1)	裏口を開ける	間接型(3)	声をかけて	方法	S1V型	依頼・○
	席を作る	同上	頼んで	方法	S1V型	依頼・○
達成 (2)	手術する	持ち主型(1)	行って	準備	S1V型	組織依頼○
	カットする	持ち主(2)	行って	同上	同上	同上

3.4 動詞の考察

テモラウの意味用法は、動詞のタイプに関わる。回帰型動詞は、<受影型>・<自得型>を作りやすいのに対して、非回帰型動詞は、<依頼型>や<状況設定型>を作りやすい。つまり、テモラウ文の働きかけを考察すると、非達成的な動詞は働きかけにおいて、<可愛がる系>と<失神する系>の二タイプに分類できる。<可愛がる系>は、動詞の表す動作がガ格主体に終着しなければならないため、働きかけが不可能となり、<受影型>や<自得型>になるしかない。それに対し、<失神する系>は、非回帰型動詞であり、終着点は動作主である。しかし、働きかけ性があっても、非達成的な動詞であるため、状況設定的に達成していくしかない。したがって考察によって、<自得型>・<受影型>は、「救う・教える・助ける・連れて行く」といった回帰型の動詞が多い。<状況設定型>の動詞のタイプの傾向は、非回帰型が多い。

また、同じく「非達成の自己制御性」を持つ事態の「飽きてもらう」とは、ニ格主体

⁴² V-テモラウで表される事態の成立の意味である。

⁴³ 「失神する」は、もとの文に転換すると、動作主の行為は、ガ格とは無関係な行為になる。しかし、テモラウ文であるため、ガ格の利益とはとは関連することになるので、間接テモラウ文でも、動作主の意志では達成できない場合は、S1 の S2 に対する V-テモラウで表される事態の要求は、S1 自身で完成する必要がある。したがって、「失神してもらう」は完全に S2 の意志では達成できないので、間接テモラウ文であっても、S1 が達成するための状況設定を行う必要性がある。

⁴⁴ 「○」は、働きかけ性があることを示す。

に何か希望を持っている点において類似しているが、「飽きる」行為には間接的に働くか
けて事態を成立させることが可能であるが、「失神してもらう」には、直接関与によつ
て成立するしかない。したがって「非達成の自己制御性」を持つ動詞は、テモラウ文の
意味用法との関連性から、少なくとも<可愛がる><失神する><飽きる>の三つに分
類することができる。動作主が達成しにくい「非達成の自己制御性」を持つ動詞は、使
役主体がコントロールしやすくなり、<状況設定型>になる。

4. おわりに

本論文では、本来的に形式に焼きつけられている、形式の固有の文法的意味に加えて、
文脈が形式に与える意味あいや変容をも重視し、形式の表している文法的意味および意味
タイプをより細かく取り出した。それは、特に非母語話者がその形式を含む文を、文章・
テキストの中で正しく理解するためには、形式に固有の文法的意味だけではなく、それに
対する文脈からの働き・変容との双方を正しく捉えることが必要になるからである。

また、次の三つを今後の課題とする。

- 1) テモラウ文には、使役と受身的な二用法に分類する研究が多いが、実際分析した結
果、その下位には、様々な使役性と受身性が存在していると分かった。今後、分析
結果を使役文と受身文の意味・用法と対応させ、使役文・受身文との相違点につい
てさらに考察を進める必要がある。
- 2) 本論は、テモラウの様々な受け手性を検討し、中でも、特にガ格の身体や所有物に
作用を及ぼす受け手性のタイプから他動詞文との交替を検討した。専門組織における
主格受け手性の三タイプは佐藤(2005)の介在性他動詞文に関連するが、介在性他
動詞文は主格受け手性より範囲が広く、今後は、テモラウ文がどれほど他動詞文と
交替できるかをさらに考察し、分析を行う必要があると思う。
- 3) 中国語にも、たとえば「布料是从南方买回来的，本想做件旗袍，可碰上个二把刀裁
缝，给我做坏了，真可惜。(沈 2009:75)」のように、「给我(私に)」と一表現である
「做坏了」との共起があり、日本語の「テモラッテハ困る」と非常に類似する用法
が存在すると分かった。日本語と中国語における受益表現・非受益表現の対象研究
は今後も行う必要があると考えられる。

参考文献

- 相原まり子(2008)「依頼表現の日中対照研究—相手に応じた表現選択—」『言語情報科学』(6),pp.1-18.
- 庵功雄・中西久実子・高梨信乃・山田敏弘・白川博之(2001)『中上級に教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.
- 井上優(2011)「日本語・韓国語・中国語の「動詞+授受動詞」」『日本語学』(30-11),明治書院.
- 奥津敬一郎・徐昌華(1982)「『～てもらう』とそれに対応する中国語表現—"請"を中心に—」『日本語教育』(46),pp.92-104.
- 尾上圭介(2003)「ラレル文の多義性と主語（特集 ヴォイスを捉える視点--照らし合う意味と統語）」『言語』32(4),pp.34-41.
- 加藤彰彦・佐治圭三・森田良行(1989)『日本語概説』桜楓社,pp.141.
- 柿元悦子(1993)「使役と受身—「～シテモラウ」文の分析に基づいて—」29(4),pp.51-57.
- 川村大(2003)「受身文の学説史から—「被影響」の有無をめぐる議論について（特集 ヴォイスを捉える視点—照らし合う意味と統語）」『言語』32(4),pp.42-49.
- 関根和枝(2010)「授受本動詞から補助動詞へ—授受補助動詞文が表すこと—」『日本語学論説資料』.
- 木村英樹(1987)「依頼表現の日中対照」『日本語学』(10),明治書院,pp.58-66.
- 金殷模(2009)「『てくれる』文の基本的意味と周辺的意味との関係」『言語科学論集』(13),pp.95-110.
- 金殷模(2010)「『～てもらう』文の基本的意味と周辺的意味との関係」国語学研究(49).
- 金殷模(2013)「授受動詞の文法化についての日韓対照研究」『国語学研究』(52).
- 近藤安月子・姫野伴子(2012)『日本語文法の論点43』研究社.
- 許明子(2000)「テモラウ文と受身文の関係について」『日本語教育』(105),pp.1-10.
- 久野暉(1978)『談話の文法』大修館書店.
- 熊本浩子(2015)「Vテモラッテハ困ルについての一考察—非受益のテモラウと受身の関係を中心にして—」『静岡大学国際交流センター紀要』(9).
- 黒田弘美(2013)「日・中における被害・迷惑にかかわる受身と放任・許容の使役の接近性について—認知類型論的立場からの分析—」『日本認知言語学会論文集』(13).
- 米澤昌子(2014)「行為の非当事者による「てもらう」の用法について—新聞における用例からの一考察—」『同志社大学日本語・日本文化研究』(12),pp.53-66.
- 佐田智明・藤井茂利・山口康子・福田益和・添田健次郎・田尻英三(1988)『新しい国語学』朝倉書店.
- 佐藤琢三(2005)『自動詞と他動詞の意味』笠間書院.

- 坂原茂(2003)「ヴォイス現象の概観（特集 ヴォイスを捉える視点--照らし合う意味と統語）」『言語』32(4),pp.26-33.
- 澤田淳(2006)「日本語の授受構文のヴォイス的特性—「XがYにVてもらう」構文が有する「受動性」と「使役性」を中心に—」『日本認知言語学会論文集』(6),pp.139-149.
- 沈建華(2009)『中国語口語表現—ネイティブに学ぶ慣用語』東方書店.
- スチワロードム・スィリラック(2009)「「～テモラウ」文の意味・用法について——意図性のある場合」『学習院大学大学院日本語日本文学』(5),pp.46-65.
- スチワロードム・スィリラック(2009)「受動受益的『テモラウ』文と受身文の交換性の要因について」『学習院大学人文科学論集』(18),pp.99-123.
- スチワロードム・スィリラック(2011)「「てもらう」の複合形式の機能分析」『日本語／日本語教育研究』(2).
- 大江三郎(1975)『日英語の比較研究—主觀性をめぐって』南雲堂.
- 高橋太郎・他(2005)『日本語の文法』ひつじ書房.
- 高見健一・加藤鉱三(2003)「受身表現の新展開（1）受益表現と話しての視点」『言語』32(1),pp.140-145.
- 高見健一(2011)『受身と使役——その意味規則を探る』開拓社.
- 谷口龍子(2006)「日本語と中国語における依頼の丁寧度」『社会科学ジャーナル』COE特別号,pp.393-408.
- 譙俊凱(2015)「『テヤル』構文と“給”構文との対応について—身体部位に対して働きかける場合—」『筑波日本語研究』(19),pp.13-27.
- 譙俊凱(2016)「『テモラウ』文と“清”構文との日中翻訳規則について」『筑波日本語研究』(20),pp.33-49.
- 寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味I』くろしお出版.
- 寺村秀夫(1992)『寺村秀夫論文集2—言語学・日本語教育編』くろしお出版.
- 塚田浩恭(2001)『日英語の主題、主語そして省略』リーベル出版.
- 坪井栄治郎(2003)「受影性と他動性」『言語』32(4),大修館書店,pp.50-55.
- 中島悦子(2007)『日中対照研究 ヴォイス—自他の対応・受身・使役・可能・自発—』おうふう.
- 仁田義雄(1980)『語彙論的統語論』明治書院.
- 仁田義雄編(1981)「ヴォイス」『日本文法事典』有精堂出版.
- 仁田義雄(1990)「働きかけの表現をめぐって」佐藤喜代治編『国語論究2 文字・音韻の研究』明治書院.
- 仁田義雄(1991)「ヴォイス的表現と自己制御性」仁田義雄編『日本語のヴォイスと他動性』くろし

お出版,pp.31-55.

仁田義雄(1991)『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房,pp.243.

仁田義雄編(1993)「日本語の格を求めて」『日本語の格をめぐって』くろしお出版,pp.3-4.

仁田義雄編(2009)『日本語の文法カテゴリをめぐって』ひつじ書房,pp.161-163.

日本語記述文法研究会(編)(2009)『現代日本語文法2』くろしお出版.

浜田麻里(1995)「依頼表現の対照研究—中国語における命令依頼の方略—」『日本語学』(10),明治書院,pp.69-75.

武村美和(2011)「中国人日本語学習者の授受動詞文理解に影響を及ぼす要因—視点制約と方向性に着目して—」『日本語教育』(148),pp.129-142.

彭広陸(2008)「類型論から見た日本語と中国語—視点固定型の言語と視点移動型の言語」『中日理論言語学研究会第12回研究会発表論文集』.

益岡隆志(1991)「受動表現と主観性」(仁田義雄『日本語のヴォイスと他動性』)くろしお出版.

益岡隆志(1992)『命題の文法—日本語文法序論』くろしお出版.

益岡隆志(2001)「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』(30-5)大修館書店.

松下大三郎(1928)『改撰標準日本文法』徳田政信編(1978)勉誠社.

村木新次郎(1991)「ヴォイスのカテゴリと文構造のレベル」(仁田義雄『日本語のヴォイスと他動性』)くろしお出版.

森田良行(1984)『日本語の発想』冬樹社.

森田良行(2006)『話者の視点 がつくる日本語』ひつじ書房.

山田敏弘(2004)『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「もらう」の文法—』明治書院.

横田陸志(2009)「「日本語の視点」から見た授受表現の導入方法についての一考察」『北陸大学紀要』(33),pp.143-151.

李仙花(2001)「『もらう』文の意味について」『言語科学論集』(5),pp.97-108.

李仙花(2003)「『てくれる』文と『もらう』文について—成立条件と〈恩恵性〉を中心に—」『文化』(67)東北大学文学会,pp.103-125.

李仙花(2006a)「『もらう』文と受身文の交換可能性について」『国語学研究』(45),pp.73-85.

李仙花(2006b)「働きかけ性が関わる『もらう』文の意味について—使役文との関係から—」『芸研究』(161),pp.41-51.

李仙花(2010)「受身文と自動詞文の関連性について—固有性と連続性の観点から—」『国語学研究』

(49).

李仙花(2011)「因果関係の内実から見た非意図的使役文の分類」『国語学研究』(50).

李仙花(2012)「中立受身文に関する考察」『国語学研究』(51).

李仙花(2014)「使役文とテモラウ文の働きかけに関する考察—<叙述>と<実行>のムードにおける解釈をめぐって—」『国語学研究』(53).

李仙花(2015)「受身文とテモラウ文の意味の関係」『国語学研究』(54).

李仙花(2017a)「テモラウ文・テクレル文・受身文に見る結果性」『国語学研究』(56).

李仙花(2017b)「無標の動詞文・テモラウ文・使役文にみる結果性」『東北大学文學研究科研究年報』(66),pp88-68.

李宜真(2008)「依頼の言語行動に関する日中対照研究—ポライトネスの観点から—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』(3),pp.117-129.

考察対象

Web アプリケーション「中納言」2.4 現代日本語書き言葉均衡コーパス（通常版）BCCWJ-NT

(<https://chunagon.ninjal.ac.jp>)